鹿児島県

（公財）埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（45）

木森遺跡

二〇二二年三月

鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（45）

東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

木（き）森（もり）遺跡

（志布志市有明町）

2022年3月

鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

巻頭図版　木森遺跡全景

序　文

この報告書は，東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴って，平成26年度と平成30年度に実施した木森遺跡の発掘調査の記録です。

木森遺跡は，志布志市有明町野井倉に所在し，縄文時代早期から中世までの遺構や遺物が確認されました。なかでも，縄文時代早期の石蒸し調理施設と考えられている集石や，燻製調理施設と考えられている連穴土坑が多数見つかっています。また，この連穴土坑を廃棄した後は，集石に再利用していたことも分かりました。これは当地で暮らした先人たちの生活や土地利用を考える上で貴重な発見となりました。

本報告書が，県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心と御理解をいただくとともに，文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に，発掘調査から報告書刊行まで協力いただいた国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所，志布志市教育委員会，関係各機関並びに発掘調査から報告書作成において従事・協力していただきました方々，遺跡の所在する志布志市有明町中肝分合地区の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和４年３月

公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター長　中村　和美

報　告　書　抄　録

ふりがな	きもりいせき
書名	木森遺跡
副書名	東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第45集
編集者名	新保朋久　森えりこ　有馬孝一
編集機関	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
所在地	〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号　TEL 0995-70-0574　FAX 0995-70-0576
発行年月	西暦2022年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査起因
木森遺跡	鹿児島県志布志市有明町	46221	221-458	31°27′53″	131°52′53″	確認調査 2013.8.1～2013.10.28 本調査 ①2014.5.7～2014.7.28 ③2018.5.14～2018.9.7	10,830	東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
木森遺跡	散布地	縄文時代早期	集石　72基 土器溜まり　１基 連穴土坑　23基 土坑　104基	前平式土器，加栗山式土器，石坂式土器，下剥峯式土器，桑ノ丸式土器，押型文土器，石鏃，石匙，打製・磨製石斧，磨石・敲石	
		縄文時代中期		春日式土器	
		古代		須恵器	
		中世	掘立柱建物跡　８棟 ピット列　２列 ピット　77基	土師器，青磁，白磁，中国陶器，常滑焼，備前焼，滑石製石鍋片	
		時期不確定	土坑　６基 溝状遺構　１条 性格不明遺構　１基		

遺跡の概要

本遺跡は縄文時代早期～中世の複合遺跡で，各時代の貴重な遺構や遺物が確認されている。

縄文時代早期は，調理施設と考えられる連穴土坑が23基，集石が72基検出された。連穴土坑は，２基以上の切り合ったものが多く，廃棄した土坑壁面を再利用して新たな連穴土坑として活用している。土坑は径1.2～1.5m前後の楕円形を呈したものが多く，連穴土坑と同様に２基以上切り合った土坑も多数ある。

中世の掘立柱建物跡は８棟検出された。この中には，３面に庇を持つ15×７m程度のやや大型の建物も含まれている。

木森遺跡位置図（S＝1/25000）

例　言

1　本書は，東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う木森遺跡の発掘調査報告書である。
2　木森遺跡は，鹿児島県志布志市有明町野井倉に所在する。
3　発掘調査は，国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所（以下「大隅河川事務所」という。）から鹿児島県教育委員会（以下「県教委」という。）が受託し，公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（以下，「埋文調査センター」という。）へ調査委託を行い，埋文調査センターが実施した。
4　発掘調査事業は，平成26年度は埋文調査センターが実施し，平成30年度は発掘調査支援業務を株式会社埋蔵文化財サポートシステムへ委託し，埋文調査センターの指揮・監督のもと発掘作業を行った。
5　整理・報告書作成事業は，令和３年度に埋文調査センター第一整理作業所で実施した。
6　掲載遺物番号は通し番号であり，本文・挿図・表・図版の遺物番号は一致する。
7　掲載遺構番号は遺構の種類毎に番号を付し，本文・挿図・表・図版の遺構番号は一致する。
8　遺物注記等で用いた遺跡記号は，「ＫＭ」である。
9　本書で用いたレベル数値は，海抜絶対高である。
10　本書で使用した方位は，全て磁北である。
11　発掘調査における実測図作成及び写真撮影は，調査担当者が行った。また，空中写真の撮影は，平成26年度は有限会社ホビーサンパティオに，平成30年度は有限会社スカイサーベイ九州に委託した。
12　本書に係る遺構図・遺物出土状況図及びトレースは新保朋久，森えりこ，有馬孝一が整理作業員の協力を得て作成した。
13　本書に係る出土遺物の実測・トレースは，森が整理作業員の協力を得て行った。
14　出土遺物の写真撮影は，鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下，「県立埋文センター」という。）写場にて，福永修一，西園勝彦が行った。
15　自然科学分析は，放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所に委託した。
16　本書の編集は新保・森・有馬が担当し，執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章　発掘調査の経過	新保
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境	新保
第Ⅲ章　調査の方法と層序	新保
第Ⅳ章　発掘調査の成果	
第１節　縄文時代早期の調査	新保　森　有馬
第２節　縄文時代中期以降の調査	森
第３節　中世の調査	新保　森
第４節　時期不明遺構の調査	新保　森
第Ⅴ章　自然科学分析	株式会社加速器分析研究所
第Ⅵ章　総括	
第１節　遺構	新保
第２節　遺物	森

17　本書に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は県立埋文センターで保管し，展示･活用を図る予定である。

凡　例

1　本報告書掲載の遺構配置図・遺物出土状況図は１グリッド（１マス）が10ｍ四方であり，各図に縮尺を提示してある。
2　遺構
⑴　遺構ごとに略記号を付して調査を行った。遺構の略記号を以下に示す。

連穴土坑・土坑：ＳＫ	
集石：ＳＳ	土器溜まり：ＳＵ
掘立柱建物跡：ＳＢ	溝状遺構：ＳＤ
性格不明遺構：ＳＸ	ピット列・ピット：Ｐ

⑵　遺構図の縮尺は，基本的には以下のとおりである。ただし，大型の遺構や切り合いの多い遺構についてはレイアウト用紙に合わせて縮尺が異なる場合があるので，各図に提示してある縮尺を参照されたい。

連穴土坑・土坑	：1/40もしくは1/50
土器溜まり・集石	：1/20
掘立柱建物跡・ピット列	：1/60もしくは1/80
溝状遺構・性格不明遺構	：1/100

⑶　遺構図の断面については，平面図と同縮尺とした。
⑷　遺構番号については，各遺構ごとの通し番号とし，調査時の番号から報告書掲載順に付け替えた。
⑸　土器や土層の色調は，標準土色帖に基づく。
⑹　遺構実測図で用いた線種の表現は下記の通りである。

観察できる線	――――
推定線・直上の観察では隠れる線	……
調査区外	―・―・―

3　掲載遺物の縮尺は以下の通りである。

土器	：1/3		
剝片石器	：原寸	礫石器	：4/5もしくは1/2

目　次

巻頭図版
序文
報告書抄録
遺跡位置図
例言・凡例
目次

第Ⅰ章　発掘調査の経過…… 1
　第１節　調査に至るまでの経緯…… 1
　第２節　事前調査…… 1
　第３節　本調査…… 2
　第４節　整理・報告書作成…… 4
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境…… 5
　第１節　地理的環境…… 5
　第２節　歴史的環境…… 5
　第３節　志布志IC～鹿屋串良JCT間の遺跡 …… 6
第Ⅲ章　調査の方法と層序 …… 15
　第１節　調査の方法…… 15
　第２節　層序…… 16
第Ⅳ章　発掘調査の成果…… 22
　第１節　縄文時代早期の調査…… 22
　第２節　縄文時代中期以降の調査……111
　第３節　中世の調査……115
　第４節　時期不明遺構の調査……127
第Ⅴ章　自然科学分析……131
第Ⅵ章　総括……134
　第１節　遺構……134
　第２節　遺物……136
写真図版……138

挿図目次

第１図　周辺遺跡位置図…… 7
第２図　東九州自動車道関連遺跡位置図…… 14
第３図　年度別調査範囲…… 17
第４図　確認調査トレンチ位置図…… 17
第５図　土層断面位置図…… 17
第６図　土層断面図１…… 18
第７図　土層断面図２…… 19
第８図　土層断面図３…… 20
第９図　土層断面図４…… 21
第10図　縄文早期の遺構配置図①…… 23
第11図　縄文早期の遺構配置図②…… 24
第12図　縄文早期の遺構配置図③…… 25
第13図　縄文早期の遺構配置図④…… 26
第14図　１～４号連穴土坑…… 27
第15図　５号連穴土坑・６号連穴土坑…… 28
第16図　７号連穴土坑・出土遺物…… 29
第17図　８～10号連穴土坑・出土遺物…… 30
第18図　11号連穴土坑，78・79号土坑…… 32
第19図　12号連穴土坑，80～83号土坑…… 33
第20図　13号連穴土坑，84・85号土坑…… 34
第21図　14号連穴土坑，86～94号土坑…… 36
第22図　15号連穴土坑，51号集石・出土遺物…… 37
第23図　16号連穴土坑，96号土坑 /
　17・18号連穴土坑，95号土坑・出土遺物…… 38
第24図　19号連穴土坑，97～100号土坑 /
　20号連穴土坑，101号土坑・出土遺物 …… 40

第25図　21・22号連穴土坑，102・103号土坑・出土遺物 …… 41
第26図　23号連穴土坑，104号土坑・出土遺物 …… 42
第27図　１～12号土坑…… 45
第28図　13～24号土坑・出土遺物…… 47
第29図　25～32号土坑…… 48
第30図　33～40号土坑…… 50
第31図　41～48号土坑…… 52
第32図　49・50号土坑…… 53
第33図　51・52号土坑，53～56号土坑…… 54
第34図　57・58号土坑，59～63号土坑…… 55
第35図　64～67号土坑・出土遺物…… 56
第36図　68・69号土坑,70・71号土坑・出土遺物 …… 57
第37図　72～76号土坑・77号土坑・69号集石…… 58
第38図　１・２号集石・出土遺物…… 61
第39図　３～６号集石…… 62
第40図　７号集石…… 63
第41図　８～12号集石…… 64
第42図　13～16号集石…… 65
第43図　17～19号集石・出土遺物…… 66
第44図　20～22号集石・出土遺物…… 67
第45図　23～25号集石…… 68
第46図　26～29号集石…… 69
第47図　30～33号集石・出土遺物…… 70
第48図　34～38号集石…… 71
第49図　39・40号集石…… 72
第50図　41・42号集石・出土遺物…… 73
第51図　43・44号集石…… 74
第52図　45～48号集石…… 75
第53図　49～51号集石・出土遺物…… 76
第54図　52・53号集石・出土遺物…… 77
第55図　54～58号集石…… 78
第56図　59・60号集石・出土遺物…… 79
第57図　61・62号集石・出土遺物…… 80
第58図　63～66号集石…… 81
第59図　67～69号集石…… 82
第60図　70～72号集石…… 83
第61図　土器溜まり・出土遺物…… 84
第62図　縄文時代早期土器分布図①…… 88
第63図　縄文時代早期土器分布図②…… 89
第64図　縄文時代早期土器分布図③…… 90
第65図　縄文時代早期土器１…… 91
第66図　縄文時代早期土器２…… 92
第67図　縄文時代早期土器３…… 93
第68図　縄文時代早期土器４…… 94
第69図　縄文時代早期土器５…… 95
第70図　縄文時代早期土器６…… 96
第71図　縄文時代早期土器７…… 97
第72図　縄文時代早期土器８…… 98
第73図　縄文時代早期土器９…… 99
第74図　縄文時代早期土器10……100
第75図　縄文時代早期土器11……101
第76図　縄文時代早期土器12……102
第77図　縄文時代早期土器13……103
第78図　縄文時代早期土器14……104
第79図　縄文時代早期石器１及び出土状況図……105
第80図　縄文時代早期石器分布図……106
第81図　縄文時代早期石器２……107
第82図　縄文時代中期以降の遺物出土状況図……111
第83図　縄文時代中期以降の遺物……112
第84図　中世の遺構配置図……114
第85図　掘立柱建物跡１号……116
第86図　掘立柱建物跡２号……117
第87図　掘立柱建物跡３号……118
第88図　掘立柱建物跡４・５号……119
第89図　掘立柱建物跡６号……120
第90図　掘立柱建物跡７・８号……121
第91図　掘立柱建物跡１・２号出土遺物……122
第92図　ピット列１・２号……124
第93図　中世の遺物……125
第94図　105～110号土坑・出土遺物……127
第95図　溝状遺構・性格不明遺構……129
第96図　溝状遺構・性格不明遺構出土遺物……130
第97図　暦年較正年代グラフ（参考）……133

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表…… 8
第２表　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡…… 10
第３表　連穴土坑観察表…… 43
第４表　土坑観察表…… 59
第５表　集石観察表…… 85
第６表　遺構内出土土器観察表…… 86
第７表　縄文時代早期土器観察表１……108
第８表　縄文時代早期土器観察表２……109
第９表　縄文時代早期土器観察表３……110
第10表　縄文時代早期石器観察表……110
第11表　縄文時代中期土器観察表……113
第12表　古代出土遺物観察表……113
第13表　縄文時代中期以降石器観察表……113
第14表　遺構内出土遺物観察表（土師器）……122
第15表　遺構内出土遺物観察表（国産陶器）……122
第16表　遺構内出土遺物観察表（輸入陶器）……122
第17表　掘立柱建物跡観察表……123
第18表　ピット列観察表……124
第19表　中世出土遺物観察表（土師器）……126
第20表　中世出土遺物観察表（国産陶器）……126
第21表　中世出土遺物観察表（輸入陶器）……126
第22表　中世出土遺物観察表（石製品他）……126
第23表　中世出土遺物観察表（その他）……126
第24表　Ｖ層検出土坑観察表……128
第25表　遺構内出土土器観察表……130
第26表　遺構内出土遺物観察表（土師器）……130
第27表　遺構内出土遺物観察表（国産陶器）……130
第28表　放射性炭素年代測定結果１……132
第29表　放射性炭素年代測定結果２……132
第30表　連穴土坑主軸方向計測表……134
第31表　連穴土坑・土坑の長軸・短軸・最深部平均……134
第32表　包含層出土土器分類別の出土点数……136
第33表　縄文時代早期石器組成表……136

図版目次

図版１　木森遺跡遠景……138
図版２　土層断面・遺物出土状況……139
図版３　縄文時代早期検出遺構１……140
図版４　縄文時代早期検出遺構２……141
図版５　縄文時代早期検出遺構３……142
図版６　縄文時代早期検出遺構４……143
図版７　縄文時代早期検出遺構５……144
図版８　縄文時代早期検出遺構６……145
図版９　縄文時代早期検出遺構７……146
図版10　縄文時代早期検出遺構８……147
図版11　縄文時代早期検出遺構９……148
図版12　縄文時代早期検出遺構10……149
図版13　中世検出遺構１……150
図版14　中世検出遺構２……151
図版15　中世検出遺構３……152
図版16　縄文時代早期遺構内出土土器１……153
図版17　縄文時代早期遺構内出土土器２……154
図版18　縄文時代早期土器１……155
図版19　縄文時代早期土器２……156
図版20　縄文時代早期土器３……157
図版21　縄文時代早期土器４……158
図版22　縄文時代早期土器５……159
図版23　縄文時代早期土器６……160
図版24　縄文時代早期土器７……161
図版25　包含層出土石器……162
図版26　縄文時代中期以降の遺物……163

第Ⅰ章　発掘調査の経過

第１節　調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会（以下,「県教委」という。）は，文化財の保護・活用を図るため，各開発関係機関との間で，事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し，諸開発との調整を図ってきた。この事前協議制に基づき，日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所は，東九州自動車道の建設を計画し，志布志ＩＣ～末吉財部ＩＣ区間の事業の実施に先立って，事業地内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下,「文化財課」という。）に照会した。

この照会に伴い文化財課は，平成11年１月に鹿屋串良ＪＣＴ～末吉財部ＩＣ間を，平成12年２月には志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の埋蔵文化財の分布調査を実施し，50か所の遺跡が存在することが明らかとなった。

この結果をもとに，事業区間内の埋蔵文化財の取扱いについて，日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所，鹿児島県土木部道路建設課高速道対策室，文化財課，鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下,「県立埋文センター」という。）の４者で協議を重ね対応を検討している最中に日本道路公団民営化の政府方針が提起され，事業の見直しと建設コストの削減も検討することとなった。

このような社会情勢の変化に伴い，遺跡の緻密な把握が要求されることとなり，埋蔵文化財の詳細分布調査，試掘調査，確認調査が実施されることとなった。

そこで，県教委は，平成13年１月29日から２月６日に調査の利便性や面積等を考慮して宮ヶ原遺跡，加治木堀遺跡，石綴遺跡，十三塚遺跡の試掘調査を実施した。さらに，平成13年７月10日から７月26日に鹿屋串良ＪＣＴ～末吉財部ＩＣ間の工事計画図をもとに33の遺跡について詳細分布調査と，平成13年９月17日から10月26日，平成13年12月３日から12月25日の２期間にわたり各遺跡の調査範囲及び遺物包含層の層数を把握するための試掘調査を実施した。

これらの詳細分布調査や試掘調査に加えて，既に合意されていた本線工事用道路及び側道部分の確認調査も実施することとなり，関山西遺跡，関山遺跡，狩俣遺跡の３遺跡を対象に平成13年10月１日から平成14年３月22日にかけて確認調査を実施した。

平成14年４月及び平成15年11月に志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡について，再度分布調査を実施した。

その後，日本道路公団民営化（現在の西日本高速道路株式会社）の閣議決定と新直轄方式に基づく道路建設の確定，平成15年11月に暫定２車線施行に伴う議事確認書締結，同年12月に大隅ＩＣ(平成21年４月28日,「曽於弥五郎ＩＣ」へ名称変更)から末吉財部ＩＣ間の発掘調査協定書締結，平成16年３月に国土交通省九州地方整備局長，日本道路公団九州支社長，鹿児島県知事の間で新直轄方式施行に伴う確認書締結が行われ，工事は日本道路公団が国土交通省から受託し，発掘調査は日本道路公団が鹿児島県に委託することとなり，これまでの確認書，協定書はそのまま継続するということになった。ただし，日本道路公団からの委託は曽於弥五郎ＩＣまでで終了し，曽於弥五郎ＩＣからの先線部は国土交通省からの受託事業となった。

平成24年度に国土交通省は，平成25年度から東九州自動車道（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）の建設工事をさらに推進する意向を示し，発掘調査期間の短縮を要請してきた。

このような状況に対応するため，県教委は関係機関で協議を重ね，職員確保や予算運用が柔軟にでき，発掘調査を円滑的かつ効率的に実施できる財団の設置を決定した。これを受けて，平成25年４月，公益財団法人鹿児島県文化振興財団に埋蔵文化財調査センター（以下,「埋文調査センター」という。）を設置し，国事業に関する業務を鹿児島県文化振興財団へ委託し，県立埋文センターから業務を引き継ぎ実施することとなった。

木森遺跡の主な発掘調査の経過は，以下のとおりである。

１　分布調査：平成12年２月・平成14年４月・平成15年11月
２　確認調査：平成25年８月～10月
３　本 調 査：平成26年５月～平成26年７月
　　平成30年５月～平成30年９月

第２節　事前調査

１　分布調査

木森遺跡の分布調査は，日本道路公団（現在の西日本高速道路株式会社）から東九州自動車道志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡について依頼を受け，文化財課が平成12年２月・平成14年４月・平成15年11月に実施した。

２　確認調査

確認調査は，分布調査の結果を受けて，より詳細な包含層等の状況を確認するため，文化庁の国庫補助事業を受けて，県内遺跡事前調査事業の一環として平成25年８月１日から10月28日までの期間で，県立埋文センターが安良遺跡・小牧遺跡と同時に実施した。

調査の方法は，調査対象区域内の23か所にトレンチを

設定して行った。トレンチの大きさは，６×２ｍを基本として設定し，必要に応じて拡張した。調査は、重機により表土を剥いだ後，徐々に包含層を人力で下げる方法で行った。遺構・遺物を発見した場合掘削を中止し，人力による検出を行った。

調査の結果，台地縁辺部に近い２・５・７～９･12トレンチの６か所で縄文時代早期の遺構・遺物が確認され，縄文時代早期の包含層が6,400㎡の範囲に広がっていた。

なお，確認調査のトレンチ配置については，第４図に示した。調査体制は以下のとおりである。

事業主体　国土交通省九州地方整備局　大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長　井ノ上秀文
調査企画　〃　次長兼総務課長　新小田　穣
〃　南の縄文室長兼調査課長　堂込　秀人
〃　調査第二係長　大久保浩二
調査担当　〃　文化財主事　吉岡　康弘
〃　文化財主事　切通　雅子
事務担当　〃　主査　池之上勝太

第３節　本調査

本調査は，平成26年度・平成30年度に埋文調査センターが，県から受託し実施した。平成26年度は，５月７日から７月28日まで実施したが，現道部分や未買収地が残された。平成30年度は，５月14日から９月７日まで遺跡の西側を中心とした未調査部分を実施し，すべての本調査が終了した。表面積6,400㎡，調査延べ面積10,830㎡であった。

なお，各年度の調査範囲は第３図に示した。

１　調査体制

平成26年度

事業主体　国土交通省九州地方整備局　大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　公益財団法人　鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
センター長　堂込　秀人
調査企画　〃　総務課長兼総務係長　山方　直幸
〃　調査課長　八木澤一郎
〃　調査第一係長　中村　和美
調査担当　〃　文化財専門員　平木場秀男
〃　文化財専門員　大岩本博之
〃　文化財調査員　下田代清海
〃　文化財調査員　稲垣　友裕
〃　文化財調査員　勝田　裕介
事務担当　〃　主査　岡村　信吾

平成30年度

事業主体　国土交通省九州地方整備局　大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　公益財団法人　鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
センター長　前迫　亮一
調査企画　〃　総務課長兼総務係長　中村伸一郎
〃　調査課長　中原　一成
〃　調査第三係長　三垣　恵一
調査担当　〃　文化財専門員　立神　倫史
事務担当　〃　主査　小牧　智子

発掘調査の実施にあたり，埋文調査センターは「埋蔵文化財発掘調査支援業務の委託実施要項」に基づき，株式会社埋蔵文化財サポートシステムへ本調査等の支援業務委託を実施した。

なお，埋文調査センター職員１名が常駐し，調査支援の方法及び業務内容に係る指導・助言及び調査現場の監理を行った。

委託先　株式会社埋蔵文化財サポートシステム
調査体制　〃　主任技術者　山下　貢司
〃　主任調査支援員　松崎　卓郎
〃　調査支援員　沖野沙和美
〃　〃　本村実季子
委託期間　平成30年５月14日～平成30年９月７日
委託内容　記録保存調査　１式
測量業務　１式
土工業務　１式
検査　中間検査　平成30年７月19日
完成検査　平成30年10月１日（実地検査）
平成30年10月９日（成果物検査）

２　調査の経過

調査の経過については，日誌抄を年度ごと及び集約して記載する。

平成26年度

【５月】

８日　調査開始
機材搬入及び環境整備
重機による表土剥ぎ及び無遺物層掘削

Ａ・Ｂ－５～15区，Ｄ～Ｆ-11～15区
グリッド設定，調査範囲図作成，
Ａ・Ｂ－５～15区
Ⅵ・Ⅶ層掘り下げ，遺物取り上げ，Ⅷ層遺構検出
遺構実測・掘り下げ・写真撮影，遺物取り上げ
Ｃ・Ｄ-11～15区
Ⅵ・Ⅶ層掘り下げ，遺物取り上げ，Ⅷ層遺構検出
遺構実測・掘り下げ・写真撮影，遺物取り上げ
Ｅ・Ｆ-11～15区
Ⅳ・Ⅴ層掘り下げ，遺構検出・コンタ図作成
遺構実測・掘り下げ・写真撮影，遺物取り上げ
13日　現地視察　堂込センター長
　　現地調査　中村係長
15日　監理業務　黒川文化財主事（県文化財課）

【６月】

Ａ・Ｂ－５～15区
Ⅶ層掘り下げ，遺物取り上げ，Ⅷ層遺構検出
Ⅷ層コンタ図作成，遺構実測・掘り下げ・写真撮影，
遺物取り上げ
Ｃ・Ｄ-11～15区
Ⅶ層掘り下げ，遺物取り上げ，Ⅷ層遺構検出
遺構実測・掘り下げ・写真撮影，遺物取り上げ
Ⅷ・Ⅸ層掘り下げ，Ｘ層コンタ図作成
下層確認トレンチ設定・掘り下げ
Ｅ・Ｆ-11～15区
Ⅵ層掘り下げ，遺構検出
遺構実測・掘り下げ・写真撮影，遺物取り上げ
Ⅵ・Ⅶ層掘り下げ，遺構検出，遺物取り上げ
５日　現地視察　堂込センター長　現地調査　中村係長
10日　現地指導　山方課長，八木澤課長
18日　監理業務　井ノ上所長，今村係長(埋文センター)
25日　空中写真撮影

【７月】

Ａ・Ｂ－５～15区
Ⅶ層掘り下げ，遺物取り上げ，Ⅷ層遺構検出
遺構実測・掘り下げ・写真撮影，遺物取り上げ
Ⅷ・Ⅸ層掘り下げ，Ｘ層コンタ図作成
下層確認トレンチ設定・掘り下げ，土層断面実測
埋め戻し
Ｃ・Ｄ-11～15区
土層断面実測，埋め戻し
Ｅ・Ｆ-11～15区
Ⅵ・Ⅶ層掘り下げ，遺構検出，遺物取り上げ
遺構実測・掘り下げ・写真撮影，遺物取り上げ
Ⅷ層コンタ図作成，土層断面実測
埋め戻し　　調査終了
22日　監理業務　前迫課長（埋文センター）
28日　発掘調査終了後，町田堀遺跡へ移動

平成30年度

【５月】

調査開始，機材搬入及び環境整備
Ａ～Ｄ－１・２区　Ⅳ層重機による表土剥ぎ
Ａ・Ｂ区　Ⅴ層遺構検出，遺構実測・掘り下げ，写真撮影・遺物取り上げ
８日　周辺住民への事前説明会開催
15日　現地視察　前迫センター長
17日　監理業務　堂込所長

【６月】

Ａ・Ｂ区　Ⅷ層掘り下げ
Ｃ・Ｄ－５～７区　Ⅴ層遺構検出及び掘削及びⅧ層掘り下げ，遺構実測・写真撮影，下層確認トレンチ設定・掘り下げ
Ｃ・Ｄ－６・９・10区　Ⅱ～Ⅳ層無遺物層機械掘削
４日　現地指導　中原課長
　　現地調査　三垣係長，福永係長
６日　現場視察　前迫センター長

【７月】

Ａ・Ｂ区－Ⅷ層掘り下げ，Ｘ層遺構検出，旧石器トレンチⅪ層掘り下げ
Ⅴ層遺構検出・Ｄ－５～８区　Ⅷ層掘り下げ
Ｂ・Ｄ～Ｆ－３・４区Ⅷ層遺構検出，遺構実測・掘り下げ，集石写真撮影・遺物取り上げ
Ｃ・Ｄ区（Ｂ・Ｃ－６～13区）Ⅴ層遺構検出及び掘削，Ｘ層精査
４日　監理業務　中村係長
５日　現地指導　中原課長　現地調査　今村係長
９日　現地視察　前迫センター長
　　現地指導　中原課長，現地調査　今村係長
　　来跡　鹿児島国際大学　三木名誉教授
　　鹿児島大学　北村名誉教授
12日　現地調査　三垣係長
19日　来跡　県文化財課　平文化財主事
　　埋文調査センター職員４名

【８月】

Ａ・Ｂ－４・５区　Ｘ層遺構検出，写真撮影
Ｂ区　Ｘ層検出遺構断ち割り，写真撮影
Ｃ区　Ⅷ～Ｘ層遺構検出，写真撮影，遺構掘削
Ｃ・Ｄ区　Ⅷ～Ｘ層掘り下げ，遺構検出，写真撮影
Ｄ区　Ⅴ層上面精査，空中写真撮影
６日　現地視察　前迫センター長
21日　現地調査　三垣係長
22日　現地視察　前迫センター長　現地調査　三垣係長
27日　現地調査　今村係長
　　来跡　同志社大学　水ノ江和同教授
28日　現地視察　前迫センター長
　　監理業務　平文化財主事（県文化財課）

地域住民への現地説明会（8月28日）

29日　現地指導　中原課長

【９月】

Ｂ区　土層断面写真撮影，埋め戻し

Ｃ・Ｄ区　Ⅷ・Ｘ層遺構検出写真撮影，旧石器先行トレンチⅧ層掘り下げ，プレハブ撤収，調査区内安全対策，排土処理

３日　現地調査　三垣係長

６日　現地視察　堂込所長

監理業務　前迫センター長

現地調査　今村係長，三垣係長

来跡　鹿児島大学法文学部　森脇名誉教授

第４節　整理・報告書作成

１　整理・報告書作成作業の組織

本報告書に伴う整理・報告書作成作業は，令和３年４月～令和４年３月まで行った。なお，平成30年度は発掘調査の一部にて基礎整理作業(水洗い・注記)を行った。整理･報告書作成業務に係る組織は以下のとおりである。

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所		
作成主体	鹿児島県教育委員会		
作成統括	公益財団法人　鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター		
		センター長	中村　和美
作成企画	〃	総務課長兼総務係長	中島　治
	〃	調査課長	福永　修一
	〃	調査第二係長	有馬　孝一
作成担当	〃	文化財専門員	新保　朋久
	〃	文化財調査員	森　えりこ
事務担当	〃	主事	上園　慶子
整理指導	志布志市教育委員会	係長	相美伊久雄

２　整理・報告書作成作業の内容

（１）整理作業

①　遺構

実測図と図面台帳との照合，遺構別に実測図の仕分け，注記の確認，トレース用下図面作成等

②　遺物

ア　土器・石器共通

水洗い，遺構内出土遺物と包含層出土遺物との仕分け，遺物と遺物台帳や遺構実測図との照合

イ　土器

注記，分類，接合，実測する土器の選別

ウ　石器

石器と礫の仕分け，分類，実測する石器の選別

（２）報告書作成作業

①　遺構図のトレース，遺構配置図の作成，レイアウト，原稿執筆，報告書掲載用写真選別

②　土器の実測，拓本，トレース，レイアウト，観察表の作成，遺物分布図の作成，原稿執筆，報告書掲載用写真撮影

③　石器の実測及び，トレース，レイアウト，観察表の作成，遺物分布図の作成，原稿執筆，報告書掲載用写真撮影

３　整理・報告書作成作業の経過

整理・報告書作成作業の経過については，日誌抄を月毎に集約して記した。

４月　図面整理，遺物の分類と計測，土器接合

５月　土器接合，実測遺物選別

６月　科学分析の業者への委託，遺構仮レイアウト

土器分類，土器仮レイアウト，写真選別

７月　原稿執筆，土器実測，遺構・遺物仮レイアウト

８月　遺構・遺物トレース，原稿執筆，遺物指導

科学分析委託の納品

９月　原稿執筆，遺構・遺物レイアウト

10月　原稿執筆，遺構レイアウト，遺物写真撮影

11月　原稿執筆，土器レイアウト，石器レイアウト

12月　遺構レイアウト，原稿執筆

１～３月　文章校正，図面等の整理，遺物等の収納

令和３年度報告書作成指導委員会

６月２日　８月６日　10月５日　11月４日　11月24日

福永課長ほか６名

令和３年度報告書作成検討委員会

６月10日　８月11日　10月13日　11月９日　11月26日

中村センター長ほか５名

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

志布志市は，鹿児島県の最東部に位置し，宮崎県都城市及び串間市と県境をなす。北は曽於市，南西は曽於郡大崎町と隣接し，南は太平洋へ向け湾口を開く志布志湾に面する。

大隅半島は，南北に走る山地，その間の丘陵，台地と低地帯から構成されており，表層の地質はいわゆるシラスなどの火山灰土壌となっている。東側の山地は，志布志湾北部から宮崎県に張り出した形で山岳地帯がある。主峰は宮崎県内に位置する鰐塚山（標高1,119m）である。西側の山地は，北部の霧島火山の分脈から湾奥に形成された姶良カルデラから南部の高隈連山へと連なっている。高隈山地は北部の白鹿岳・荒磯岳などの山々と，南部の大篦柄岳（標高1,236.8m）を主峰に,標高1,000m級の山々からなる急峻な山容である。

東西の山地は，ともに九州山地の延長上にあり，それらの間は丘陵，台地及び低地帯となっている。これらの山間部を埋めるような形で，洪積世の火山活動による火砕流が堆積する丘陵や台地が広く分布した典型的なシラス地形となっている。低地においては高隈山地や鰐塚山地などを水源とする大小の河川が走り，志布志湾，錦江湾などへ注がれている。これらの河川の流域では高位・中位・下位において三段の段丘が認められる。海岸線では砂丘が形成されるところもある。

本市の地形は，東から志布志湾に向かって緩やかに傾斜し，海岸近くで急崖となり，わずかな沖積平野を経て海岸線となる。この海岸線は,西側に旧期砂丘・新期砂丘に二分される砂丘海岸が続くのに対し，東側は日南層群で構成される岩礁海岸となる。

木森遺跡は，志布志市有明町野井倉に所在する。志布志市南部に広がる平坦なシラス台地を開析する菱田川の段丘は三段階あり，本遺跡の東側標高約45mの第三段丘面は「野井倉原（のいくらばる)」と呼ばれ，明治～昭和にかけての開拓事業により広大な稲作地帯が広がっている。第二段丘面はシラス台地の末端と標高約５mの河川流域に挟まれた比較的平坦な段丘面であり，自然湧水を利用した水田や畑地が広がり，多くの集落が形成されている。本遺跡は第二段丘面西端部に位置し，標高約30mを測る。同段丘上には，上流側に弥生・古墳時代の遺構が確認された上苑Ａ遺跡，縄文時代晩期，古代・中世の上苑遺跡，下流側に古代・中世の遺構が確認された平Ｂ遺跡などがある。また，東北東約1.5kmの地点には次五遺跡が，西北西約１kmには春日堀遺跡がそれぞれあり，本遺跡とともに同一事業に伴って調査が行われた。

第２節　歴史的環境

本遺跡が所在する志布志市では，戦後，瀬戸口望氏を中心に分布調査・発掘調査が数多く実施されてきており，主に縄文時代に関して学史上重要な成果を多くあげている。近年では，農道整備に伴う発掘調査が行われ，主として弥生・古墳時代の様相が明らかになりつつある。なお，本地域は中世以前は日向国に属していたとされており，本地域の歴史・文化を考察する上で，薩摩・大隅のみならず，日向地域の影響も考慮する必要がある。

旧石器時代

中須Ｂ遺跡・蕨野Ｂ遺跡からナイフ形石器・三稜尖頭器（角錐状石器）が，道重遺跡や和田上遺跡から細石器がそれぞれ出土している。

縄文時代

本地域では，瀬戸口氏・河口貞徳氏らによる調査によって,「縄文銀座」と呼ばれるほど多数の遺跡が発見されている。

草創期では，東黒土田遺跡が著名である。舟形配石炉･貯蔵穴とともに隆帯文土器が出土している。この中で，貯蔵穴から出土した炭化種実（堅果類)は遺構内出土のものとしては日本最古級とされている。また，鎌石橋遺跡でも隆帯文土器が出土している。

早期では，前半期（貝殻文円筒形土器様式期）の集石・連穴土坑が多数発見された倉園Ｂ遺跡，塞ノ神Ａ式の壺形土器などの遺物が出土した夏井土光遺跡，早期前半（石坂・下剥峯・桑ノ丸の時期）の集石・土坑が検出された次五遺跡，連穴土坑のトンネル部分に石坂式系土器の完形が出土した高吉Ｂ遺跡，耳栓が出土した稲荷上遺跡･横堀遺跡など，遺跡数が多い。

本遺跡のように連穴土坑が多数検出された遺跡としては，稲荷迫遺跡・高吉Ｂ遺跡，下堀遺跡，横堀遺跡などがある。

中期では，南福寺式土器・阿高系土器が多く出土した中原遺跡，大平式土器・阿高系土器が多く出土した宇都遺跡がある。

後期では，指宿式土器･福田ＫⅡ式土器・一湊松山式土器・市来式土器が出土した中原遺跡，落とし穴，中岳Ⅱ式土器が出土した船迫遺跡，高吉Ｂ遺跡などがある。

晩期では，干河原式土器・刻目突帯文土器が出土した山角Ｂ・炭床遺跡がある。

弥生時代

高吉Ｂ遺跡では，竪穴建物跡７軒･掘立柱建物跡５棟･土坑７基・壁側に横穴をもつ土坑１基が山ノ口Ⅱ式土器を伴って検出されている。また，５号竪穴建物跡からは

瀬戸内系の凹線文土器も検出されている。ほかにも，柳町遺跡・長田遺跡・前谷Ｂ遺跡などで山ノロⅡ式土器を伴う竪穴建物跡が検出されている。

当地域では，山ノロⅡ式土器と中溝式土器の折衷様式の土器が見られるのが特徴的である。当地域は，近世以前は日向国に属していたとされていることから，大隅系文化と日向系文化の融合する地域であったことの傍証となるのではないかとされている。

弥生時代終末期～古墳時代

弥生時代終末期以降は，菱田川流域で遺跡数が増加する。集落遺跡については春日堀遺跡で弥生時代終末期～古墳時代前期前半の竪穴建物跡が10軒確認されている。７軒は焼失竪穴建物跡で，検出数は県内最多である。この他に，仕明遺跡や長田遺跡では，古墳時代中後期の集落跡が確認されている。

古墳時代終末期の遺跡としては，菱田川流域において春日堀遺跡や上苑遺跡など，７世紀代の集落遺跡が挙げられる。これらの遺跡では，宮崎平野及び都城盆地から搬入された甑や精製坏，八女産及び瀬戸内産の須恵器が出土しており，活発な交易であったことが窺える。

この地域の古墳は地下式横穴墓と共存する事例が多い。特に工事中に発見され，平成29年度に調査が行われた原田古墳群３号地下式横穴墓は最も注目される。調査では，人骨，軽石製の箱式石棺，短甲，鉄鏃，鉄斧，鉄剣が発見され，有力首長の墓であることが明らかとなった５世紀の地下式横穴墓である。以前は当地域は古墳時代の集落遺跡は少ないとされてきたが，ここ数年の成果はめざましいものがあり，詳細な検討が待たれる。

古代

水ヶ迫横穴墓で須恵器の蔵骨器が見つかっている。小迫遺跡，牧之原Ａ遺跡，安良遺跡，井出上Ａ遺跡で，墨書土器が出土している。野久尾遺跡，宮脇遺跡，仕明遺跡，稲荷迫遺跡などでは，製塩土器が出土している。この時期は調査事例が少なく，様相が明らかではない。

中世

当該時期の代表的遺跡としては志布志城跡（国指定史跡）がある。志布志城とは，内城・松尾城・高城・新城の四城の総称である。志布志城は築城時期は明らかではないが，建武３（1336）年に「救仁院志布志城」にあった肝属兼重が重久氏に敗れたという記録が初見であり，南北朝には存在したことが確認できる。

山宮神社では，明治26（1893）年に大楠倒壊の際，その根元にあった石室様の施設内より和鏡・太刀・白磁壺・青白磁合子などが発見されている。この際，状況を詳細に描いた記録画が作成されている。この記録及び遺物から，石室は陶磁器を伴う石組墓で，白磁壺の内底部には骨片が付着することから，再葬された火葬墓（12世紀後半～ 13世紀前半頃）の可能性があり，当地域における重要な資料である。

市内にはこの他，建久（1190 ～ 1198）年に地頭弁済使であった安楽平九郎為成の居城とされる安楽城跡，文治４（1188）年に平重頼によって築かれたとされる松山城跡，南北朝期（1359）年に救仁郷氏の居城とされる蓬原城跡などがある。

また，遺構は検出されていないが，宝満製鉄遺跡において，県内では類例の少ない中世の製鉄関連遺物が発見されている。

近世・近代

日向国諸県郡志布志郷とされ，東を秋月藩と接することから陸海ともに極めて重要な郷であった。現在の志布志小学校に地頭仮屋が置かれ，その周辺一帯は「麓」（薩摩藩の外城制度において郷士が居住していた集落。城下町的機能を有する）が形成されていた。藩米等の集積・積出港であった前川河口には津口番所が置かれていた。

船迫遺跡・見帰遺跡などでは，近世とみられる帯状硬化面が検出されている。船迫遺跡では，県内では初の出土例となった二分金も見つかっている。

戦時中には，有明町野井倉に海軍航空隊志布志基地（別名：野井倉飛行場）が存在した。ただし，昭和20(1945) 年３月に米軍の大規模空襲を受け，再建されていない。現在はほとんど名残を残しておらず，一部の記録にとどまる。

第３節　志布志IC ～鹿屋串良JCT間の遺跡

東九州自動車道（志布志IC ～鹿屋串良JCT間）建設に伴う発掘調査は平成30年度に終了しており，各遺跡の概要を第２表に示す。詳細については各報告書を参照していただきたい。

【参考・引用文献】

※発掘調査報告書は割愛した。

志布志町編1972『志布志町誌』上巻

志布志町編1984『志布志町誌』下巻

有明町誌編さん委員会　1980『有明町誌』

大西智和・鐘ヶ江賢二・松崎大嗣2012「志布志市有明町原田古墳の測量調査」『鹿児島考古』42鹿児島県考古学会

志布志町教育委員会 1982『志布志の郷土史読本』第２集

志布志町教育委員会1985『志布志の埋蔵文化財』

第１図　周辺遺跡位置図

第１表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡番号	遺跡名	種別	所在地	地形	時代	遺物	遺構等
1	221-363	井手上A	散布地	志布志市有明町野井倉字井手上，上ノ水流	台地	縄文時代早期，弥生時代，古墳時代	土器(縄文，成川式)，石器，人骨，土師器	集石，竪穴住居，方形周溝，溝状遺構，土器埋設遺構，土坑
2	221-497	井手上B	－	志布志市有明町野井倉字井手上	台地	古代	－	－
3	221-496	上ノ段E	－	志布志市有明町野井倉字上ノ段	台地	弥生時代	－	－
4	221-492	上ノ段A	－	志布志市有明町野井倉字上ノ段	台地	弥生時代	－	－
5	221-493	上ノ段B	－	志布志市有明町野井倉字上ノ段	台地	弥生時代	－	－
6	221-495	上ノ段D	－	志布志市有明町野井倉字上ノ段，宇中	台地	古代	土師器	－
7	221-494	上ノ段C	－	志布志市有明町野井倉字上ノ段	台地	古代	土師器	－
8	221-498	稲付	－	志布志市有明町野井倉字稲付，下段	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	－
9	221-489	中尾	－	志布志市有明町野井倉字中尾，西原迫	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	－
10	221-487	西原B	－	志布志市有明町野井倉字西原，中原	台地	弥生時代，古墳時代	土器(弥生～古墳時代)，土師器	－
11	221-484	中原	－	志布志市有明町野井倉字中原，前原	台地	弥生時代，古墳時代	土師器	－
12	221-403	前原	散布地	志布志市有明町野井倉字前原	台地	弥生時代	土師器	－
13	221-400	吉原	散布地	志布志市有明町野井倉字吉原	台地	弥生時代，古代	－	－
14	221-298	金ヶ迫B	－	志布志市志布志町安楽字金ヶ迫	台地	弥生時代，古墳時代，古代	－	－
15	221-300	七本松B	－	志布志市志布志町安楽字七本松	台地	弥生時代	－	－
16	221-299	七本松A	－	志布志市志布志町安楽字七本松	台地	弥生時代	－	－
17	221-209	大久保B	散布地	志布志市志布志町安楽字大久保･七本松	台地	弥生時代	－	－
18	221-210	高牧	散布地	志布志市志布志町安楽字高牧	台地	弥生時代	－	－
19	221-254	金ヶ迫A	散布地	志布志市志布志町安楽字金ヶ迫･高牧	丘陵	弥生時代	－	－
20	221-401	中次A	散布地	志布志市有明町野井倉字中次	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	－
21	221-402	中次B	散布地	志布志市有明町野井倉字中次	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	－
22	221-485	東原	－	志布志市有明町野井倉字東原	台地	弥生時代，古墳時代	土師器	－
23	221-486	西原A	－	志布志市有明町野井倉字西原，東原	台地	弥生時代	－	－
24	221-488	上原	－	志布志市有明町野井倉字上原，東原，西原	台地	弥生時代，古墳時代	土器(弥生～古墳時代)，土師器	－
25	221-365	上原A	散布地	志布志市有明町野井倉字上原，西原	台地	弥生時代，古墳時代	土器(弥生～古墳時代)	－
26	221-499	下段	－	志布志市有明町野井倉字下段	台地	弥生時代，古墳時代	土器(古墳時代)	土坑
27	221-500	和田上	－	志布志市有明町野井倉字和田上，下段	台地	旧石器時代，縄文時代早期，弥生時代，古墳時代	細石刃，細石核，土器(縄文時代)	－
28	221-394	禅宗好善寺跡	社寺跡	志布志市有明町蓬原字神領	台地	中世，近世	－	相輪，五輪塔，無縫塔
29	221-380	金丸城跡	城館跡	志布志市有明町蓬原字神領	丘陵	中世	－	複郭・空堀150m×200m
30	221-393	真言宗惣持院跡	社寺跡	志布志市有明町蓬原字出水，神領	平地	中世，近世	－	五輪塔，板碑，墓碑
31	221-392	蓬原城跡	城館跡	志布志市有明町蓬原字出水，神領	台地	古代	－	堀，空堀，土塁
32	221-350	大園A	散布地	志布志市有明町蓬原字大園，上大園，小松	台地	縄文時代後期，弥生時代中期，古墳時代	土器(縄文～古墳時代)，石器	－
33	221-501	大園B	－	志布志市有明町蓬原字大園，井手ノ上	台地	古墳時代	－	－
34	221-507	牧ノ上A	－	志布志市有明町蓬原字牧ノ上	台地	縄文時代早期，古墳時代	土器(縄文，古墳時代)，石器	－
35	221-406	牧	散布地	志布志市有明町蓬原字牧，外堀	台地	旧石器時代，縄文時代早期，縄文時代晩期，弥生時代中期，古墳時代，近世	剥片，石器，土器(縄文～古墳時代)，火打石，薩摩焼，陶磁器	竪穴住居，古道，溝(道路状遺構)，土坑，柱穴，柱列，掘立柱建物，集石，土坑
36	221-367	仕明	集落跡	志布志市有明町蓬原字仕明，宮ノ前，大園，牧	台地	旧石器時代，縄文時代早期，縄文時代前期，弥生時代中期，古墳時代，古代，中世，近世	マイクロコア，剥片，石器，土器(縄文～古墳時代)，土師器，須恵器，石鏃，石包丁製塩土器，馬具，刀子，合子，青磁，白磁，染付，温石，薩摩焼，陶磁器	竪穴住居，土坑，掘立柱建物跡，土壙墓，道路状遺構，溝，柱列
37	221-370	片平古墳	古墳	志布志市有明町蓬原字仕明，逆水	平地	古墳時代	－	－
38	221-381	片平城跡	城館跡	志布志市有明町蓬原字下水流，仕明	丘陵	古代，古代平安	－	－

番号	遺跡番号	遺跡名	種別	所在地	地形	時代	遺物	遺構等
39	221-354	下水流	散布地	志布志市有明町蓬原字下水流,宮ノ前	台地	弥生時代後期～終末,古墳時代	－	－
40	221-405	上苑	集落跡	志布志市有明町野井倉字上苑,高吉	台地	縄文時代早期,縄文時代晩期,弥生時代初頭～前期,古墳時代	土器(縄文～古墳時代)	集石,柱穴,土坑,竪穴住居,竪穴状土坑,掘立柱建物跡
41	221-313	高吉	散布地	志布志市有明町野井倉字高吉,前田,下段	台地	縄文時代中期,縄文時代晩期,弥生時代	石皿	－
42	221-391	下段B	散布地	志布志市有明町野井倉字下段,東	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	－
43	221-463	下段A	散布地	志布志市有明町野井倉字下段	台地	古代	土師器	－
44	221-462	上苑B	散布地	志布志市有明町野井倉字上苑,下段,上苑下	台地	古代	土師器	－
45	221-390	下段C	散布地	志布志市有明町野井倉字下段,東	台地	縄文時代中期,縄文時代晩期,弥生時代	土器(縄文～弥生時代),打製石斧,石鏃	－
46	221-388	東	散布地	志布志市有明町野井倉字東,下段	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	－
47	221-301	二重掘B	－	志布志市志布志町安楽字二重堀	－	－	－	－
48	221-211	二重堀A	散布地	志布志市志布志町安楽字二重堀	－	－	－	－
49	221-389	横堀	散布地	志布志市有明町野井倉字横堀,下段	台地	縄文時代早期,弥生時代,古墳時代,古代	土器(縄文時代),土師器,石器,耳栓,土製円盤	連穴土坑,集石
50	221-242	水神松	散布地	志布志市志布志町安楽字水神松・三郎丸・小井出手	平地	古墳時代	－	－
51	221-284	安楽小牧A	－	志布志市志布志町安楽字小牧	台地	縄文時代,縄文時代 早期	－	－
52	221-235	小牧古墳群	古墳	布志市志布志町安楽5973-10字小牧	台地	古墳時代	－	－
53	221-385	次五	散布地	志布志市有明町野井倉字次五､横堀	台地	古代	－	－
54	221-461	甚堀	散布地	志布志市有明町野井倉字甚堀,上苑上	台地	弥生時代	土器,石器	落とし穴,集石
55	221-460	上苑上	散布地	志布志市有明町野井倉字上苑上	台地	古代	土師器	－
56	221-466	上苑A	散布地	志布志市有明町野井倉字上苑,上苑下,田尾	台地	縄文時代前期,縄文時代晩期,弥生時代中期,古墳時代,古代,中世	土器(縄文～古墳時代),土師器,須恵器,青磁,染付,薩摩焼	竪穴住居,土坑,溝状遺構
57	221-458	木森	散布地	志布志市有明町野井倉字木森,田尾	台地	縄文時代,中世	土器(縄文～古墳),土師器,須恵器	集石,連穴土坑,掘立柱建物跡,ピット列
58	221-465	田尾下	散布地	志布志市有明町野井倉字田尾下	台地	古代	土師器	－
59	221-464	中牟田	散布地	志布志市有明町蓬原字中牟田,春日堀	平地	古墳時代,古代	土器(古墳時代),土師器,須恵器	竪穴住居
60	221-509	牧ノ上B	－	志布志市有明町蓬原字牧ノ上	台地	古墳時代	－	－
61	221-423	春日堀	散布地	志布志市有明町蓬原字春日堀	台地	縄文時代,古墳時代	土器(縄文～弥生時代),土師器,須恵器,染付,青磁,トロトロ石器	竪穴住居,連穴土坑,土坑,集石
62	468-71	清水ノ上	散布地	曽於郡大崎町菱田清水ノ上	台地	古墳時代	－	－
63	468-132	竹安	－	曽於郡大崎町菱田竹安	平地	古墳時代,中世	－	－
64	221-384	平B	散布地	志布志市有明町野井倉字平,古川	台地	古代,中世	土師器,青磁	－
65	221-383	大代	散布地	志布志市有明町野井倉字大代,鎌迫,大森,平	台地	縄文時代,古代	土器,土師器	－
66	221-459	鎌迫	散布地	志布志市有明町野井倉字鎌迫,上苑上	台地	弥生時代	土器	－
67	221-457	坂上	散布地	志布志市有明町野井倉字坂上,大代	台地	古代	土師器	－
68	221-427	平A	散布地	志布志市有明町野井倉字平,下戸	台地	古墳時代	－	－
69	221-395	禅宗仏心院跡	社寺跡	志布志市有明町野井倉字通山	平地	近世	－	無縫塔,一字一石塔,墓碑
70	221-348	松原	散布地	志布志市有明町野井倉字松原､上ノ浜	海岸	弥生時代,弥生時代 中期,弥生時代 後期～終末	－	－
71	221-456	塩入	散布地	志布志市有明町野井倉字塩入,押山,山添,川原	台地	弥生時代,古墳時代	土師器	－
72	468-74	菱田和田	散布地	曽於郡大崎町菱田和田	台地	古墳時代	－	－
73	468-40	地応寺	地下式横穴墓	曽於郡大崎町菱田地応寺	台地	古墳時代,古代	－	－
74	468-131	諏訪上B	－	曽於郡大崎町菱田諏訪上・胡摩園・天神園	台地	－	－	－
75	468-73	諏訪上A	散布地	曽於郡大崎町菱田諏訪上	台地	古墳時代	－	－
76	468-16	稲荷堀(飯隈遺跡群)	散布地	曽於郡大崎町神領稲荷堀	台地	弥生時代,古墳時代	－	－
77	468-60	高尾B	散布地	曽於郡大崎町神領高尾	台地	古墳時代	－	－
78	468-12	高尾A	散布地	曽於郡大崎町神領高尾・蓑田馬見岡	海岸	縄文時代後期	－	－

第２表　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡

番号	遺跡名	所在地･立地	発掘調査	整理･報告書作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
1	見帰	志布志市 志布志町 志布志 台地上 標高約70m	Ｈ28年度 終了 ※Ｈ25・30年度に埋文センター調査(隣接地)	Ｈ30年度 刊行 Ｒ２年度 隣接地刊行	旧石器	—	ナイフ形石器，細石刃，使用痕剥片，磨石，叩石，台石
					縄文早期	土坑，集石	吉田式，石坂式，押型文，下剥峯式，縄文系土器，石鏃，磨石，叩石，石核
					縄文中期	落とし穴，土坑	石鏃，石皿
					縄文後期	溝状遺構	岩崎上層式，丸尾式，辛川式，納屋向タイプ，西平式，中岳Ⅱ式，石匙，石錐，打製石斧，磨石，敲石，石錘
					弥生	—	突帯文，高付式
					その他の時代	土坑，溝状遺構	薩摩焼，染付
		旧石器時代から近世までの複合遺跡であり，主体となるのは縄文時代後期である。赤色顔料を塗布した台付皿形土器が出土し，溝状遺構から出土した丸尾式土器・西平式土器などの一括資料は後期後半の共伴関係をみるうえで貴重である。					
2	宮ノ上	志布志市 志布志町 安楽 台地上 標高約45m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
3	安良	志布志市 志布志町 安楽 台地上 標高約30m	Ｈ28年度 Ｈ29年度 終了	Ｈ30年度 Ｒ元年度 刊行	縄文早期	集石	前平式，小牧３Ａタイプ，轟Ａ式
					縄文中期	—	大平式，阿高式
					縄文後・晩期	土坑	丸尾式，西平系，組織痕土器，石鏃，スクレイパー，打製石斧，磨石，石錘，丸玉
					弥生中期	土坑	入来Ⅱ式，山ノ口Ⅱ式，磨製石鏃
					古墳時代	地下式横穴墓，溝状遺構	笹貫式，須恵器，鉄鏃，鉄鐸，
					古代～中世	掘立柱建物跡，竪穴建物跡，土坑，溝状遺構，帯状硬化面，礫集積遺構	土師器，須恵器，国産陶器，カムィヤキ，瓦器，輸入陶磁器，滑石製石鍋，鉄関連遺物，銭貨，炭化米塊
					近世	土坑，帯状硬化面	薩摩焼，肥前系陶器，瀬戸系陶器，銭貨，鉄製品
		縄文時代から近世までの複合遺跡であり，中世前半の炭化米塊は県内最古の事例として注目される。					
4	水神松	志布志市 志布志町 安楽 安楽川左岸 標高約３m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
5	安楽小牧Ｂ	志布志市 志布志町 安楽 台地上 標高約50m	Ｈ27年度 Ｈ28年度 終了	Ｈ30年度 Ｒ元年度 刊行	旧石器	—	ナイフ形石器，細石刃核，細石刃
					縄文草創期	集石	土器片，黒曜石剥片，磨石，敲石，石皿
					縄文早期	集石	加栗山式，札ノ元Ⅷ類，倉園Ｂ式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，平栫式，塞ノ神式，耳栓，石鏃，石匙，石錐，石核，磨製石斧，礫石器，異形石器
					弥生	—	入来Ⅱ式
					古代～近世	溝状遺構，帯状硬化面	土師器，須恵器，青磁，薩摩焼，染付，土製品，鉄製品，寛永通宝
		起伏のある地形に立地し，縄文時代早期を中心に旧石器時代，縄文時代草創期も出土した複合遺跡である。古墳群として遺跡登録されているが，これまでの調査では痕跡を含め古墳は確認されていない。					
6	次五	志布志市 有明町 野井倉 台地縁辺部 標高約50m	Ｈ26年度 Ｈ27年度 終了 ※志布志市教育委員会調査	Ｈ29年度 刊行 ※志布志市教育委員会刊行	旧石器	—	畦原型細石刃核，細石刃，剥片
					縄文早期	落とし穴，連穴土坑，土坑，集石，磨石集積，配石遺構，石器製作跡，	岩本式，前平式，志風頭式，東九州系無文土器，加栗山式，小牧３Ａタイプ，吉田式，岩ノ上タイプ，札ノ元Ⅷ類，倉園Ｂ式，石坂式，中原式，下剥峯式，桑ノ丸式，辻タイプ，押型文，手向山式，塞ノ神式，石鏃，スクレイパー，石核，磨製石斧，石錘，磨石・敲石類，石皿，トロトロ石器，異形石器
					縄文前期以降	落とし穴	
		旧石器時代から縄文時代早期を中心とする遺跡である。旧石器時代は，細石刃文化期の遺物が出土している。縄文時代早期前葉に該当する遺構や遺物が多く確認された。特に注目されるのは被熱破砕礫が多量に出土した点である。					
7	大代	志布志市 有明町 野井倉 台地縁辺部 標高約40m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
8	木森	志布志市 有明町 野井倉 河岸段丘 標高約30m	Ｈ26年度 Ｈ30年度 終了	Ｒ３年度 刊行予定	縄文早期	連穴土坑，土坑，集石，土器集中	前平式，加栗山式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，石鏃，石匙，楔形石器，打製・磨製石斧，磨・敲石
					縄文中期	—	春日式，磨製石斧
					古代	—	須恵器
					中世	掘立柱建物跡，ピット列，ピット	土師器，青磁，白磁，滑石製石鍋片，常滑，備前，中国陶器
					時期不詳	土坑，不明遺構，溝状遺構	—
		縄文時代早期と中世を中心とする遺跡である。遺構では縄文時代早期の連穴土坑，土坑，集石，中世の掘立柱建物跡等が発見された。遺物は縄文時代早期の土器や石器を中心に，縄文時代中期から中世の遺物が出土している。また，鬼界カルデラ噴火による液状化現象（噴砂跡）が確認されている。					
9	田尾下	志布志市 有明町 野井倉 菱田川右岸 標高約５m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				

番号	遺跡名	所在地･立地	発掘調査	整理･報告書作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
10	春日堀	志布志市 有明町 蓬原 河岸段丘 標高約30m	H26年度 H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 終了	H30年度 R元年度 (1)刊行 R２年度 R３年度 (2)刊行予定	縄文早期	竪穴建物跡，連穴土坑，集石，土坑，土器集中，炭化物集中，落とし穴	前平式，加栗山式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，塞ノ神式，石鏃，削器，掻器，環状石斧，磨石・敲石類，台石・石皿類，石製品，異形石器
					縄文後期	落とし穴，土坑	丸尾式，石器
					弥生	竪穴建物跡	山ノ口Ⅰ式
					弥生終末期～古墳前期	竪穴建物跡，土坑，遺物集中区	弥生終末期～古墳前期の土器，鉄鏃，敲石，磨敲石，砥石，台石，磨製石剣
					古墳終末期	竪穴建物跡，掘立柱建物跡，溝跡，遺物溜まり，地下式横穴墓，遺物集中区	笹貫式新段階，甑，須恵器，鉄鏃，青銅製品，敲石，磨敲石，砥石，軽石製品，棒状石器
					古代	掘立柱建物跡，ピット列，焼土跡	土師器，須恵器，軽石製品，土製品
					中世	堀跡，道跡，ピット列，竪穴建物跡，土坑墓	土師器，常滑焼，白磁，青磁
					近世	溝跡，道跡，貝溜まり	
		縄文早期から中世を中心とする遺跡である。遺構は縄文時代早期の竪穴建物跡，連穴土坑，集石，落とし穴，弥生時代の竪穴建物跡，古墳～飛鳥時代の竪穴建物跡（焼失住居跡含む），掘立柱建物跡，溝状遺構，中世の掘立柱建物跡，堀跡が検出された。遺物は縄文時代早期の土器，石器等をはじめ，弥生時代から中・近世の遺物が出土している。また，鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象（噴砂跡）の痕跡も確認されている。					
11	牧ノ上Ｂ	志布志市 有明町 野井倉 台地上 標高約47m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
12	稲荷堀	曽於郡 大崎町 菱田 台地上 標高約50m	文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
13	平良上Ｃ	曽於郡 大崎町 井俣 台地上 標高約40m	H26年度 H27年度 終了	H27年度 H28年度 刊行	縄文早期	竪穴住居跡，竪穴遺構，連穴土坑，土坑，集石，土器集中，チップ集中	岩本式，加栗山式，吉田式，石坂式，中原式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，平栫式，塞ノ神式，苦浜式，石鏃，石匙，石錐，削器，掻器，楔形石器，打製･磨製石斧，磨石，敲石，凹石，砥石，石錘，石核，線刻礫
		縄文時代早期を中心とする遺跡である。遺構は竪穴建物跡，連穴土坑，集石，土坑が検出されている。遺物は，縄文時代早期の土器，石鏃，石匙，打製石斧，磨製石斧等が出土している。また，鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象（噴砂跡）も確認されている。					
14	宮脇	曽於郡 大崎町 井俣 台地上 標高約40m	H27年度 H28年度 終了	H30年度 R元年度 刊行	旧石器	礫群	ナイフ形石器，三稜尖頭器，台形石器，細石刃，細石刃核，スクレイパー，掻器，使用痕剥片，磨石，叩石
					縄文早期	集石，土坑	志風頭式，加栗山式，札ノ元Ⅶ類，小牧３Ａタイプ，倉園Ｂ式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，手向山式，平栫式，塞ノ神式，打製石鏃，石匙，石錐，磨製石斧，磨石，叩石，石皿，軽石製品
					中世～近世	井戸状遺構	青磁，薩摩焼，寛永通宝
		旧石器時代・縄文時代早期を中心とする遺跡である。旧石器時代では，石器製作に関連すると考えられる石核，フレーク，チップ等が出土している。縄文時代早期では，集石，土坑，土器集中，ピットと土器，石器等が出土している。鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象の噴砂跡も確認されている。					
15	堂園堀	曽於郡 大崎町 井俣 台地上 標高約45m	文化財課の試掘調査及び埋文センターの確認調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。				
16	荒園	曽於郡 大崎町 仮宿 台地縁辺部 標高約50m	H24年度 H25年度 H26年度 H30年度 終了 ※H24年度は埋文センター調査	H28年度 (1)刊行 H30年度 R元年度 R２年度 R３年度 (2)刊行予定	旧石器	―	ナイフ形石器，三稜尖頭器，細石刃，細石刃核，チップ
					縄文早期	集石，土坑，剥片・チップ集中	前平式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，手向山式，平栫式，塞ノ神式，苦浜式，無文，轟Ａ式，石鏃，スクレイパー，石匙，耳栓，打製・磨製石斧，磨石，石皿
					縄文前期～晩期	―	轟Ｂ式，入佐式，石鏃，打製石斧，磨石，石皿
					弥生	竪穴建物跡，土坑	吉ヶ崎式，山ノ口式，磨製石鏃未製品，砥石
					古墳	竪穴建物跡	布留系土器，砥石，軽石製品
					古代以前	片薬研堀	―
					中世以降	掘立柱建物跡，土坑，溝状遺構，帯状硬化面	土師器，東播系須恵器，備前焼，陶器，青磁，華南三彩，薩摩焼
		縄文時代早期から古墳時代を中心とする遺跡である。遺構は，縄文時代早期の集石，弥生時代・古墳時代の竪穴建物跡，古代以前の片薬研堀，中世の掘立柱建物跡等が検出され，遺物は縄文時代早期の土器，石器，弥生時代･古墳時代の土器，土師器，陶器，磁器等が出土している。また，鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象（噴砂跡）も確認されている。					

番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
17	永吉天神段	曽於郡 大崎町 永吉 台地縁辺及び河岸段丘 標高30～50m	H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 終了 ※H24年度は埋文センター調査	H27年度 (1・第1地点) 刊行 H28年度 (2・第2地点1) 刊行 H29年度 (3・第2地点2) 刊行 H30年度 (4・第3地点) 刊行 R元年度 (5・第2地点3) 刊行	旧石器	礫群，ブロック	尖頭器，ナイフ形石器，台形石器，剥片
					縄文早期	集石，土器埋設遺構	前平式，加栗山式，吉田式，手向山式，下剥峯式，押型文，平栫式，塞ノ神式，苦浜式，条痕文，石鏃，石匙，石斧，磨石，敲石，石皿
					縄文前期	—	曽畑式
					縄文後期	—	岩崎上層式，北久根山式，中岳Ⅱ式
					縄文晩期	竪穴建物跡，落とし穴，土坑	入佐式，黒川式，刻目突帯文，管玉，打製石斧
					弥生	竪穴建物跡，掘立柱建物跡，円形周溝墓，土坑墓群，土坑	入来式，山ノ口式，黒髪式，鉄鏃，磨製石鏃，管玉
					古墳	竪穴建物跡，土坑	成川式，須恵器
					古代	掘立柱建物跡，土坑	須恵器，土師器
					中世	掘立柱建物跡，土坑墓，地下式坑，火葬土坑，土坑	白磁，青磁，土師器，瓦質土器，東播系須恵器，備前焼，常滑焼，湖州六花鏡，砥石，石塔，古銭
					近世	近世墓	薩摩焼，染付，寛永通宝，石臼
					時期不明	掘立柱建物跡	—
		旧石器時代から近世までの遺跡である。弥生時代中期の円形周溝墓を頂点とする土坑墓群から，国内では最古級となる鉄鏃が出土した。中世では白磁，青磁，瓦質土器，東播系須恵器等が多量に出土した。また，地下式坑と呼ばれる中～近世の大型土坑も発見された。					
18	細山田段	鹿屋市串良町細山田 曽於郡 大崎町 細山田 台地上 標高約95m	H25年度 H26年度 H27年度 終了	H26年度 H28年度 H30年度 R元年度 (1)刊行 R２年度 (2)刊行	縄文早期	集石，埋設土器	吉田式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，中原式，押型文，平栫式，塞ノ神式，苦浜式，右京西式，石鏃，石匙，磨・敲石，石核
					縄文前・中期	土坑，土器集中	曽畑式，深浦式，大歳山式，鷹島式，船元式，石鏃，石匙，石錐，スクレイパー，二次加工剥片，磨石，敲石，石皿，石核，炭化種実
					縄文後期	土坑	辛川式，丸尾式，西平式，中岳Ⅱ式，石鏃，石匙，石錐，スクレイパー，磨・敲石，打製石斧，磨製石斧，石皿
					縄文晩期	—	入佐式，黒川式
					弥生前期	—	高橋式
					古墳	—	成川式
					時期不明	溝状遺構・古道	—
		縄文時代前期から中期初頭を中心に，縄文時代早期から近世までを含む遺跡である。縄文中期では170基を超える土坑が検出されたほか，在地系土器の深浦式土器，近畿地方の大歳山式土器や鷹島式土器，瀬戸内地方の船元式土器などが出土し，当時の遠隔地交流の一端が明らかとなった。					
19	小牧	鹿屋市 串良町 細山田 台地上 標高約60m	H27年度 H28年度 H29年度 終了	H30年度 R元年度 (1)刊行 R２年度 (2)刊行 R３年度 (3)刊行予定 作業中	旧石器	—	槍先形尖頭器，ナイフ形石器，三稜尖頭器，細石刃
					縄文早期	竪穴建物跡，連穴土坑，土坑，集石	前平式，吉田式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，平栫式，塞ノ神式，苦浜式，条痕文，石鏃，石匙，石斧，磨敲石，石皿
					縄文前期	—	曽畑式，深浦式，磨石
					縄文後期	竪穴建物跡，石皿立石遺構，伏甕，石斧集積遺構，集石，土坑	阿高式系，岩崎上層式，指宿式，市来式，石鏃，横刃型石器，打製石斧，磨石，石皿，大珠
					縄文晩期	—	入佐式，黒川式，刻目突帯文
					弥生	—	入来式，山ノ口式，高付式，須久式系統，砥石
					古墳	竪穴建物跡，礫集積，土器溜，土坑	東原式，辻堂原式，笹貫式，布留系土器，須恵器，鉄鏃，鉄製品，敲石，勾玉，臼玉，管玉，軽石加工品
					古代	掘立柱建物跡，焼土跡，溝状遺構，土坑	土師器，須恵器，墨書土器，鉄器，土錘，焼塩土器，土製紡錘車
					中世以降	掘立柱建物跡，土坑，石組遺構，溝状遺構，杭列	土師器，東播系須恵器，白磁，青磁，墨書土器，石鍋，合子，鞴羽口，刀子，鉄製紡錘車，焙烙，古銭，薩摩焼
		旧石器時代から近世までの遺跡である。縄文時代早期前半から中葉の集落，後期の石皿遺構を伴う環状構造の集落とこれらに伴う遺物が特筆される。この他，古墳時代の花弁形住居跡を伴う集落や古代・中世の掘立柱建物跡群も発見されている。周辺の遺跡を含めて串良川沿岸における人間活動の変遷を追うことができる遺跡である。					
20	川久保	鹿屋市 串良町 細山田 河岸段丘 標高30～50m	H26年度 H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 終了	H27年度 H29年度 H30年度 (1・C地点)刊行 R元年度 (2・B・D地点) 刊行 R２年度 (3・A地点) (4・A地点)刊行 R３年度 作業中	旧石器	礫群	剥片尖頭器，ナイフ形石器，畝原型細石刃核
					縄文早期	竪穴建物跡，集石，土坑	岩本式，前平式，志風頭式，加栗山式，吉田式，倉園Ｂ式，石坂式，下剥峯式，押型文，塞ノ神式，苦浜式，轟Ａ式，石鏃，打製石斧，石皿
					縄文前期	集石	曽畑式，磨製石斧
					縄文後期	—	中岳式
					縄文晩期	集石	入佐式，黒川式，刻目突帯文
					弥生前期	—	高橋式
					弥生中期	竪穴建物跡	下条式，山ノ口式
					古墳	竪穴建物跡，鍛冶関連建物跡，竪穴遺構，溝状遺構，道跡	成川式，鞴羽口，高坏脚転用鞴羽口，鉄鏃，鉄滓，勾玉，管玉
					古代	掘立柱建物跡	須恵器，土師器
					中世	掘立柱建物跡，溝状遺構，道跡	青磁，白磁，瓦器椀
		旧石器時代から中世までの遺跡である。特に古墳時代では，集落を構成する多数の竪穴建物跡や鍛冶関連遺物を伴う遺構が発見されているほか，専用の鞴の羽口も出土している。古墳時代の鉄製品の生産過程を明らかにする良好な資料である。					

番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
21	町田堀	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約90m	H25年度 H26年度 H27年度 H28年度 終了	H27年度 (1)刊行 H29年度 (2)刊行	縄文早期	集石	下剥峯式，平栫式
					縄文後期	竪穴建物跡，埋設土器，落とし穴，土坑，石斧集積遺構	中岳Ⅱ式，石刀，石鏃，打製・磨製石斧，ヒスイ製垂飾，小玉，勾玉，管玉
					縄文晩期	—	黒川式，刻目突帯文
					弥生中期	竪穴建物跡	入佐式，山ノ口式，土製勾玉
					古　墳	竪穴建物跡，地下式横穴墓，円形周溝墓，溝状遺構	成川式，人骨，鉄剣，鉄鏃，刀子，ヤリ鉋，異形石器
					古　代	焼土跡，道跡	土師器，須恵器
		縄文時代早期から古代までの遺跡である。古墳時代の地下式横穴墓が92基発見され，円形周溝を伴う例も初めて確認されている。立小野堀遺跡や下堀遺跡等と類似性が想定され，高塚墳と共存する志布志湾沿岸部の地下式横穴墓との比較が可能になり，大隅半島の古墳時代像解明に必須の遺跡である。このほか，縄文時代後期の竪穴建物跡から，橿原文を施す完全な石刀が出土している。					
22	牧山	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約110m	H25年度 H26年度 H27年度 H28年度 H29年度 終了	H28年度 (1)刊行 H30年度 R元年度 (2)刊行 R２年度 R３年度 (3)刊行予定	旧石器	—	剥片
					縄文早期	竪穴建物跡，連穴土坑，土坑，集石，石器製作跡	吉田式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，石鏃，石匙，スクレイパー，磨石
					縄文前期	埋設土器（轟式）	轟Ｂ式，条痕文
					縄文後期	土坑，落とし穴状遺構，掘立柱建物跡，ピット，埋設土器，石器集中部	市来式，丸尾式，納屋向式，納曽式，西平式，辛川Ⅱ式，太郎迫式，中岳Ⅱ式，打製・磨製石斧，磨敲石，剥片，石核，石皿，石冠
					縄文晩期	—	入佐式，黒川式，刻目突帯文
					弥生中期	竪穴建物跡，掘立柱建物跡，土坑	入来式，山ノ口式，打製・磨製石斧，磨製・打製石鏃，磨石，敲石，石皿，青銅鑿
					中・近世	古道跡	青磁，白磁，薩摩焼
		旧石器時代から中世にかけての遺跡である。特に，縄文時代後期の建物跡を構成していた可能性のある柱穴群が環状に発見されており注目される。また，同時期のものと考えられる複数の埋設土器と石冠が１点出土している。弥生時代中期の青銅製鑿の出土も特筆される。					
23	田原迫ノ上	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約120m	H22年度 H23年度 H24年度 H25年度 H26年度 H28年度 H30年度 終了 ※H22～24は埋文センター調査	H26年度 (1)刊行 H27年度 H28年度 (2)刊行 R元年度 R３年度 (3)刊行予定 ※H23～24は埋文センター作業	縄文早期	竪穴建物跡，連穴土坑，集石，落とし穴，土坑，石器製作跡	前平式，吉田式，倉園Ｂ式，石坂式，下剥峯式，辻タイプ，桑ノ丸式，中原式，押型文，手向山式，平栫式，塞ノ神式，石槍，石鏃，石匙，磨石，敲石，石皿，打製石斧
					縄文後期	落とし穴，礫集積	指宿式，市来式，石鏃，磨石
					縄文晩期	—	黒川式
					弥生中期	竪穴建物跡，大型建物跡，掘立柱建物跡，円形・方形周溝	山ノ口式・中溝式，擬凹線文系壺，土製勾玉，鉄器，磨製石鏃，石匙，砥石，敲石，台石
					古墳時代以降	溝状遺構，畝状遺構	土師器碗，薩摩焼
		縄文時代早期から弥生時代中期を中心とした遺跡である。弥生時代中期では，ベッド状遺構を伴う方形・円形の大型竪穴住居跡，棟持柱をもつ掘立柱建物跡２棟を含む建物跡群，柱穴列や円形・方形の周溝などが検出されており，大隅半島中央部における当該期の集落の様相を知る上で貴重な遺跡である。このほか，縄文時代早期の竪穴住居跡，連穴土坑などの遺構が多数発見されていることも注目される。					
24	立小野堀	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約125m	H22年度 H23年度 H24年度 H26年度 H30年度 終了 ※H22～24は埋文センター調査	H24～27年度 H28年度 (1)刊行 R３年度 (2)刊行予定 ※H24は埋文センター作業	縄文前・中期	—	深浦式
					縄文後期	—	指宿式，市来式，西平式
					弥生中期	—	山ノ口式
					古　墳	地下式横穴墓，土坑墓，溝状遺構	成川式，須恵器，鉄器(刀・剣・槍・鉾・刀子・鏃等)，青銅鈴，人骨
					時期不詳	溝状遺構	—
		縄文時代前期から古墳時代までの遺跡である。特筆すべきは，古墳時代の地下式横穴墓が約200基発見されたことである。玄室内には鉄鏃や鉄剣等の鉄器，青銅製鈴等の副葬品と人骨が多数残っていたほか，墓周辺から多量の土器や須恵器が出土した。青銅製鈴をはじめ，多種多様な副葬品を伴った地下式横穴墓群の発見は，南九州の古墳時代墓制の様相全体を解明していく上で貴重な資料である。					
25	十三塚	鹿屋市 串良町 細山田 台地上 標高約140m	H20年度 H21年度 終了 ※埋文センター調査	H22年度 刊行 ※埋文センター作業	縄文早期	—	石坂式
					縄文後期	—	凹線文，市来式，
					縄文晩期	—	黒川式，三万田式
					弥生中期	竪穴建物跡，掘立柱建物跡，土坑	山ノ口式，土製勾玉，打製・磨製石鏃，磨石，敲石，砥石，棒状敲具，鉄鏃
					古　墳	—	成川式
					中世～近世	道路状遺構	加治木銭
		弥生時代中期を中心とする遺跡である。花弁形・方形・円形を呈する竪穴建物跡が発見された。出土遺物等から，王子遺跡や前畑遺跡等と同時期の集落跡と考えられる。また，集石が竪穴建物跡内から発見されている。７号住居跡の埋土内から，松木薗遺跡や永吉天神段遺跡から出土した鉄鏃と類似する無茎の鉄鏃が出土した。					
26	石綴	鹿屋市 串良町 細山田 台地上 標高約140m	H20年度 H21年度 終了 ※埋文センター調査	H22年度 刊行 ※埋文センター作業	縄文早期	集石，土坑	岩本式，前平式，志風頭式，石坂式，平栫式，貝殻条痕文土器，打製石鏃，磨石，敲石
					弥生中期	—	山ノ口式，須玖式
		縄文時代早期前半から早期末を中心とする遺跡である。鎌石橋式土器１個体と轟Ａ式土器が２個体出土し，両型式が同時期に存在した可能性を示唆する遺跡である。					

第２図　東九州自動車道関連遺跡位置図

第Ⅲ章　調査の方法と層序

第１節　調査の方法

ここでは，発掘調査の方法，遺構の認定と検出方法等，整理･報告書作成作業の方法について簡潔に述べる。

１　発掘調査の方法

木森遺跡の発掘調査は，平成12年度，平成14年度，平成15年度に分布調査，平成25年度に確認調査，平成26年度と平成30年度に本調査を実施した。調査対象表面積は6,400㎡，調査対象延面積は10,830㎡であった。

調査区割り（グリッド）は，工事用基準杭のSTA44（Ｘ＝－170189.773，Ｙ＝4682.681）とSTA45（Ｘ＝－170211.002，Ｙ＝4584.960）の延長線を中心に，10ｍ間隔で西側から東側に向かって１，２，３・・・，北側から南側に向かってＡ，Ｂ，Ｃ･･･と設定した。このグリッドを基にして，遺構・遺物の測量作業を行うこととした。また，トータルステーションで測量作業を行う場合，測量座標はＡ－１区の左下を原点（０，０）とし，縦軸をＸ，横軸をＹとした。

発掘調査は，基本的に重機で表土から遺物包含層上面まで除去した後，確認調査の結果に基づき，遺物包含層については人力で掘り下げを行った。無遺物層，火山灰の硬化面については，一部重機を用いて慎重に掘り下げた。遺構については，移植ごて等の遺構調査に適した道具を用いて慎重に調査し，実測や写真撮影等を行った。遺構は検出の度写真撮影，掘り下げ，実測を行った。なお，遺構の規模等に応じて図の縮尺は1/10 ～ 1/20で記録している。遺物については，トータルステーションを用いて取り上げを行った。地形測量は，Ⅴ層上面，Ⅷ層，Ⅹa層で行った。

各年度の発掘調査の方法等は，以下のとおりである。

（１）平成26年度

平成26年５月７日から７月28日までの期間に，表面積2,290㎡，延べ面積3,430㎡を対象として本調査を行った。

Ｄ～Ｆ-11 ～ 15区を第１調査区，Ｂ－５～15区を第２調査区とし，調査区の南北と東西方向に十字の土層観察用ベルトを設定し，第２調査区から調査を開始した。調査の結果，無遺物層の掘削中に，Ⅱ層の黒色土を埋土とする掘立柱建物跡が発見されたため，遺物包含層として追加した。また，新に御池火山灰を含む層と縄文時代早期の遺物包含層の直上に堆積する砂層を，基本土層に追加した。調査終了後埋め戻しを行い，排水対策や安全対策等を施した。

（２）平成30年度

平成30年５月14日から平成30年９月７日の期間に表面積4,110㎡，延べ面積7,400㎡を対象に本調査を実施した。調査区割りについては，前年度のものを踏襲した。

調査は，用地境界などでは安全上の措置として通常50cm程度，道路に隣接する部分では１ｍ程度内側に控えて調査範囲を設定するが，本遺跡においては国土交通省との協議により，工事工法上の理由により南北用地境界の一部は傾斜掘削を考慮した２～３ｍ程度の安全控え，崖部にあたる西側部分は，４～５ｍの安全控えを設定し，グリッドを設定して実施した。

Ｂ－２～５区をＡ区，Ｃ～Ｆ－３・４区をＢ区，Ｂ～Ｆ－５～11区をＣ区，Ｂ～Ｅ-11 ～ 15区をＤ区とし，Ａ・Ｂ区より調査を開始した。Ⅻ層上面まで包含層の有無を確認しながら掘り下げ，埋め戻しや排水対策，安全対策を施し，本遺跡の本調査の全てを終了した。

２　遺構の認定と検出方法

本遺跡で検出された遺構の認定と検出方法については以下のとおりである。

（１）遺構の認定・分類・時期判断

本報告書掲載の遺構は，検出面・埋土状況や色調・規模等を基に発掘調査担当者間で検討し，認定及び時期判断を行った。主な遺構の認定及び時期判断は，以下のとおりである。

土坑については，埋土や形状，遺物の出土など複合的に検討し，分類・認定・時期判断を行った。ただし，検出面が該当時期の地層よりもかなり下位層で検出されたものもあるが，埋土の堆積状況や色調・遺構内(埋土中のものも含む）遺物等から複合的に検証し，時期判断を行った。

集石については，時期を問わず概ね５個以上の礫が集中したものを集石と認定した。時期については，検出面や集石内外の出土遺物の種類等で複合的に検討し，判断した。詳細については,第Ⅳ章で述べる。

（２）遺構の検出方法

本報告書掲載の遺構の検出については，各年度とも共通の調査方法として，当時の掘り込み面に限りなく近い位置での検出を目指して調査を進めたが，判別のしやすい地層上面での検出が多くなったのは否めない。

調査中及び終了後，遺構の検出層や埋土状況，土層断面等の情報から形成時期や性格等の検討を行った。

３　整理・報告書作成作業の方法

図面整理は遺物出土分布図，土層断面図，地形測量図等に区分し，さらに遺構実測図は種類別に仕分けを行い，台帳や遺物との照合及び再確認を行った。

注記は遺跡名を表す「ＫＭ」を頭に，包含層出土遺物は続けて「区」・「層」・「取上番号」もしくは「一括」を併せて記入した。また，遺構内出土遺物には「遺構名」・「取上番号」の順で記入した。

４　出土遺物の分類

土器等は，遺構内出土遺物と包含層出土遺物に分け，包含層出土遺物については出土層位ごとに分類した。その後，土器の文様や胎土等で分類・接合を行った。報告書掲載遺物を選別し，補強・復元を行った後，実測・拓本・トレース・レイアウトを行った。石器は，遺構内出土遺物と包含層出土遺物に分け，包含層出土遺物については出土層位ごとに剥片石器と礫石器に分けた後，器種及び石材別に分類した。一部は接合も行った。報告書掲載遺物を選別し，実測・トレース・レイアウトを行った。

遺物出土分布図は，トータルステーションで取り上げたデータを統合し，図化ソフトを使用して作成した。

遺構図は，点検・修正後，掲載縮尺を決定し，トレースを行った。遺構配置図・地形図・土層断面図は，点検・修正後，デジタルトレースを行った。

第２節　層序

木森遺跡の基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層	：表土	35cm
Ⅱa層	：黒色土　軽石混じり　中世の遺物包含層	10cm
Ⅱb層	：黒色土　　軟　質	10cm
Ⅲ層	：暗褐色土　黄褐色パミス(御池火山灰含む)	15cm
Ⅳ層	：黒褐色土	10cm
Ⅴ層	：黒褐色土　池田降下軽石混じりの層	10cm
Ⅵ層	：暗褐色土　黄白色パミスを含む層	５cm
Ⅶa層	：黄褐色土　アカホヤ火山灰二次堆積土	20cm
Ⅶb層	：褐色土　アカホヤ火山灰層	５cm
Ⅶc層	：灰褐色砂質土　噴砂層(鬼海カルデラ爆発に伴う)	10cm
Ⅷ層	：黒褐色硬質土　縄文時代早期包含層	30cm
Ⅸa層	：暗褐色硬質土	10cm
Ⅸb層	：暗褐色硬質土　やや明るい	10cm
Ⅹa層	：黄褐色硬質土　P14薩摩火山灰層	20cm
Ⅹb層	：黄褐色土　P14薩摩火山灰層	15cm
Ⅺa層	：暗褐色粘質土	10cm
Ⅺb層	：茶褐色粘質土　　いわゆるチョコ層	20cm
Ⅺc層	：黄褐色粘質土	10cm
Ⅻ層	：旧菱田川河床礫層	25cm

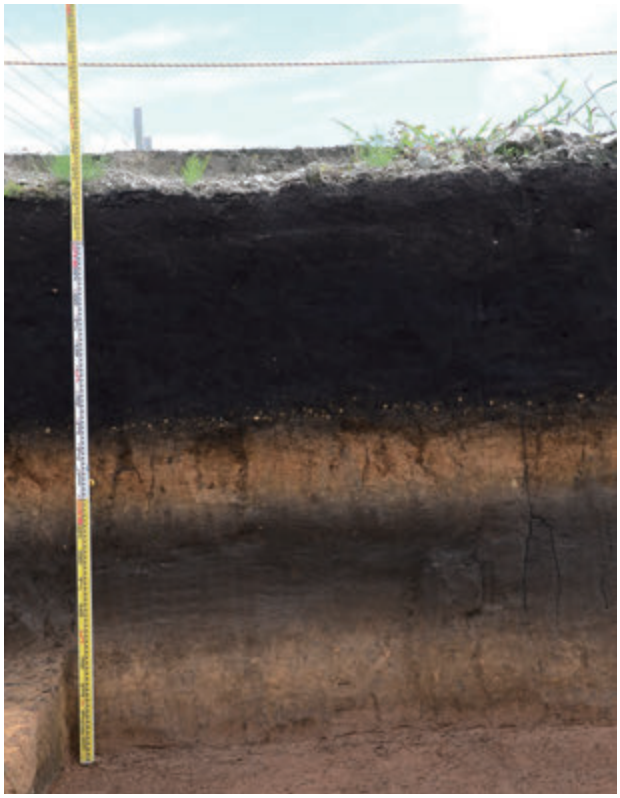
※　Ⅸ層はⅨa・Ⅸｂ層に明確に分層できない場所があったので，その場合はⅨ層とした。

※　火山灰の年代については，町田洋　新井房夫著2003『新編火山灰アトラスー日本列島とその周辺ー』(P108～110）から引用した。なお，年代は放射性炭素年代測定法で算出され，歴年較正した年代である。

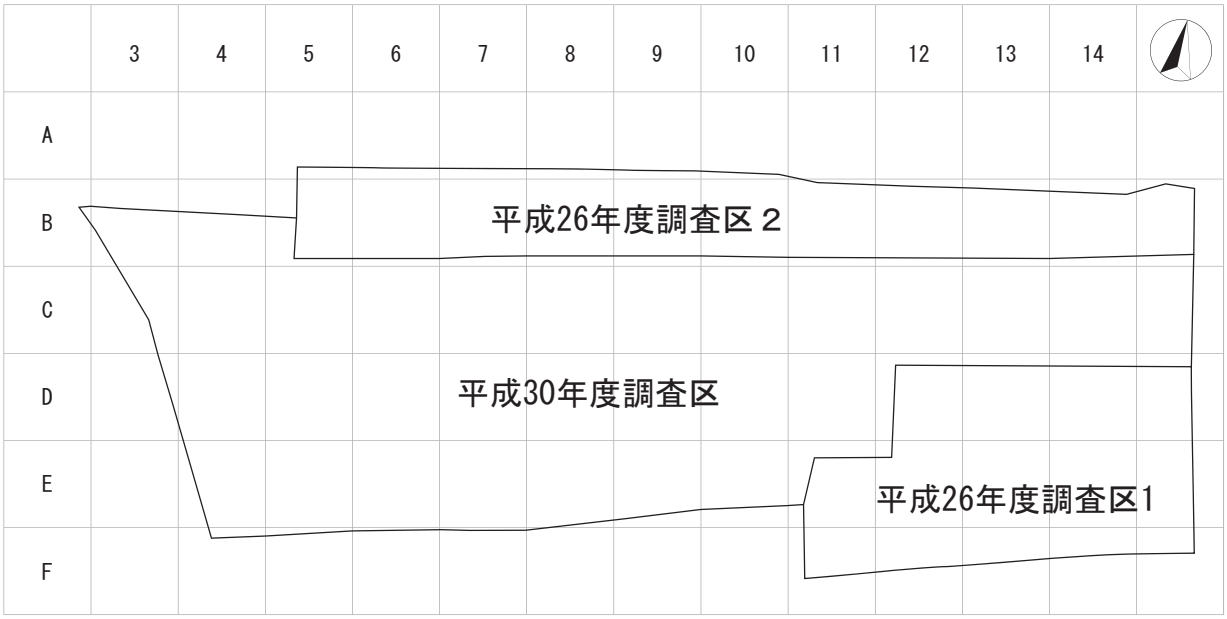
【噴砂について】

東九州自動車道建設に伴う発掘調査では，本遺跡をはじめ，春日堀遺跡・平良上C遺跡・宮脇遺跡・荒園遺跡・永吉天神段遺跡・川久保遺跡などで約7,300年前の鬼界カルデラの爆発に伴うと考えられる液状化現象（噴砂）跡が発見されている。

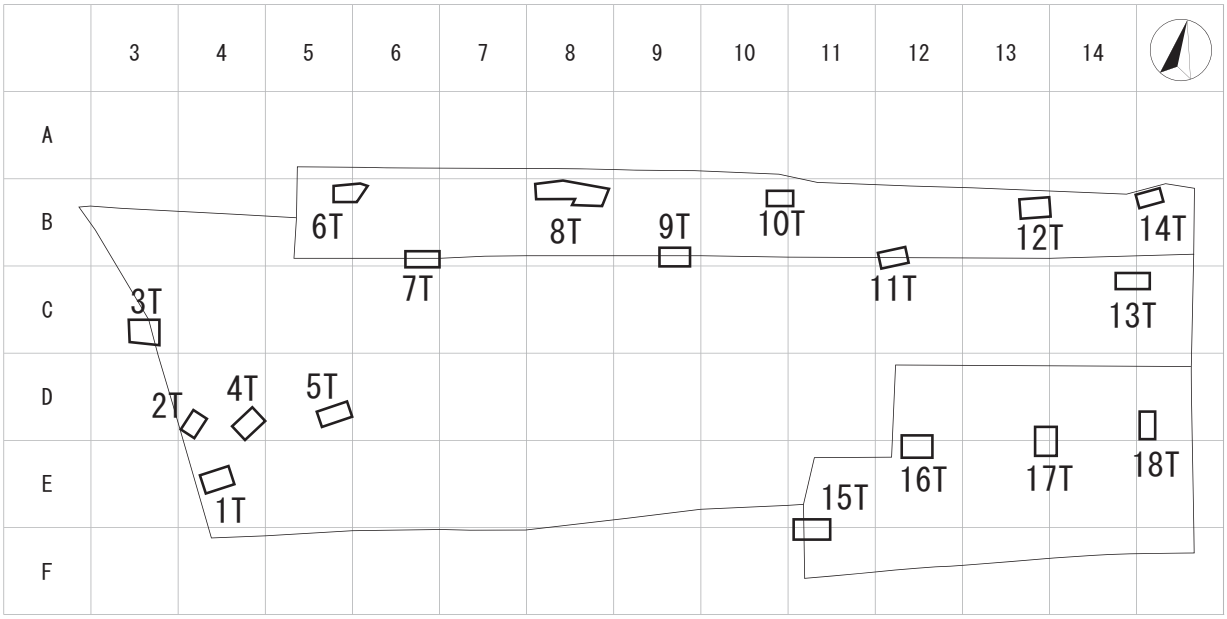
本遺跡では，アカホヤ火山灰層直下に噴砂が堆積する。成尾英仁鹿児島県考古学会会員によると，噴砂層の上部はアカホヤ火山灰と混在しており，噴砂をもたらした液状化現象の発生はアカホヤ火山灰堆積時であったことを示しており，本遺跡南部に位置する大崎町内の遺跡では，噴砂はアカホヤ火山灰層中に認められるが，本遺跡ではアカホヤ火山灰層に直接覆われ，間に挟まれることはない。このような噴砂の状況は対岸の春日堀遺跡でも同様であると述べられている。このような相違が生じた原因については幸屋火山灰降下軽石層や噴砂現象の規模が関係していると推定されるが，詳細は今後の課題である。



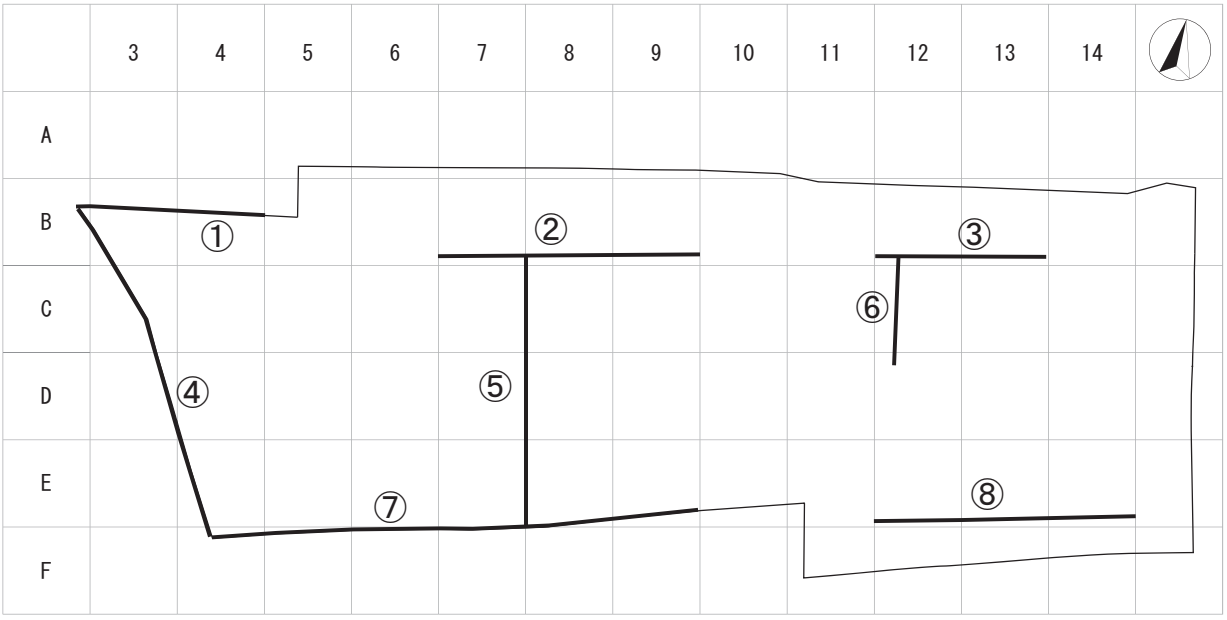
木森遺跡基本層序



第３図　年度別調査範囲（1グリッド＝10m）

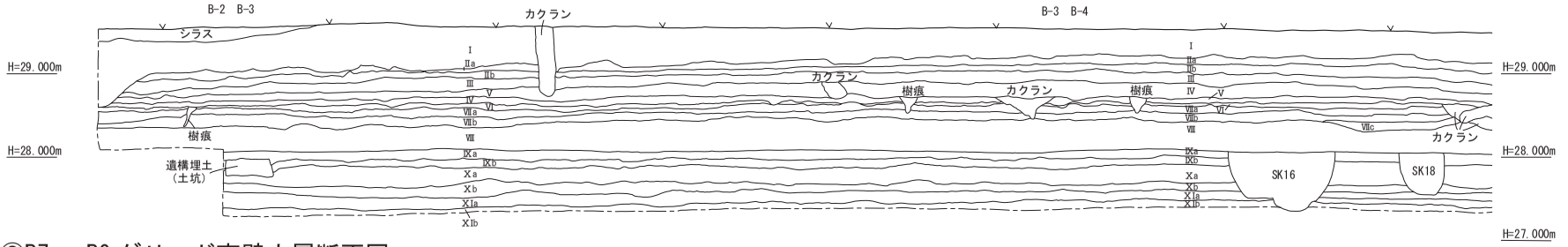


第４図　確認調査トレンチ位置図（1グリッド＝10m）

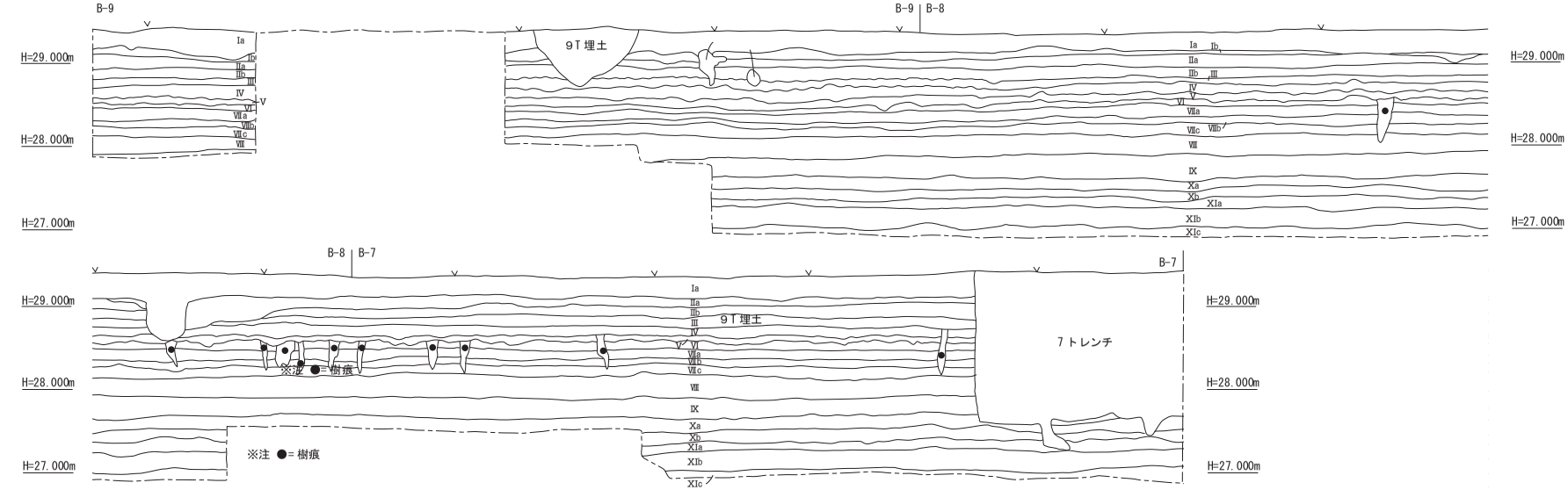


第５図　土層断面位置図（1グリッド＝10m）

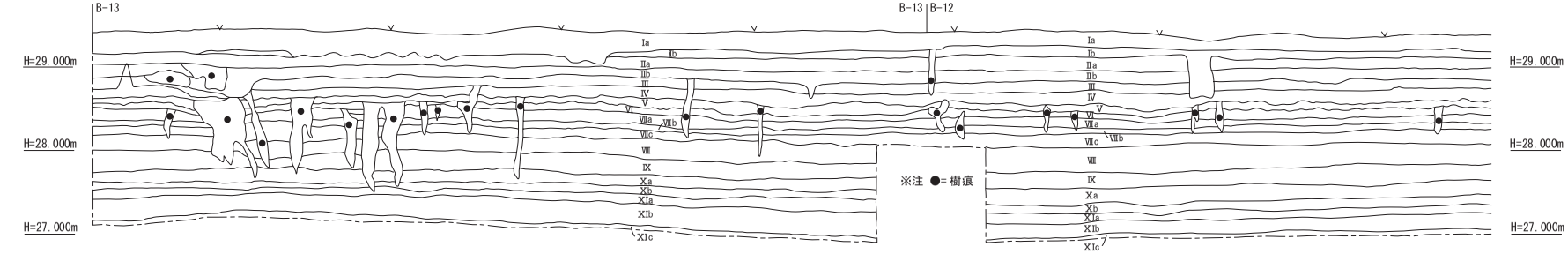
①B2 ～ B5 グリッド北壁土層断面図



②B7 ～ B9 グリッド南壁土層断面図

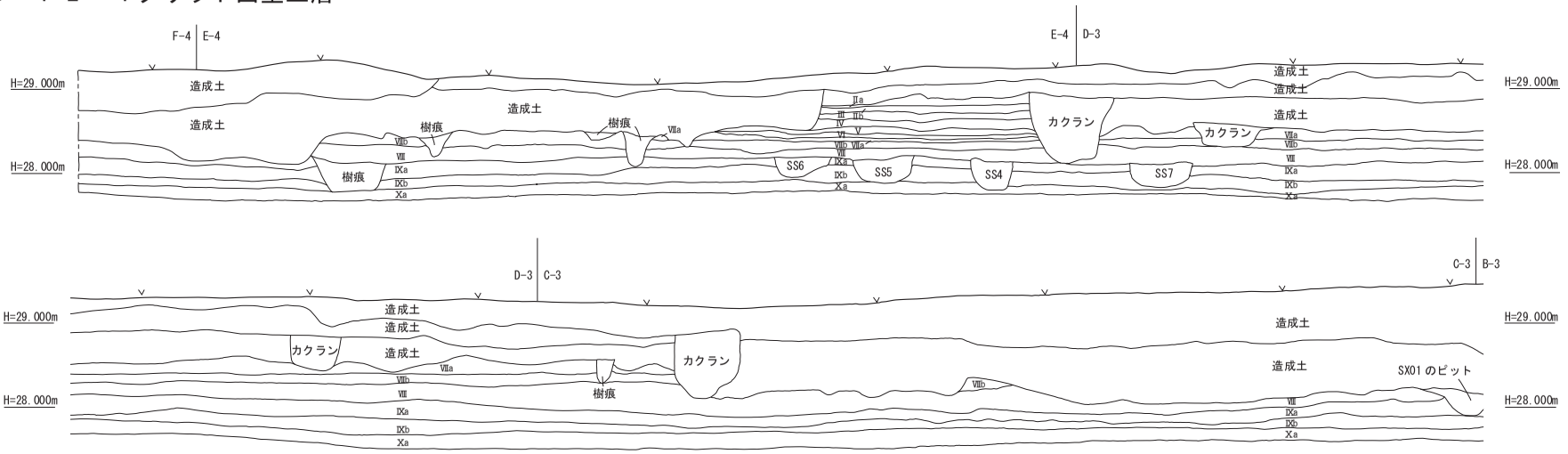


③B12 ～ B13 グリッド南壁土層断面図 (1)

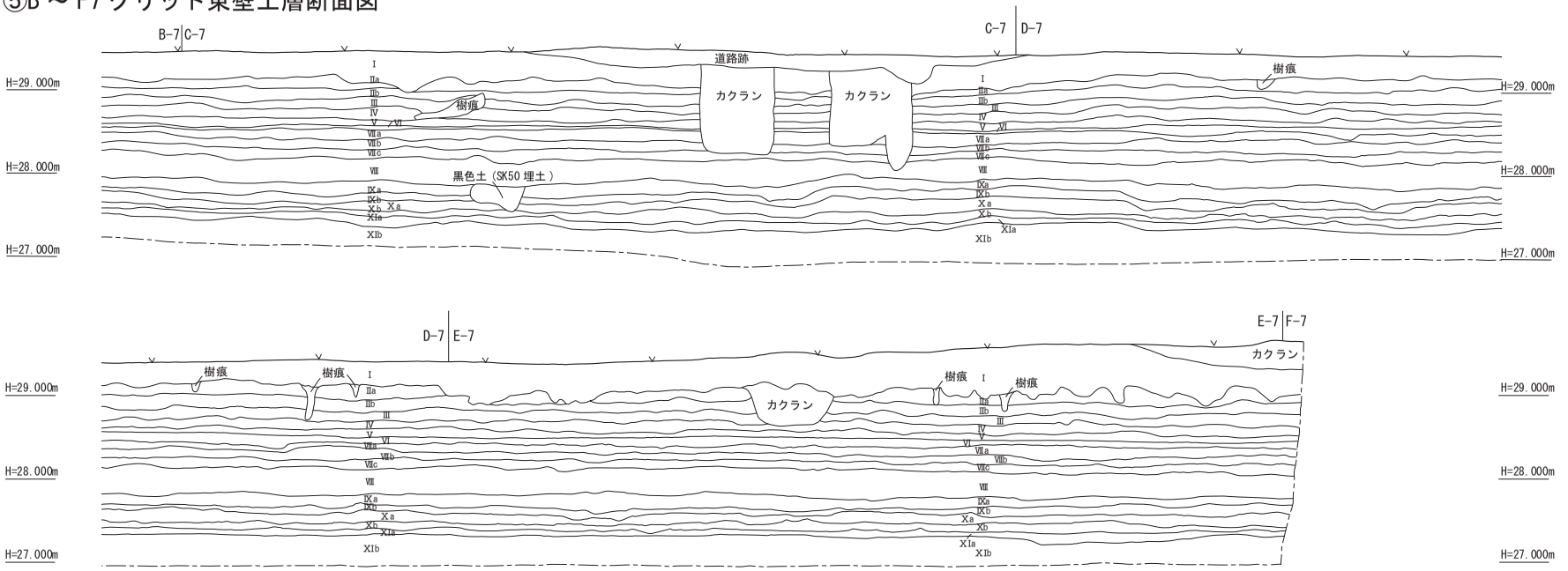


第６図　土層断面図１（Ｓ＝1/80）

④B～F 2～4 グリッド西壁土層

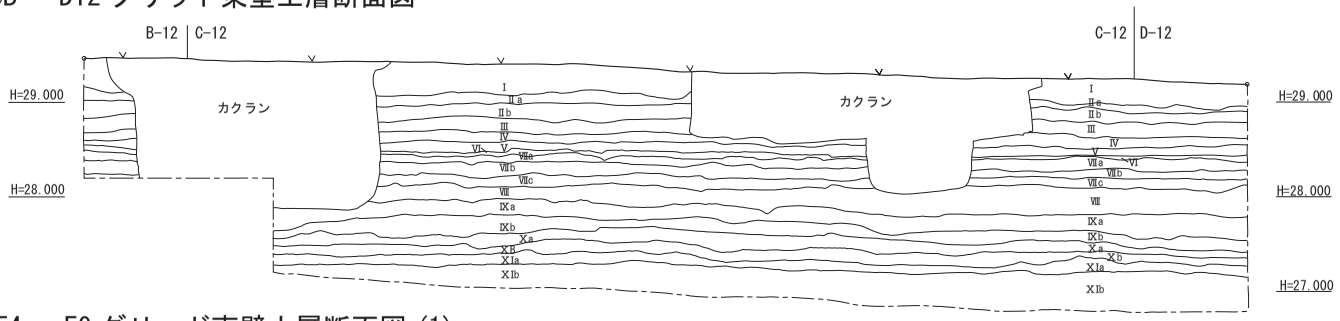


⑤B～F7 グリッド東壁土層断面図

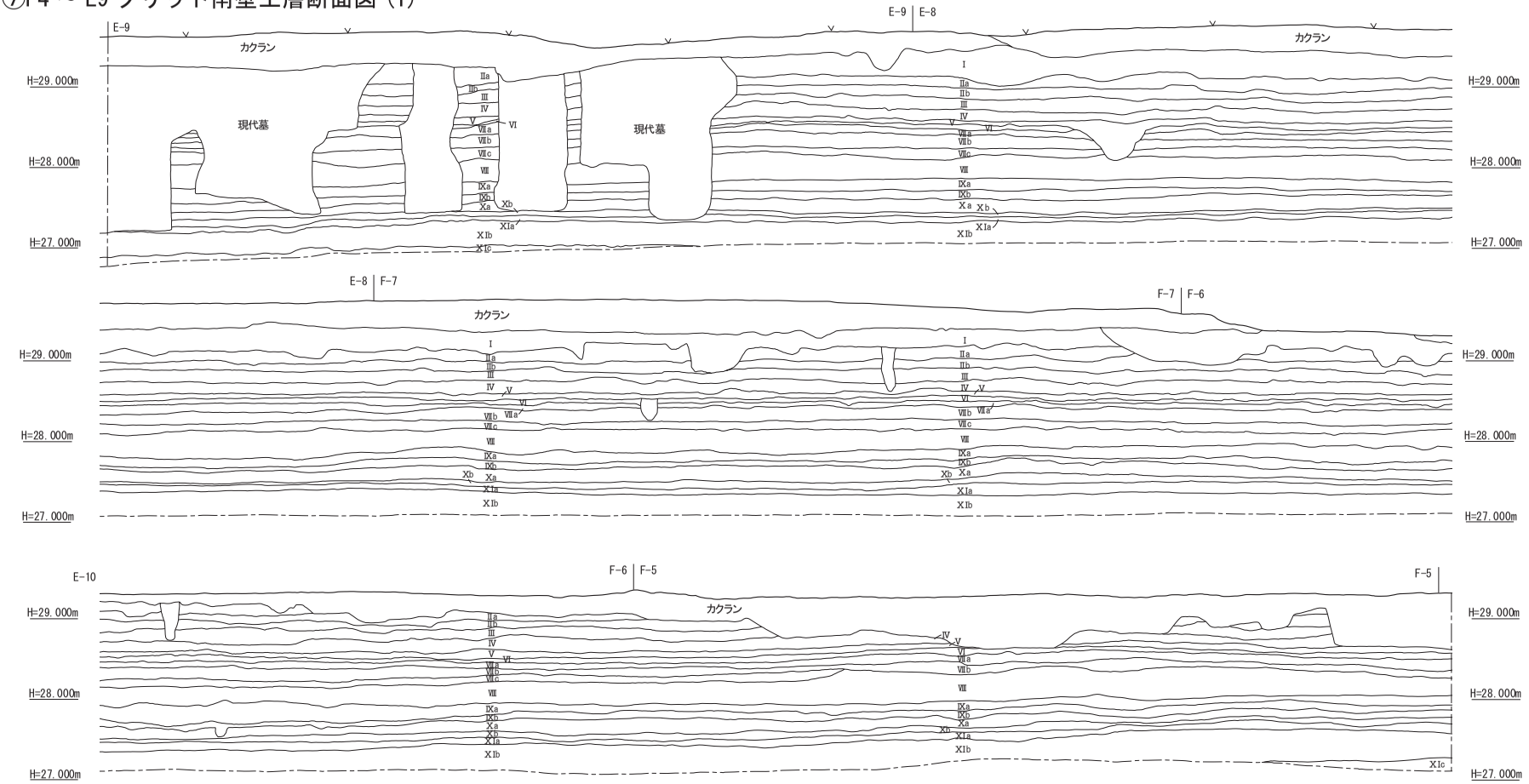


第７図　土層断面図２（Ｓ＝1/80）

⑥B ～ D12 グリッド東壁土層断面図

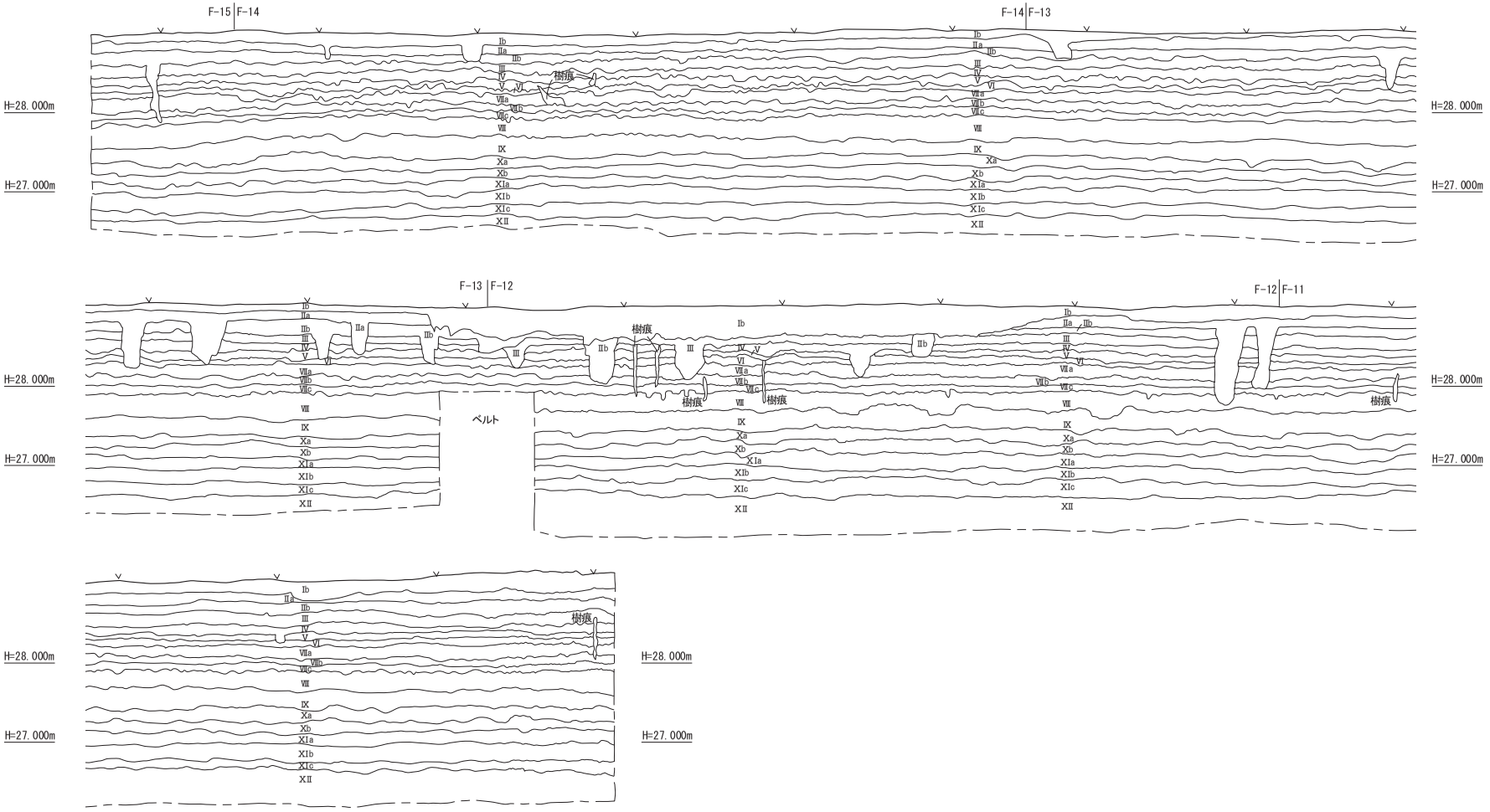


⑦F4 ～ E9 グリッド南壁土層断面図 (1)



第８図　土層断面図３（Ｓ＝1/80）

⑧F11 ～ F15 グリッド南壁土層断面図



第９図　土層断面図４（Ｓ＝1/80）

第Ⅳ章　発掘調査の成果

第１節　縄文時代早期の調査

１　調査の概要

縄文時代早期の調査は，該当層であるⅧ層～Ｘ層の調査で，全調査範囲に及ぶ。

調査は人力による掘り下げで進めながら，遺構を当時の生活面で確認できるよう慎重に調査を進めた。遺構は，連穴土坑23基，土坑104基，集石72基，土器溜まり１基が検出された。基本的にはＸ層上面で検出している。土器溜まり，集石においては主にⅧ層～Ⅸ層上面において検出した。遺構の多くは調査区の西側にあたる，Ｂ～Ｅ－４～９区から検出されている。

（１）連穴土坑について

本遺跡では，人為的に掘り込まれた竪穴状の遺構を土坑とした。そして２つの土坑が地中のトンネルでつながった土坑をセットで連穴土坑と称した。また，トンネルは認められないものの，ブリッジが崩落した可能性が高いと考えられるものも連穴土坑として扱った。なお，検出時から連穴土坑と判断できず，当初集石遺構として調査を行ったものや，土坑として調査を行ったものもある。本遺跡では23基認定した。

調査は基本的に長軸方向を基準に半裁し，埋土観察後に完掘した。本報告書では，下記に示すように連穴土坑の各部分に名称をつけた。

主穴部：連穴土坑の大きい方の土坑
従穴部：連穴土坑の小さい方の土坑
トンネル：小さな土坑と大きな土坑が地中で繋がっている部分
ブリッジ：トンネルの上にあたる部分
長軸：主穴部・従穴部・ブリッジのほぼ中央を通る長さ
短軸：主穴部・従穴部・ブリッジの各主軸に対して直角に交わり，各部の端までの長さ。
深さ：検出位置から底面までの長さ
高さ：トンネルの主軸と短軸が交わる点から底面までの長さ

（２）土坑について

土坑は，平成26年度の調査で１基，平成30年度の調査で103基の計104基が検出された。本報告書では，以下に示すように土坑の各部分に名称を付した。

長軸：検出面で，土坑のほぼ中心を通り，その土坑の広がりが長いほうの長さ
短軸：長軸の中央を通り，長軸に対して直角に広がる長さ
最深部深さ：長軸で，その土坑で最も深い部分の長さ

ほとんどの土坑はＸ層上面で検出している。掘り下げは半裁法を用いて，埋土の違いを確認しながら移植ゴテで行った。平面形態は円形，楕円形，不定形等様々である。半数近くは単独で検出されているが，連穴土坑や複数の土坑が切り合っているものが認められる。報告にあたっては，検出面の形状をもとにして以下の５つに分類した。

Ⅰ類：検出面の形状が，円形または不定形円形を呈するもの
Ⅱ類：検出面の形状が，円形に近い楕円形または不定形楕円形を呈するもの
Ⅲ類：検出面の形状が長楕円形または不定形長楕円形を呈するもの
Ⅳ類：検出面の形状が長楕円形を呈し，断面形状などの形相から連穴土坑を想起させるもの
Ⅴ類：調査区外へ広がるか，切り合い及び先行トレンチ等の影響で全形状が把握できないもの

本遺跡ではⅠ類が19基，Ⅱ類が12基，Ⅲ類が23基，Ⅳ類が14基，Ⅴ類が36基である。なお，平面形状や断面形状は感覚的に判断したものである。

（３）集石について

Ⅷ～Ⅸa層で72基を検出した。特に調査範囲の北側（Ｂ－７・８区）と南側（Ｅ－８・９区）および西側Ｃ～Ｅ－４～６区周辺でまとまって検出された。礫の集中部および掘り込みの有無により，木森遺跡の集石を以下のように分類した。

Ⅰ類：明確な集中部が見られず，掘り込みのないもの
Ⅱ類：明確な集中部が見られ，掘り込みのないもの
Ⅲ類：明確な集中部が見られ，掘り込みのあるもの
Ⅳ類：明確な集中部が見られず，掘り込みがあるもの
Ⅴ類：分類が困難なもの

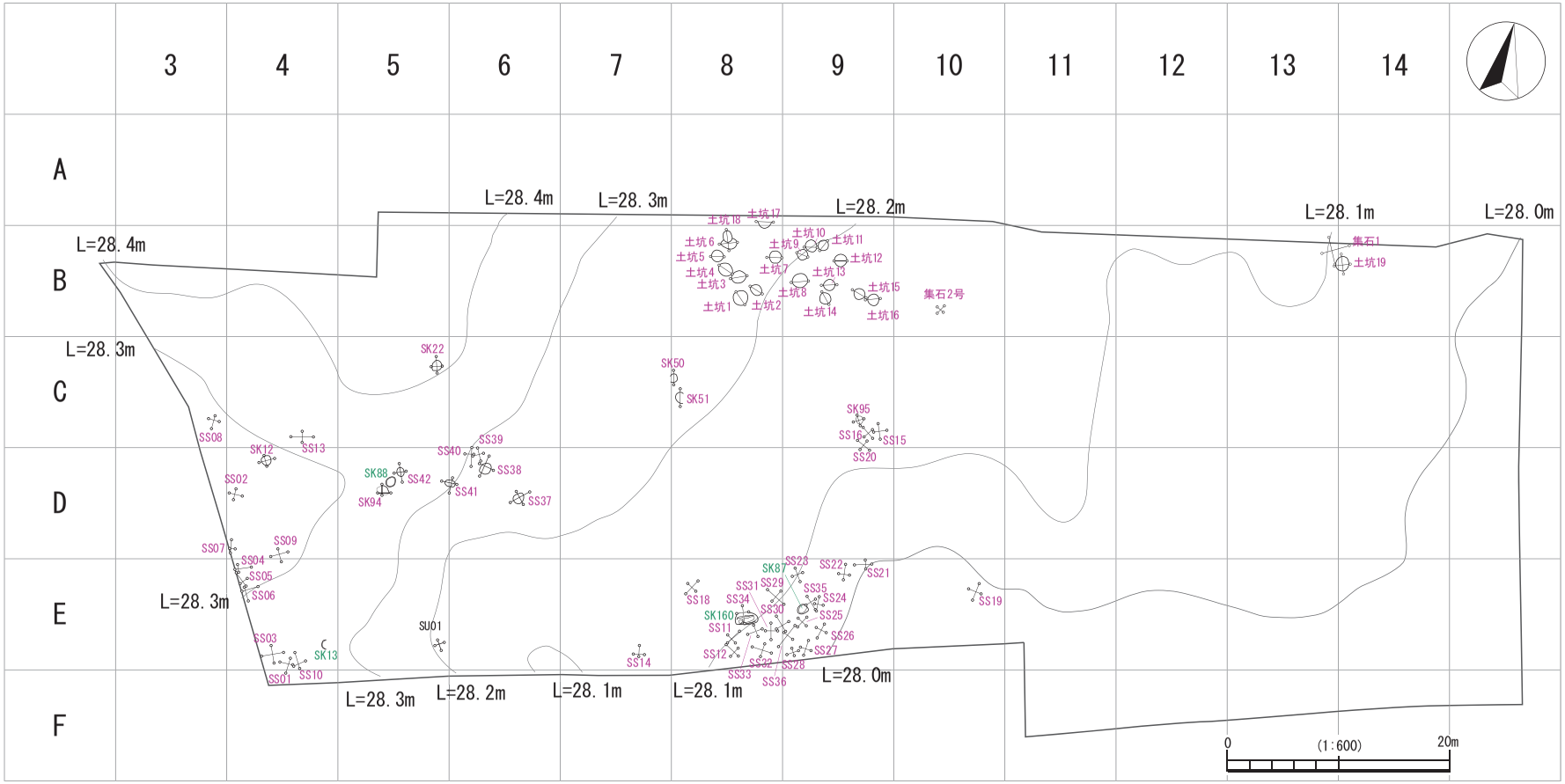
なお，構成礫の集中部の有無は感覚的なものであり，礫間の空間の有無や重なり等を目安にした。

本遺跡ではⅠ類が２基，Ⅱ類が４基，Ⅲ類が47基，Ⅳ類が17基，Ⅴ類が２基である。

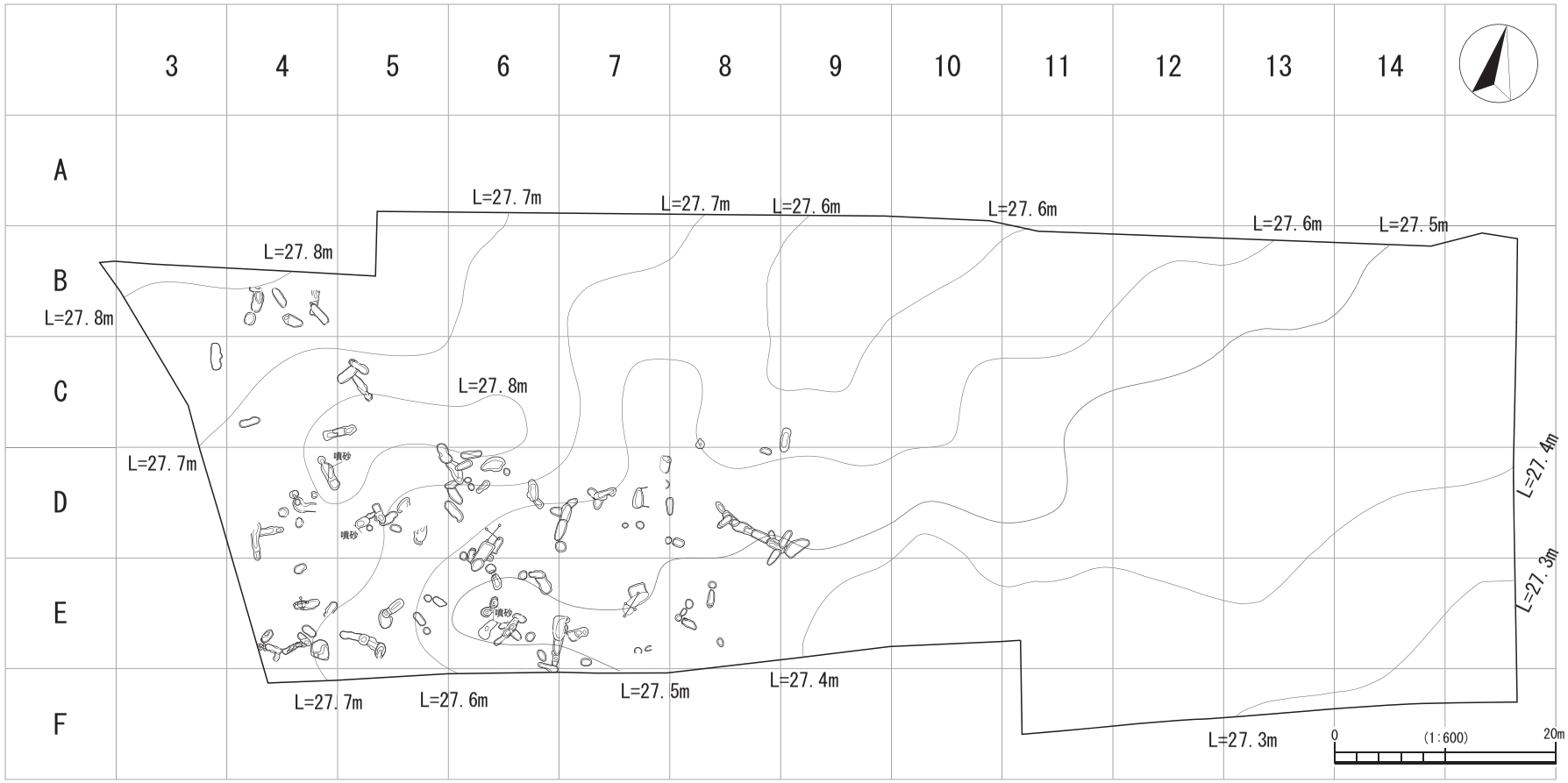
（４）土器溜まりについて

本遺跡では１基検出されている。周辺には連穴土坑と土坑等，多くの遺構が検出されているエリアである。

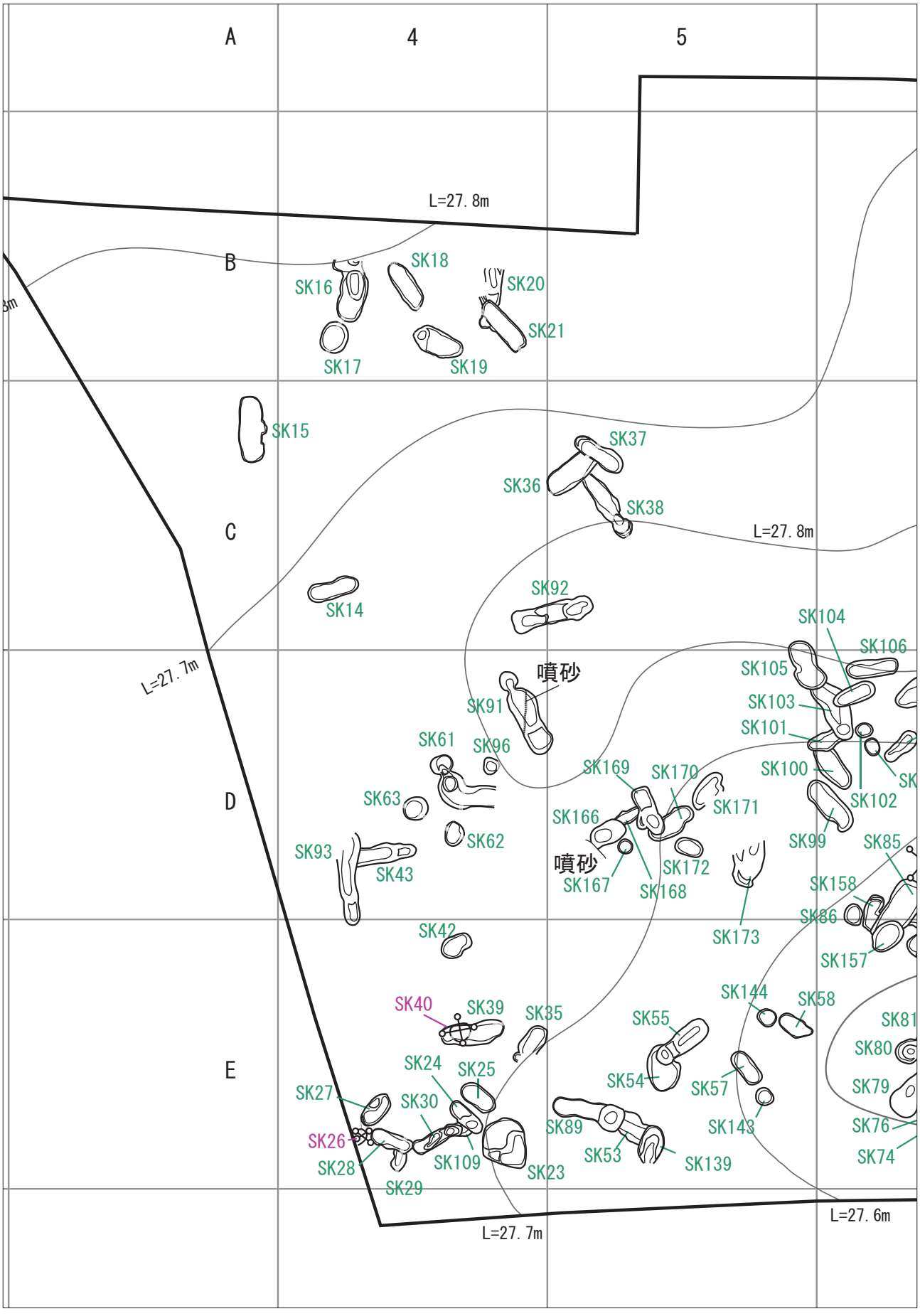
以下，個別の報告を行う。なお，後に示す遺構配置図については旧遺構名で付した。また，報告において各部の長さが不明な場合は，確認できた部分までの長さを（　）で示した。



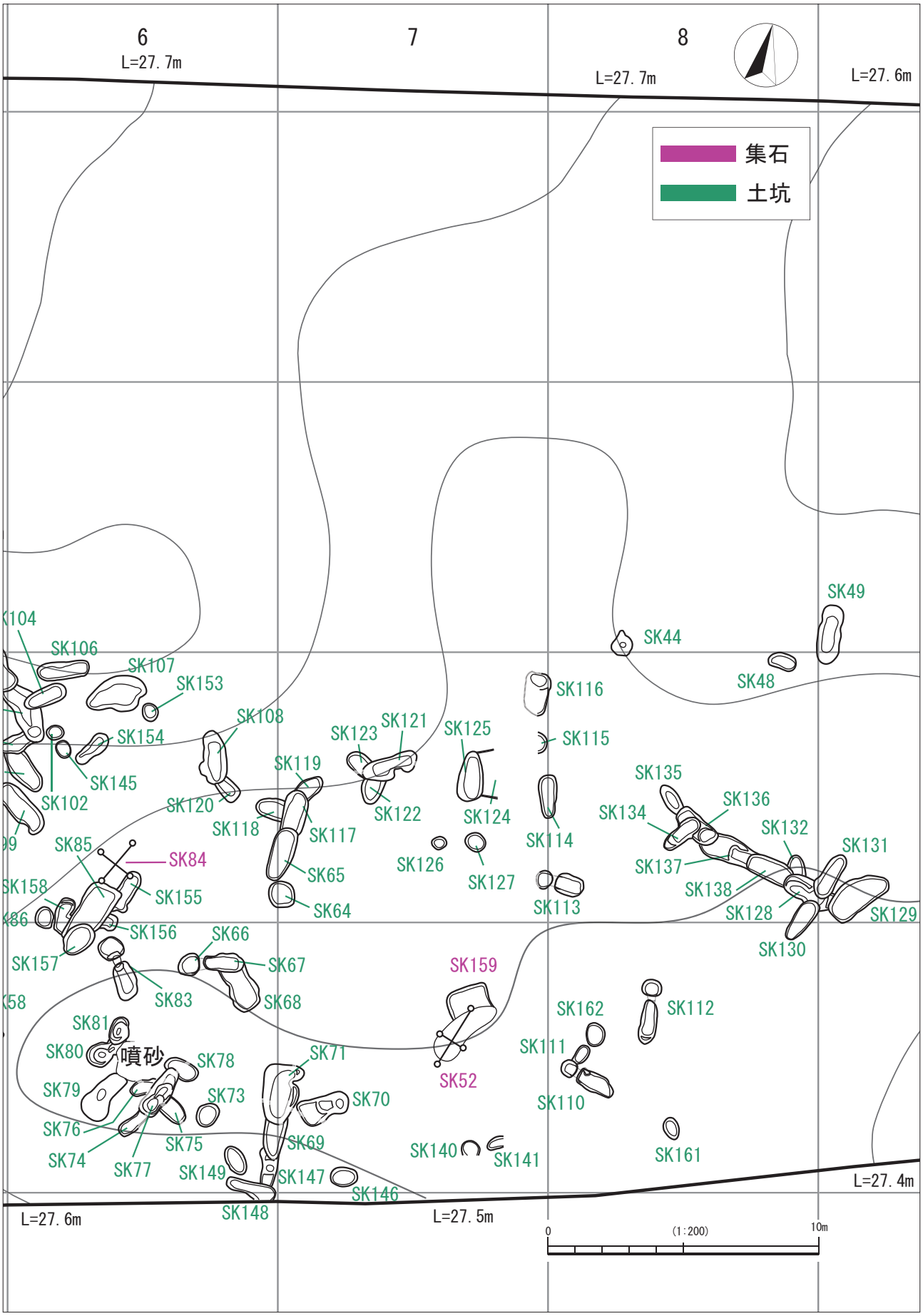
第10図　縄文早期の遺構配置図①



第11図　縄文早期の遺構配置図②



第12図　縄文早期の遺構配置図③



第13図　縄文早期の遺構配置図④

２　遺構

（１）連穴土坑（第14図～ 26図）

（単独検出）

１号連穴土坑（SK49）［第14図］

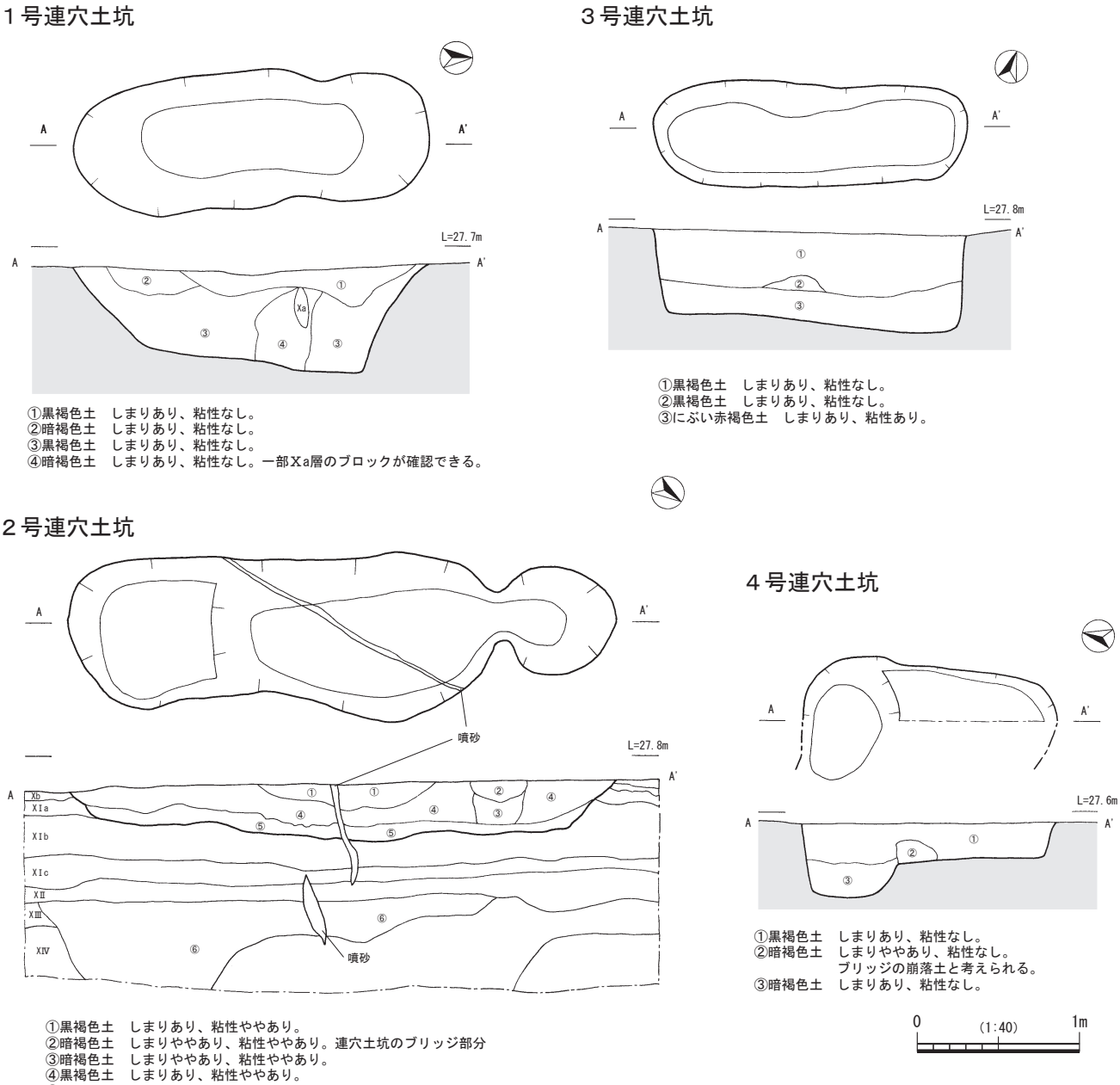
C･D－９区，Xa層で検出した。長軸方向に半裁し，断面の土層より，ブリッジが崩落した連穴土坑と判断した。全長は219cmあり，底面までの深さは最深部で65cmを測る。埋土は黒褐色土を基調とし，少量の炭化物を含む。ブリッジ崩落土部分にXa層ブロックが確認できた。

埋土から出土した遺物はなかった。

２号連穴土坑（SK91）［第14図］

D－４区，Xa層で検出した。埋土中にブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。確認できた全長は337cmあり，底面までの深さは最深部で30cmを測る。埋土は基本的にⅧ層を基調とし，黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土及び底面は暗褐色土であるが，底面は炭化物の粒子をわずかに含んでいる。また，噴砂跡が確認できたため断面も示した。土層⑥は水性作用により酸化していない。

出土遺物は埋土①からⅡ類土器１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。



第14図　１～４号連穴土坑

３号連穴土坑（SK106）［第14図］

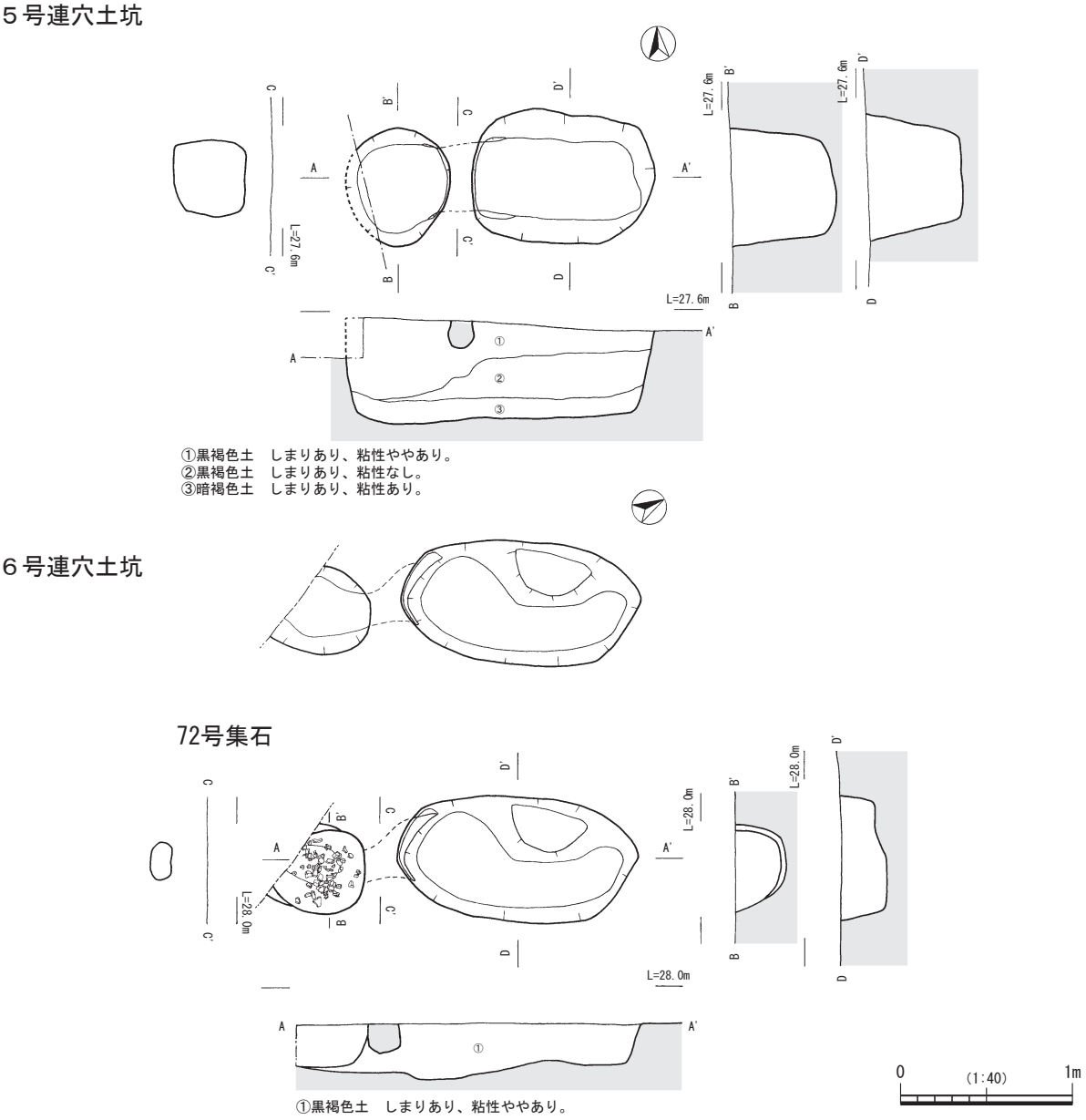
D－６区，Xa層で検出した。ブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。全長は193cmあり，底面までの深さは最深部で60cmを測る。埋土の上層部は黒褐色土であり，ブリッジ崩落土も黒褐色土であるが，１～５cmのロームブロックを多量に含む。土坑底面はにぶい赤褐色土で，径１mm以下の炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から出土した遺物はなかった。

４号連穴土坑（SK116）［第14図］

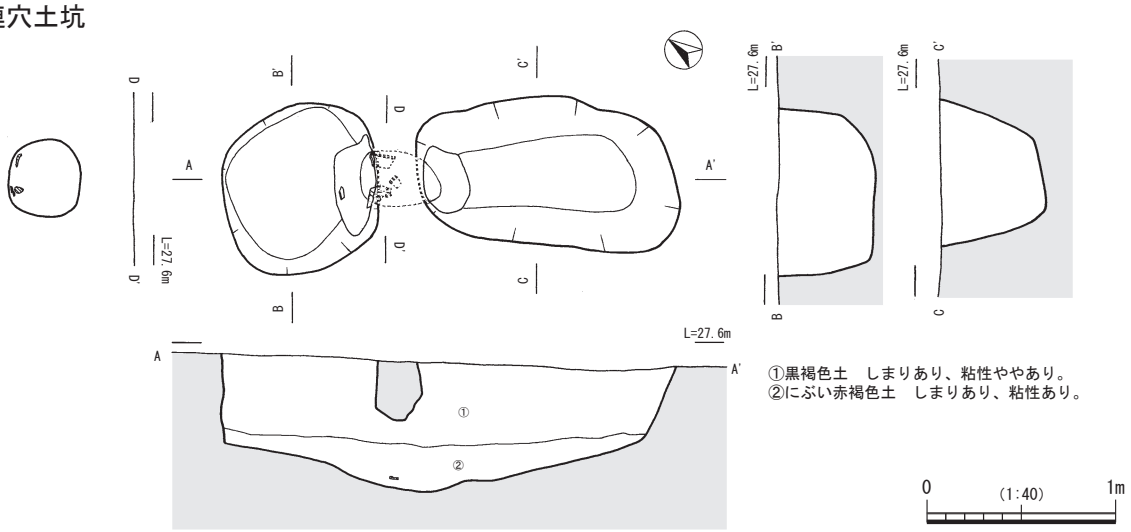
D－７・８区，Xa層で検出した。西側の部分は先行トレンチで削平しており，その断面よりブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。全長は確認できた部分で(156)cmあり，底面までの深さは最深部で44cmを測る。埋土は黒褐色土で，１～２mmの炭化物の粒子をわずかに含む。ブリッジ崩落部分も暗褐色土であるが，５～15mmのやや大きめのローム粒子を含む。

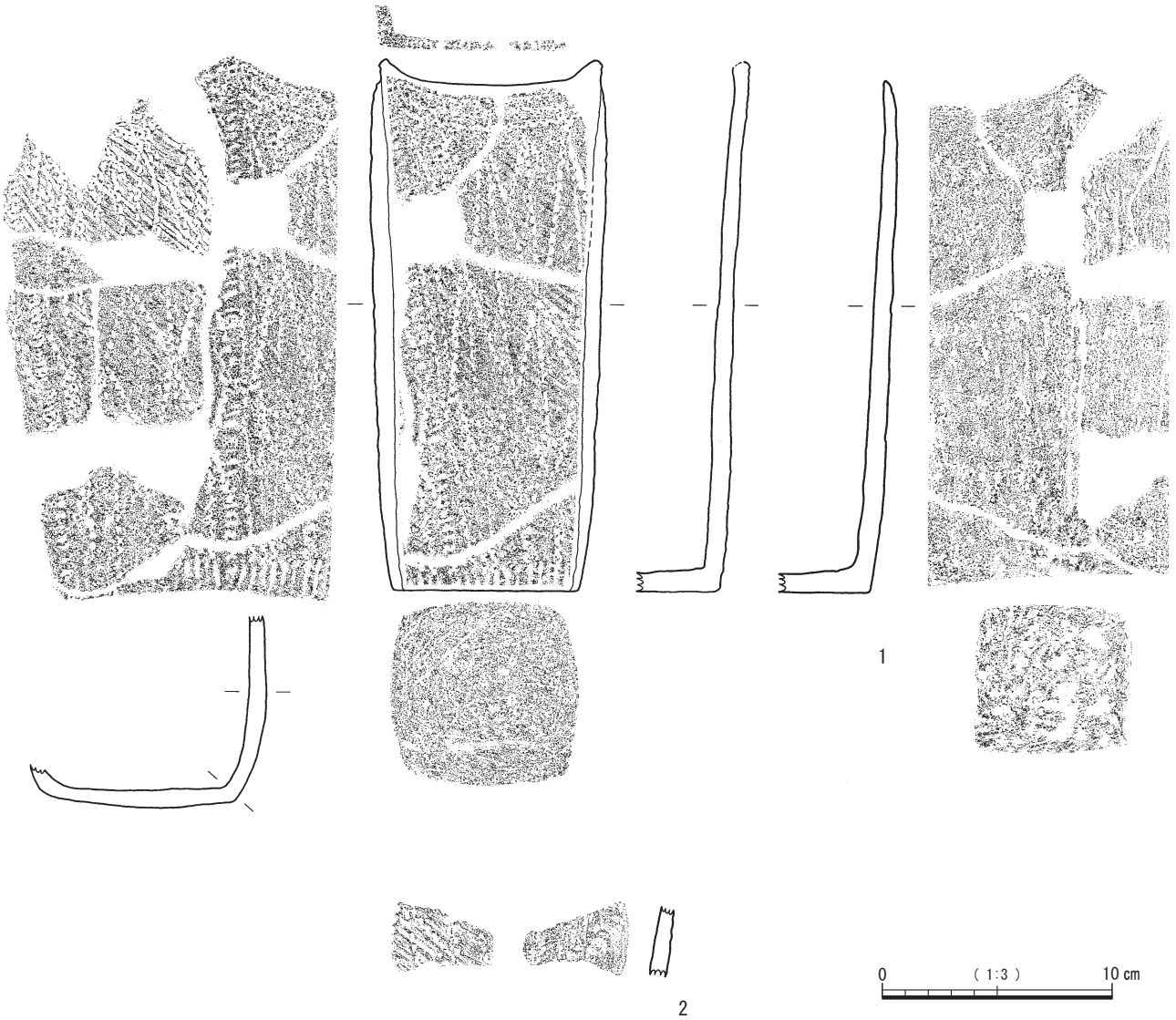
出土遺物は遺構内一括でⅡ類土器１点を取り上げたが，小片のため掲載には至らなかった。



第15図　５号連穴土坑・６号連穴土坑

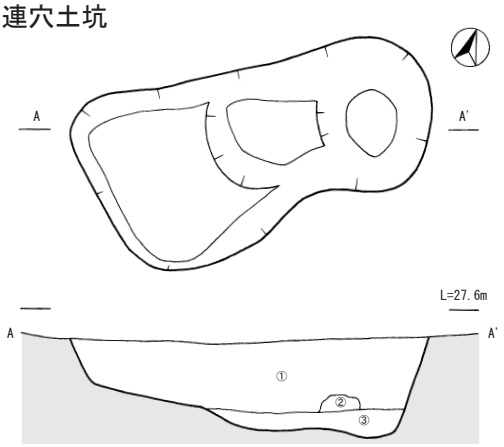
７号連穴土坑





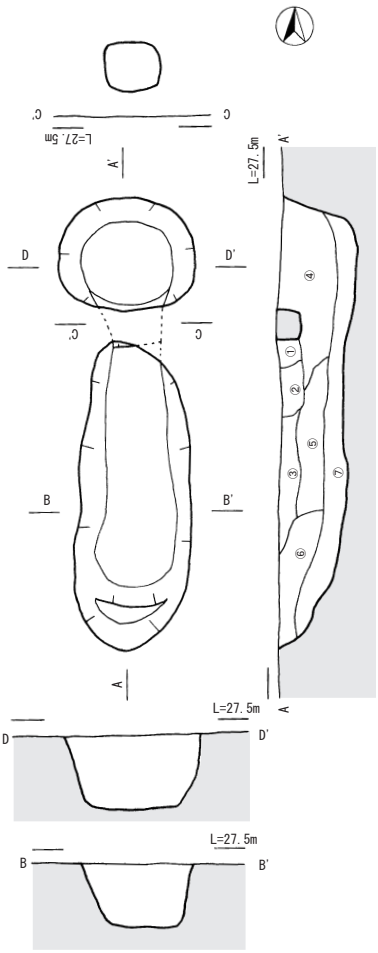
第16図　７号連穴土坑・出土遺物

８号連穴土坑



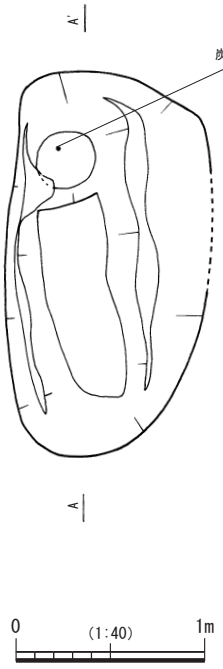
①黒褐色土　しまりあり、粘性ややあり。
②暗褐色土　しまりややあり、粘性ややあり。ブリッジ崩落土
③にぶい赤褐色土　しまりあり、粘性あり。

９号連穴土坑

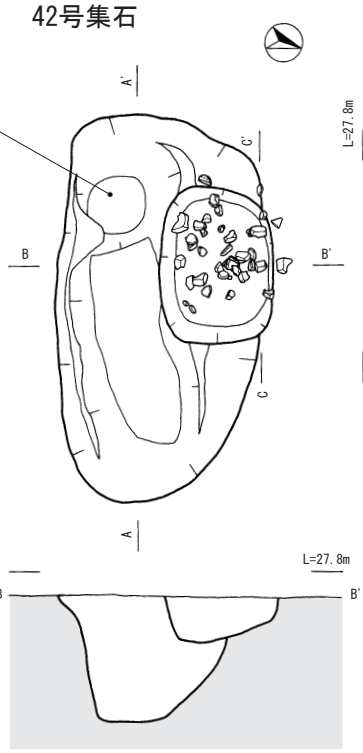


①暗褐色土　しまりあり、粘性なし。
②黒褐色土　しまりあり、粘性なし。
③黒褐色土　しまりあり、粘性なし。
④黒褐色土　しまりあり、粘性なし。
⑤黒褐色土　しまりあり、粘性なし。
⑥黒褐色土　しまりあり、粘性なし。
⑦暗褐色土　しまりあり、粘性あり。

10号連穴土坑



42号集石



①黒褐色土　しまりあり、粘性なし。
②黒色土　しまりあり、粘性なし。
③黒褐色土　しまり強い、粘性なし。
④にぶい赤褐色土　しまりやや弱い、粘性あり。

第17図　８～10号連穴土坑・出土遺物

５号連穴土坑（SK113）［第15図］

D－７・８区，Xa層で検出した。Xａ～Ｘｂ層部分を利用したブリッジが残る連穴土坑である。確認できた全長は(179)cmで，西側の従穴部は，先行トレンチにより一部削平されている。主穴部の長軸は106cm，短軸75cm，底面までの深さは最深部で52cmである。従穴部の長軸は(50)cm，短軸69cm，底面までの深さは最深部で61cm，トンネル部の長軸は13cm，短軸39cm，高さ41cmを測る。埋土の上層部は黒褐色土であり，炭化物を少量含む。土坑底面は暗褐色土である。

埋土から出土した遺物はなかった。

６号連穴土坑（SK26 SK27）　［第15図］

［重複遺構］72号集石（SK26）

Ｅ－４区Ｘ層で検出した。当初，掘り込みを持つ集石遺構（72号集石)と近接する土坑として調査を進めていたが，掘り込みの完掘作業途中でブリッジとトンネル部が確認できたため連穴土坑と判断した。確認できた全長は(200)cmで，主穴部の長軸140cm，短軸72cm，深さ26cmである。埋土は黒褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含む。トンネル部の長軸18cm，短軸21cm，高さ12cmである。従穴部の長軸は(42)cm，短軸52cm，深さ29cmである。72号集石は，従穴部の掘り込みを集石として再利用されたものと考えられる。72号集石については後述する。

埋土から出土した遺物はなかった。

７号連穴土坑（SK83）　［第16図］

Ｅ－６区，Xa層で検出した。ブリッジの一部が残存したため連穴土坑と判断した。全長241cm，主穴部は長軸137cm，短軸78cm，底面までの深さは最深部で55cmである。従穴部の長軸は83cm，短軸89cm，検出面からの深さ54cmである。トンネル部の長軸21cm，短軸29cm，高さは36cm，埋土の上層は黒褐色土で，下層はにぶい赤褐色土である。重複する遺構等はなく，単独で検出された。

出土遺物は埋土②から土器13点が出土した。１は底部はすべて残存しており，口縁から胴部にかけて約半分が残存していたため，完形に復元できた。角筒器形であり，底面の各辺はやや弧状となるが，長軸8.1cm，短軸7.9cmとほぼ正方形に近い。器高は23.1cmであり，底部から口縁部に向けて直線的に立ち上がる。口縁部に３段の貝殻刺突線文を施し，胴部には貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突線文を施し，角部には貝殻腹縁を用いて刺突を施す。底部境から縦位の貝殻条痕を施す。内面はケズリを施しており，底部内面には工具ナデが観察できる。２は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。どちらもⅡ類土器である。

８号連穴土坑（SK70）［第17図］

Ｅ－７区，Xa層で検出した。ブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。確認できた全長は191cm，底面までの深さは最深部で54cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は暗褐色土，土坑底面はにぶい赤褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含んでいる。重複する遺構等はなく，単独で検出した。埋土から出土した遺物はなかった。

９号連穴土坑（SK112）　［第17図］

Ｅ－８区，Xa層で検出した。Xａ・Ｘｂ層部分を利用したブリッジが一部残る連穴土坑である。全長241cm，主穴部の長軸164cm，短軸59cm，検出面からの深さは最深部35cmである。従穴部の長軸61cm，短軸72cm，検出面からの深さは最深部で41cmである。トンネル部の高さは26cm，長軸16cm，短軸は29cmである。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土であり，炭化物の粒子をわずかに含んでいる。

出土遺物は埋土④から土器１点が出土し，包含層出土土器と接合した。３は円筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。

10号連穴土坑（SK160）　［第17図］

［重複遺構］42号集石（SS34）

Ｅ－８区，Ⅷ層で検出した。検出時にＰ13と考えられる広がりを42号集石が切るような状況が確認でき，北側にサブトレンチを入れ，土層を確認したところブリッジの崩落土が確認されたことから連穴土坑と判断した。10号連穴土坑が廃棄後に42号集石が構築されたものと考えられる。42号集石については後述する。

全長は205cm，底面までの深さは最深部で約68cmを測る。埋土は黒色土が大部分を占め，炭化物を含んでいる。ブリッジ崩落土は黒褐色土，土坑底面はにぶい赤褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含んでいる。

出土遺物は埋土②からⅡ類土器１点及び炭化物が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。また，埋土②から出土した炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で9429±34^{14C} BPの値が得られた(IAAA-210172)。(第Ⅴ章参照)

11号連穴土坑（SK38）

［重複遺構］78号土坑（Ⅳ類：SK36）

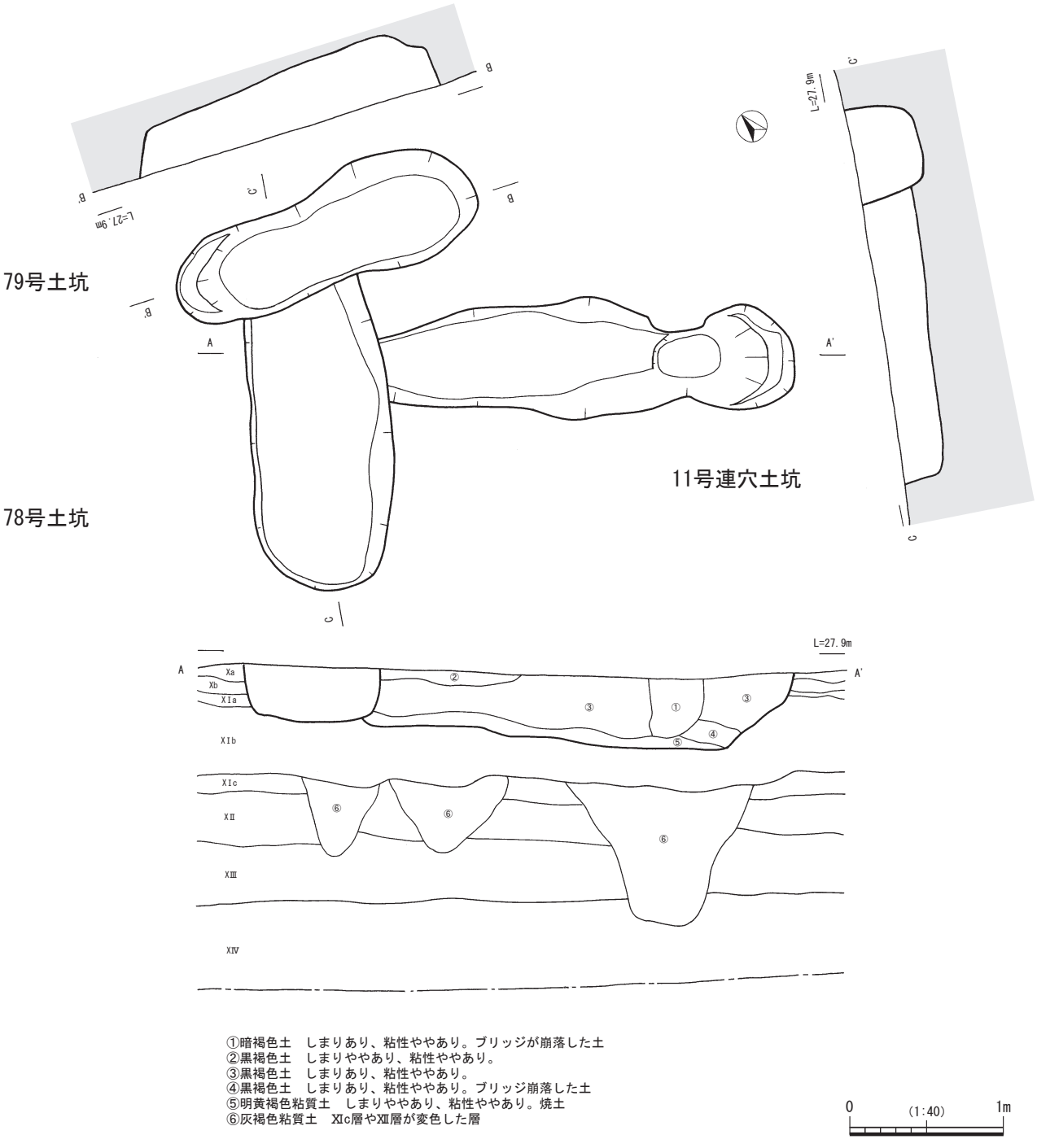
79号土坑（Ⅳ類：SK37）　［第18図］

11号連穴土坑はＣ－５区Xa層で検出した。長軸方向を基準にトレンチを入れ，断面の土層より，ブリッジが崩落した連穴土坑と判断した。確認できた全長は(267)cm，底面までの深さは最深部で約46cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占める。土坑底面には炭化物の粒子が見られ，焼土が確認された。埋土②から炭化物が出土した。焼土が確認されたため断面も示した。土層⑥は水性作用により酸化していない。

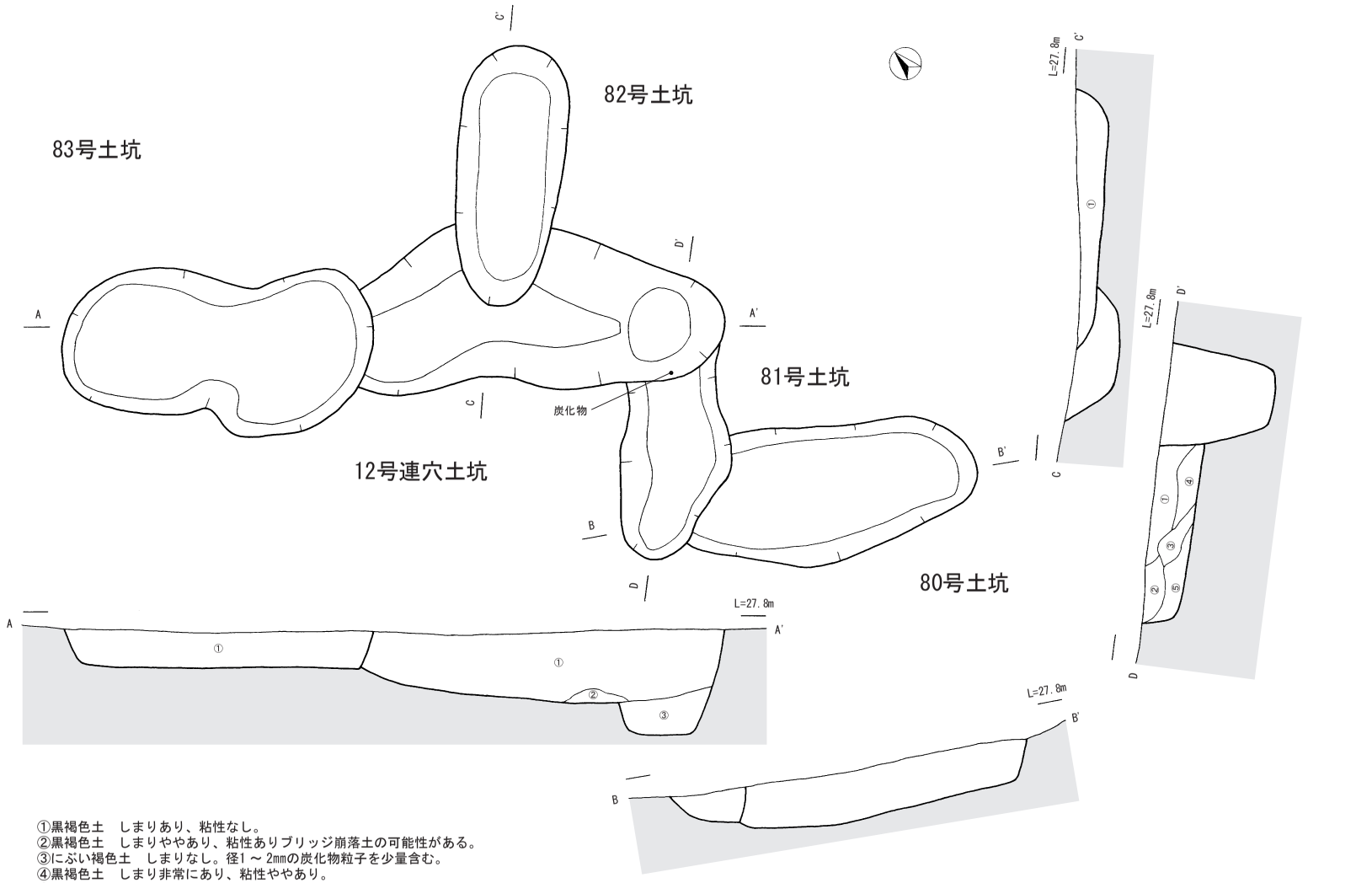
重複遺構は78号土坑と79号土坑の２基である。ともに検出面の形状が連穴土坑を想定させるものであったが，ブリッジの崩落土等が確認できなかったため土坑と判断した。

78号土坑は79号土坑に切られ，11号連穴土坑を切っている。平面の形状は長軸(188)cm，短軸91cmの楕円形である。底面までの深さは最深部で30cmを測る。

79号土坑は78号土坑を切っており，平面の形状は長軸204cm，短軸75cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で37cmを測る。埋土は78号，79号土坑ともにⅧ層を基調とした黒褐色土である。炭化物が出土している。



第18図　11号連穴土坑，78･79号土坑



①黒褐色土　しまりあり、粘性なし。
②黒褐色土　しまりややあり、粘性ありブリッジ崩落土の可能性がある。
③にぶい褐色土　しまりなし。径1～2㎜の炭化物粒子を少量含む。
④黒褐色土　しまり非常にあり、粘性ややあり。
⑤灰黄色土　しまりややあり、粘性あり。

第19図　12号連穴土坑，80～83号土坑

12号連穴土坑（SK103）

［重複遺構］80号土坑（Ⅲ類：SK100）

81号土坑（Ⅳ類：SK101）82号土坑（Ⅲ類：SK104）

83号土坑（Ⅲ類：SK105）　　［第19図］

80号土坑の北西側は81号土坑に切られている。平面の形状は長軸（178）cm，短軸87cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で30cmを測る。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土である。

81号土坑は北側は12号連穴土坑に切られ，南側は80号土坑を切っている。平面の形状は長軸（114）cm，短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測る。埋土中にブリッジの痕跡は確認できなかったが，底面の形状，12号連穴土坑と切り合いが見られることから連穴土坑の可能性も考えられるが，詳細は不明である。埋土は黒褐色土で炭化物も含む。

12号連穴土坑はD－５・６区，Xa層で検出した。82号土坑，83号土坑に切られており，81号土坑を切っている。遺構全体のプランは不明であるが，南東側の埋土中に炭化物が集中し，ブリッジの崩落土と思われる土層が確認できたことから連穴土坑と判断した。確認できた部分の全長は（220）cmあり，底面までの深さは最深部で67cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は5～10mmのローム粒子を含んでいる。土坑底面はにぶい褐色土で，炭化物の粒子を含んでいる。出土遺物は埋土①から炭化物が出土した。この炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で9493±36^{14C} BPの値が得られた(IAAA－210171)。（第Ⅴ章参照）

82号土坑は12号連穴土坑を切っている。平面の形状は長軸162cm，短軸66cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で15cmを測る。

83号土坑は12号連穴土坑を切っている。平面の形状は長軸191cm，短軸102cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で24cmを測る。埋土の色調はやや暗めの黒褐色土である。出土遺物は埋土①からⅡ類土器１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。。

13号連穴土坑（SK121）

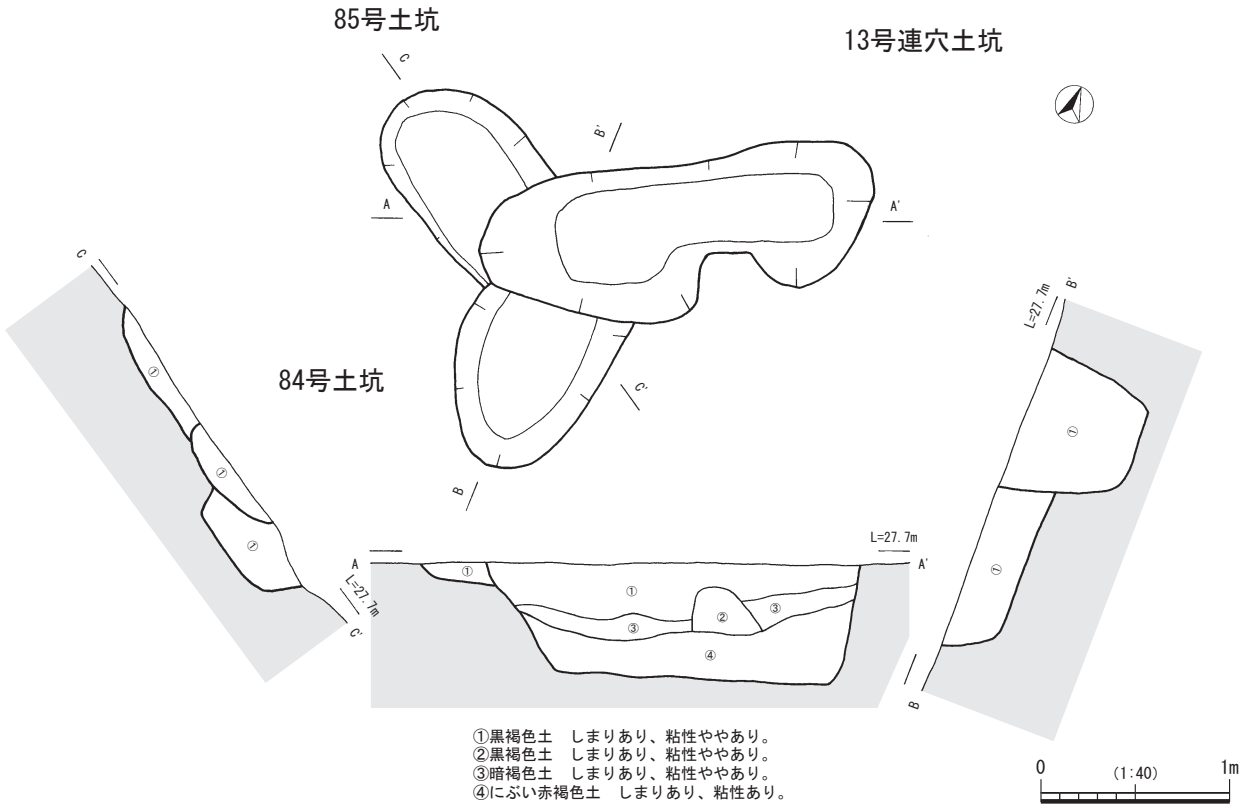
［重複遺構］　84号土坑（Ⅲ類：SK122）

85号土坑（Ⅴ類：SK123）　　［第20図］

85号土坑は東側は13号連穴土坑，84号土坑に切られている。平面の形状は長軸(74)cm，短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で11cmを測る。埋土はともに暗褐色で，埋土から出土した遺物はなかった。

84号土坑は北側は13号連穴土坑に切られている。平面の形状は長軸(90)cm，短軸79cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で28cmを測る。埋土は暗褐色土である。

13号連穴土坑はD－７区，Xa層で検出した。長軸方向を基準にサブトレンチを入れ，断面の土層の様相から



第20図　13号連穴土坑，84･85号土坑

ブリッジが崩落した部分が確認できたことから，連穴土坑と判断した。確認できた全長は197cm，底面までの深さは最深部で63cmを測る。上層部の埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は暗褐色土，土坑底面はにぶい赤褐色土である。炭化物を少量含む。

埋土から出土した遺物はなかった。

14号連穴土坑（SK134）　　［第21図］

［重複遺構］　86号土坑（Ⅳ類：SK128）
87号土坑（Ⅳ類：SK129）88号土坑（Ⅲ類：SK130）
89号土坑（Ⅲ類：SK131）90号土坑（Ⅳ類：SK132）
91号土坑（Ⅱ類：SK135）92号土坑（Ⅴ類：SK136）
93号土坑（Ⅴ類：SK137）94号土坑（Ⅳ類：SK138）

重複する遺構が10基あり，本遺跡で最多の重複遺構となっている。

91号土坑は東南側の92号土坑に切られている。平面の形状は長軸(113)cm，短軸57cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測る。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

93号土坑は92号土坑，94号土坑に切られている。平面の形状は長軸(140)cm，短軸96cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で35cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物は埋土①から土器１点が出土した。５は一対の角部を持つ。上面観がレモン形を呈する器形と考えられる。口縁部には横位の貝殻刺突文を３段施し，胴部には貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突文を施す。角部の左右で，縦位と斜位の貝殻刺突線文の交差する高さが異なり，角部から最も離れた箇所では，斜位の貝殻刺突文が省略されている。縦位貝殻刺突線文の間隔も1.３～２cmと疎らである。また，貝殻条痕の間隔も一定ではなく，やや雑然と施されている。角部は角筒器形と同様に，貝殻腹縁を用いて刺突を施す。口唇部には刻目を入れる。Ⅱ類土器である。

92号土坑は，東西部の93号土坑，91号土坑を切り，14号連穴土坑に切られている。長軸172cm，短軸77cm，底面までの深さは最深部で35cm，埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

14号連穴土坑はD－８区，Xa層で検出した。92号土坑を切っている。ブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。全長は162cm，底面までの深さは最深部で68cmを測り，底面はほぼ水平に安定している。埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は暗褐色土，土坑底面はにぶい赤褐色土である。

出土遺物は埋土②から土器１点が出土した。４は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施し，角部には貝殻腹縁を用いて刺突を施す。Ⅱ類土器である。

90号土坑は形状より連穴土坑の可能性も考えられたが南側は86号土坑，94号土坑に切られているため詳細は不明である。平面の形状は長軸(70)cm，短軸(48)cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測る。埋土は暗褐色土である。

94号土坑は，90号土坑，93号土坑を切り，86号土坑に切られている。平面の形状は長軸（157)cm，短軸81cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で46cmを測る。埋土②から炭化物が出土した。

86号土坑は87号土坑，88号土坑，89号土坑に切られ，90号土坑，94号土坑を切っている。形状は連穴土坑に類似するが，ブリッジの崩落土等は確認できなかったため土坑と判断した。平面の形状は長軸(183)cm，短軸(90)cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で42cmを測る。埋土は黒褐色土である。

87号土坑は，西側は86号土坑を切っている。形状は連穴土坑に類似するが，ブリッジの崩落土等は確認できなかったため土坑と判断した。平面の形状は長軸240cm，短軸117cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で34cmを測る。埋土は黒褐色土である。

88号土坑は，北側は86号土坑を切っている。平面の形状は長軸170cm，短軸65cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で21cmを測る。埋土は黒褐色土である。

89号土坑は，南側で86号土坑を切っている。平面の形状は長軸180cm，短軸63cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で30cmを測る。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

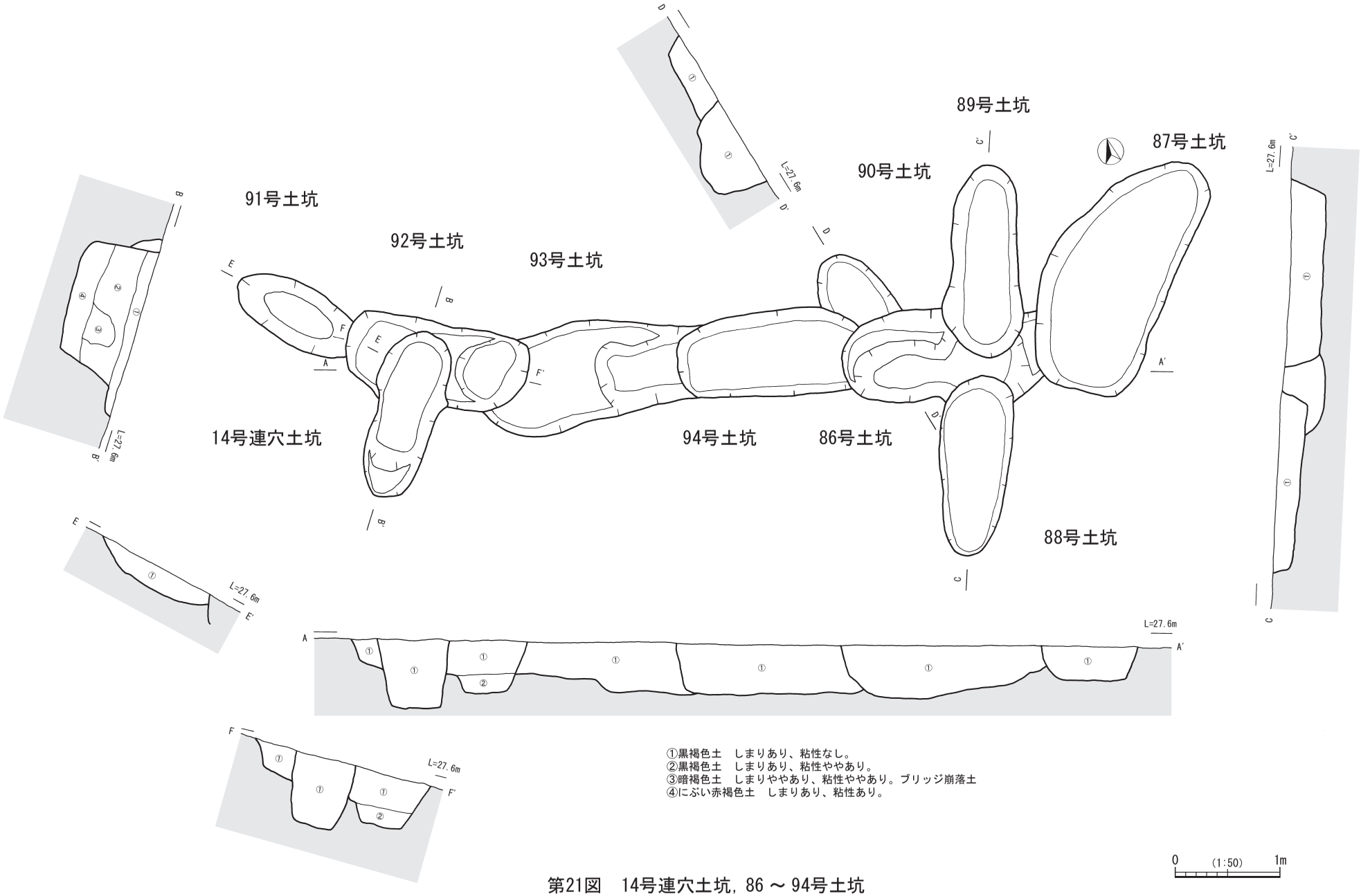
15号連穴土坑（SK39）　　［第22図］

［重複遺構］　51号集石（SK40）

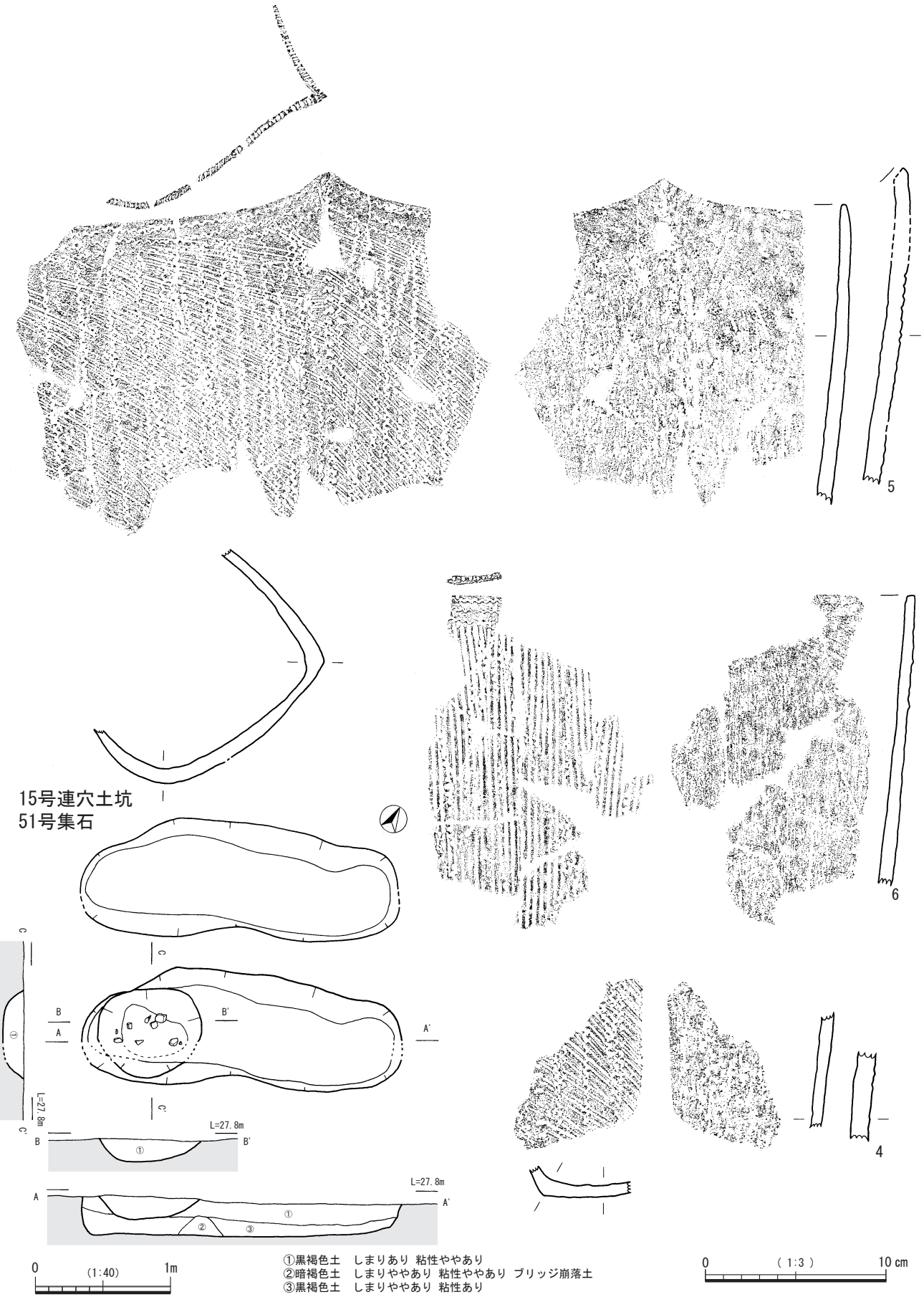
15号連穴土坑はＥ－４区，Xa層で検出した。長軸方向を基準にサブトレンチを入れ，断面の土層より，ブリッジが崩落した連穴土坑と判断した。確認できた全長は236cm，底面までの深さは最深部で(27)cmを測る。埋土は黒褐色土を基調とし，ブリッジ崩落土部は，Xa，Xb層を基調とする暗褐色土である。少量の炭化物を含む。

51号集石は，15号連穴土坑を再利用した集石と考えられる。51号集石については後述する。

出土遺物は埋土①から土器１点が出土し，96号土坑出土土器及び包含層出土土器と接合した。６は円筒器形の口縁から胴部であり，口縁部には横位の貝殻刺突線文を３段施し，胴部に縦位の貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突線文を，口唇部内端側に刻目を施す。Ⅱ類土器である。



第21図　14号連穴土坑，86 ～ 94号土坑



第22図　15号連穴土坑，51号集石・出土遺物

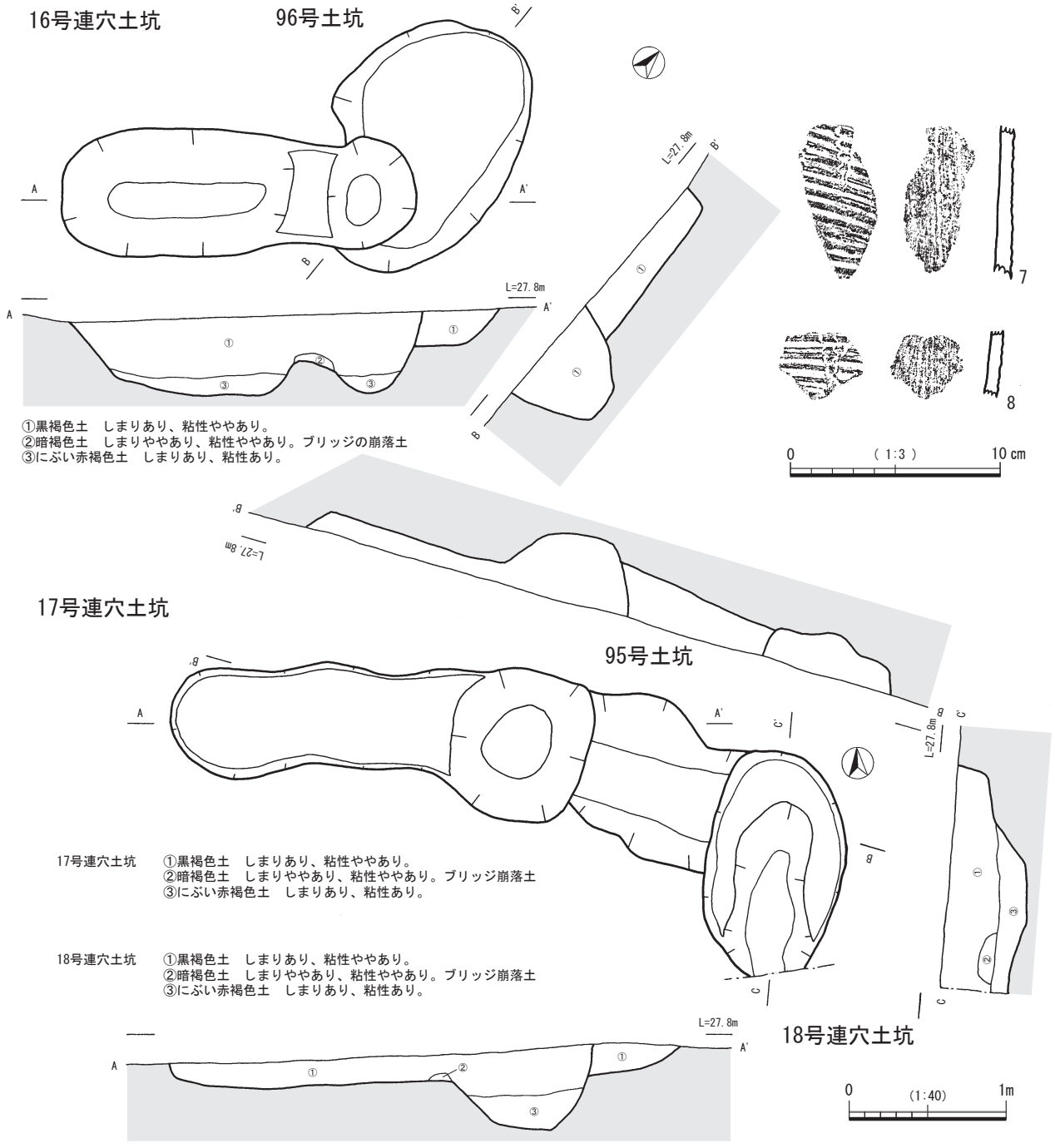
16号連穴土坑（SK55）　　［第23図］

［重複遺構］96号土坑（Ⅳ類：SK54）

96号土坑は，北側の16号連穴土坑に切られている。埋土内にブリッジの痕跡等は見られなかったが，連穴土坑の可能性も考えられる。平面の形状は長軸(172)cm，短軸124cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測る。埋土は黒褐色である。出土遺物は埋土①から土器１点が出土し，15号連穴土坑出土土器及び包含層出土土器と接合した。６は円筒器形の口縁から胴部であり，口縁部には横位の貝殻刺突線文を３段施し，胴部に縦位の貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突線文を施す。口唇部内端側に刻目を施す。Ⅱ類土器である。

16号連穴土坑は E－５区，Xa層で検出した。96号土坑を切る。ブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。全長は225cm，底面までの深さは最深部で52cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は暗褐色土，土坑底面はにぶい赤褐色土である。

出土遺物は埋土①から土器１点が出土した。７は円筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。



第23図　16号連穴土坑，96号土坑 /17･18号連穴土坑，95号土坑･出土遺物

17号連穴土坑（SK89）・18号連穴土坑（SK139）

［重複遺構］95号土坑（Ｖ類：SK53）　［第23図］

95号土坑は，17号連穴土坑と18号連穴土坑に切られている。平面の形状は長軸(87)cm，短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測る。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。埋土から遺物等は出土していない。

17号連穴土坑は，埋土中にブリッジ崩落の痕跡が確認できたことから連穴土坑と判断した。全長は269cm，底面までの深さは最深部で50cmを測る。埋土は黒褐色土を基調とし，ブリッジ崩落土部分は10 ～ 30mmのロームブロックをわずかに含む暗褐色土であり，炭化物も含んでいる。埋土から遺物等は出土していない。

18号連穴土坑はＥ－５区，Ｘa層で検出した。検出面のプランが一部調査区外へ出ていたが，埋土中にブリッジの崩落土が確認されたことから連穴土坑と判断した。全長は(141)cm，底面までの深さは最深部で50cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占めている。ブリッジ崩落土は暗褐色土，土坑底面は赤褐色土で炭化物をわずかに含んでいる。

出土遺物は埋土①から土器１点が出土した。８は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。

19号連穴土坑（SK77）

［重複遺構］97号土坑（Ｖ類：SK74）

98号土坑（Ｖ類：SK75）99号土坑（Ｖ類：SK76）

100号土坑（Ⅱ類：SK78）　［第24図］

97号土坑は，平面の形状が長軸(113)cm，短軸49cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で17cmを測る。

98号土坑は平面の形状が長軸(92)cm，短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で21cmを測る。

99号土坑は平面の形状は長軸(74)cm，短軸53cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で16cmを測る。

100号土坑は平面の形状は長軸124cm，短軸68cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で14cmを測る。

97号土坑から100号土坑の埋土は，いずれもⅧ層を基調とする黒褐色土で，少量の炭化物を含む。各土坑内から出土した遺物はなかった。

19号連穴土坑はＥ－６区，Ｘa層で検出した。97号土坑，98号土坑，99号土坑，100号土坑を切る。ブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。全長は201cm，底面までの深さは最深部で53cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は黒褐色土で1 ～ 10cm程度の暗褐色のブロック土を多量に含む。また，埋土中に噴砂が確認できる。埋土から出土した遺物はなかった。

20号連穴土坑（SK66 SK67）

［重複遺構］101号土坑（Ｖ類：SK68）　［第24図］

101号土坑は，20号連穴土坑に切られており，平面の形状は長軸（152）cm，短軸106cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測る。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。少量の炭化物を含む。土坑内から出土した遺物はなかった。

20号連穴土坑はＥ－６区，Ｘa層で検出された。Ｘa ～ XIｂ層部分を利用したブリッジが一部残る連穴土坑である。全長241cm，主穴部の長軸は150cm，短軸67cm，底面までの深さは最深部で56cmを測り，101号土坑を切っている。従穴部の長軸は75cm，短軸79cm，底面までの深さは最深部で68cm，トンネル部の長軸16cm，短軸35cm，高さ36cm，埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土であり，土坑底面はにぶい赤褐色土である。

出土遺物は埋土①から土器１点及び炭化物が出土した。９は外面に横位の貝殻条痕を施す胴部である。Ⅰ類土器である。なお，埋土①から出土した炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で9534±36^{14C} BPの値が得られた(IAAA－210170)。(第Ⅴ章参照)

21号連穴土坑（SK71）・22号連穴土坑（SK69）

［重複遺構］102号土坑（Ⅳ類：SK147）

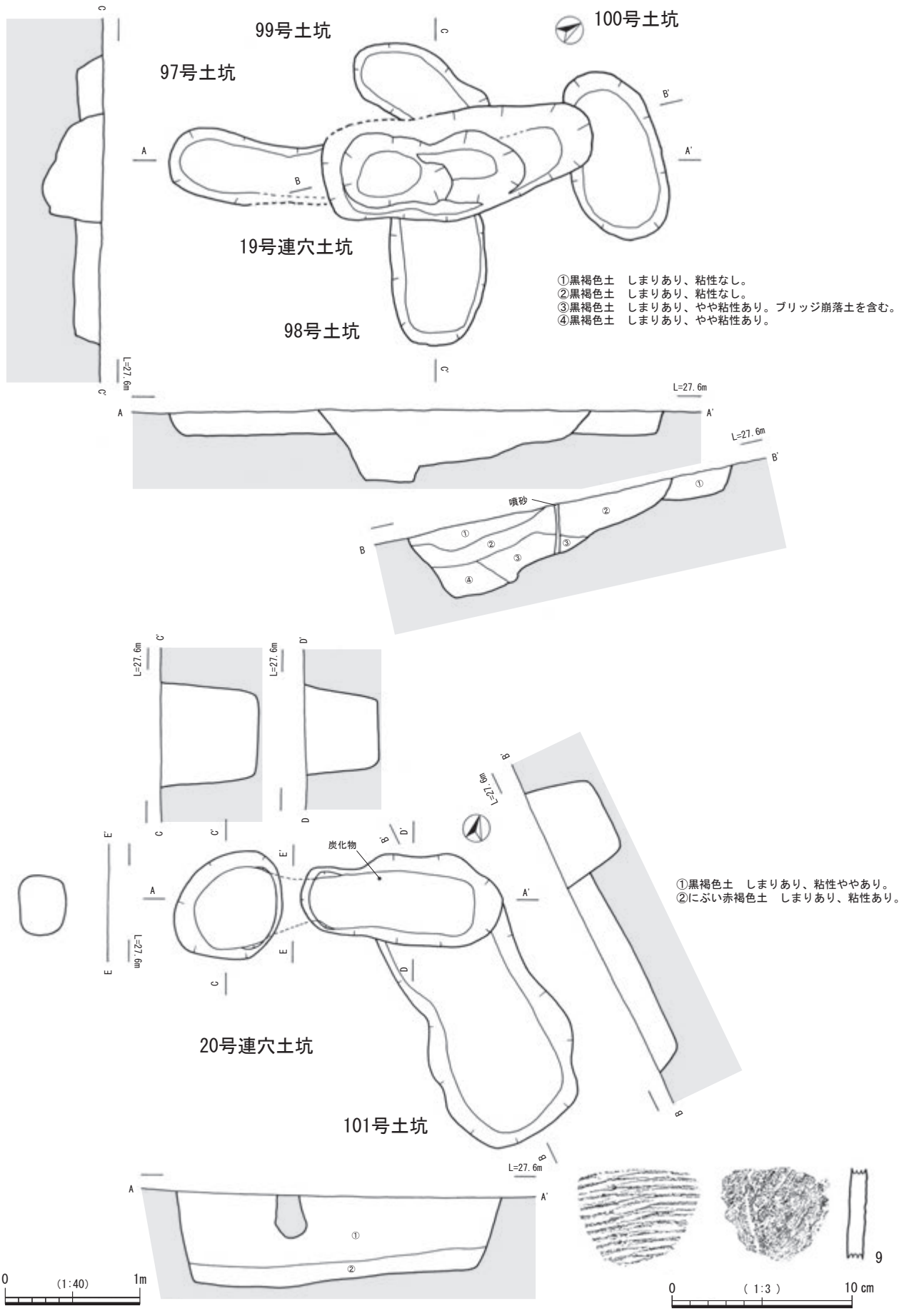
103号土坑（Ⅲ類：SK148）　［第25図］

102号土坑は，22号連穴土坑と103号土坑に切られている。平面の形状は長軸(98)cm，短軸54cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で36cmを測る。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。埋土から出土した遺物等はなかった。

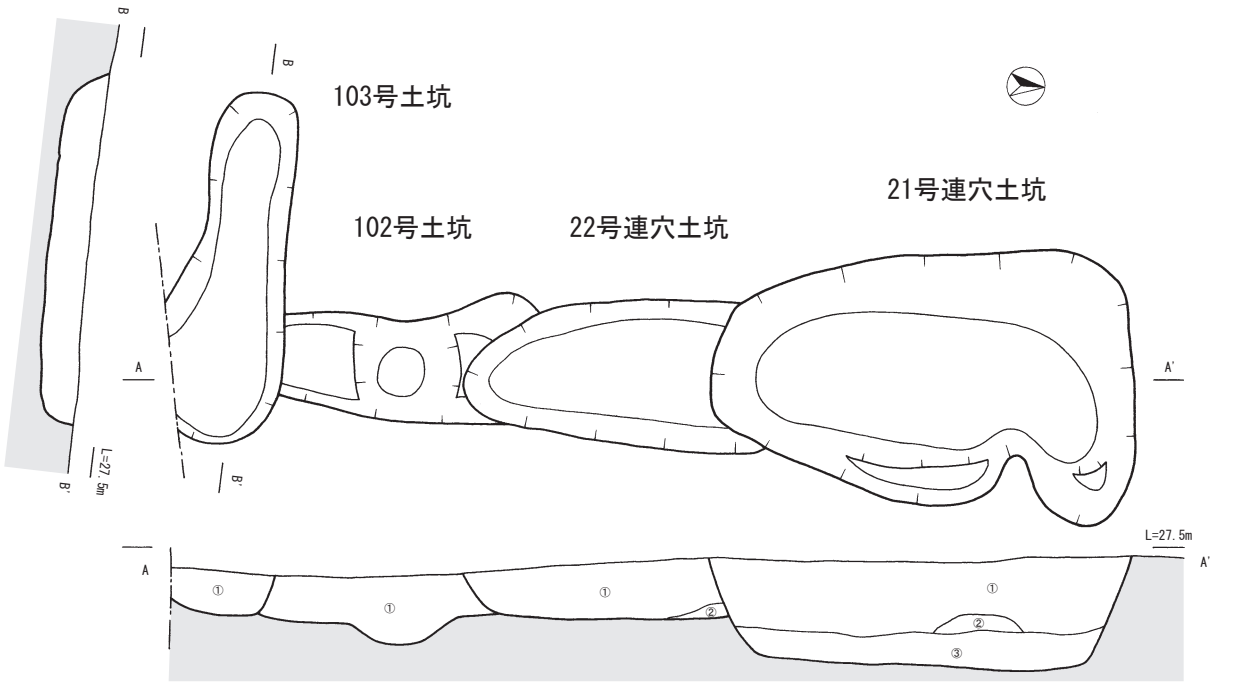
22号連穴土坑は102号土坑を切り，21号連穴土坑に切られているが，埋土中にブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。全長は不明であるが，底面までの深さは最深部で34cmを測る。埋土は，黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は10 ～ 20mmのロームブロックを含んでいる暗褐色土である。埋土から出土した遺物はなかった。埋土状況からブリッジ崩落後に21号連穴土坑が構築されたと考えられる。

21号連穴土坑はＥ－６・７区，Ｘa層で検出した。22号連穴土坑を切っている。サブトレンチを入れ，ブリッジ崩落土が確認できたことから，連穴土坑と判断した。全長は223cm，底面までの深さは最深部で59cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落部分は暗褐色土で10 ～ 30mmのやや大きめのロームブロックを含む。土坑底面はにぶい赤褐色土で，１mm以下の炭化物の粒子をわずかに含んでいる。

出土遺物は埋土①・②から土器10点が出土し，その他に遺構内一括で土器11点を取り上げた。10は角筒器形の口縁から胴部である。内外面とも摩滅しており，文様等は判然としない。11 ～ 14は遺構内一括遺物である。11

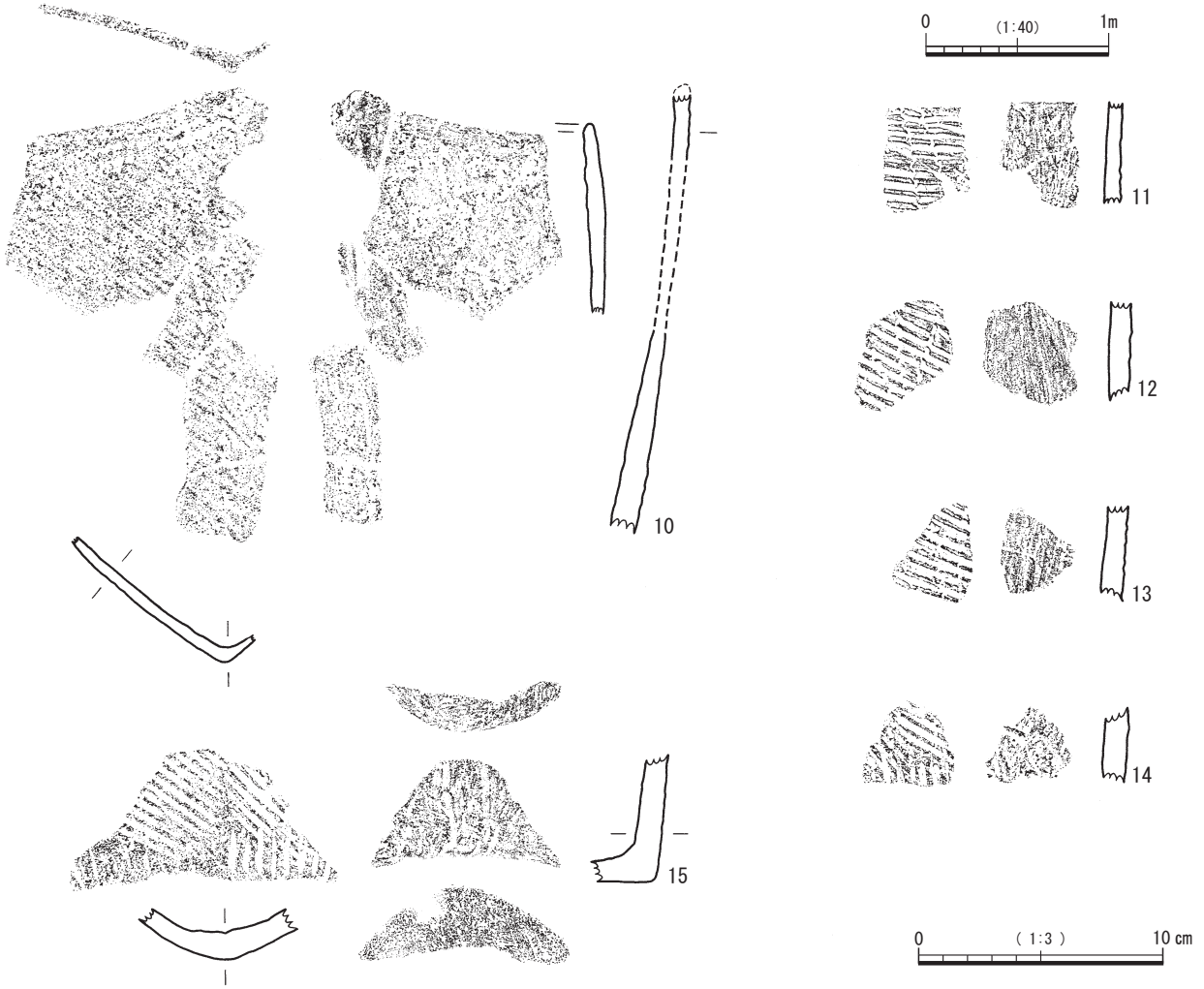


第24図　19号連穴土坑，97 ～ 100号土坑 /20号連穴土坑，101号土坑・出土遺物



22号連穴土坑　①黒褐色土　しまりあり、粘性ややあり。
②にぶい赤褐色土　しまりあり、粘性あり

21号連穴土坑　①黒褐色土　しまりあり、粘性ややあり。
②暗褐色土　しまりややあり、粘性ややあり。ブリッジ崩落土
③にぶい赤褐色土　しまりあり、粘性あり。



第25図　21･22号連穴土坑，102･103号土坑･出土遺物

は円筒器形の胴部，12・13は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。14は底部付近である。横断面が緩い弧状となるため，角筒器形か円筒器形か判然としない。15は角筒器形の底面である。角部は鈍角であり，底面はやや丸みを帯びる。外面に斜位の貝殻条痕と底部境から縦位の貝殻条痕を施す。すべてⅡ類土器である。

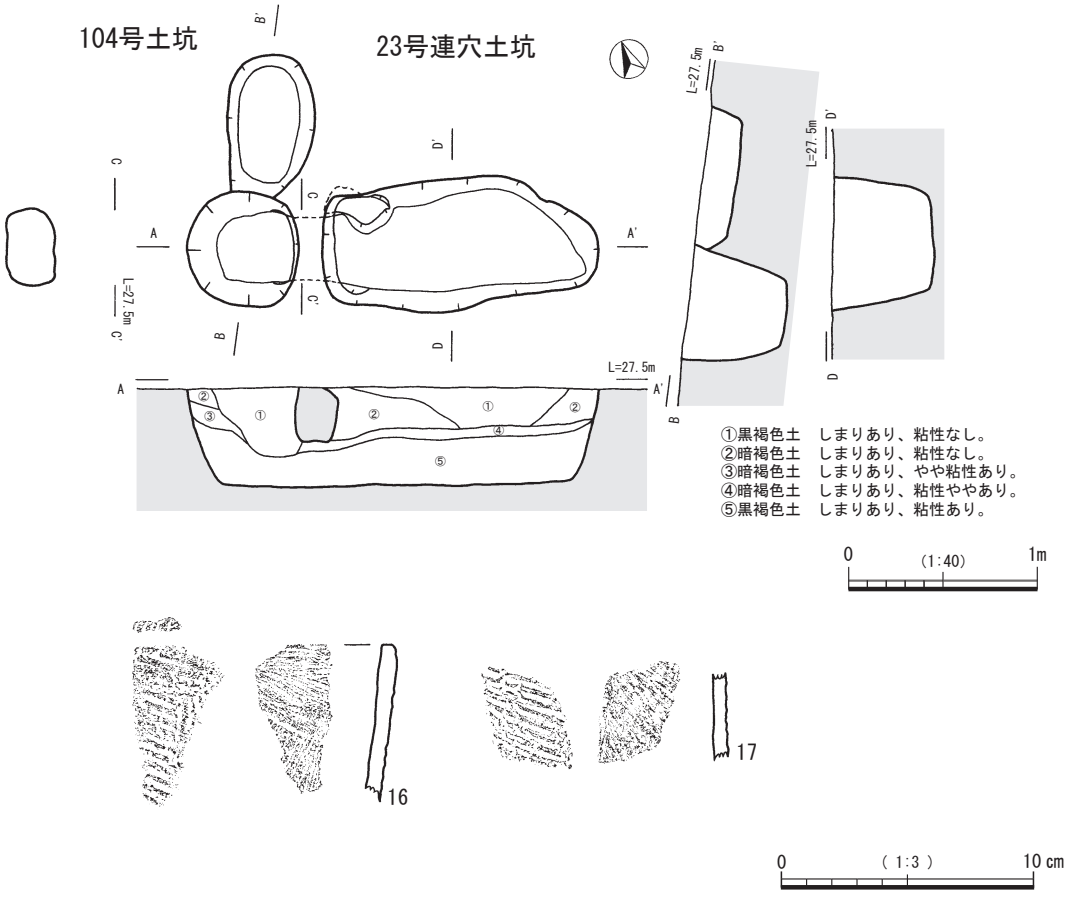
23号連穴土坑（SK110）

［重複遺構］104号土坑（Ⅴ類：SK111）　［第26図］

104号土坑は平面の形状が長軸(74)cm，短軸46cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測る。埋土は黒褐色土である。埋土から出土した遺物はなかった。

23号連穴土坑は，E－８区，Xa層で検出した。Xa～Xb層部分を利用したブリッジが残る連穴土坑である。全長218cm，主穴部の長軸は146cm，短軸70cmであり，検出面からの深さは52cmである。従穴部の検出面からの深さ52cm，長軸59cm，短軸61cmである。トンネル部の高さは24cm，長軸13cm，短軸は32cmである。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含んでいる。

出土遺物は埋土①から土器が３点が出土し，その他に遺構内一括で土器１点を取り上げた。また，埋土⑤から炭化物が出土した。16・17は文様・胎土・焼成等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。角筒器形の口縁から胴部であり，口縁部に縦位の貝殻刺突線文を連続して施し，その下に横位の貝殻刺突線文を１段施す。胴部には貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。



第26図　23号連穴土坑，104号土坑・出土遺物

第３表　連穴土坑観察表

遺構名	旧遺構名	検出区	検出面	主軸	全長(cm)	最深部深さ(cm)	従穴部（cm）			トンネル部(cm)			主穴部（cm）			ブリッジ残存	焼土	炭化物	出土遺物		埋土
							長軸	短軸	深さ	長軸	短軸	高さ	長軸	短軸	深さ				土器	石器	
１号連穴土坑	SK49	C･D-9	Ⅹa	N2° E	219	65	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりあり、粘性なし。②暗褐色土　10YR3/3。しまりあり、粘性なし。 ③黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。 ④暗褐色土　10YR3/4。しまりあり、粘性なし。　一部Ⅹa層のブロックが確認できる。
２号連穴土坑	SK91	D-4	Ⅹa	N50° E	337	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	胴部	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。②暗褐色土　10YR3/3。しまりややあり、粘性ややあり。連穴土坑のブリッジ部分 ③暗褐色土　10YR3/3。しまりややあり、粘性ややあり。④黒褐色土　10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。 ⑤暗褐色土　7.5YR3/4。しまりややあり、粘性あり。 ⑥灰色粘質土　10YR7/1。ⅩⅢ層やⅩⅣ層が変色した層。土質は左右に見られる層とほぼ同じ。
３号連穴土坑	SK106	D-6	Ⅹa	N19° E	193	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	—	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。②黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。 ③にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり、粘性あり。
４号連穴土坑	SK116	D-7･8	Ⅹa	N7° E	(156)	44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	胴部	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。 ②暗褐色土　10YR3/4。しまりややあり、粘性なし。 ブリッジの崩落土と考えられる。③暗褐色土　10YR3/3。しまりあり、粘性なし。
５号連穴土坑	SK113	D-7･8	Ⅹa	N3° W	(179)	61	(50)	69	61	13	39	41	106	75	52	○	—	○	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。　②黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。 ③暗褐色土　7.5YR3/4。しまりあり、粘性あり。
６号連穴土坑	SK26　27	E-4	Ⅹ	S24° W	(200)	29	(42)	52	29	18	21	12	140	72	26	○	—	○	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。
７号連穴土坑	SK83	E-6	Ⅹa	W33° N	241	55	83	89	54	21	29	36	137	78	55	○	—	○	胴部 底部	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。 ②にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり、粘性あり。
８号連穴土坑	SK70	E-7	Ⅹa	N75° E	191	55	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。 ②暗褐色土　10YR3/3。しまりややあり、粘性ややあり。ブリッジ崩落土 ③にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり、粘性あり。
９号連穴土坑	SK112	E-8	Ⅹa	N5° W	241	41	61	72	41	16	29	26	164	59	35	○	—	○	胴部	—	①暗褐色土　7.5YR4/4。しまりあり、粘性なし。Ⅹa層ブロック土か　②黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。 ③黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。④黒褐色土　10YR2/2。しまりあり、粘性なし。黒褐色土10YR2/3ブロック土含む。 ⑤黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。⑥黒褐色土　10YR2/2。しまりあり、粘性なし。 ⑦暗褐色土　7.5YR3/4。しまりあり、粘性あり。径1～3mm程のパミスと炭化物を極少量含む(ⅩⅡb層主体)。
10号連穴土坑	SK160	E-8	Ⅷ	W18° S	205	68	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。パミス(P13)を多量に含む。炭化物を含む。 ②黒色土　10YR2/1。しまりあり、粘性なし。ローム粒子、炭化物を少量含む。 ③黒褐色土　10YR2/3。しまり強い、粘性なし。Ⅹ層(サツマ)由来のブロック土、ローム粒子、炭化物を少量含む。 ④にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりやや弱い、粘性あり。ⅩⅡb層（チョコ層）由来のブロック土を多く含む。
11号連穴土坑	SK38	C-5	Ⅹa	W18° S	267	46	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	○	○	—	—	①暗褐色土　10YR3/3。しまりあり、粘性ややあり。ブリッジが崩落した土 ②黒褐色土　10YR2/3。しまりややあり、粘性ややあり。　③黒褐色土　10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。 ④褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。径1～3mmのサツマ火山灰ブロックをわずかに含む。ブリッジ崩落した土 ⑤明黄褐色粘質土　10YR6/6。しまりややあり、粘性ややあり。炭化物を少し含む。焼土 ⑥灰色粘質土　10YR7/1。ⅩⅠc層やⅫ層が変色した層。土質は左右に見られる層とほぼ同じ(左右にある層と変わらない)。
12号連穴土坑	SK103	D-5･6	Ⅹa	E42° S	(220)	67	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を含む。 ②黒褐色土　10YR2/3。しまりややあり、粘性あり。径5～10mmのローム粒子を多く含む。ブリッジ崩落土の可能性がある。 ③にぶい褐色土　7.5YR5/4。しまりなし。径1～2mmの炭化物粒子を少量含む。 ④黒褐色土　しまり非常にあり、粘性ややあり。　⑤灰黄色土　しまりややあり、粘性あり。
13号連穴土坑	SK121	D-7	Ⅹa	N70° E	(197)	63	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。②黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。 ③暗褐色土　10YR3/3。しまりあり、粘性ややあり。④にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり、粘性あり。
14号連穴土坑	SK134	D-8	Ⅹa	N88° E	162	68	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	胴部	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。②黒褐色土　10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。 ③暗褐色土　10YR3/3。しまりややあり、粘性ややあり。ブリッジ崩落土 ④にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり、粘性あり。
15号連穴土坑	SK39	E-4	Ⅹa	S39° W	236	(27)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	胴部	—	①黒褐色土10YR2/3 しまりあり 粘性ややあり ②暗褐色土10YR3/3 しまりややあり 粘性ややあり ブリッジ崩落土 ③黒褐色土10YR2/3 しまりややあり 粘性あり
16号連穴土坑	SK55	E-5	Ⅹa	W23° S	225	52	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	胴部	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。 ②暗褐色土　10YR3/3。しまりややあり、粘性ややあり。ブリッジの崩落土 ③にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり、粘性あり。
17号連穴土坑	SK89	E-5	Ⅹa	W48° S	269	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	胴部	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。 ②暗褐色土　10YR3/3。しまりややあり、粘性ややあり。ブリッジ崩落土 ③にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり、粘性あり。
18号連穴土坑	SK139	E-5	Ⅹa	N86° E	(141)	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	胴部	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。 ②暗褐色土　10YR3/3。しまりややあり、粘性ややあり。ブリッジ崩落土 ③にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり、粘性あり。
19号連穴土坑	SK77	E-6	Ⅹa	W71° S	201	53	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	○	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。②黒褐色土　10YR3/2。しまりあり、粘性なし。 ③黒褐色土　10YR2/2。しまりあり、やや粘性あり。ブリッジ崩落土を含む。 ④黒褐色土　10YR2/2。しまりあり、やや粘性あり。径1～5cm程の暗褐色ブロック土7.5YR3/4を含む。
20号連穴土坑	SK66 67	E-6	Ⅹa	W90° S	241	68	75	79	68	16	35	36	150	67	56	○	—	○	胴部	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。 ②にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり、粘性あり。
21号連穴土坑	SK71	E-6･7	Ⅹa	W15° S	223	59	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	—	胴部 底部 口縁	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。 ②暗褐色土　10YR3/3。しまりややあり、粘性ややあり。ブリッジ崩落土 ③にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり、粘性あり。
22号連穴土坑	SK69	E-6･7	Ⅹa	N6° W	(130)	34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	—	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。 ②にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり、粘性あり
23号連穴土坑	SK110	E-8	Ⅹa	N6° W	218	52	59	61	52	13	32	24	146	70	52	○	—	○	胴部 口縁	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性なし。　②暗褐色土　10YR3/3。しまりあり、粘性なし。 ③暗褐色土　7.5YR3/3。しまりあり、やや粘性あり。　④暗褐色土　10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。 ⑤黒褐色土　7.5YR2/2。しまりあり、粘性あり。

（２）土坑【第27図～37図)】

（単独検出）

１号土坑　（Ⅰ類：SK17）　　[第27図]

Ｂ－４区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸113cm，短軸97cmの円形である。底面までの深さは最深部で13cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

２号土坑　（Ⅰ類：SK44）　　[第27図]

Ｃ・Ｄ－８区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸92cm，短軸77cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測り，断面の形状は擂鉢状を呈する。埋土は掘り込み部は暗褐色土で，中央部が黒褐色土及び底面は暗褐色土である。少量の炭化物，パミスを含む。

出土遺物は埋土①から炭化物が出土した。

３号土坑　（Ⅰ類：SK62）　　[第27図]

Ｄ－４区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸84cm，短軸73cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

４号土坑　（Ⅰ類：SK63）　　[第27図]

Ｄ－４区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸92cm，短軸89cmの円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

出土遺物は埋土①からⅡ類土器１点が出土したが,小片のため掲載には至らなかった。

５号土坑　（Ⅰ類：SK96）　　[第27図]

Ｄ－４区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸62cm，短軸62cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

６号土坑　（Ⅰ類：SK167）　　[第27図]

Ｄ－５区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸54cm，短軸54cmの円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

７号土坑　（Ⅰ類：SK88）　　[第27図]

Ｄ－５区のⅧ層で検出した。平面の形状は長軸86cm，短軸84cmの円形である。底面までの深さは最深部で13cmを測り，断面の形状は皿状を呈する。埋土は黒褐色土を基調とする。

埋土から遺物は出土していない。

８号土坑　（Ⅰ類：SK102）　　[第27図]

Ｄ－６区のＸa層で検出した。当初は10号土坑との連穴土坑の可能性も考えられ調査を行ったが，トンネルやブリッジの痕跡が確認できなかったため単独の土坑と判断した。平面の形状は長軸62cm，短軸52cmの円形である。底面までの深さは最深部で26cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土で，炭化物の粒子を含む。

埋土①から炭化物が出土した。この炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で9412±35^{14C} BPの値が得られた(IAAA－210173)。(第Ⅴ章参照)

９号土坑　（Ⅰ類：SK153）　　[第27図]

Ｄ－６区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸64cm，短軸60cmの円形である。底面までの深さは最深部で17cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

10号土坑　（Ⅰ類：SK145）　　[第27図]

Ｄ－６区のＸa層で検出した。当初は８号土坑との連穴土坑の可能性も考えられ調査を行ったが，トンネルやブリッジの痕跡が確認できなかったため単独の土坑と判断した。平面の形状は長軸65cm，短軸52cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土で，炭化物の粒子を含む。

埋土から遺物は出土していない。

11号土坑　（Ⅰ類：SK86）　　[第27図]

Ｄ・Ｅ－６区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸76cm，短軸66cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

12号土坑　（Ⅰ類：SK126）　　[第27図]

Ｄ－７区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸54cm，短軸48cmの円形である。底面までの深さは最深部で24cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で，炭化物の粒子を極少量含む。

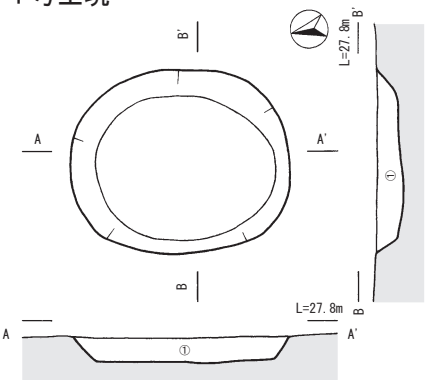
埋土から遺物は出土していない。

13号土坑　（Ⅰ類：SK127）　　[第28図]

Ｄ－７区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸74cm，短軸66cmの円形である。底面までの深さは最深部で21cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土を基調とし，炭化物の粒子を含む。

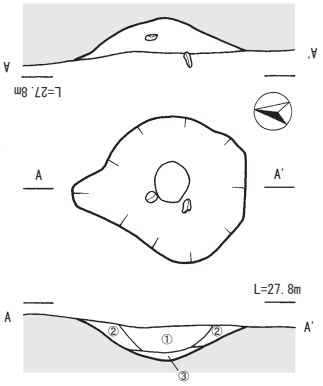
埋土から遺物は出土していない。

１号土坑



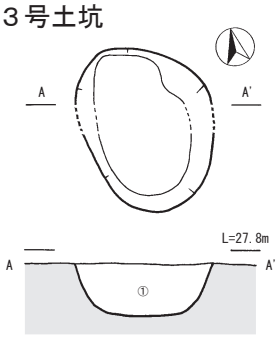
①黒褐色土　粘性ややあり，しまりあり。

２号土坑



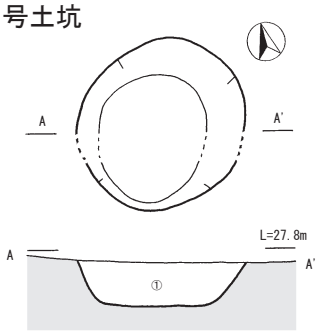
①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。
②暗褐色土　しまりあり，粘性なし。
③暗褐色土　しまりあり，粘性なし。

３号土坑



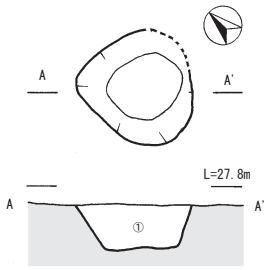
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

４号土坑



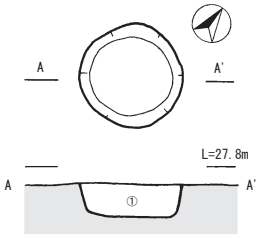
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

５号土坑



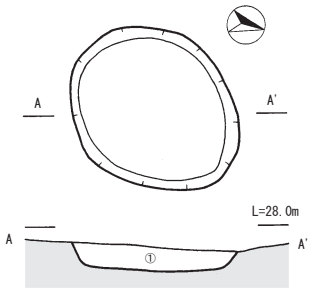
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

６号土坑



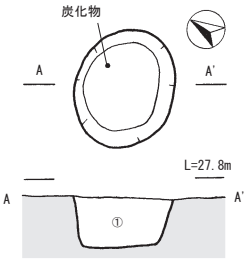
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

７号土坑



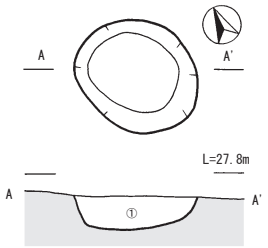
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

８号土坑



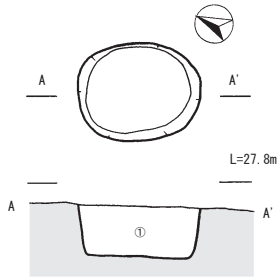
①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。

９号土坑



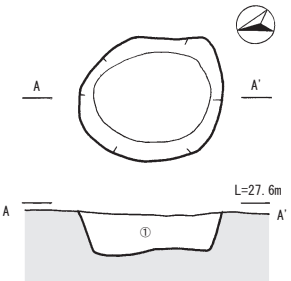
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

10号土坑



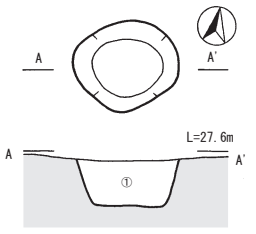
①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。

11号土坑

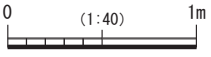


①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

12号土坑



①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。



第27図　１～12号土坑

14号土坑　（Ⅰ類：SK23）　　［第28図］

Ｅ－４区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸170cm，短軸158cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で12cmを測り，断面の形状は舟形状を呈する。

出土遺物は埋土①から土器１点が出土した。18は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。

15号土坑　（Ⅰ類：SK143）　　［第28図］

Ｅ－５区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸67cm，短軸61cmの円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土を基調とする。

埋土から遺物は出土していない。

16号土坑　（Ⅰ類：SK144）　　［第28図］

Ｅ－５区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸71cm，短軸64cmの円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

17号土坑　（Ⅰ類：SK73）　　［第28図］

Ｅ－６区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸94cm，短軸77cmの円形である。底面までの深さは最深部で14cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で，１㎜以下の炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

18号土坑　（Ⅰ類：SK162）　　［第28図］

Ｅ－８区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸86cm，短軸70cmの円形である。底面までの深さは最深部で15cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で炭化物の粒子を極少量含む。

埋土から遺物は出土していない。

19号土坑　（Ⅰ類：SK87）　　［第28図］

Ｅ－９区のⅧ層で検出した。平面の形状は長軸96cm，短軸88cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で12cmを測り，断面の形状は擂鉢状を呈する。埋土は黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

20号土坑　（Ⅱ類：SK172）　　［第28図］

Ｄ－５区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸105cm，短軸63cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

21号土坑　（Ⅱ類：SK42）　　［第28図］

Ｅ－４区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸119cm，短軸80cmの不定形楕円形である。底面までの深さは最深部で30cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は上層部は黒褐色土で，底面は暗褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

22号土坑　（Ⅱ類：SK149）　　［第28図］

Ｅ－６区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸115cm，短軸66cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で，1㎜以下の炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

23号土坑　（Ⅱ類：SK146）　　［第28図］

Ｅ－７区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸100cm，短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で21cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

24号土坑　（Ⅱ類：SK161）　　［第28図］

Ｅ－８区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸83cm，短軸56cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で炭化物を少量含む。

埋土から遺物は出土していない。

25号土坑　（Ⅲ類：SK18）　　［第29図］

Ｂ－４区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸(194)cm，短軸73cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で28cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。北側は調査区外へ伸びる。埋土は黒褐色土で,炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

26号土坑　（Ⅲ類：SK15）　　［第29図］

Ｃ－３区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸245cm，短軸104cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で11cmを測り，断面の形状は浅い皿状を呈する。

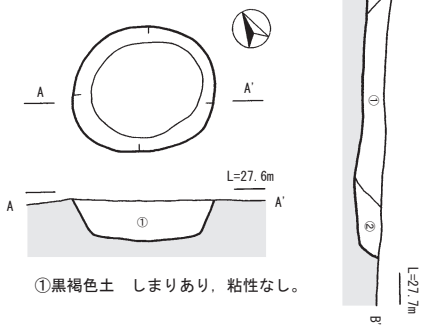
埋土から遺物は出土していない。

27号土坑　（Ⅲ類：SK14）　　［第29図］

Ｃ－４区のＸa層で検出した。平面の形状は長軸191cm，短軸65cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測り，断面の形状は舟形状を呈する。埋土は黒褐色土である。

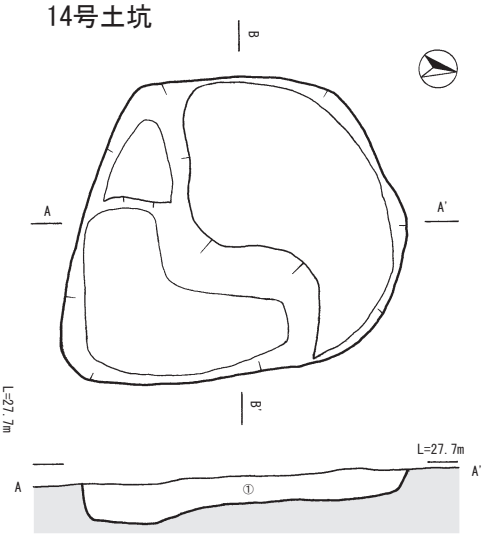
埋土から礫が６点出土した。

13号土坑



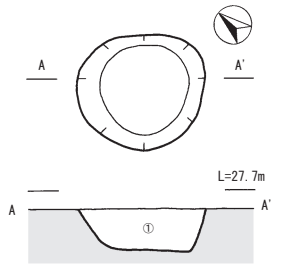
①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。

14号土坑

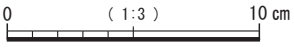


①黒褐色土　しまりややあり，粘性ややあり。
②暗褐色土　しまりややあり，粘性ややあり。

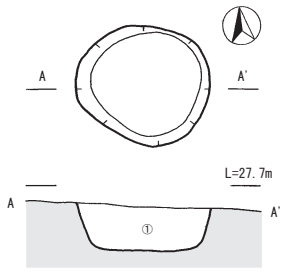
15号土坑



①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

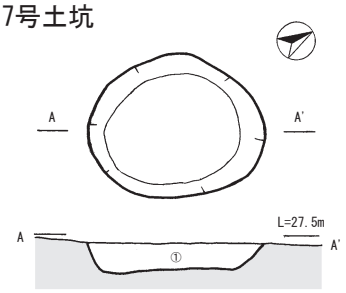


16号土坑



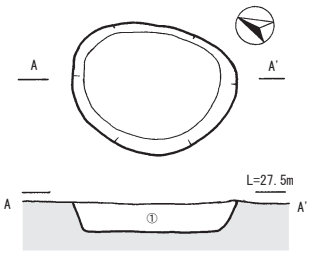
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

17号土坑



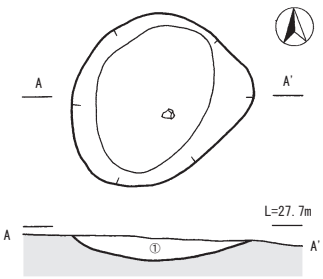
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

18号土坑



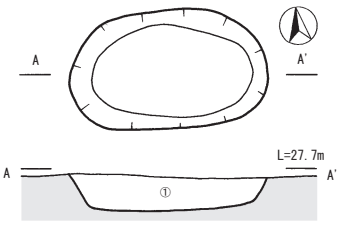
①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。

19号土坑



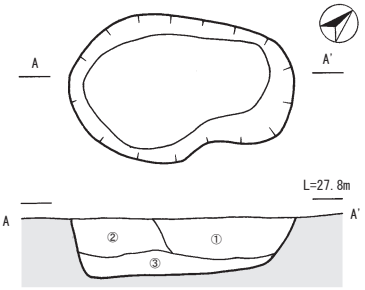
①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。

20号土坑



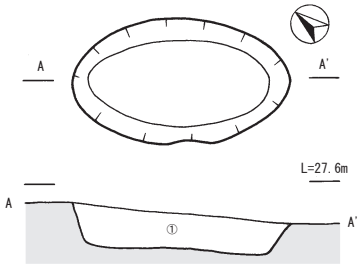
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

21号土坑



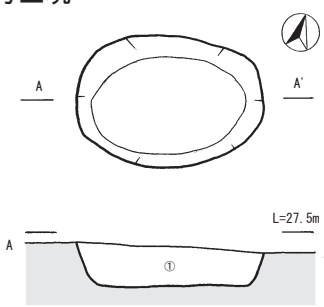
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。
②黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。
③暗褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

22号土坑



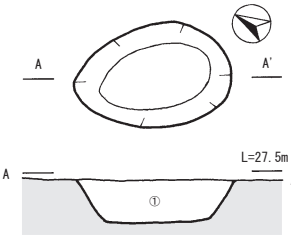
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

23号土坑

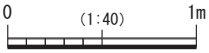


①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

24号土坑

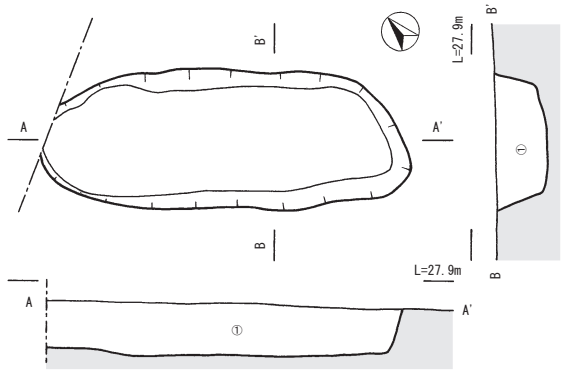


①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。



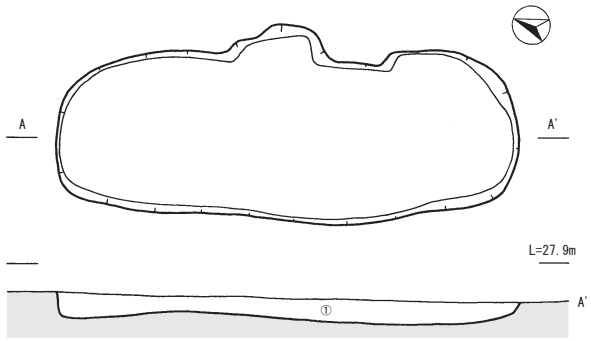
第28図　13 ～ 24号土坑・出土遺物

25号土坑



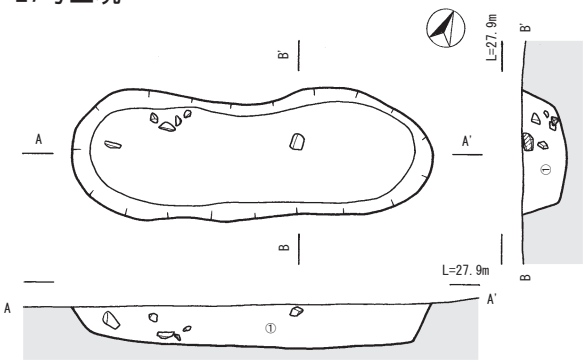
①黒褐色土　粘性ややあり，しまりあり。

26号土坑



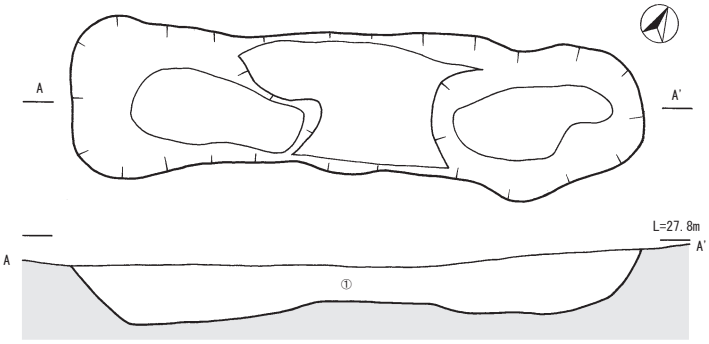
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

27号土坑



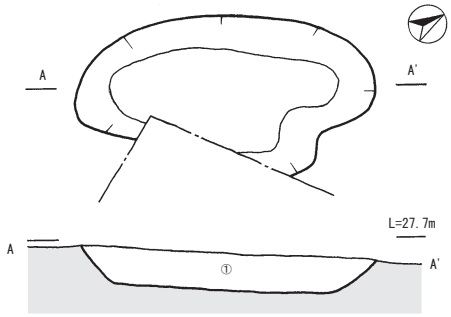
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

28号土坑



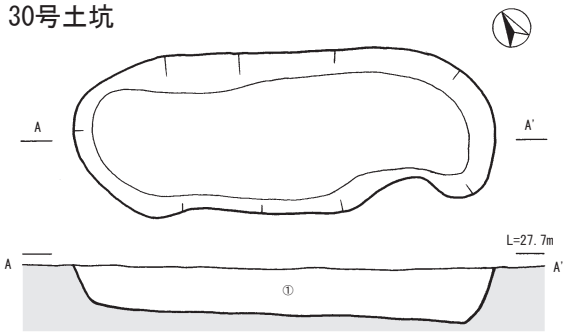
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。中央部分に暗褐色土が斑状にまじる。

29号土坑



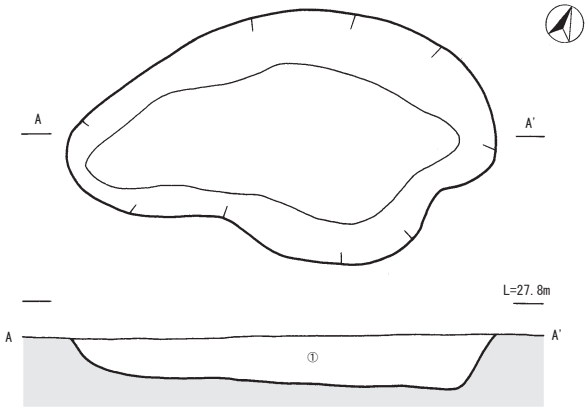
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

30号土坑



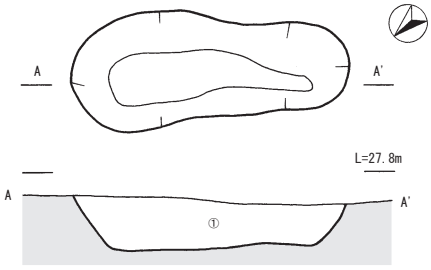
①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。

31号土坑

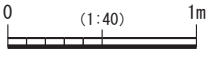


①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。

32号土坑



①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。



第29図　25 ～ 32号土坑

28号土坑　（Ⅲ類：SK92）　　［第29図］

C－４・５区のXa層で検出した。平面の形状は長軸303cm，短軸74cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で19cmを測り，断面の形状は舟形状を呈する。埋土は黒褐色土で，炭化物の粒子を含む。中央部分に暗褐色土が班状に混じる。

埋土から遺物は出土していない。

29号土坑　（Ⅲ類：SK171）　　［第29図］

D－５区のXa層で検出した。東側は先行トレンチにより削平されている。平面の形状は長軸156cm，短軸(70)cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で20cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で1㎜以下の炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

30号土坑　（Ⅲ類：SK99）　　［第29図］

D－５・６区のXa層で検出した。平面の形状は長軸223cm，短軸85cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で25cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で，炭化物の粒子を含む。

埋土①から炭化物が出土した。

31号土坑　（Ⅲ類：SK107）　　［第29図］

D－６区のXa層で検出した。平面の形状は長軸224cm，短軸132cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で25cmを測り，断面の形状は舟形状を呈する。埋土は黒褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

32号土坑　（Ⅲ類：SK154）　　［第29図］

D－６区のXa層で検出した。平面の形状は長軸144cm，短軸58cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で28cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

33号土坑　（Ⅲ類：SK114）　　［第30図］

D－７・８区のXa層で検出した。平面の形状は長軸158cm，短軸68cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で20cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で，しまりはあり，粘性はない。１～３㎜のローム粒子，１～２㎜の炭化物の粒子を含む。

埋土から遺物は出土していない。

34号土坑　（Ⅲ類：SK48）　　［第30図］

D－８区のXa層で検出した。平面の形状は長軸103cm，短軸57cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は東西の壁面が一部崩落し堆積したと考えられる。中央部は暗褐色土で，炭化物の粒子を少量含む。

埋土から遺物は出土していない。

35号土坑　（Ⅲ類：SK25）　　［第30図］

E－４区のXa層で検出した。平面の形状は長軸144cm，短軸72cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

36号土坑　（Ⅲ類：SK57）　　［第30図］

E－５区のXa層で検出した。平面の形状は長軸140cm，短軸65cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で13cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は上層部及び底面は黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

37号土坑　（Ⅲ類：SK58）　　［第30図］

E－５区のXa層で検出した。平面の形状は長軸130cm，短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

38号土坑　（Ⅲ類：SK79）　　［第30図］

E－６区のXa層で検出した。平面の形状は長軸（195）cm，短軸110cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で31cmを測り，断面の形状は擂鉢状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

39号土坑　（Ⅳ類：SK16）　　［第30図］

B－４区のXa層で検出した。平面の形状は長軸(193)cm，短軸114cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で50cmを測り，断面の形状は台形状で中央部は擂鉢状の掘り込みを呈する。北側は調査区外へ伸びる。主軸部分より連穴土坑の可能性も想定されたがブリッジやブロック等確認できなかったため土坑と判断した。埋土は黒褐色土で，炭化物をわずかに含む。

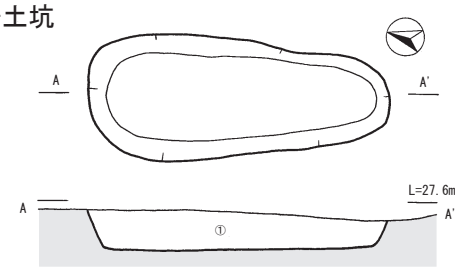
出土遺物は，埋土①からⅡ類土器２点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

40号土坑　（Ⅳ類：SK19）　　［第30図］

B－４区のXa層で検出した。平面の形状は連穴土坑の可能性も想定されたがブリッジやブロック等確認できなかったため土坑と判断した。平面の形状は長軸190cm，短軸91cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で17cmを測り，断面の形状は，西側は擂鉢状で，東側は舟形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で，１㎜程度の炭化物を含む。

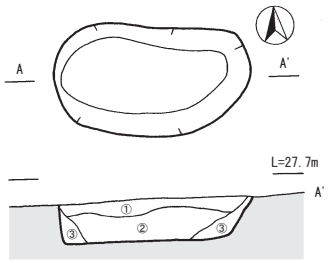
埋土から遺物は出土していない。

33号土坑



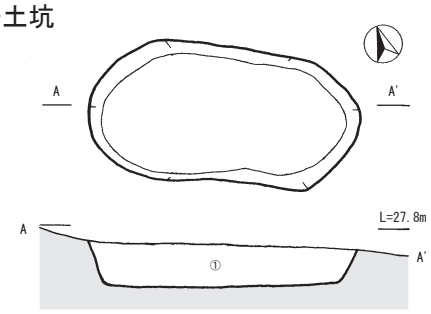
①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。

34号土坑



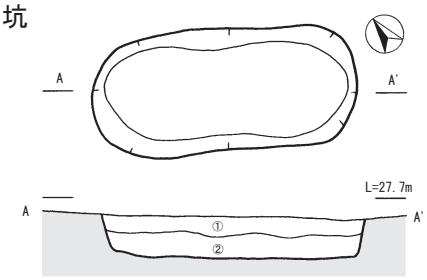
①暗褐色土　しまりあり，粘性なし。
②暗褐色土　しまりあり，粘性なし。
③褐色土　しまりあり，粘性なし。

35号土坑



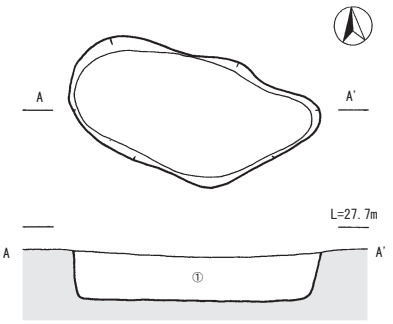
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

36号土坑



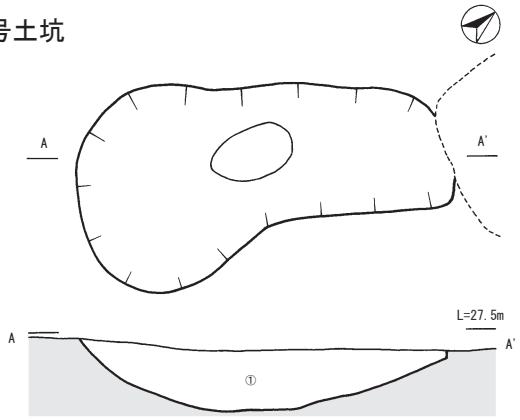
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。
②黒褐色土　しまりややあり，粘性ややあり。

37号土坑



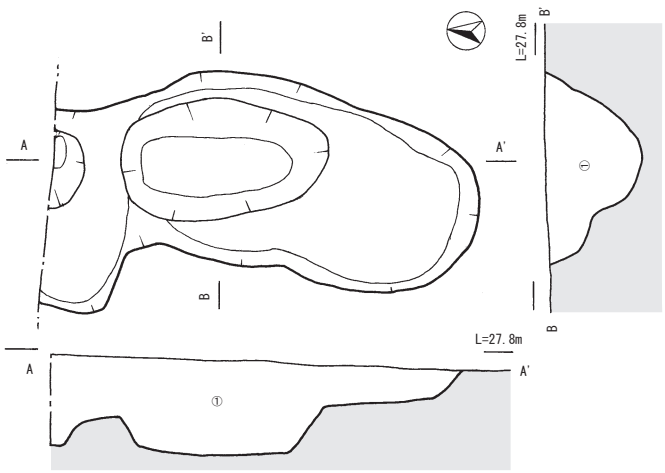
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

38号土坑



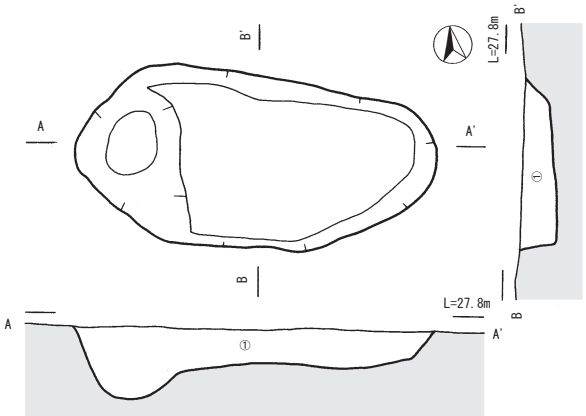
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

39号土坑



①黒褐色土　粘性ややあり，しまりあり。

40号土坑



①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。

0　(1:40)　1m

第30図　33 ～ 40号土坑

41号土坑　（Ⅳ類：SK61）　　［第31図］

D－４区のXa層で検出した。平面の形状は連穴土坑に類似するが，ブリッジ崩落土等は確認できなかったため土坑と判断した。長軸(220)cm，短軸(98)cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で59cmを測り，断面の形状は台形状で，一部擂鉢状の掘り込み部を呈する。埋土はⅧ層を基調とする。上層部は黒褐色土で，底面はにぶい赤褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

42号土坑　（Ⅳ類：SK35）　　［第31図］

E－４区のXa層で検出した。上層からの撹乱に南側が削平されているが，埋土やプランの状況が10号連穴土坑と類似しており，連穴土坑の可能性も考え調査を進めたが，トンネルやブリッジ崩落土等は確認できず。土坑と判断した。平面の形状は長軸(111)cm，短軸76cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で，黄橙色の粒子を多量に含む。

埋土から遺物は出土していない。

43号土坑　（Ⅴ類：土坑17号）　　［第31図］

B－８区のⅨ層上面で検出した。北部分は調査区外へ延びている。検出時は集石遺構として調査したが，礫数が少なく，土坑と判断した。長軸(119)cm，短軸(55)cmである。底面までの深さは最深部で21cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。

埋土から遺物は出土していない。

44号土坑　（Ⅴ類：SK173）　　［第31図］

D－５区のXa層で検出した。北側は先行トレンチにより削平されている。平面の形状は長軸(160)cm，短軸(115)cmの不定形長楕円形で，底面までの深さは最深部で35cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土で，炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

45号土坑　（Ⅴ類：SK115）　　［第31図］

D－７区のXa層で検出した。西側は先行トレンチにより削平されている。長軸(78)cm，短軸(34)cmで，底面までの深さは最深部で16cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で，炭化物の粒子を含む。

埋土から遺物は出土していない。

46号土坑　（Ⅴ類：SK13）　　［第31図］

E－４区のⅧ層で検出した。平面の形状は長軸86cm，短軸(41)cmで，底面までの深さは最深部で11cmを測り，断面の形状は浅い皿状を呈する。埋土は上層部は黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

47号土坑　（Ⅴ類：SK140）　　［第31図］

E－７区のXa層で検出した。平面の形状は，長軸68cm，短軸(55)cmで，底面までの深さは最深部で26cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で，炭化物の粒子を極少量含む。

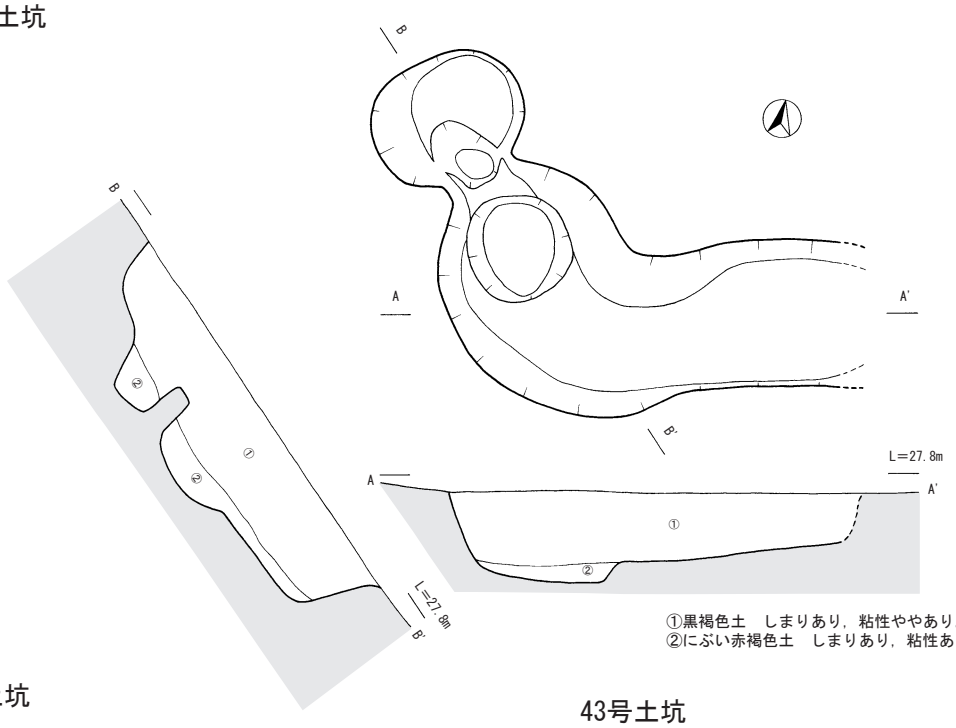
埋土から遺物は出土していない。

48号土坑　（Ⅴ類：SK141）　　［第31図］

E－７区のXa層で検出した。先行トレンチにより東側は削平されている。平面の形状は，長軸(63)cm，短軸42cmで，底面までの深さは最深部で15cmを測り，断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で，１mm以下の炭化物の粒子をわずかに含む。

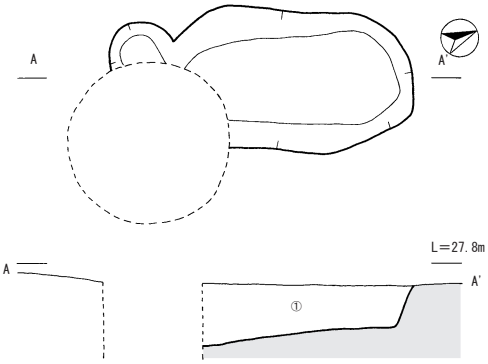
埋土から遺物は出土していない。

41号土坑



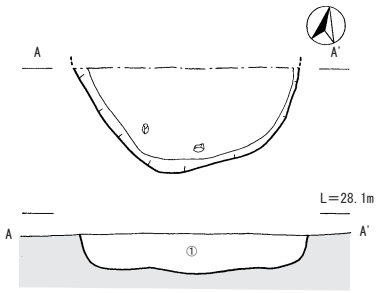
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。
②にぶい赤褐色土　しまりあり，粘性あり。

42号土坑



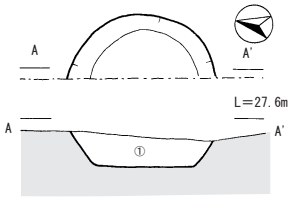
①黒褐色土　しまりあり，粘性あり。

43号土坑



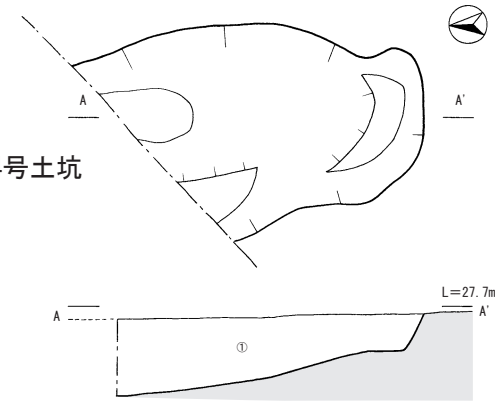
①黒褐色土

45号土坑



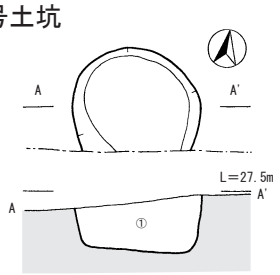
①黒褐色土　しまりあり，粘性なし。

44号土坑



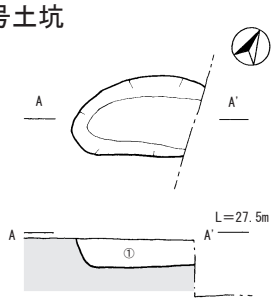
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

47号土坑



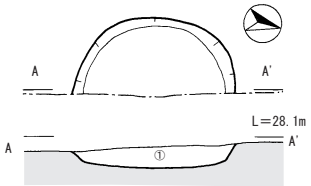
①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

48号土坑

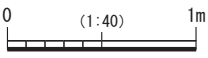


①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

46号土坑



①黒褐色土　粘性なし，しまり強い。



第31図　41 ～ 48号土坑

土坑（重複検出）

49号土坑（Ⅴ類：SK20）50号土坑（Ⅱ類：SK21）

［第32図］

49号土坑はB－４区のXa層で検出した。北側は調査区外へ伸び，南側は50号土坑に切られている。長軸(128)cm，短軸82cm，底面までの深さは最深部で25cmを測る。50号土坑は，長軸205cm，短軸96cm，底面までの深さは最深部で23cmを測る。埋土はともにⅧ層を基調とする黒褐色土であり，遺物等は出土していない。

51号土坑（Ⅳ類：SK43）52号土坑（Ⅴ類：SK93）

［第33図］

51号土坑はD－４区のXa層で検出した。西側は52号土坑に切られている。プランの状況から，連穴土坑の可能性も考えられたがブリッジ崩落土等は確認できず。土坑と判断した。長軸(221)cm，短軸74cm，底面までの深さは最深部で37cmを測る。埋土は黒褐色土である。

52号土坑はD・E－４区のXa層で検出された。北西側は先行トレンチにより削平されている。長軸(281)cm，短軸80cm，底面までの深さは最深部で47cmを測る。埋土は黒褐色土である。51号，52号ともに埋土から遺物は出土していない。

53号土坑（Ⅱ類：SK166）54号土坑（Ⅴ類：SK168）

55号土坑（Ⅳ類：SK169）56号土坑（Ⅳ類：SK170）

＋噴砂　　［第33図］

４基の重複する土坑をD－５区のXa層で検出した。

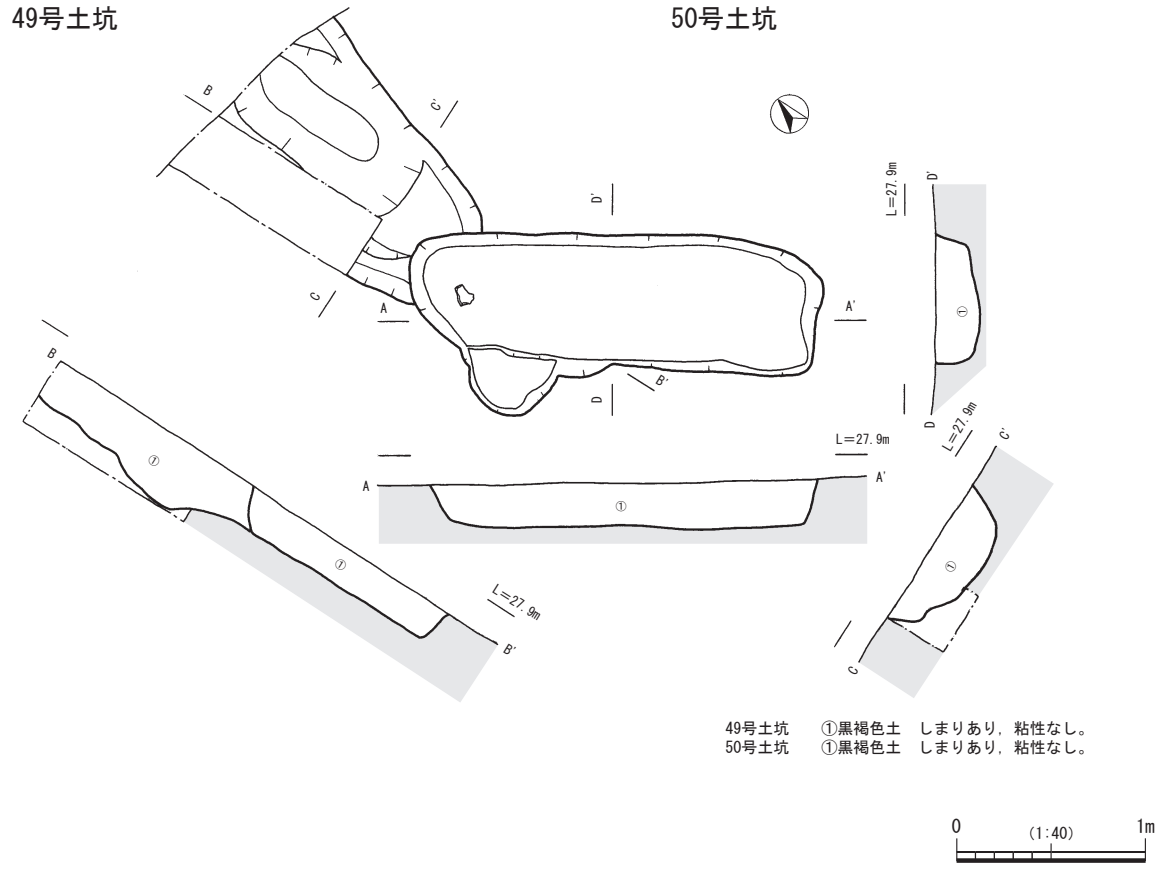
54号土坑は53号土坑と55号土坑に切られている。長軸85cm，短軸52cm，底面までの深さは最深部で13cmを測る。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

53号土坑は南側を噴砂に切られ，北東側の54号土坑を切っている。平面の形状は，長軸（132）cm，短軸80cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で25cmを測る。断面形は皿状を呈する。

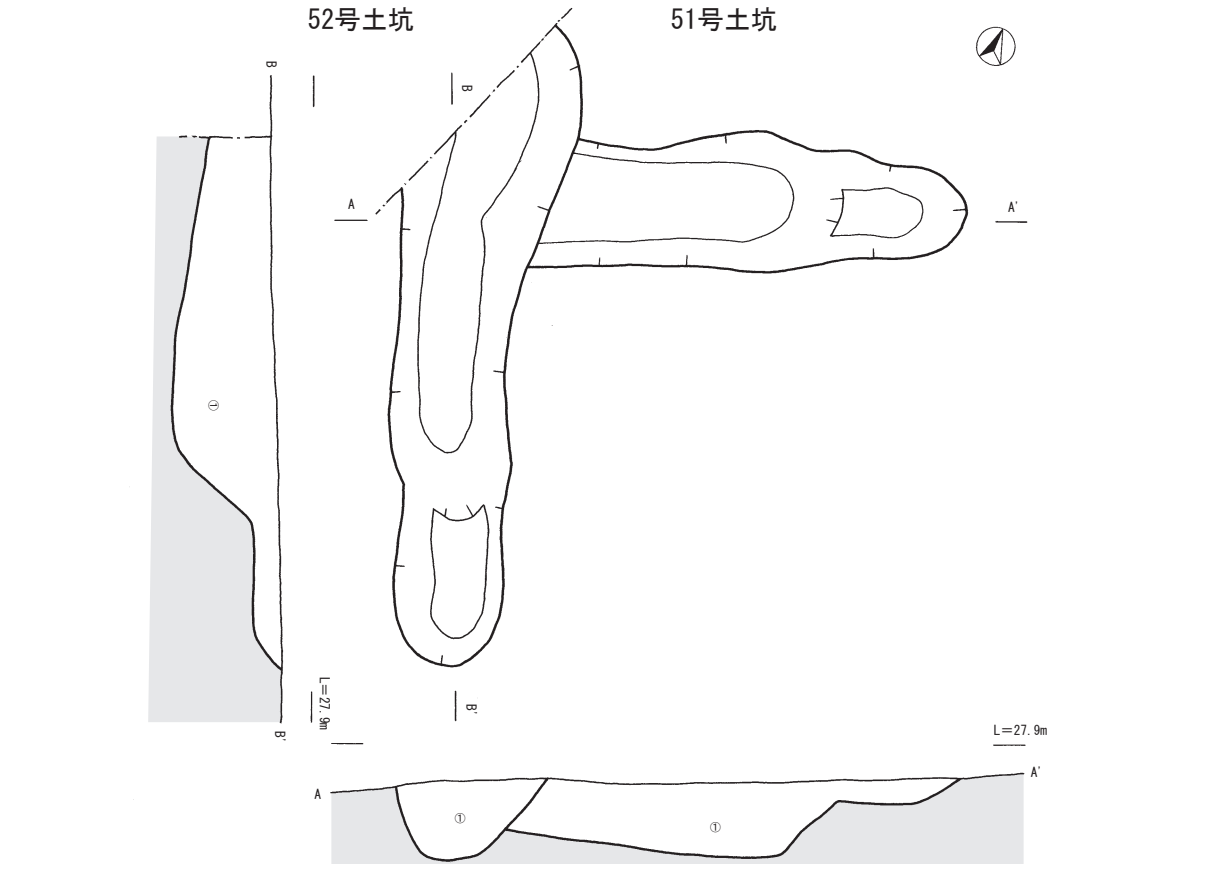
56号土坑は55号土坑に切られている。長軸186cm，短軸82cm，底面までの深さは最深部で11cmを測る。

55号土坑は長軸188cm，短軸95cm，底面までの深さは最深部で27cmを測る。

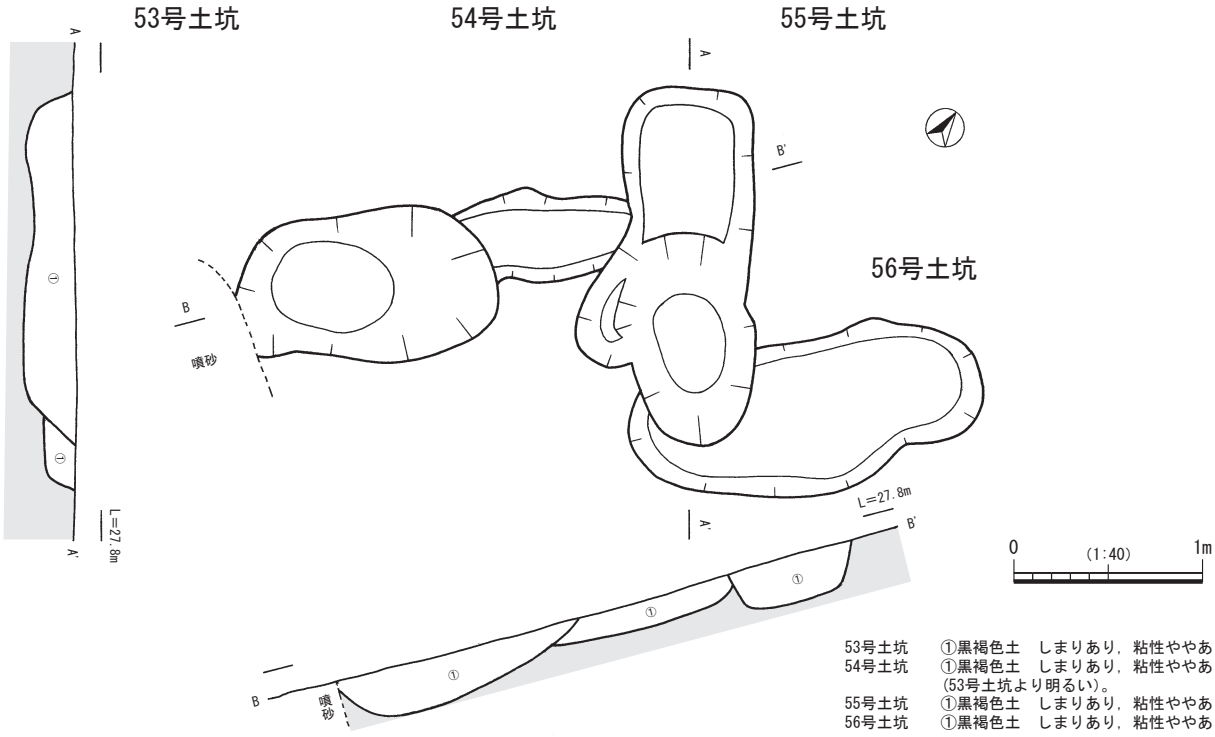
４基とも埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。これらの土坑から遺物等は出土していない。



第32図　49･50号土坑



51号土坑　①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。
52号土坑　①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。



53号土坑　①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。
54号土坑　①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり
(53号土坑より明るい)。
55号土坑　①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。
56号土坑　①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。

第33図　51･52号土坑，53 ～ 56号土坑

57号土坑（Ⅳ類：SK108）58号土坑（Ⅴ類：SK120）
［第34図］

Ｄ－６区のＸa層で切り合う形で検出した。

58号土坑は57号土坑に切られている。長軸(84)cm，短軸62cm，底面までの深さは最深部で20cmを測る。

57号土坑は58号土坑を切っている。平面の形状は，長軸195cm，短軸103cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測る。断面形は舟形状を呈する。

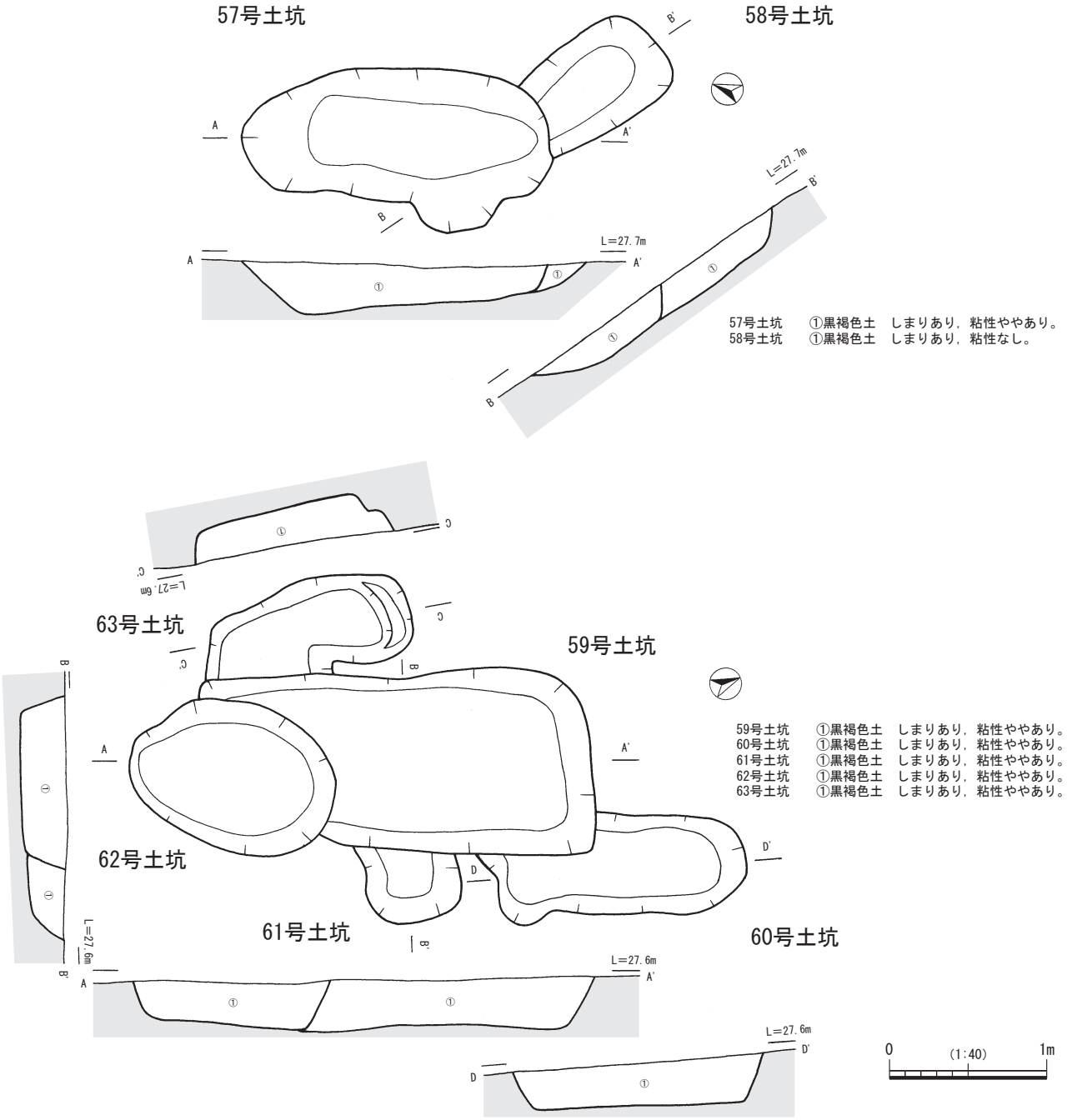
埋土はともに黒褐色土である。

これらの土坑から遺物等は出土していない。

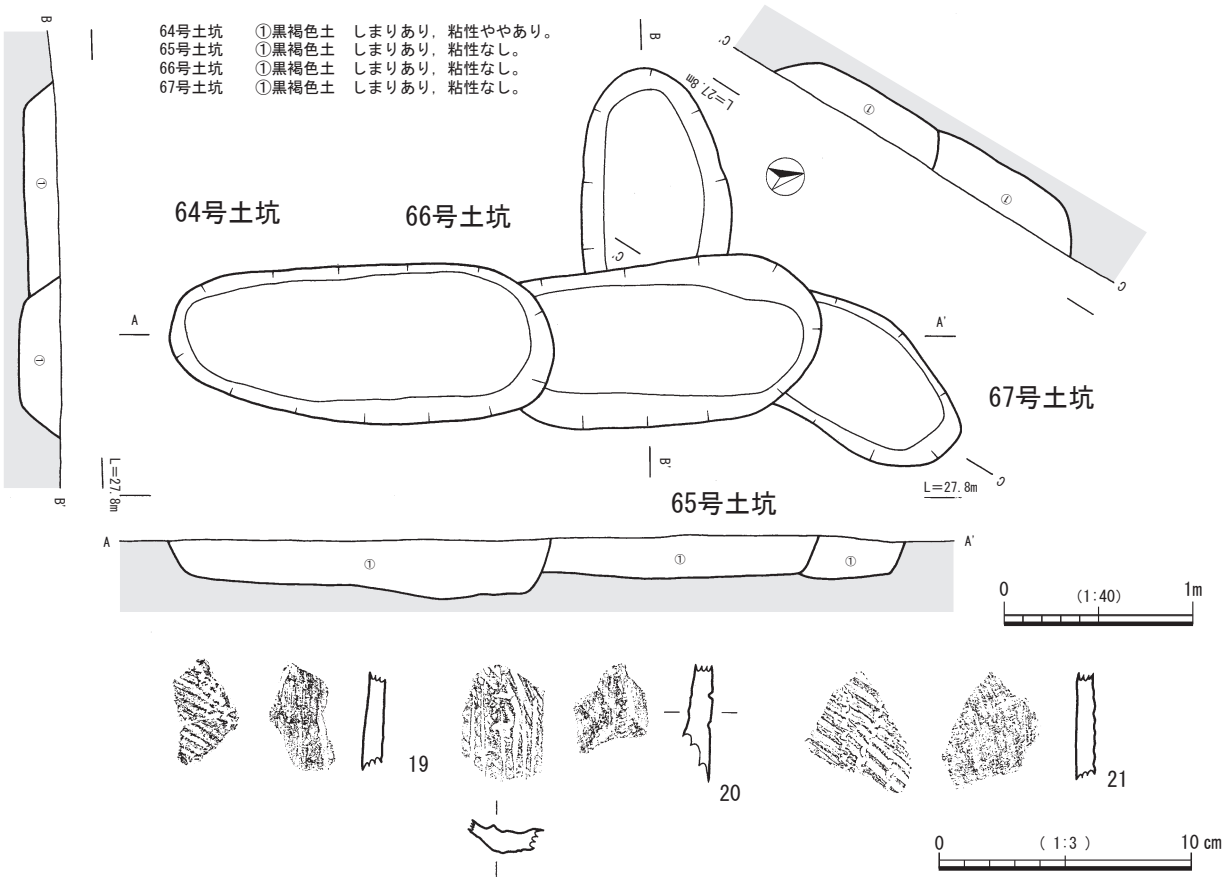
59号土坑（Ⅴ類：SK85）60号土坑（Ⅴ類：SK155）
61号土坑（Ⅴ類：SK156）62号土坑（Ⅱ類：SK157）
63号土坑（Ⅴ類：SK158）　［第34図］

Ｄ・Ｅ－６区のＸa層で検出した。60号土坑は59号土坑に切られている。平面の形状は，長軸(158)cm，短軸(66)cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測る。断面形は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

61号土坑は59号土坑に切られている。長軸(46)cm，短軸(60)cm，底面までの深さは最深部で23cmを測る。埋土



第34図　57･58号土坑，59 ～ 63号土坑



第35図　64 ～ 67号土坑･出土遺物

はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

63号土坑は東側が59号土坑に切られている。長軸128cm，短軸63cm，底面までの深さは最深部で23cmを測る。埋土はすべてⅧ層を基調とした黒褐色土である。

59号土坑は62号土坑に切られ，60号土坑，61号土坑を切っている。平面の形状は，長軸(167)cm，短軸119cmの長楕円形を呈する。底面までの深さは最深部で39cmを測る。断面形は台形状を呈する。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土である。

62号土坑は59号土坑を切っている。長軸132cm，短軸94cm，底面までの深さは最深部で25cmを測る。埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。

これらの土坑から遺物等は出土していない。

64号土坑（Ⅳ類：SK65）65号土坑（Ⅴ類：SK117）66号土坑（Ⅴ類：SK118）67号土坑（Ⅴ類：SK119）［第35図］

D－6・7区のXa層で４基の重複する土坑を検出した。

66号土坑は65号土坑に切られている。平面の形状は，長軸（104）cm，短軸79cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で17cmを測る。断面形は台形状を呈する。

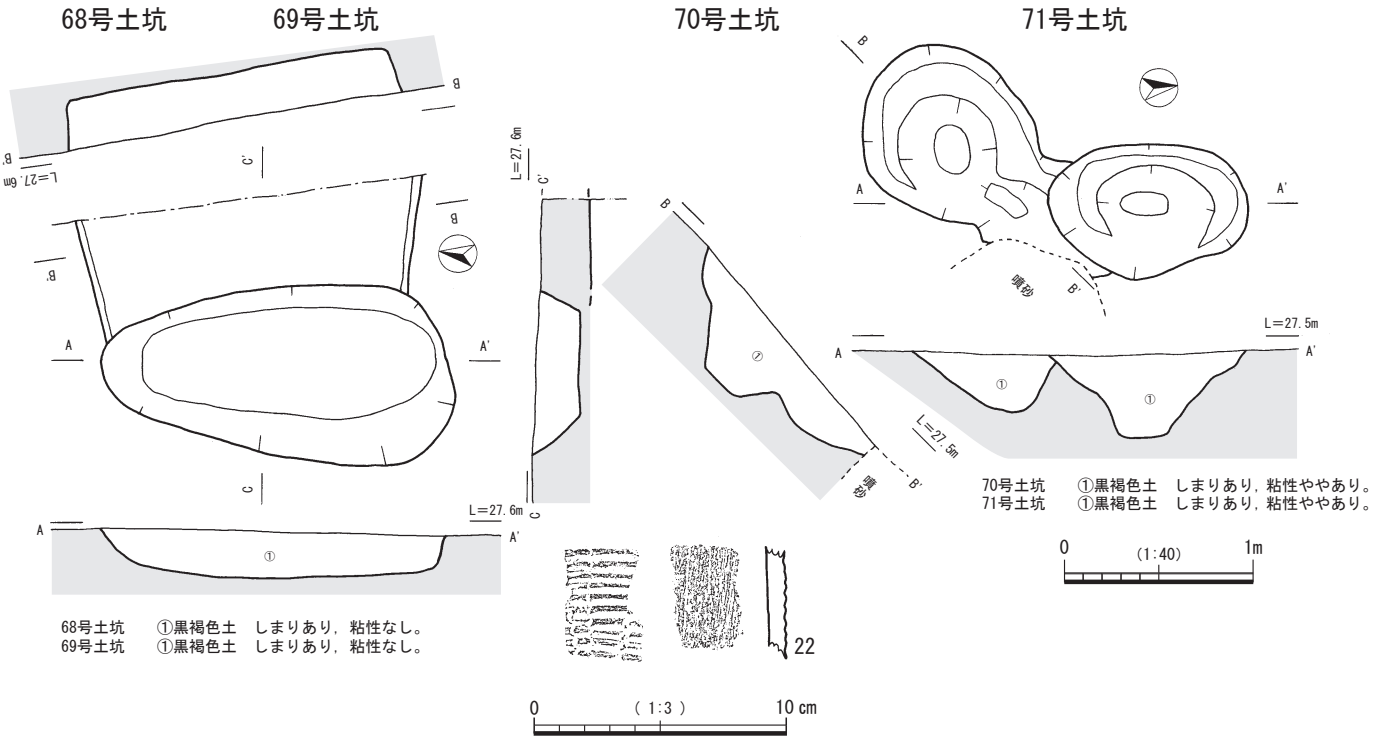
67号土坑は65号土坑に切られている。平面の形状は，長軸(85)cm，短軸68cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測る。断面形は台形状を呈する。埋土は４基ともⅧ層を基調とした黒褐色土で，65号土坑より明るい土色である。この土坑からは遺物等は出土していない。

65号土坑は67号土坑を切り，64号土坑に切られている。平面の形状は，長軸(142)cm，短軸88cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測る。断面形は台形状を呈し，埋土は黒褐色土である。

出土遺物は埋土①からⅡ類土器２点が出土し，その内１点は小片のため掲載には至らなかった。21は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。

64号土坑は65号土坑を切っている。平面の形状は，長軸202cm，短軸86cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で38cmを測る。断面形は舟形状を呈する。埋土は黒褐色土である。

出土遺物は埋土①から土器２点が出土した。19は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。20は角筒器形の底部付近である。外面に貝殻条痕と縦位の刻目を施す。角部には刺突を施す。どちらもⅡ類土器である。



第36図　68･69号土坑,70･71号土坑･出土遺物

68号土坑（Ⅲ類：SK124）69号土坑（Ⅴ類：SK125）
［第36図］

D－７区のXa層で２基の土坑を検出した。68号土坑は東側は先行トレンチにより掘削され，西側は69号土坑に切られている。長軸(178)cm，短軸48cm，底面までの深さは最深部で24cmを測る。埋土は黒褐色土である。

69号土坑は68号を切っている。長軸182cm，短軸89cm，底面までの深さは最深部で24cmを測る。埋土はともに黒褐色土である。出土遺物は埋土①から土器１点が出土した。22は円筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。

70号土坑（Ⅴ類：SK80）71号土坑（Ⅱ類：SK81）噴砂
［第36図］

重複する２基の土坑と噴砂をE－６区のXa層で検出した。

70号土坑は，長軸(137)cm，短軸86cm，底面までの深さは最深部で30cmを測る。北東側は71号土坑と噴砂に切られている。平面形状より，連穴土坑の可能性も想定されたが，ブリッジの崩落土等確認できなかったため土坑と判断した。

71号土坑は70号土坑を切っている。平面の形状は，長軸106cm，短軸72cmの楕円形である。底面までの深さは最深部で44cmを測る。断面形は擂鉢状を呈する。

２基の土坑とも埋土はⅧ層を基調とする黒褐色土である。これらの土坑から遺物等は出土していない。

72号土坑（Ⅳ類：SK24）73号土坑（Ⅳ類：SK28）
74号土坑（Ⅴ類：SK29）75号土坑（Ⅴ類：SK30）
76号土坑（Ⅴ類：SK109）　［第37図］

５基の重複する土坑をE－４区のXa層で検出した。

76号土坑は72号土坑，75号土坑に切られているため形状，大きさ等は不明である。底面までの深さは最深部で32cmを測る。

74号土坑は北側は73号土坑に切られている。平面の形状は，長軸(72)cm，短軸46cm，底面までの深さは最深部で20cmを測る。

73号土坑は，東側は75号土坑に切られている。平面の形状は，長軸(160)cm，短軸59cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で19cmを測る。断面形は台形状を呈する。

75号土坑は73号土坑と76号土坑を切っている。平面の形状は連穴土坑に類似ながらブリッジの崩落土等は確認できなかったため土坑と判断した。平面の形状は長楕円形である。長軸205cm，短軸51cm，底面までの深さは最深部で36cmを測る。

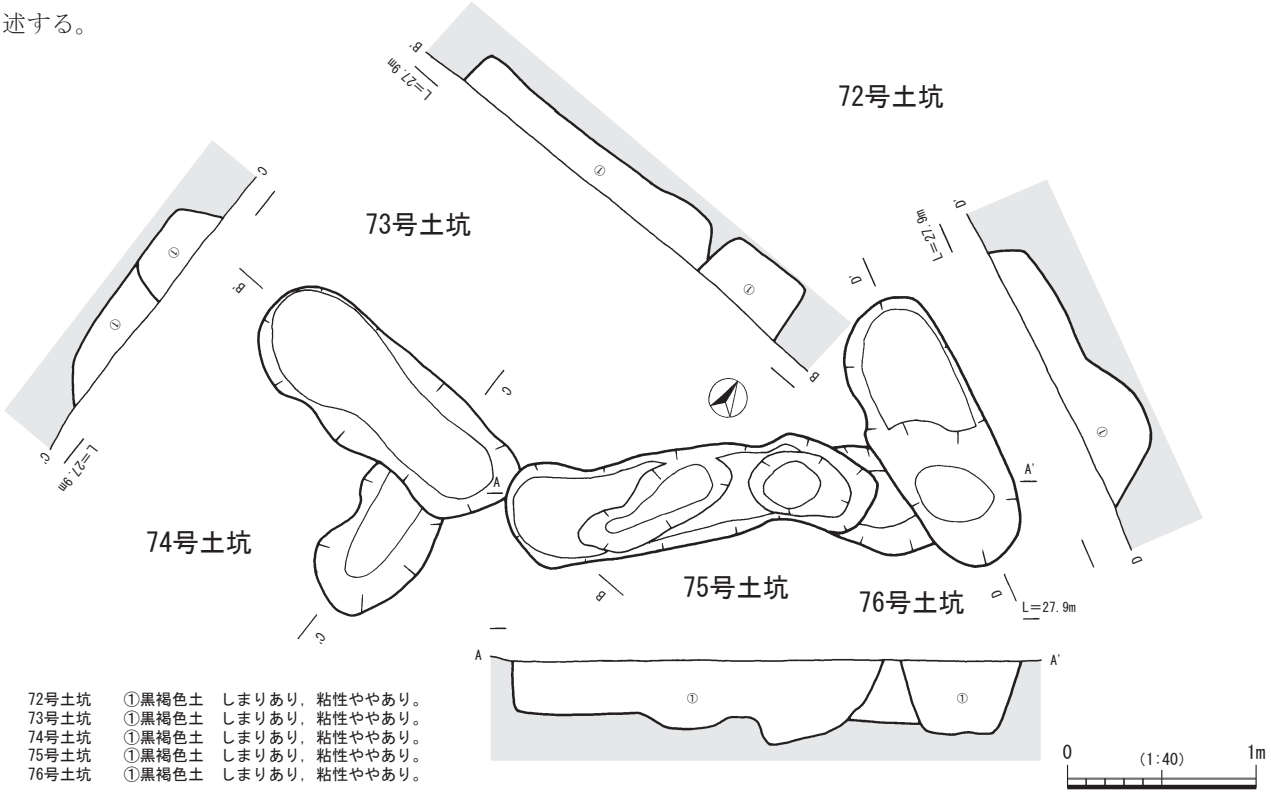
出土遺物は埋土①からⅡ類土器１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

72号土坑は76号土坑を切っている。長軸140cm，短軸58cm，底面までの深さは最深部で24cmを測る。検出面の形状から，連穴土坑の可能性も想定されたがブリッジ崩落土等確認できなかったため土坑と判断した。

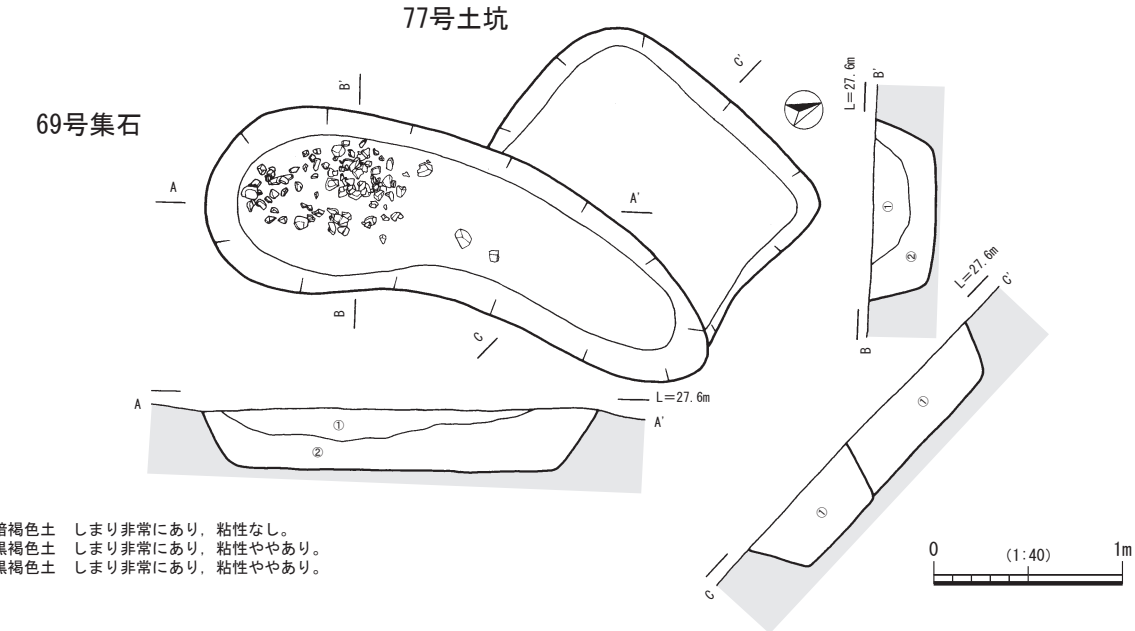
５基の埋土はいずれも埋土は黒褐色土である。これらの土坑からは遺物等は出土していない。

77号土坑（Ⅴ類:SK159）69号集石（SK52）　［第37図］

E－７区のXa層で69号集石と重複して検出した。方形の形状にも見え，竪穴建物跡の可能性も考えられたが，遺物や柱穴等確認されなかったため土坑と判断した。長軸157cm，短軸(88)cm，底面までの深さは最深部で22cmを測る。77号土坑の東側は69号集石に切られており，ともに断面形は台形状を呈する。残存する西側は，平坦な底面からゆるやかに壁面が立ち上がる。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土である。69号集石については後述する。



72号土坑　①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。
73号土坑　①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。
74号土坑　①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。
75号土坑　①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。
76号土坑　①黒褐色土　しまりあり，粘性ややあり。



77号土坑　①暗褐色土　しまり非常にあり，粘性なし。
69号集石　①黒褐色土　しまり非常にあり，粘性ややあり。
　　②黒褐色土　しまり非常にあり，粘性ややあり。

第37図　72 ～ 76号土坑・77号土坑・69号集石

第４表　土坑観察表

遺構名	旧遺構番号	区	検出面	分類	大きさ（cm）			遺物等	部位	埋　　土	備考
					長軸	短軸	深さ				
1号土坑	SK17	B4	Xa	Ⅰ	113	97	13	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。粘性ややあり，しまりあり。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。	
2号土坑	SK44	CD8	Xa	Ⅰ	92	77	18	礫　炭化物	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 30mmの炭化物，径1 ～ 10mmのパミスを多量に含む。 ②暗褐色土　10YR3/3。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmの炭化物，パミスを含む。 ③暗褐色土　10YR3/4。しまりあり，粘性なし。径2 ～ 5mmのパミスを多量に含む。	
3号土坑	SK62	D4	Xa	Ⅰ	84	73	27	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子を含む。	
4号土坑	SK63	D4	Xa	Ⅰ	92	89	23	土器	底部	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。	
5号土坑	SK96	D4	Xa	Ⅰ	62	62	23	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	
6号土坑	SK167	D5	Xa	Ⅰ	54	54	18	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	
7号土坑	SK88	D5	Ⅷ	Ⅰ	86	84	13	礫	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	
8号土坑	SK102	D6	Xa	Ⅰ	62	52	26	礫　炭化物	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子と径1 ～ 2mmの炭化物粒子を含む。	C-14年代測定
9号土坑	SK153	D6	Xa	Ⅰ	64	60	17	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 5mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。	
10号土坑	SK145	D6	Xa	Ⅰ	65	52	27	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子を含む。径1 ～ 2mmの炭化物粒子を含む。	
11号土坑	SK86	D・E6	Xa	Ⅰ	76	66	18	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。	
12号土坑	SK126	D7	Xa	Ⅰ	54	48	24	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子と炭化物粒子を極少量含む。	
13号土坑	SK127	D7	Xa	Ⅰ	74	66	21	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子と径1 ～ 2mmの炭化物粒子を極少量含む。	
14号土坑	SK23	E4	Xa	Ⅰ	170	158	12	土器	胴部	①黒褐色土　10YR2/2。しまりややあり，粘性ややあり。径1 ～ 2mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。 ②暗褐色土　10YR3/3。しまりややあり，粘性ややあり。径1 ～ 2mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	
15号土坑	SK143	E5	Xa	Ⅰ	67	61	22	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	
16号土坑	SK144	E5	Xa	Ⅰ	71	64	23	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	
17号土坑	SK73	E6	Xa	Ⅰ	94	77	14	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。	
18号土坑	SK162	E8	Xa	Ⅰ	86	70	15	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子を少量含む。炭化物粒子を極少量含む。	
19号土坑	SK87	E9	Ⅷ	Ⅰ	96	88	12	礫	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmの炭化物とローム粒子を少量含む。	
20号土坑	SK172	D5	Xa	Ⅱ	105	63	18	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 2mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	
21号土坑	SK42	E4	Xa	Ⅱ	119	80	30	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 5mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。 ②黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 5mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。 ③暗褐色土　10YR3/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	
22号土坑	SK149	E6	Xa	Ⅱ	115	66	18	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	
23号土坑	SK146	E7	Xa	Ⅱ	100	70	21	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	
24号土坑	SK161	E8	Xa	Ⅱ	83	56	22	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子と炭化物を少量含む。	
25号土坑	SK18	B4	Xa	Ⅲ	(194)	73	28	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。粘性ややあり，しまりあり。径1 ～ 3mmの白色粒子を含む。径1 ～ 2mmの炭化物粒子をわずかに含む。	
26号土坑	SK15	C3	Xa	Ⅲ	245	104	11	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。径1mmのローム粒子をわずかに含む。	
27号土坑	SK14	C4	Xa	Ⅲ	191	65	22	礫	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。径1mm以下のローム粒子をわずかに含む。	
28号土坑	SK92	C4・5	Xa	Ⅲ	303	74	19	礫	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。中央部分に暗褐色土10YR3/3が斑状にまじる。	
29号土坑	SK171	D5	Xa	Ⅲ	156	(70)	20	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	
30号土坑	SK99	D5・6	Xa	Ⅲ	223	85	25	礫　炭化物	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子と径1 ～ 2mmの炭化物粒子を含む。	
31号土坑	SK107	D6	Xa	Ⅲ	224	132	25	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子を含む。径1 ～ 2mmの炭化物粒子を極少量含む。	
32号土坑	SK154	D6	Xa	Ⅲ	144	58	28	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 5mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。	
33号土坑	SK114	D7・8	Xa	Ⅲ	158	68	20	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子と径1 ～ 2mmの炭化物粒子を少量含む。	
34号土坑	SK48	D8	Xa	Ⅲ	103	57	22	—	—	①暗褐色土　10YR3/3。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子と炭化物粒子を少量含む。 ②暗褐色土　10YR3/4。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子と炭化物粒子を少量含む。 ③褐色土　10YR4/4。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmの炭化物粒子と径1 ～ 5mmのローム粒子を極少量含む。	
35号土坑	SK25	E4	Xa	Ⅲ	144	72	22	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	
36号土坑	SK57	E5	Xa	Ⅲ	140	65	13	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1 ～ 3mmの炭化物粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。 ②黒褐色土　10YR2/3。しまりややあり，粘性ややあり。径1 ～ 5mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	
37号土坑	SK58	E5	Xa	Ⅲ	130	70	23	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	
38号土坑	SK79	E6	Xa	Ⅲ	(195)	110	31	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	
39号土坑	SK16	B4	Xa	Ⅳ	(193)	114	50	土器	口縁胴部	①黒褐色土　10YR2/2。粘性ややあり，しまりあり。径1 ～ 2mmの炭化物，パミスをわずかに含む。	
40号土坑	SK19	B4	Xa	Ⅳ	190	91	17	—	—	①黒褐色土　7.5YR3/1。しまりあり，粘性なし。径1mm程度の炭化物，パミスを含む。	
41号土坑	SK61	D4	Xa	Ⅳ	(220)	(98)	59	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。 ②にぶい赤褐色土　5YR5/4。しまりあり，粘性あり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	
42号土坑	SK35	E4	Xa	Ⅳ	(111)	76	27	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性あり。径1 ～ 2mmの黄橙色粒子（パミス）を多量に含む。径1 ～ 5mmのローム粒子をわずかに含む。	
43号土坑	土坑17号	B8	Ⅸ	Ⅴ	(119)	(55)	21	礫	—	①黒褐色土	
44号土坑	SK173	D5	Xa	Ⅴ	(160)	(115)	35	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	
45号土坑	SK115	D7	Xa	Ⅴ	(78)	(34)	16	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1 ～ 3mmのローム粒子と径1 ～ 2mmの炭化物粒子を少量含む。	
46号土坑	SK13	E4	Ⅷ	Ⅴ	86	(41)	11	—	—	①黒褐色土　7.5YR3/2。粘性なし，しまり強い。1 ～ 2mmのパミス，黒色粒（炭化物），白色粒を多量に含む。	
47号土坑	SK140	E7	Xa	Ⅴ	68	(55)	26	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径10 ～ 30mmのロームブロックをわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	
48号土坑	SK141	E7	Xa	Ⅴ	(63)	42	15	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	
49号土坑	SK20	B4	Xa	Ⅴ	(128)	82	25	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1mm以下の炭化物を少量含む。径1 ～ 2mmのパミスをやや多く含む。	SK21に切られる
50号土坑	SK21	B4	Xa	Ⅱ	205	96	23	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1mm以下の炭化物，パミスを少量含む。	SK20を切る
51号土坑	SK43	D4	Xa	Ⅳ	(221)	74	37	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子，炭化物粒子をわずかに含む。	SK93に切られる
52号土坑	SK93	D・E4	Xa	Ⅴ	(281)	80	47	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1 ～ 3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK43を切る

遺構名	旧遺構番号	区	検出面	分類	大きさ（cm）			遺物等	部位	埋土	備考
					長軸	短軸	深さ				
53号土坑	SK166	D5	Xa	Ⅱ	(132)	80	25	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	噴砂に切られる SK168を切る
54号土坑	SK168	D5	Xa	Ⅴ	85	52	13	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり(SK166より明るい。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK166・SK169に切られる
55号土坑	SK169	D5	Xa	Ⅳ	188	95	27	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK168・SK170を切る
56号土坑	SK170	D5	Xa	Ⅳ	186	82	11	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1～2mmの炭化物粒子をわずかに含む。	SK169に切られる
57号土坑	SK108	D6	Xa	Ⅳ	195	103	23	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK120を切る
58号土坑	SK120	D6	Xa	Ⅴ	(84)	62	20	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を少量含む。	SK108に切られる
59号土坑	SK85	D・E6	Xa	Ⅴ	(167)	119	39	礫	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK155・SK156・SK158を切る　SK157に切られる
60号土坑	SK155	D6	Xa	Ⅴ	(158)	(66)	27	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。	SK85に切られる
61号土坑	SK156	D・E6	Xa	Ⅴ	(46)	(60)	23	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。	SK85に切られる
62号土坑	SK157	E6	Xa	Ⅱ	132	94	25	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。	SK85を切る
63号土坑	SK158	D・E6	Xa	Ⅴ	128	63	23	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。	SK85に切られる
64号土坑	SK65	D6・7	Xa	Ⅳ	202	86	38	土器	胴部.底部	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。	SK117を切る
65号土坑	SK117	D7	Xa	Ⅴ	(142)	88	22	土器	胴部	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を含む。	SK65に切られる SK118・SK119を切る
66号土坑	SK118	D6・7	Xa	Ⅴ	(104)	79	17	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と炭化物粒子を少量含む。	SK117に切られる
67号土坑	SK119	D7	Xa	Ⅴ	(85)	68	22	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物を少量含む(SK117より明るくローム粒子が少ない)。	SK117に切られる
68号土坑	SK124	D7	Xa	Ⅲ	(178)	48	24	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と炭化物粒子を少量含む。径1～2mmのパミスを多量に含む。	SK125に切られる
69号土坑	SK125	D7	Xa	Ⅴ	182	89	24	土器	胴部	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子を含む。径1～2mmの炭化物粒子をやや多量含む。	SK124を切る
70号土坑	SK80	E6	Xa	Ⅴ	(137)	86	30	礫	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子を含む。径1mm炭化物粒子をわずかに含む。	SK81に切られる
71号土坑	SK81	E6	Xa	Ⅱ	106	72	44	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1～3mmの炭化物粒子をわずかに含む。	SK80を切る
72号土坑	SK24	E4	Xa	Ⅳ	140	58	24	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK109を切る
73号土坑	SK28	E4	Xa	Ⅳ	(160)	59	19	礫	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK29を切る　SK30に切られる
74号土坑	SK29	E4	Xa	Ⅴ	(72)	46	20	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK28に切られる
75号土坑	SK30	E4	Xa	Ⅴ	205	51	36	土器	胴部	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子を含む。径10～30mmのロームブロックをわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK28・SK109を切る
76号土坑	SK109	E4	Xa	Ⅴ	-	-	32	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	SK24・SK30に切られる
77号土坑	SK159	E7	Xa	Ⅴ	157	(88)	22	—	—	①暗褐色土　10YR3/3。しまり非常にあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK52（集石）に切られる
78号土坑	SK36	C5	Xa	Ⅳ	(188)	91	30	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1～2mmの炭化物粒子を含む。径2～3mmのパミスをやや多く含む。	SK37に切られる SK38を切る
79号土坑	SK37	C5	Xa	Ⅳ	204	75	37	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1～3mmの炭化物，パミスを含む。	SK36を切る
80号土坑	SK100	D5・6	Xa	Ⅱ	(178)	87	30	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を含む。	SK101に切られる
81号土坑	SK101	D5・6	Xa	Ⅴ	(114)	70	27	礫　炭化物	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり。径1～2mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。 ②黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。 ③黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径10～30mmのロームブロックをわずかに含む。径1～2mmのローム粒子をわずかに含む。 ④黒褐色土　10YR2/3。しまり非常にあり，粘性ややあり。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。 ⑤灰黄色土　2.5YR7/2。しまりややあり，粘性あり。径1～3mmのローム粒子を少量含む。	SK100を切る
82号土坑	SK104	D6	Xa	Ⅲ	162	66	15	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と炭化物粒子を含む。	SK103に切られる
83号土坑	SK105	D5・6	Xa	Ⅲ	191	102	24	土器	胴部	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を含む。	SK103を切る
84号土坑	SK122	D7	Xa	Ⅲ	(90)	79	28	—	—	①暗褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を含む。	SK121に切られる SK123を切る
85号土坑	SK123	D7	Xa	Ⅴ	(74)	70	11	—	—	①暗褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を極少量含む(SK121より明るく，ローム粒子・炭化物粒子が少ない)。	SK121・SK122に切られる
86号土坑	SK128	D8・9	Xa	Ⅴ	(183)	(90)	42	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を含む。	SK129・SK130・SK131に切られる　SK132・SK138を切る
87号土坑	SK129	D9	Xa	Ⅲ	240	117	34	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を含む。	SK128を切る
88号土坑	SK130	D・E8	Xa	Ⅲ	170	65	21	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を少量含む。	SK128を切る
89号土坑	SK131	D8・9	Xa	Ⅲ	180	63	30	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を少量含む。	SK128を切る
90号土坑	SK132	D8	Xa	Ⅴ	(70)	(48)	23	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を少量含む。	SK128・SK138に切られる
91号土坑	SK135	D8	Xa	Ⅱ	(113)	57	22	—	—	①暗褐色土　10YR3/3。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と炭化物粒子を少量含む。	SK136を切る
92号土坑	SK136	D8	Xa	Ⅴ	172	77	35	—	—	①黒褐色土　10YR2/1。しまりあり，粘性なし。径2～3mmのローム粒子と炭化物を少量含む。 ②にぶい褐色土　7.5YR6/3。しまりややあり，粘性あり。径1～2mmのローム粒子をわずかに含む。径1～2mmの炭化物粒子を少量含む。	SK135・SK137を切る SK134に切られる
93号土坑	SK137	D8	Xa	Ⅴ	(140)	96	35	—	口縁 胴部	①暗褐色土　10YR3/4。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を含む。	SK136・SK138に切られる
94号土坑	SK138	D8	Xa	Ⅲ	(157)	81	46	—	—	①暗褐色土　10YR3/3。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子と径1～2mmの炭化物粒子を少量含む。	SK128に切られる SK132・SK137を切る
95号土坑	SK53	E5	Xa	Ⅴ	(87)	70	27	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK89・SK139に切られる
96号土坑	SK54	E5	Xa	Ⅴ	(172)	124	23	土器	口縁	①黒褐色土　10YR2/3 。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK55に切られる
97号土坑	SK74	E6	Xa	Ⅴ	(113)	49	17	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりややあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子を含む。	SK77に切られる
98号土坑	SK75	E6	Xa	Ⅴ	(92)	70	21	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	SK77に切られる
99号土坑	SK76	E6	Xa	Ⅴ	(74)	53	16	—	—	①黒褐色土　10YR2/2。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	SK77に切られる
100号土坑	SK78	E6	Xa	Ⅱ	124	68	14	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。	SK77に切られる
101号土坑	SK68	E6	Xa	Ⅴ	(152)	106	22	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK67に切られる
102号土坑	SK147	E6	Xa	Ⅳ	(98)	54	36	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～2mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK69・SK148に切られる
103号土坑	SK148	E・F6	Xa	Ⅲ	187	(62)	22	—	—	①黒褐色土　10YR2/3。しまりあり，粘性ややあり。径1～3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。	SK147を切る
104号土坑	SK111	E8	Xa	Ⅴ	(74)	46	18	—	—	①黒褐色土　10YR3/2。しまりあり，粘性なし。径1～3mmのローム粒子を少量含む。炭化物粒子を極少量含む。	SK110に切られる

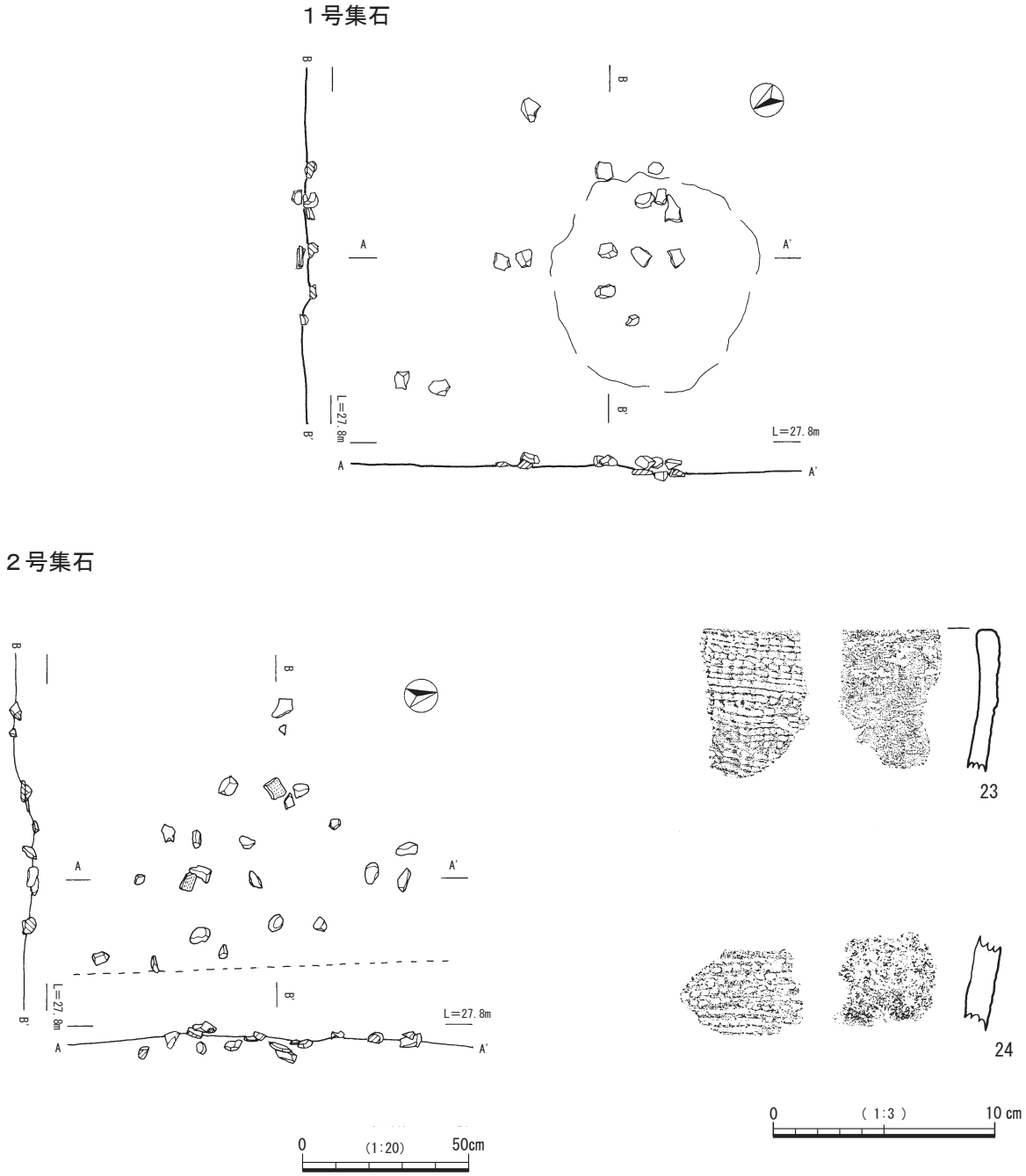
（３）集石（第38図～ 60図）

１号集石（SS11：Ⅰ類）　　［第38図］

Ｅ－８区，Ⅷ層で検出した。黒褐色のシミ状の広がりは見られたが明確な掘り込み部は確認できなかった。構成礫数は15個であり，ごく僅かな炭化物を含んでいる。関連する遺物は確認できなかった。

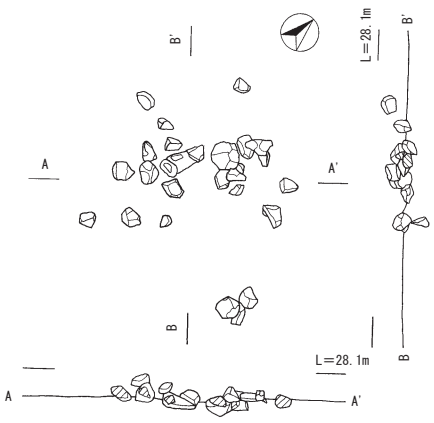
２号集石（SS19：Ⅰ類）　　［第38図］

Ｅ-10区，Ⅷ層で検出した。明確な掘り込みは確認できなかった。構成礫数は20個である。出土遺物は土器２点が出土した。23は口唇部に平坦面を作り，直口する口縁部である。外面には縦位の貝殻刺突を連続して施す。内面は丁寧なナデを施す。24は外面に貝殻刺突線文を施し，内面は丁寧なナデを施す。どちらもⅢ類土器である。なお，23の付着炭化物で年代測定を実施したところ，未補正で8863±34^{14C} BPの値が得られた(IAAA-210169)。(第Ⅴ章参照)

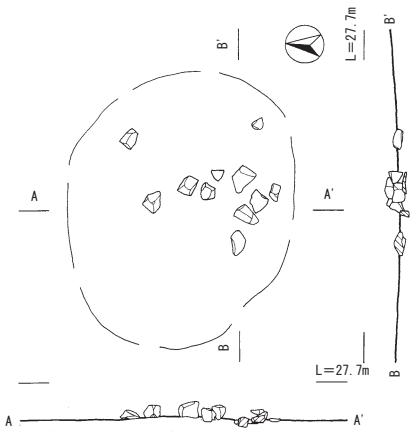


第38図　１・２号集石・出土遺物

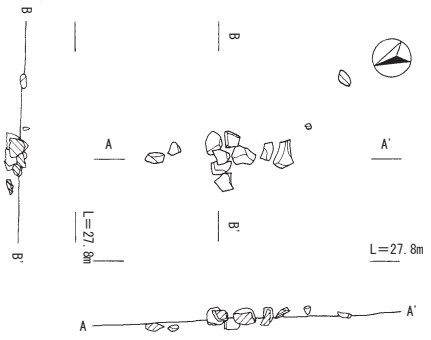
３号集石



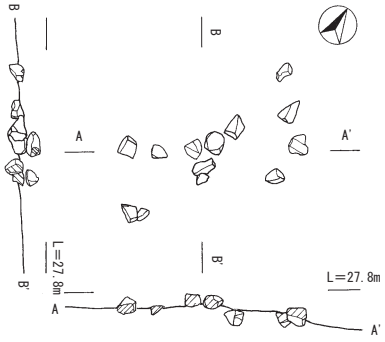
４号集石

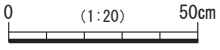


５号集石



６号集石





第39図　３～６号集石

３号集石（集石２号：Ⅱ類）［第39図］

B-10区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は28個である。炭化物が１点出土している。掘り込み部及び関連する遺物は確認できなかった。炭化物が出土した。

４号集石（SS22：Ⅱ類）　［第39図］

E－９区，Ⅷ層で検出した。黒褐色のシミ状の広がりは見られたが明確な掘り込みは確認できなかった。構成礫数は11個であり，関連する遺物は確認できなかった。

５号集石（SS25：Ⅱ類）　［第39図］

E－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は12個である。礫は集中しているが掘り込みは確認できなかった。関連する遺物は確認できなかった。

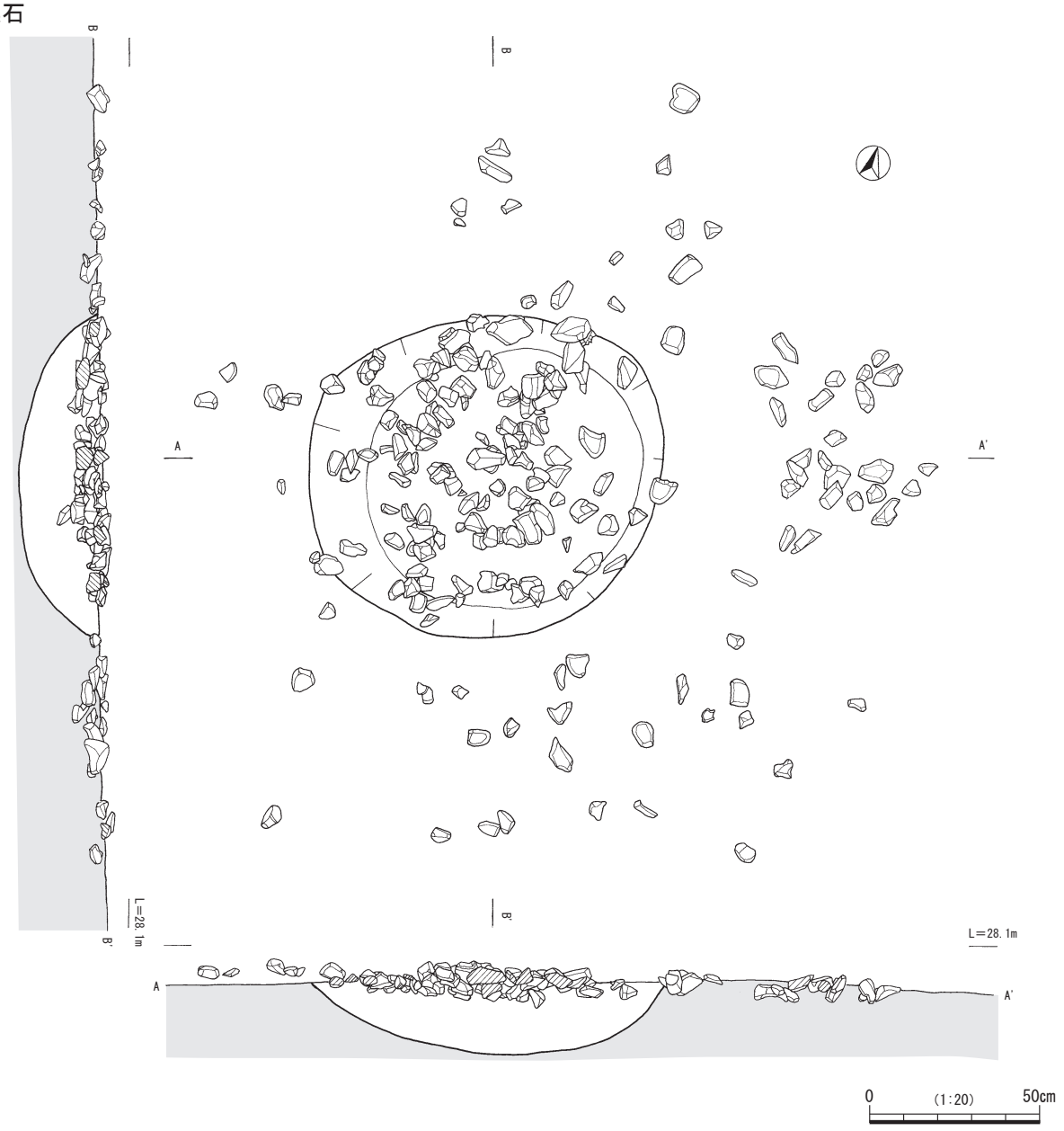
６号集石（SS28：Ⅱ類）　［第39図］

E－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は13個である。掘り込み及び関連する遺物は確認できなかった。

７号集石（集石１号：Ⅲ類）［第40図］

B-13・14区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は188個で掘り込みは約105×95cmの円形である。検出面からの深さは21cmである。土器片の胴部が出土したが小片のため図化には至らなかった。

７号集石



第40図　７号集石

８号集石（土坑１号：Ⅲ類）　　［第41図］

B－８区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は147個である。掘り込みは約135×130cmの円形で，検出面からの深さは32cmである。関連する遺物は確認できなかった。

出土遺物はⅡ類土器１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。また，埋土から炭化物が出土した。

９号集石（土坑２号：Ⅲ類）　　［第41図］

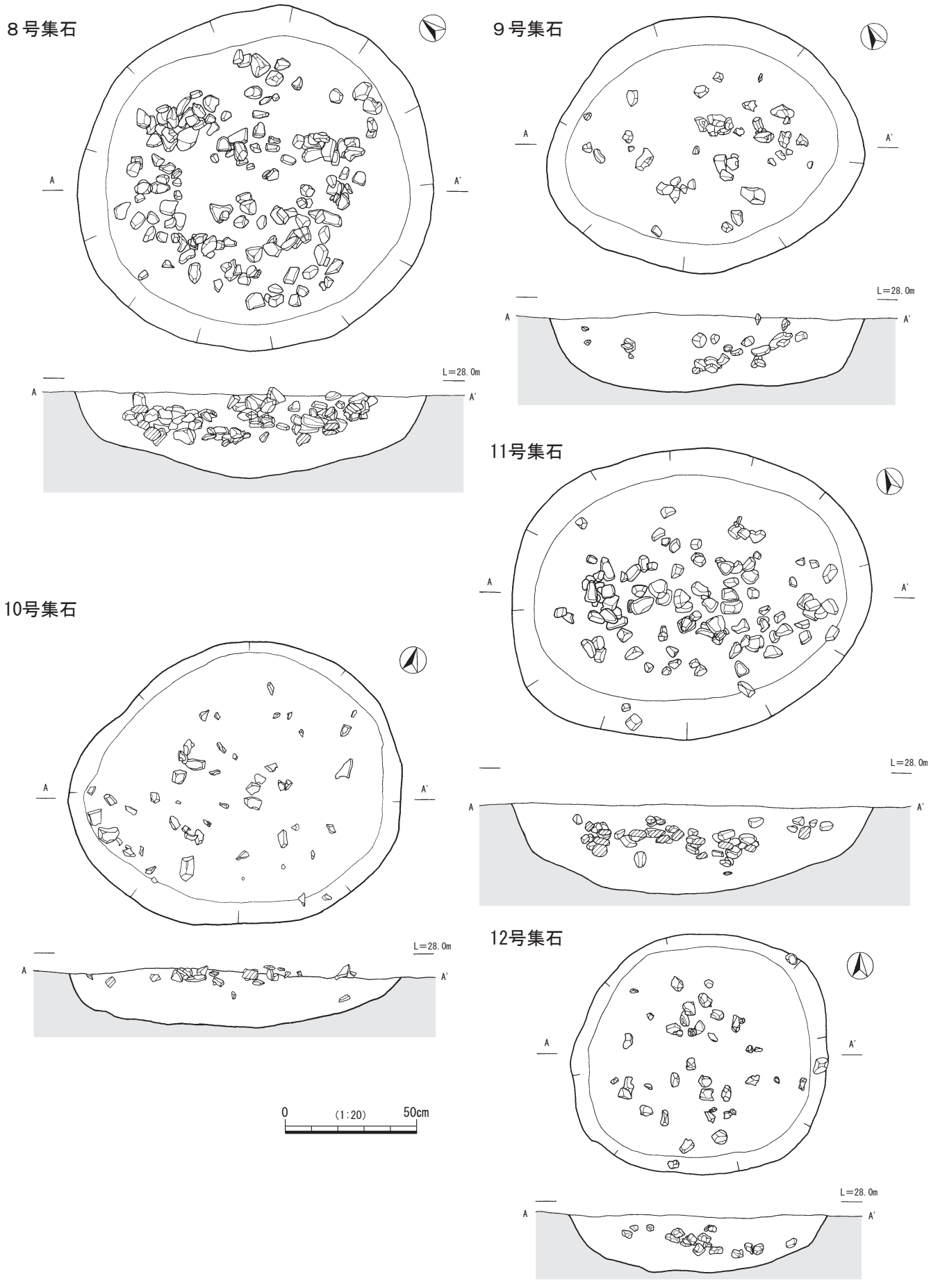
B－８区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は42個である。掘り込みは約120×97cmの円形で，検出面からの深さは29cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

10号集石（土坑３号：Ⅲ類）　　［第41図］

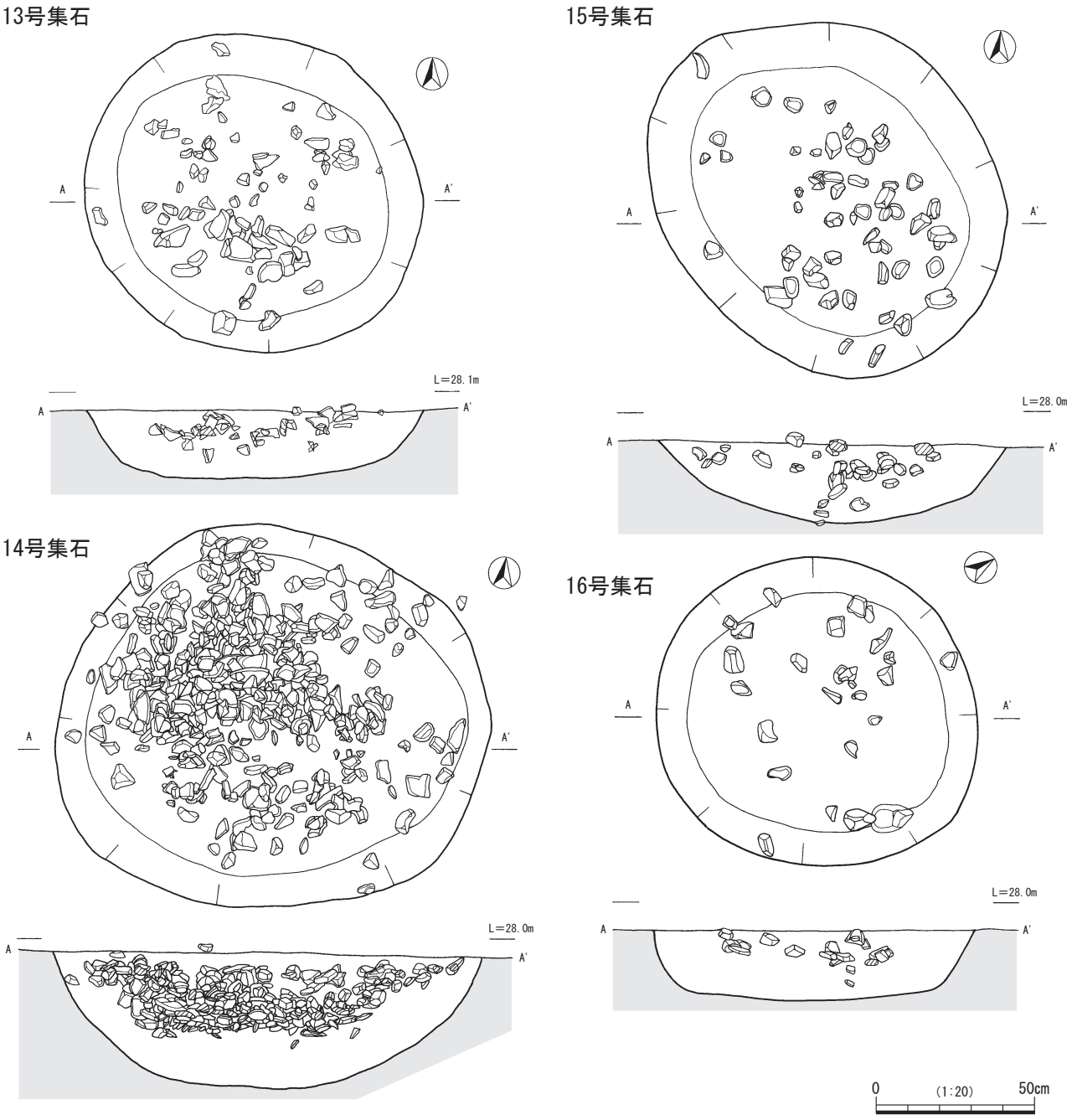
B－８区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は52個である。掘り込みは約126×106cmの円形で，検出面からの深さは21cmである。関連する遺物は確認できなかった。

11号集石（土坑４号：Ⅲ類）　　［第41図］

B－８区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は107個である。掘り込みは約137×110cmの円形で，検出面からの深さは34cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。



第41図　8～12号集石



第42図　13 ～ 16号集石

12号集石（土坑５号：Ⅲ類）　　［第41図］

B－８区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は42個である。掘り込みは約100×100cmの円形で，検出面からの深さは90cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

13号集石（土坑７号：Ⅲ類）　　［第42図］

B－８区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は79個である。掘り込みは約105×100cmの円形で，検出面からの深さは21cmである。関連する遺物は確認できなかった。

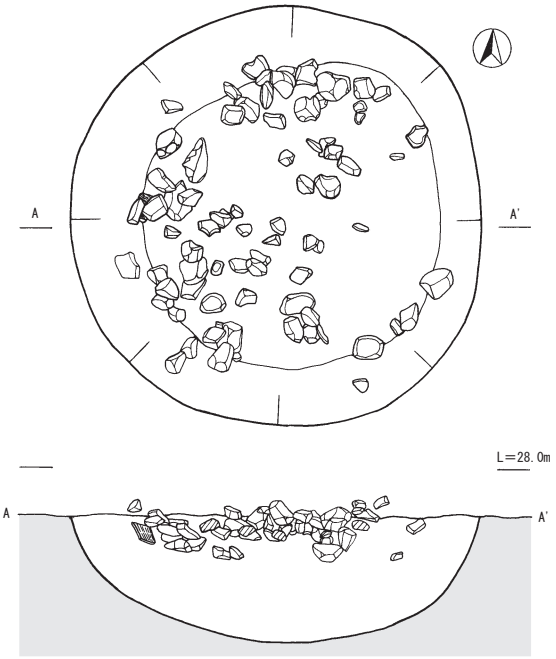
14号集石（土坑８号：Ⅲ類）　　［第42図］

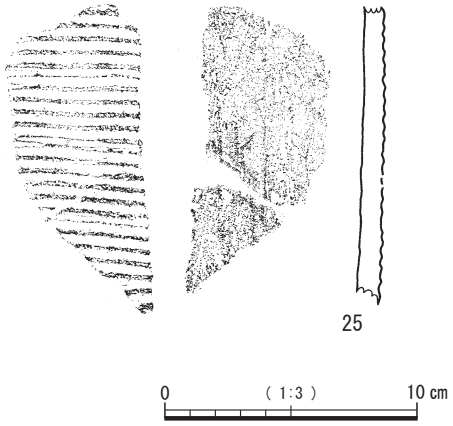
B－９区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は405個であり，ほとんどが砂岩である。掘り込みは約140×120cmの円形で，検出面からの深さは43cmである。埋土から炭化物が出土した。

15号集石（土坑10号：Ⅲ類）　　［第42図］

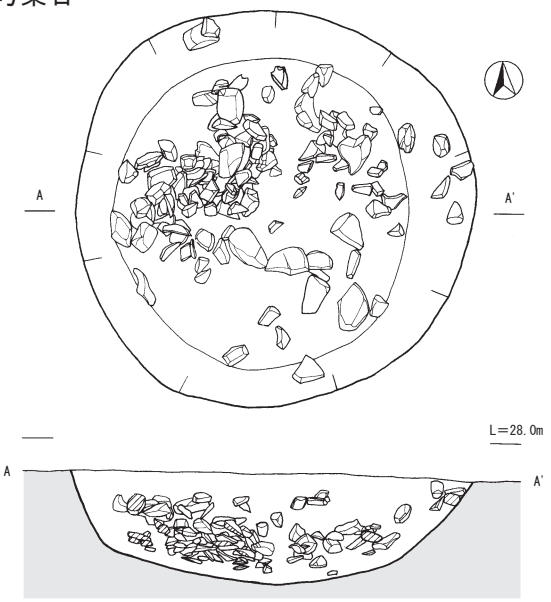
B－９区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は57個であり，掘り込みは約120×100cmの円形で，検出面からの深さは25cmである。関連する遺物は確認できなかった。

17号集石

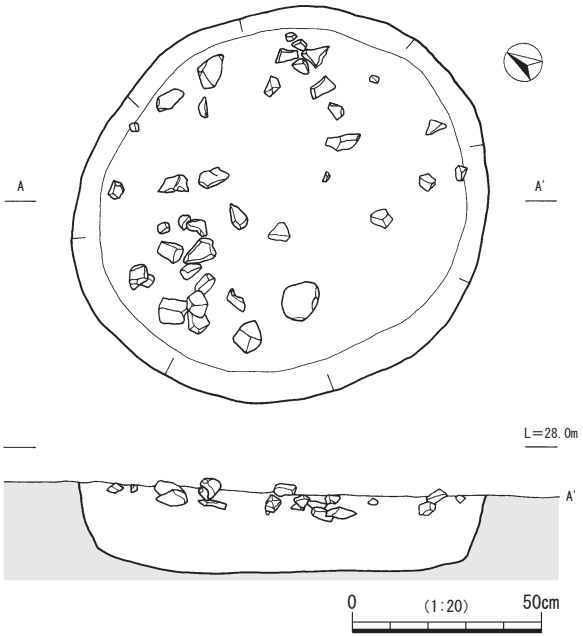




18号集石



19号集石



第43図　17 ～ 19号集石・出土遺物

16号集石（土坑11号：Ⅲ類）　［第42図］

B－９区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は28個であり，掘り込みは約100×100cmの円形で，検出面からの深さは23cmである。Ⅱ類土器１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。

17号集石（土坑12号：Ⅲ類）　［第43図］

B－９区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は76個であり，掘り込みは約110×110cmの円形で，検出面からの深さは33cmである。土器１点が出土した。また，埋土から炭化物が出土した。25は外面に横位の貝殻条痕を施す胴部である。Ⅰ類土器である。

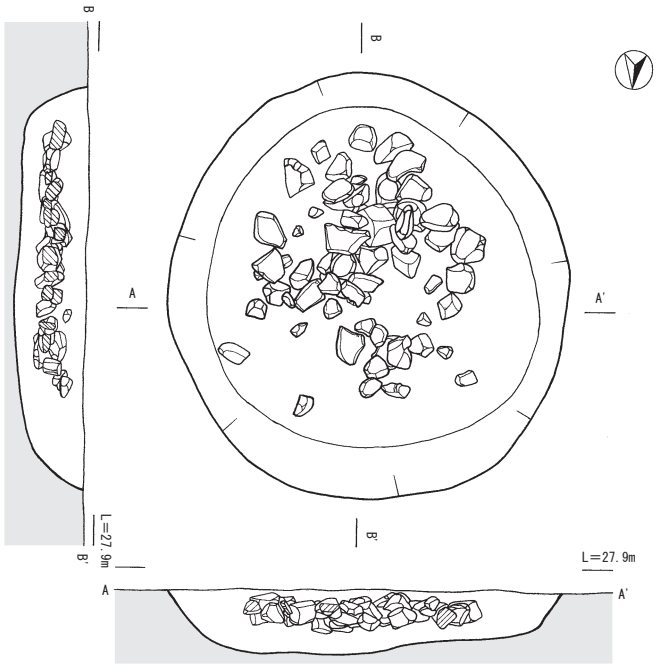
18号集石（土坑13号：Ⅲ類）　［第43図］

B－９区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は154個であり，掘り込みは約105×105cmの円形で，検出面からの深さは29cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

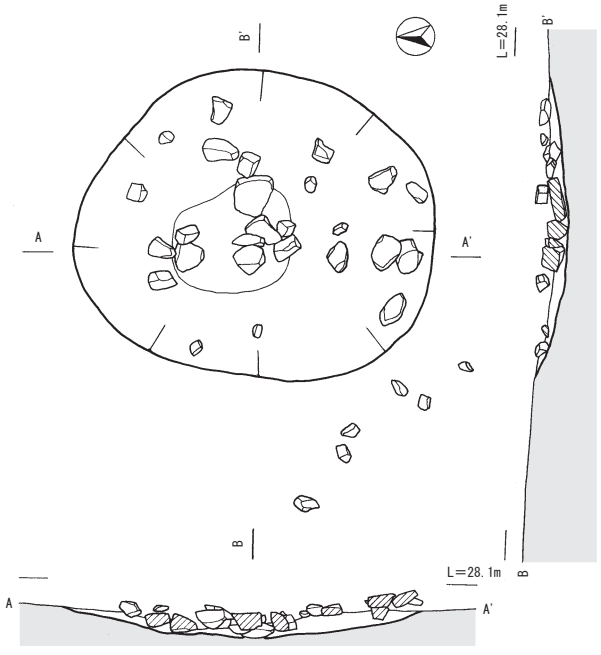
19号集石（土坑14号：Ⅲ類）　［第43図］

B－９区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は39個であり，掘り込みは約110×105cmの円形で，検出面からの深さは23cmである。関連する遺物は確認できなかった。

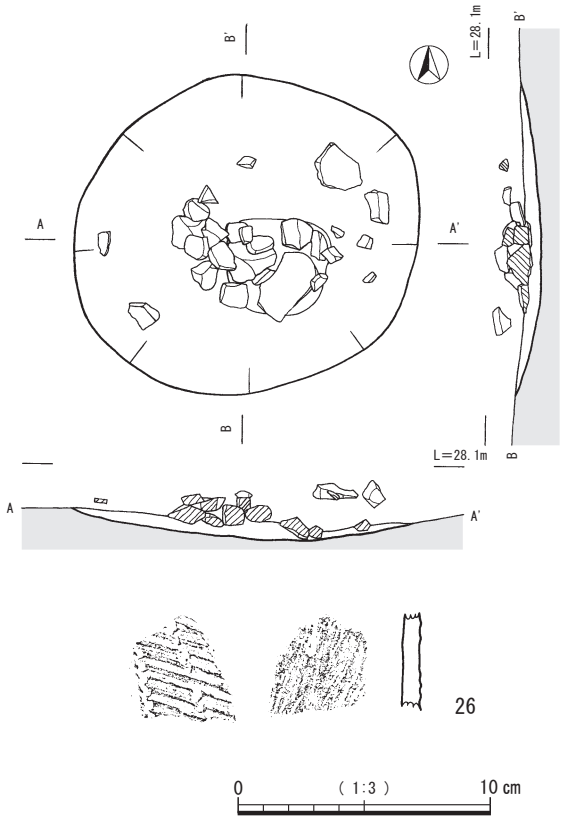
20号集石



21号集石



22号集石



第44図　20 ～ 22号集石・出土遺物

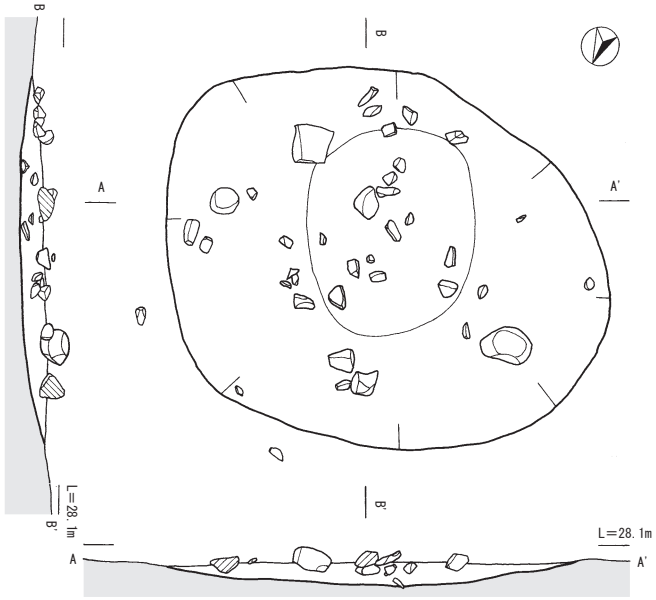
20号集石（土坑16号：Ⅲ類）　［第44図］

B－９区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は59個であり，掘り込みは約110×105cmの円形で，検出面からの深さは17cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

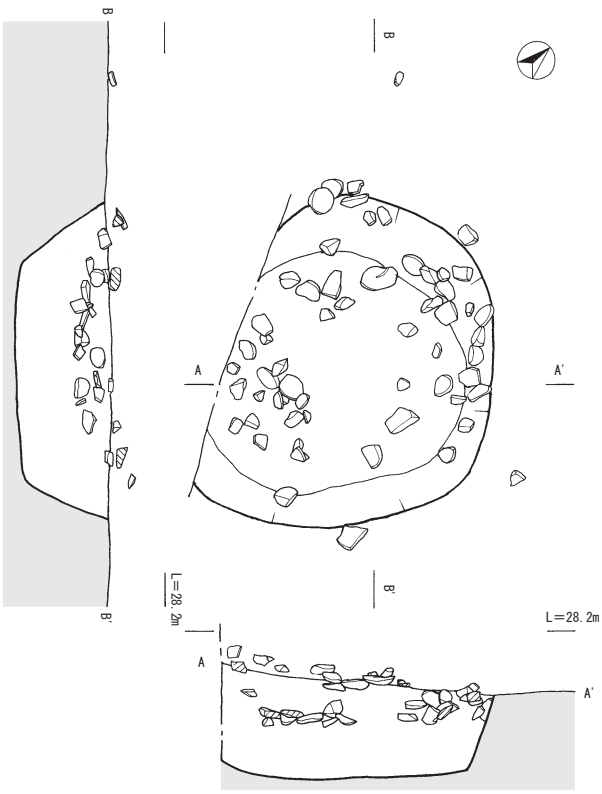
21号集石（SS01：Ⅲ類）　［第44図］

E・F－４区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は33個であり，掘り込みは約95×80cmの円形で，検出面からの深さは７cmである。関連する遺物は確認できなかった。

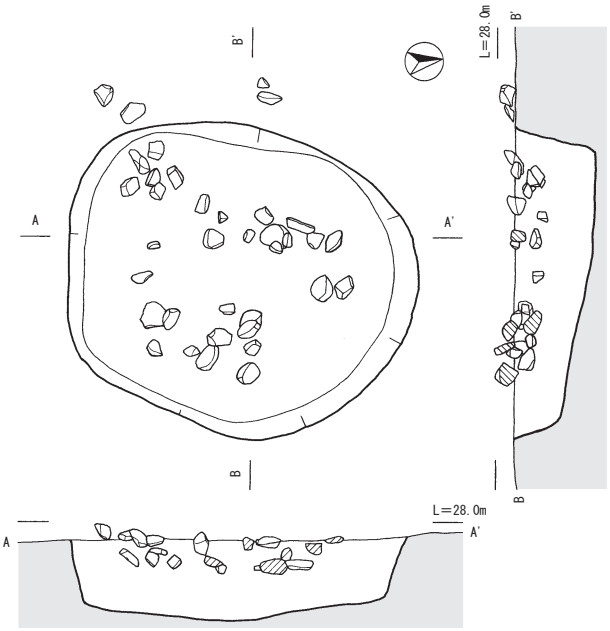
23号集石



24号集石



25号集石



0 (1:20) 50cm

第45図　23 ～ 25号集石

22号集石（SS02：Ⅲ類）　　［第44図］

D－４区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は26個であり，掘り込みは約95×85cmの円形で，検出面からの深さは９cmである。出土遺物は土器１点が出土した。26は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。

23号集石（SS03：Ⅲ類）　　［第45図］

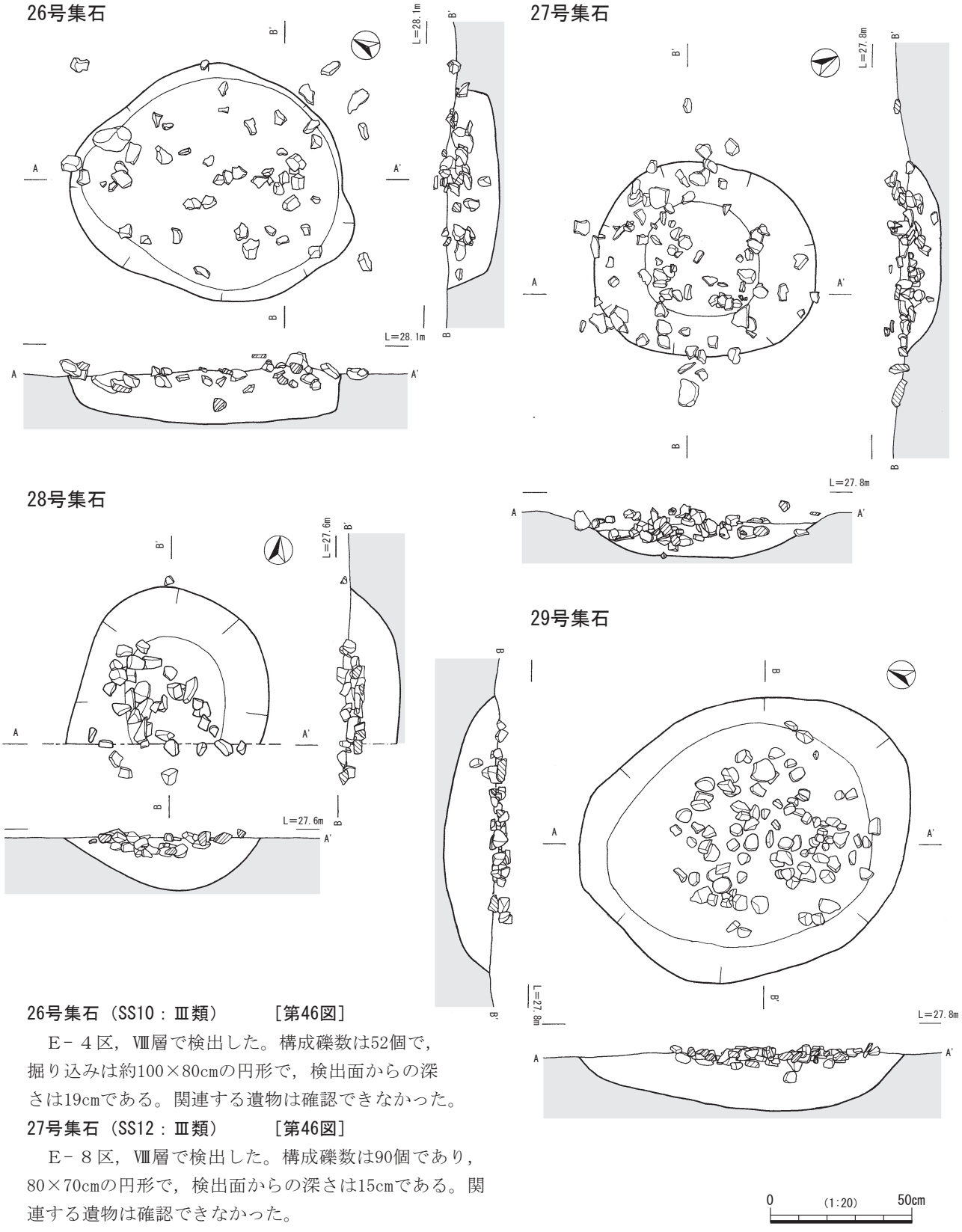
E－４区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は39個であり，掘り込みは約125×100cmの円形で，検出面からの深さは７cmである。関連する遺物は確認できなかった。

24号集石（SS05：Ⅲ類）　　［第45図］

E－４区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は60個であり，掘り込みは約90×(70)cmの円形で，検出面からの深さは26cmである。関連する遺物は確認できなかった。

25号集石（SS08：Ⅲ類）　　［第45図］

C－３区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は36個であり，掘り込みは約95×80cmの円形で，検出面からの深さは21cmである。関連する遺物は確認できなかった。



26号集石（SS10：Ⅲ類）　［第46図］

E－４区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は52個で，掘り込みは約100×80cmの円形で，検出面からの深さは19cmである。関連する遺物は確認できなかった。

27号集石（SS12：Ⅲ類）　［第46図］

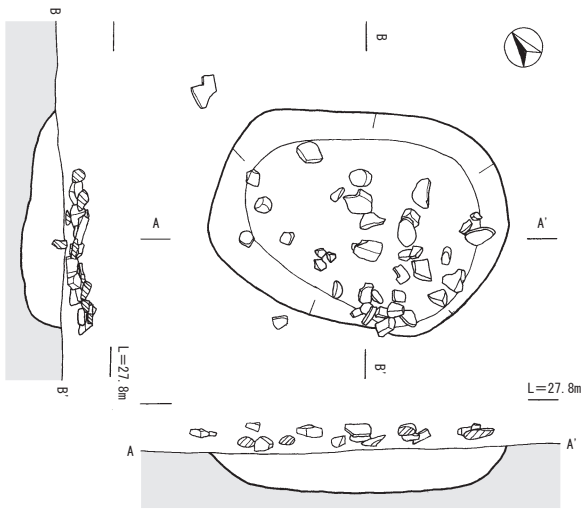
E－８区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は90個であり，80×70cmの円形で，検出面からの深さは15cmである。関連する遺物は確認できなかった。

28号集石（SS14：Ⅲ類）　［第46図］

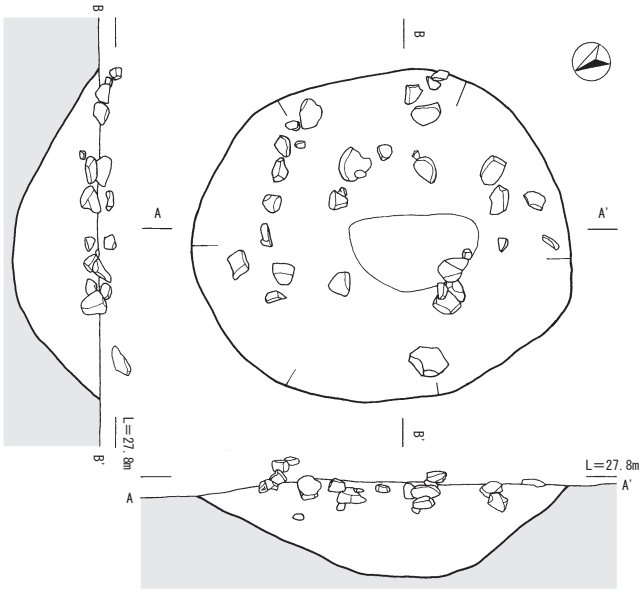
E－７区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は37個であり，掘り込みは（55）×（70）cmのやや楕円形で，検出面からの深さは18cmである。土器片の口縁部が出土したが小片のため図化には至らなかった。

第46図　26 ～ 29号集石

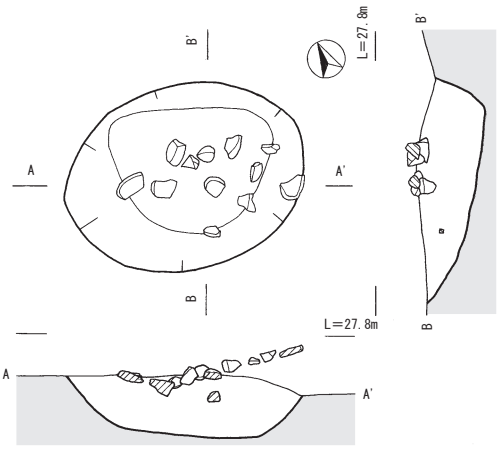
30号集石



31号集石



32号集石



29号集石（SS15：Ⅲ類）　［第46図］

C－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は90個であり，掘り込みは約115×100cmの円形で，検出面からの深さは21cmである。関連する遺物は確認できなかった。

30号集石（SS16：Ⅲ類）　［第47図］

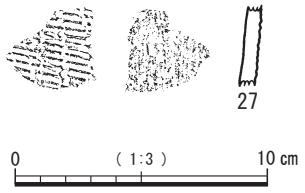
C－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は39個であり，掘り込みは約80×60cmの円形で，検出面からの深さは12cmである。南側にはシミ状の広がりが見られる。関連する遺物は確認できなかった。

31号集石（SS18：Ⅲ類）　［第47図］

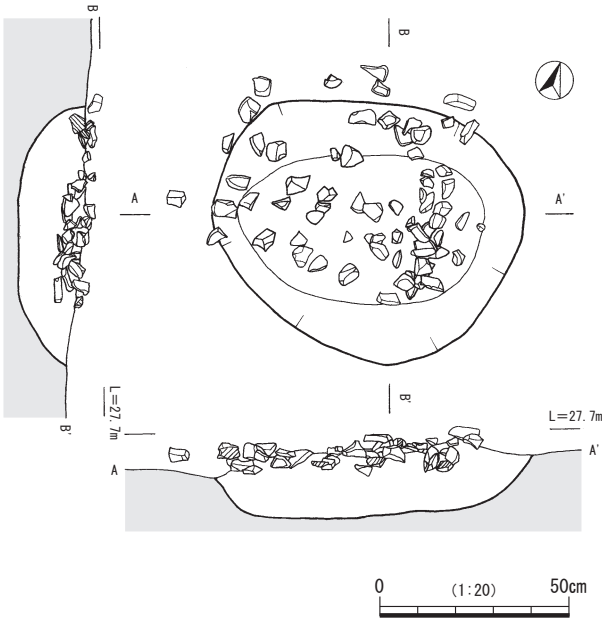
E－８区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は33個であり，掘り込みは約100×90cmの円形で，検出面からの深さは25cmである。出土遺物は土器１点が出土した。27は円筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。

32号集石（SS20：Ⅲ類）　［第47図］

C・D－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は13個であり，掘り込みは約65×50cmの円形で，検出面からの深さは17cmである。関連する遺物は確認できなかった。

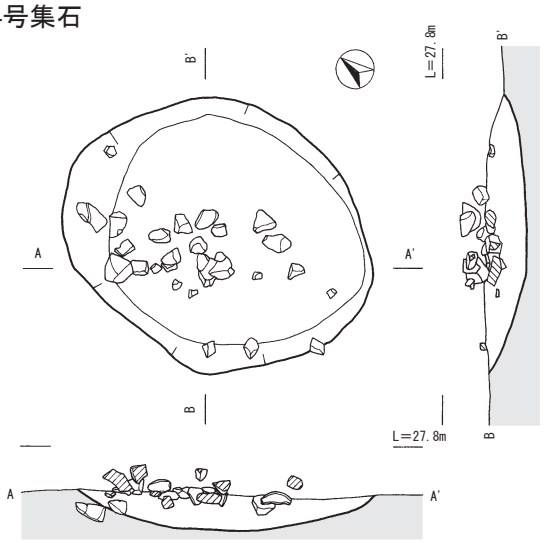


33号集石

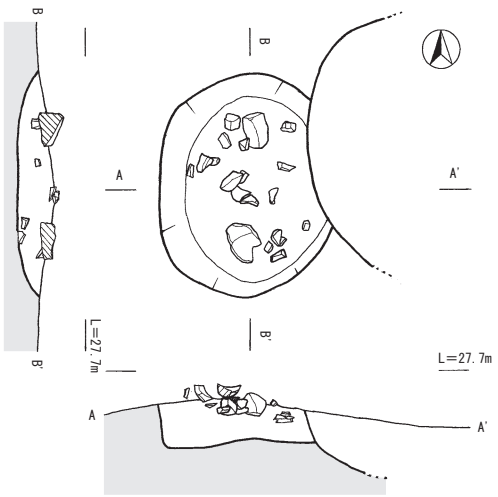


第47図　30 ～ 33号集石・出土遺物

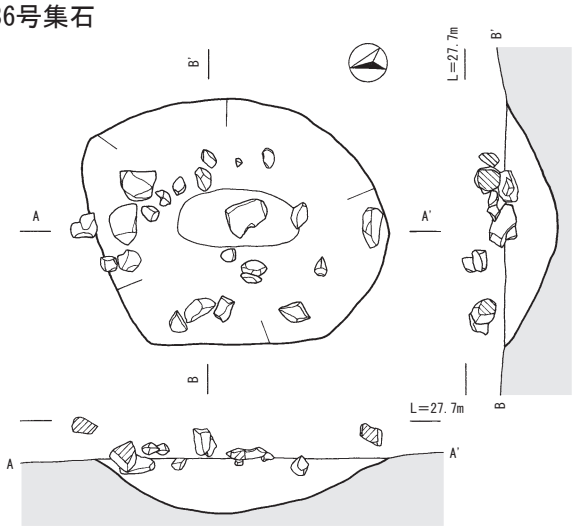
34号集石



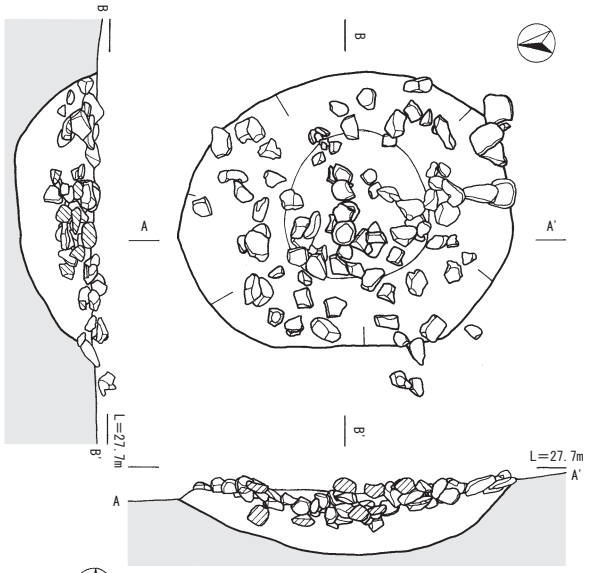
35号集石



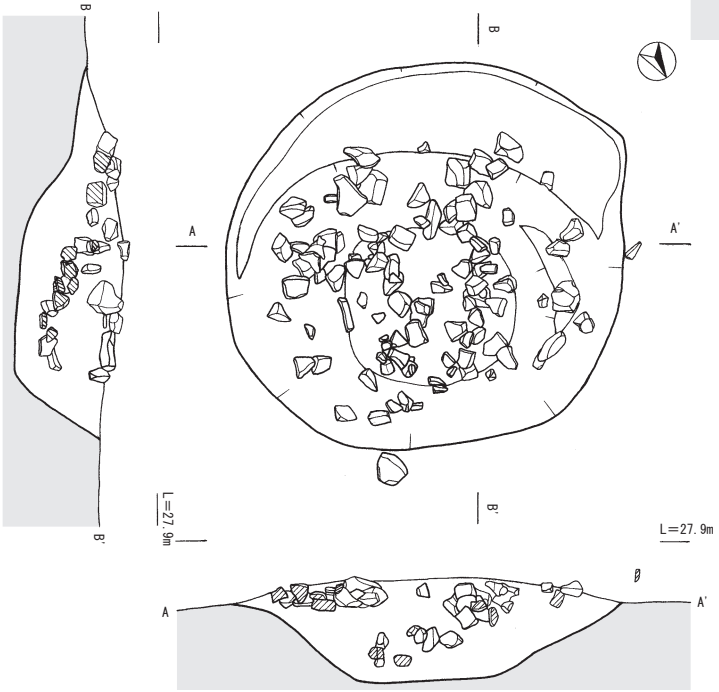
36号集石

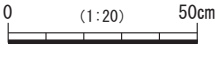


37号集石



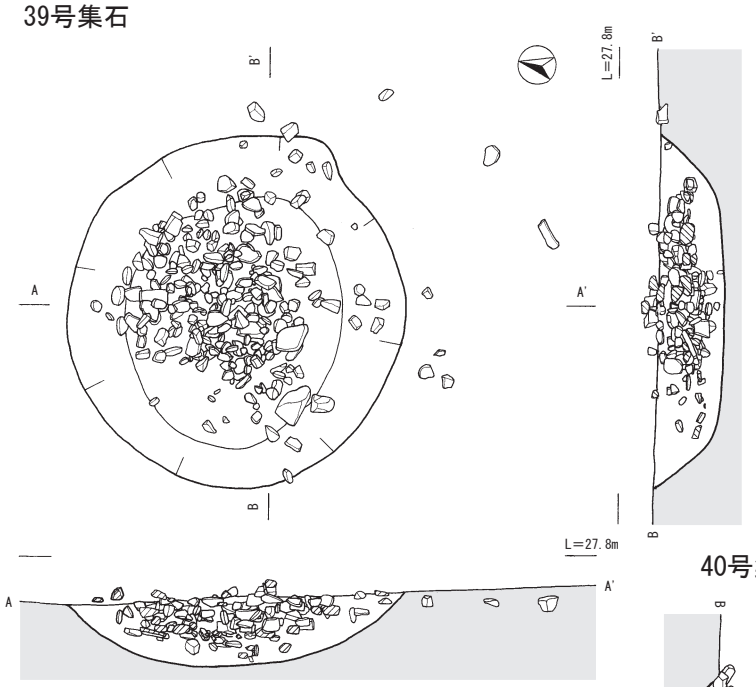
38号集石



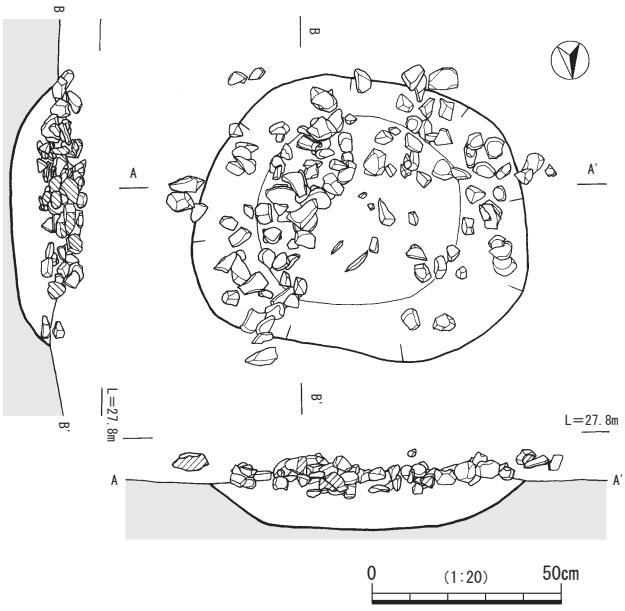


第48図　34 ～ 38号集石

39号集石



40号集石



第49図　39･40号集石

33号集石（SS21：Ⅲ類）　　［第47図］

E－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は67個であり，掘り込みは約80×70cmの円形で，検出面からの深さは18cmである。関連する遺物は確認できなかった。

34号集石（SS23：Ⅲ類）　　［第48図］

E－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は29個であり，掘り込みは約85×65cmの円形で，検出面からの深さは11cmである。関連する遺物は確認できなかった。

35号集石（SS24：Ⅲ類）　　［第48図］

E－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は20個であり，掘り込みは（60）×（40）cmの円形で，検出面からの深さは10cmである。関連する遺物は確認できなかった。

36号集石（SS26：Ⅲ類）　　［第48図］

E－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は23個であり，掘り込みは約85×65cmの円形で，検出面からの深さは14cmである。関連する遺物は確認できなかった。

37号集石（SS27：Ⅲ類）　　［第48図］

E－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は97個であり，掘り込みは約90×70cmの円形で，検出面からの深さは17cmである。関連する遺物は確認できなかった。

38号集石（SS29：Ⅲ類）　　［第48図］

E－８・９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は107個であり，掘り込みは約105×100cmの円形で，検出面からの深さは21cmである。関連する遺物は確認できなかった。

39号集石（SS31：Ⅲ類）　　［第49図］

E－８区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は287個であり，掘り込みは約95×85cmの円形で，検出面からの深さは17cmである。関連する遺物は確認できなかった。

40号集石（SS32：Ⅲ類）　　［第49図］

E－８区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は124個であり，掘り込みは約90×75cmの円形で，検出面からの深さは14cmである。関連する遺物は確認できなかった。

41号集石（SS33：Ⅲ類）　　［第50図］

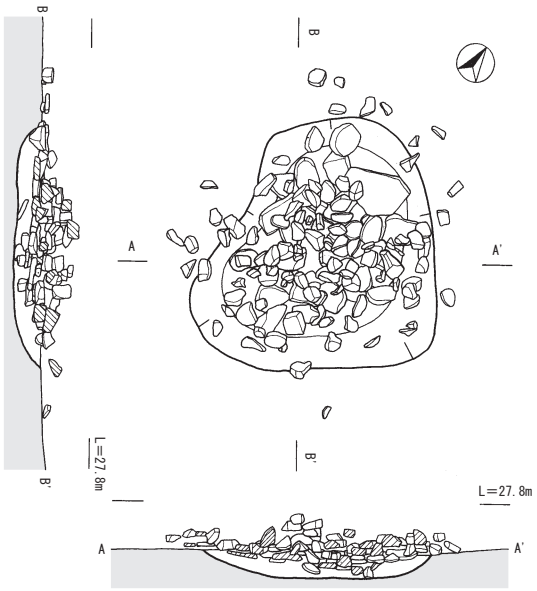
E－８区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は144個であり，掘り込みは約70×60cmの不定形で，検出面からの深さは６cmである。関連する遺物は確認できなかった。

42号集石（SS34：Ⅲ類）　　［第50図］

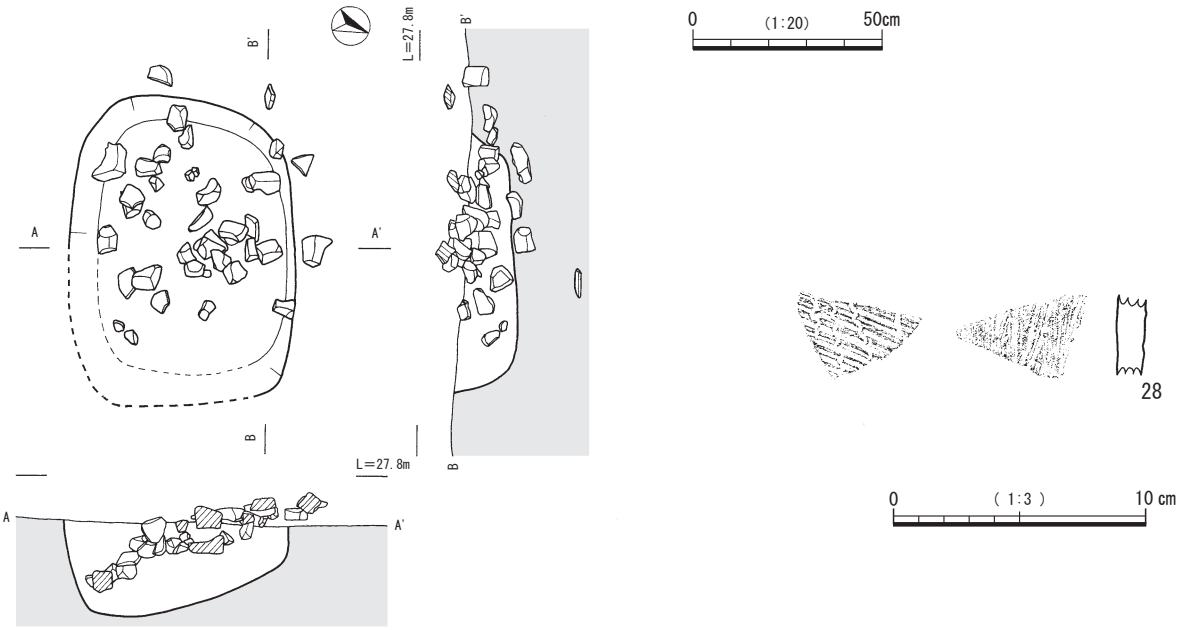
E－８区，Ⅷ層で検出した。10号連穴土坑と切り合っている。構成礫数は54個であり，掘り込みは約85×60cmのやや隅丸方形で，検出面からの深さは13cmである。

出土遺物は土器１点が出土した。28は角筒器形の胴部で，Ⅱ類土器である。（第６表参照）

41号集石



42号集石



第50図　41・42号集石・出土遺物

43号集石（SS30：Ⅲ類）　　[第51図]

E－８区，Ⅷ層で検出した。44号集石を切っている。構成礫数は193個であり，掘り込みは約100×90cmの円形で，検出面からの深さは18cmである。関連する遺物は確認できなかった。

44号集石（SS36：Ⅲ類）　　[第51図]

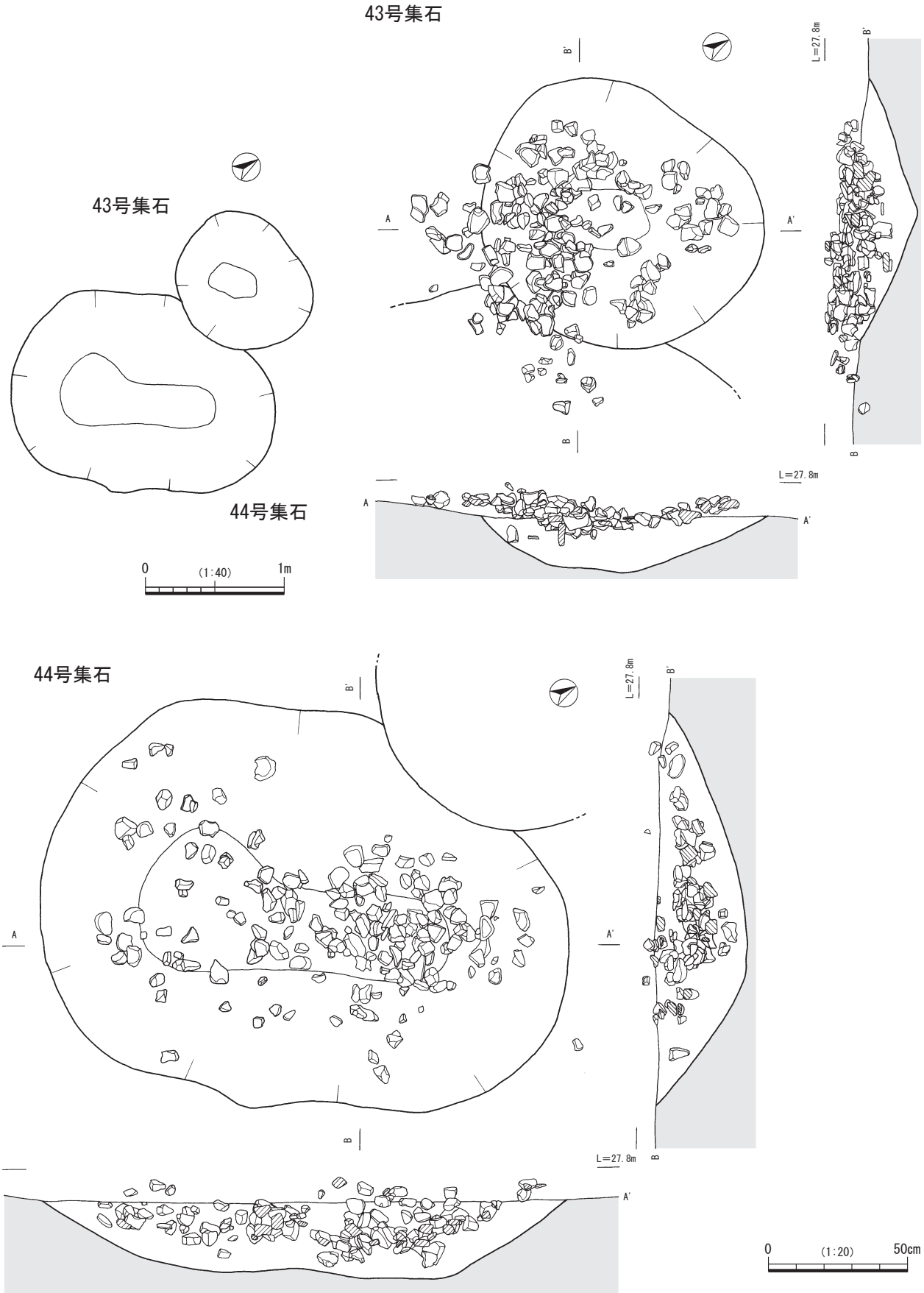
E－８・９区，Ⅷ層で検出した。43号集石に切られている。構成礫数は175個であり，掘り込みは約195×145cmの楕円形で，検出面からの深さは28cmである。関連する遺物は確認できなかった。

45号集石（SS37：Ⅲ類）　　[第52図]

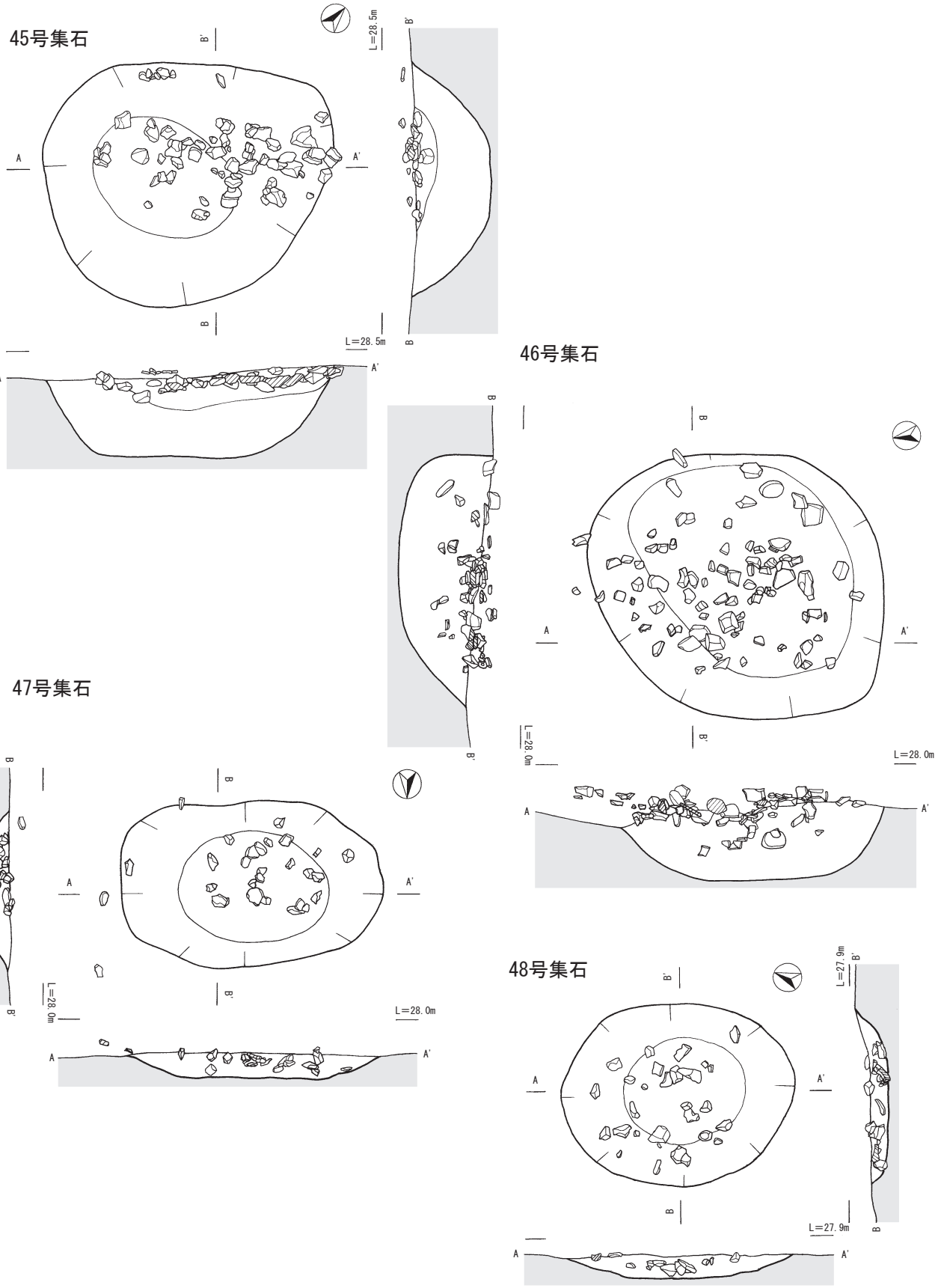
D－６区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は64個であり，掘り込みは約100×85cmの円形で，検出面からの深さは29cmである。関連する遺物は確認できなかった。

46号集石（SS38：Ⅲ類）　　[第52図]

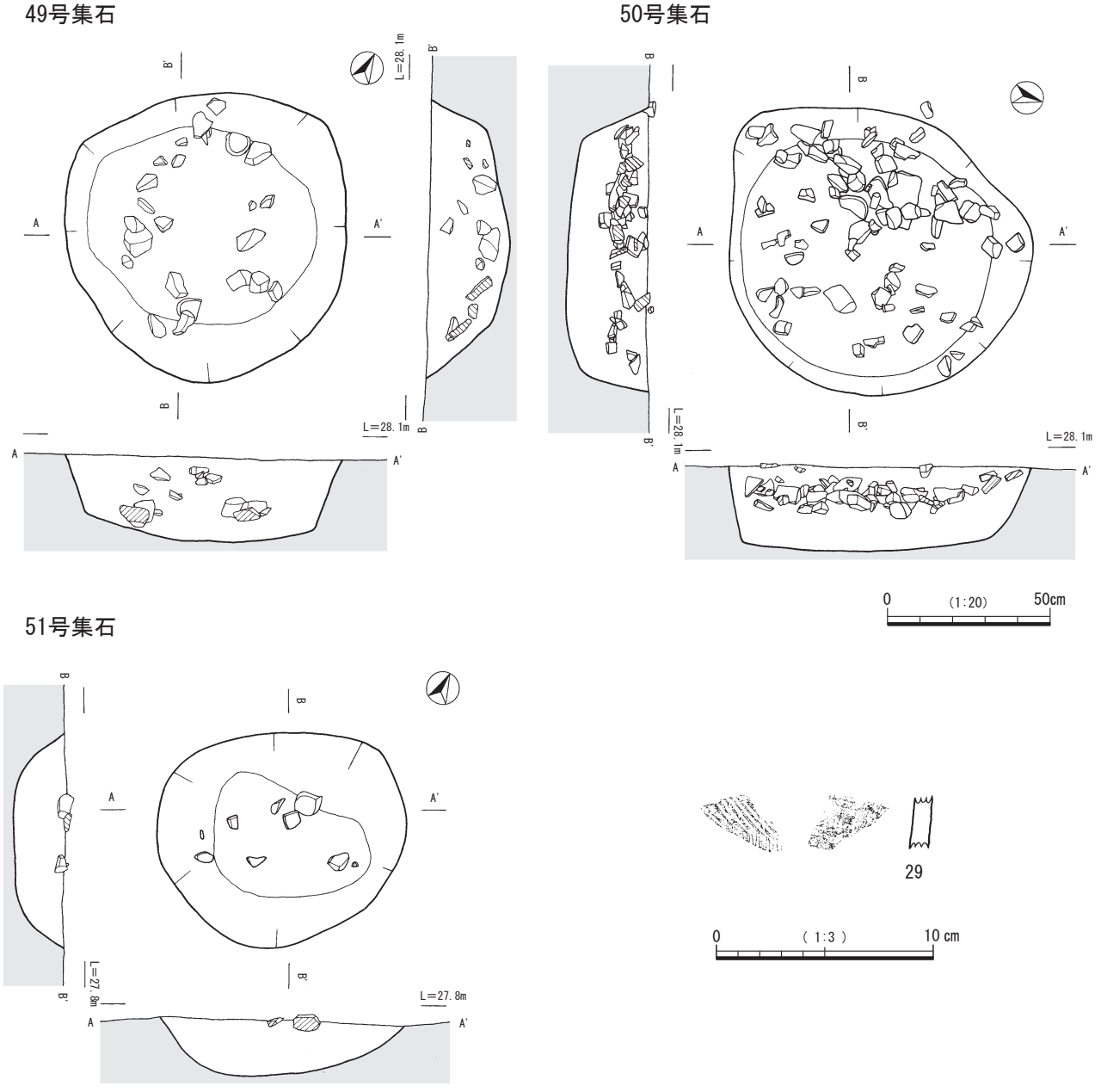
D－６区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は82個であり，掘り込みは約95×90cmの円形で，検出面からの深さは29cmである。関連する遺物は確認できなかった。



第51図　43・44号集石



第52図　45 ～ 48号集石



第53図　49～51号集石・出土遺物

47号集石（SS41：Ⅲ類）　［第52図］

D－５・６区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は28個であり，掘り込みは約95×60cmの楕円形で，検出面からの深さは９cmである。関連する遺物は確認できなかった。

48号集石（SS42：Ⅲ類）　［第52図］

D－５区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は29個であり，掘り込みは約80×65cmの円形で，検出面からの深さは８cmである。関連する遺物は確認できなかった。

49号集石（SK12：Ⅲ類）　［第53図］

D－４区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は25個であり，掘り込みは約85×85cmの円形で，検出面からの深さは26cmである。関連する遺物は確認できなかった。

50号集石（SK22：Ⅲ類）　［第53図］

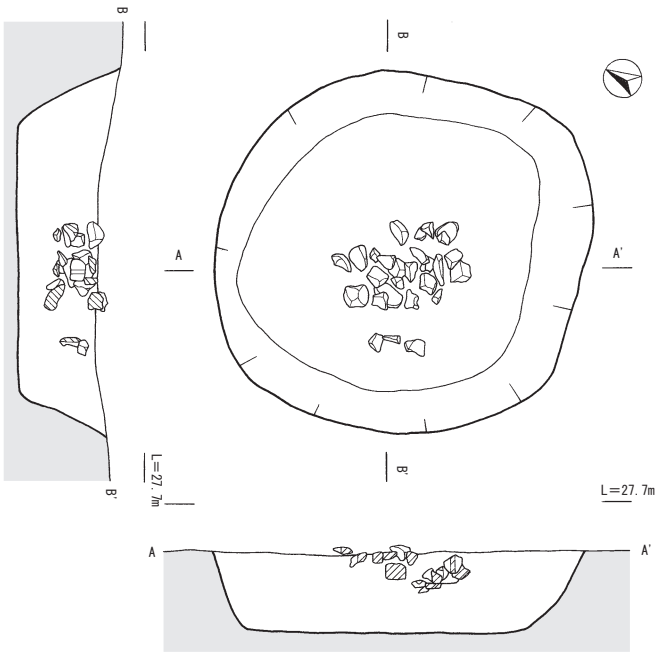
C－５区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は79個であり，掘り込みは約95×85cmの円形で，検出面からの深さは26cmである。関連する遺物は確認できなかった。

51号集石（SK40：Ⅲ類）　［第53図］

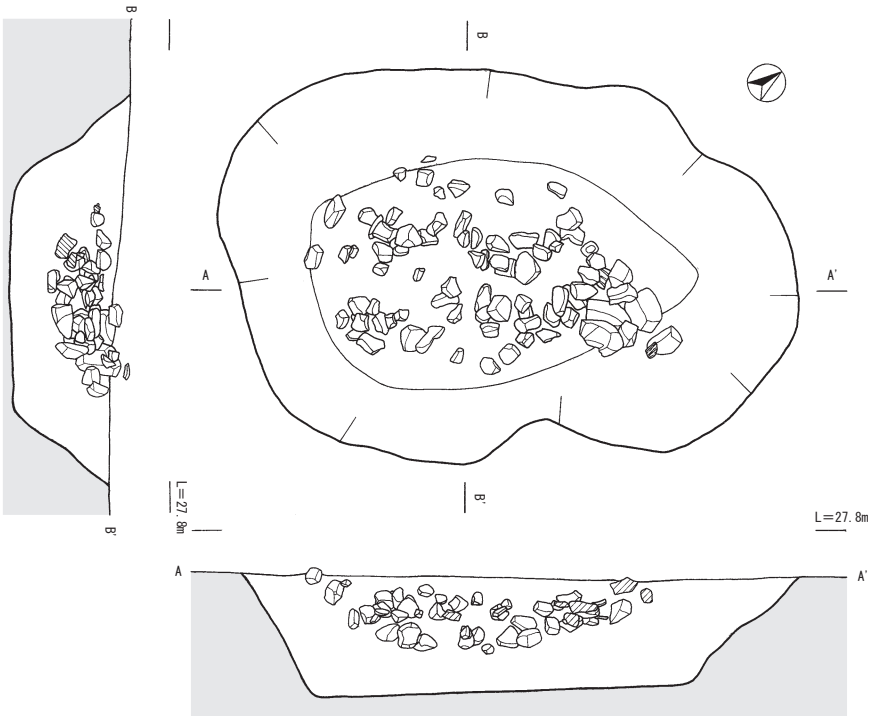
E－４区，Xa層で検出した。15号連穴土坑の再利用遺構と考えられる。構成礫数は７個であり，掘り込みは約75×65cmの円形で，検出面からの深さは16cmである。

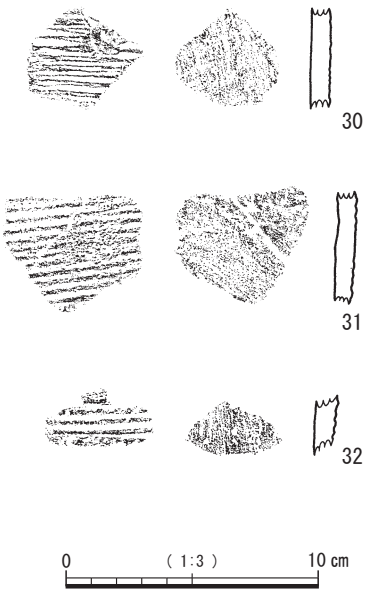
出土遺物は埋土からⅡ類土器２点及び炭化物が出土し，その内１点は小片のため掲載には至らなかった。29は角筒器形の底部付近である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文，縦位の刻目を施す。Ⅱ類土器である。

52号集石



53号集石





第54図　52･53号集石･出土遺物

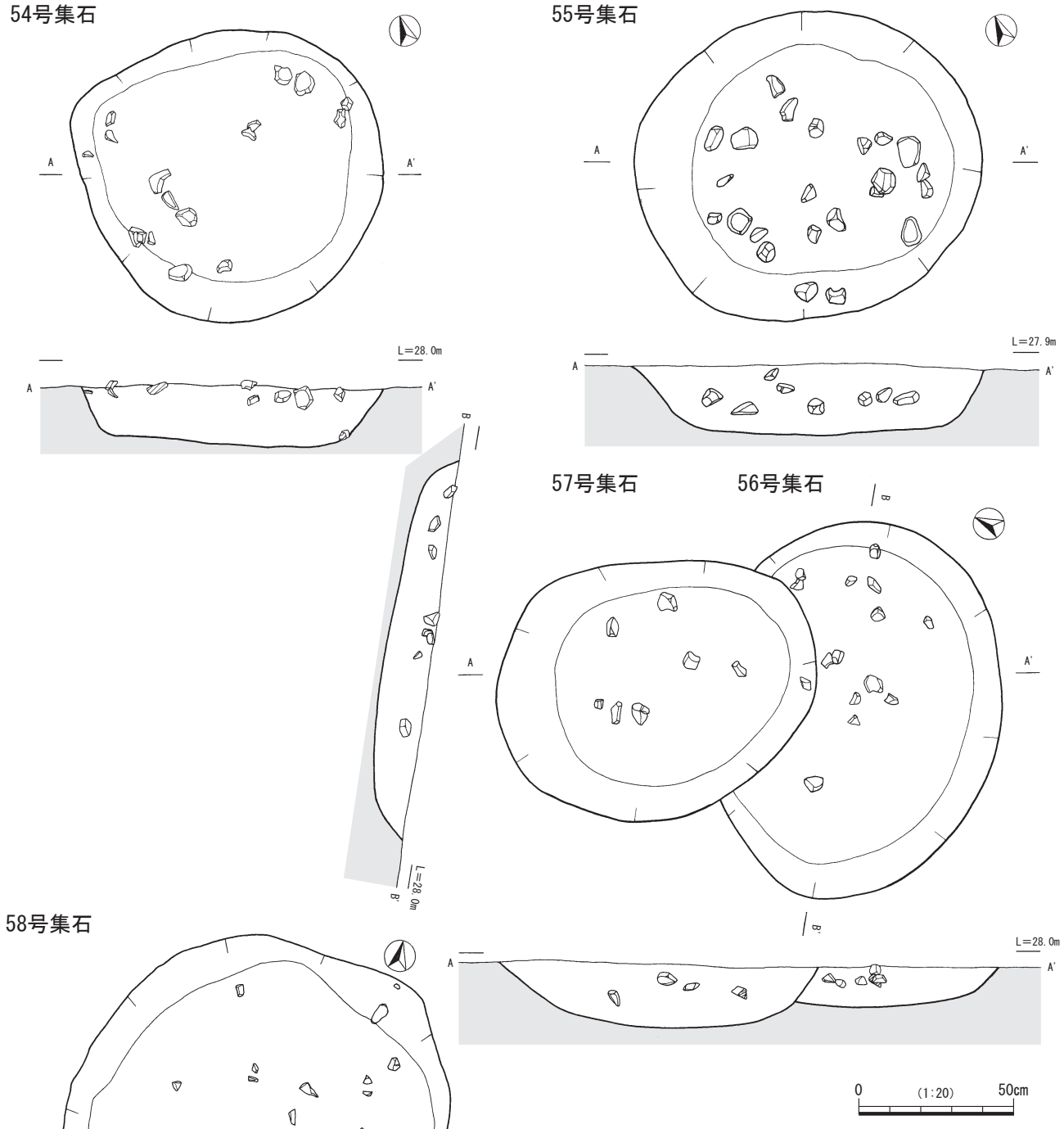
52号集石（SK64：Ⅲ類）　［第54図］

D－６・７区，Xa層で検出した。構成礫数は28個であり，掘り込みは約95×95cmの円形で，検出面からの深さは16cmである。関連する遺物は確認できなかった。

53号集石（SK84：Ⅲ類）　［第54図］

D－６区，Xa層で検出した。構成礫数は80個であり，掘り込みは約150×105cmの楕円形で，検出面からの深さは30cmの掘り込み部を有する。

出土遺物は埋土から土器３点が出土した。30 ～ 32は外面に横位の貝殻条痕を施す胴部である。Ⅰ類土器である。



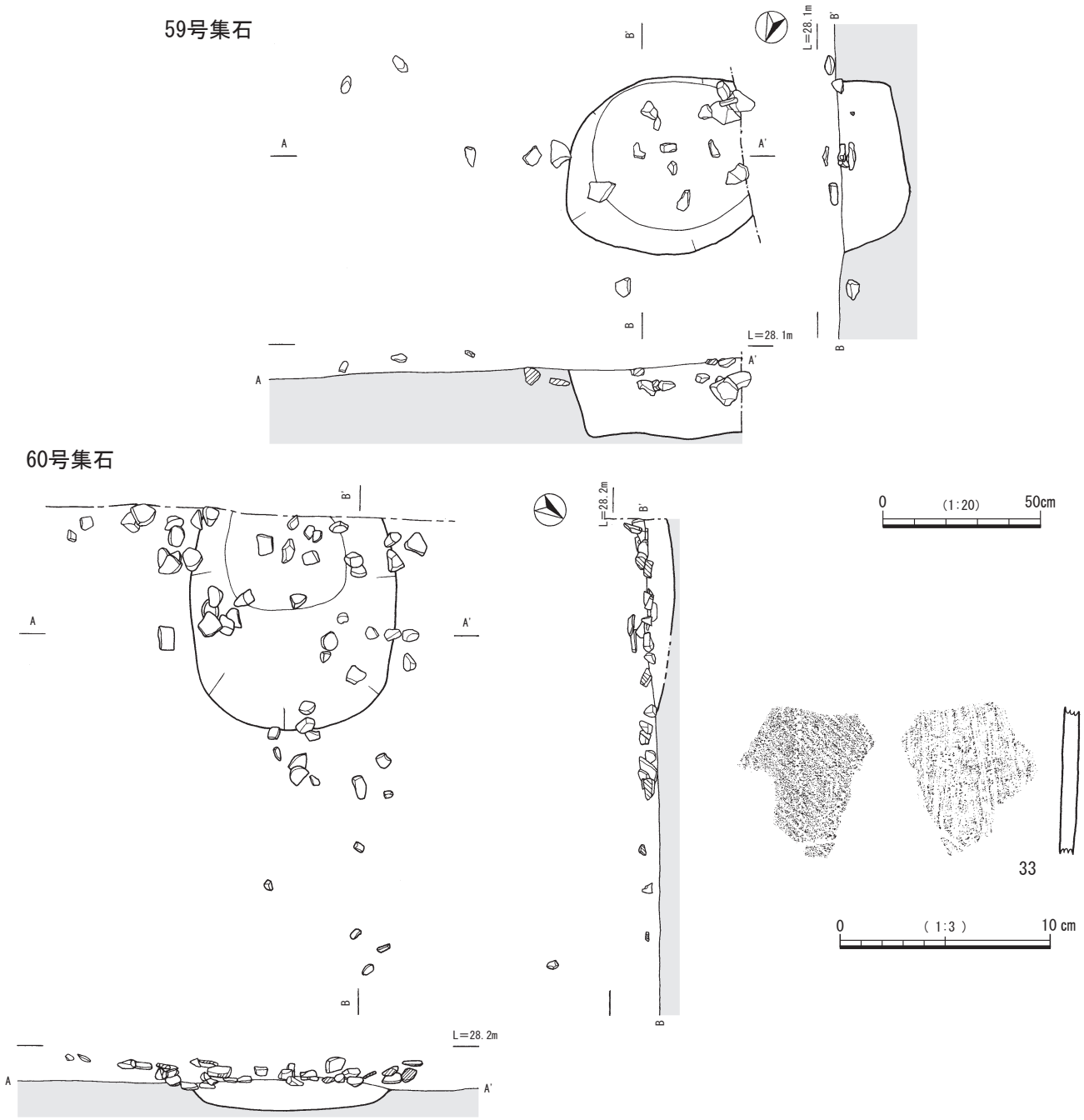
第55図　54 ～ 58号集石

54号集石（土坑９号：Ⅳ類）　［第55図］

B－９区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は17個であり，掘り込みは約95×95cmの円形で，検出面からの深さは19cmの掘り込み部を有する。関連する遺物は確認できなかった。

55号集石（土坑15号：Ⅳ類）　［第55図］

B－９区，Ⅸ層上面で検出した。構成礫数は23個であり，掘り込みは約110×100cmの円形で，検出面からの深さは23cmの掘り込み部を有している。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。



第56図　59･60号集石･出土遺物

56号集石（土坑６号：Ⅳ類）　［第55図］

Ｂ－８区，Ⅸ層上面で検出した。土坑18号に切られている。確認できた構成礫数は13個である。掘り込みは約110×95cmの楕円形で，検出面からの深さは21cmである。出土遺物はⅢ類土器１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。また，埋土から炭化物が出土した。

57号集石（土坑18号：Ⅳ類）　［第55図］

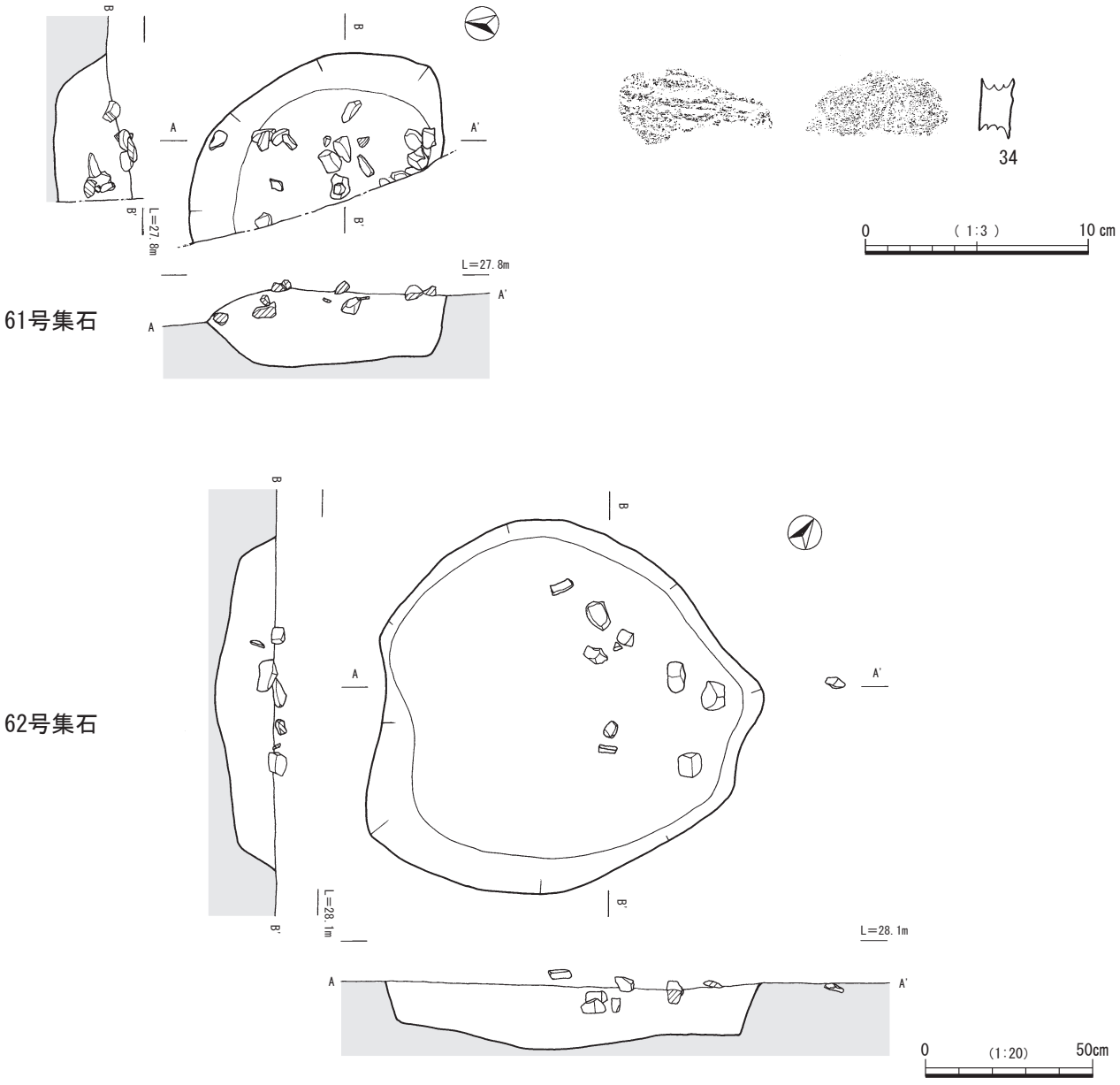
Ｂ－８区，Ⅸ層上面で検出した。土坑６号を切っており，構成礫数は８個と少ないが，掘り込みは約105×85cmの円形で，検出面からの深さは20cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

58号集石（土坑19号：Ⅳ類）　［第55図］

Ｂ－９区，Ⅸ層で検出した。構成礫数は21個であり，掘り込みは約140×125cmの円形で，検出面からの深さは23cmである。出土遺物はⅢ類土器１点が出土したが，小片のため掲載には至らなかった。また，埋土から炭化物が出土した。

59号集石（SS04：Ⅳ類）　［第56図］

Ｅ－４区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は20個であり，掘り込みは約(55)×55cmの円形で，検出面からの深さは20cmである。関連する遺物は確認できなかった。



第57図　61･62号集石･出土遺物

60号集石（SS06：Ⅳ類）　［第56図］

E－４区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は56個であり，掘り込みは約65×(65)cmの楕円形で，検出面からの深さは10cmである。出土遺物は土器１点が出土した。33は角筒器形の胴部である。内外面とも摩滅しており，外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。

61号集石（SS07：Ⅳ類）　［第57図］

D－４区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は19個であり，掘り込みは約(80)×(40)cmの楕円形で，検出面からの深さは22cmである。出土遺物は土器２点が出土し，Ⅱ類土器１点は小片のため掲載には至らなかった。34は外面に横位の貝殻条痕を施す胴部である。Ⅰ類土器である。

62号集石（SS09：Ⅳ類）　［第57図］

D・E－４区，Ⅷ層で検出した。構成礫は11個と少ないが，掘り込みは約115×110cmの円形で，検出面からの深さは19cmである。関連する遺物は確認できなかった。

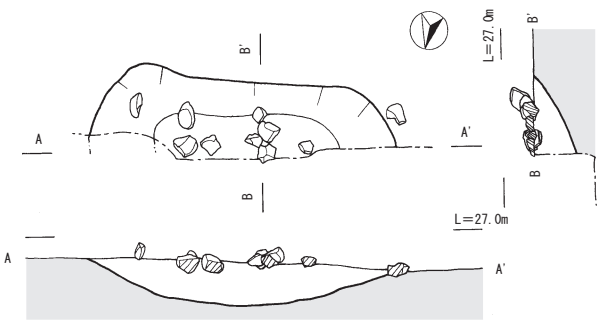
63号集石（SS13：Ⅳ類）　［第58図］

C－４区，Ⅸa層で検出した。構成礫数は10個であり，掘り込みは約180×(20)cmの楕円形で，検出面からの深さは11cmである。関連する遺物は確認できなかった。

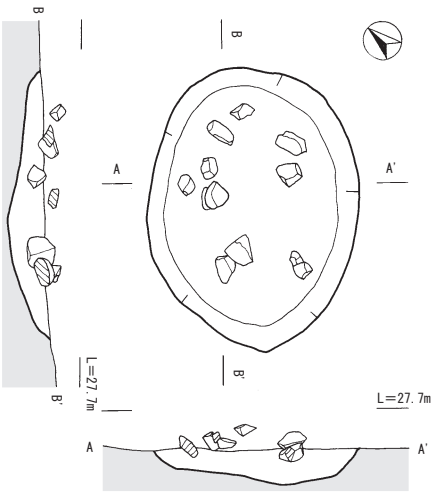
64号集石（SS35：Ⅳ類）　［第58図］

E－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は12個であり，掘り込みは約85×55cmの円形で，検出面からの深さは10cmである。関連する遺物は確認できなかった。

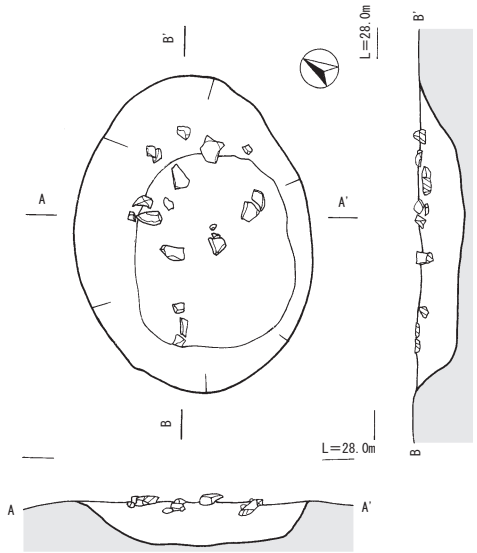
63号集石



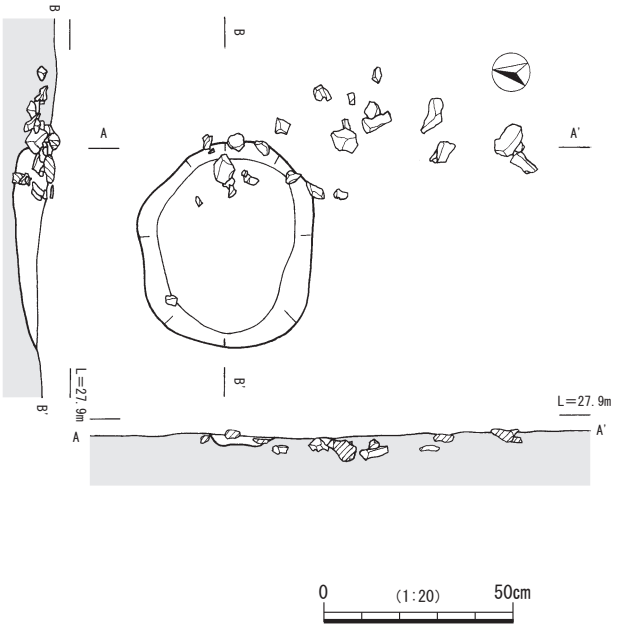
64号集石



65号集石



66号集石



第58図　63 ～ 66号集石

65号集石（SS39：Ⅳ類）　　［第58図］

D－６区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は19個であり，掘り込みは約85×60cmの円形で，検出面からの深さは12cmである。炭化物が１点出土している。関連する遺物は確認できなかった。

66号集石（SS40：Ⅳ類）　　［第58図］

D－６区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は28個であり，掘り込みは約55×45cmの円形で，検出面からの深さは９cmである。関連する遺物は確認できなかった。

67号集石（SK50：Ⅳ類）　　［第59図］

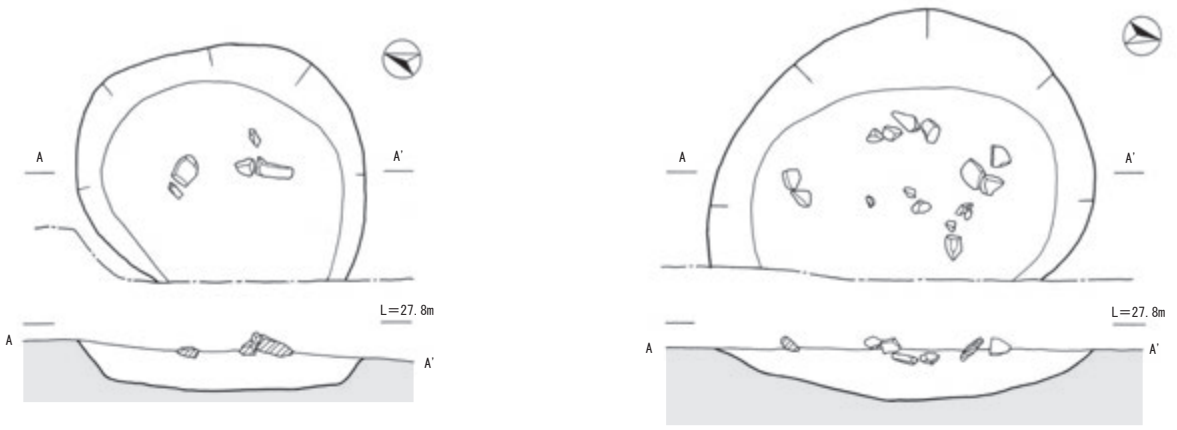
C－７・８区，Ⅸa層で検出した。構成礫数は５個であり，集中部は見られない。掘り込みは約75×(60)cmの円形で，検出面からの深さは11cmである。関連する遺物は確認できなかった。

68号集石（SK51：Ⅳ類）　　［第59図］

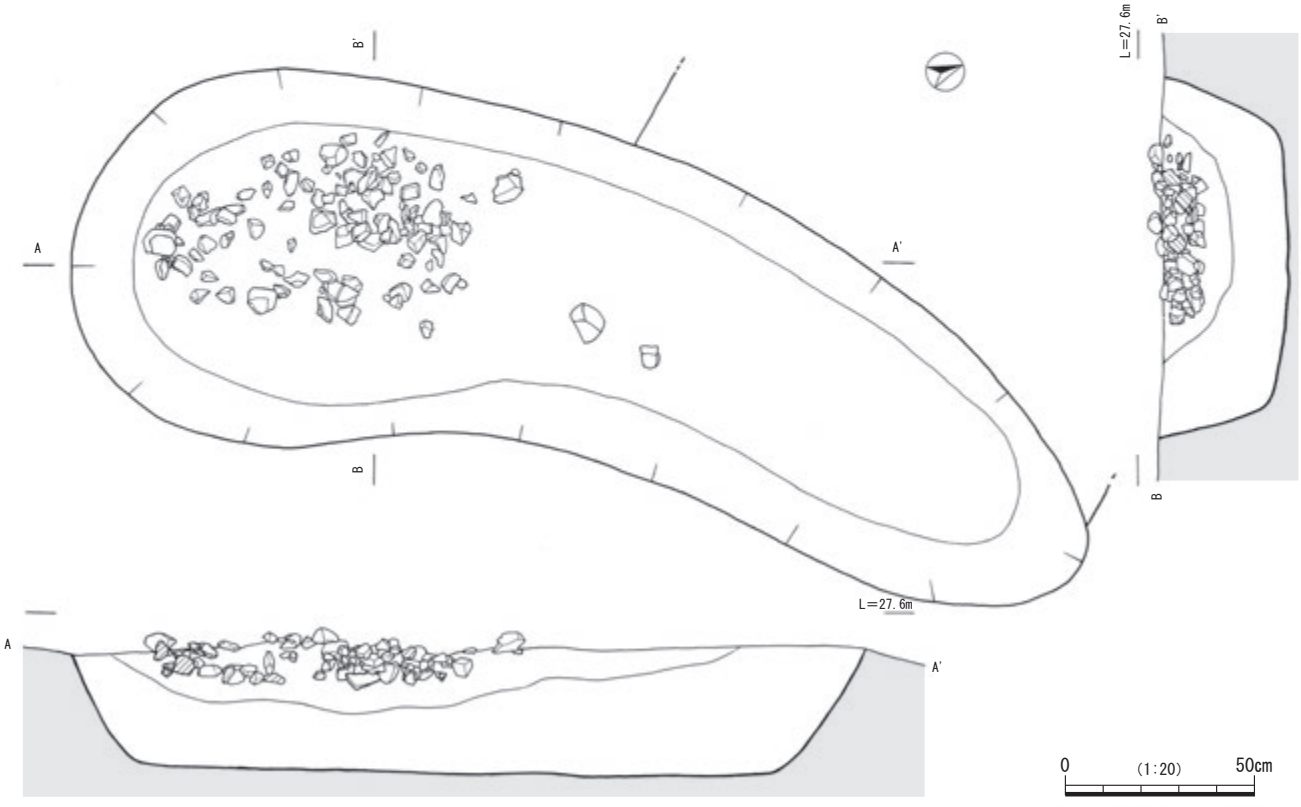
C－８区，Ⅸa層で検出した。構成礫数は16個であり，掘り込みは約100×(70)cmの円形で，検出面からの深さは13cmである。関連する遺物は確認できなかった。

67号集石

68号集石



69号集石



第59図　67 ～ 69号集石

69号集石（SK52：Ⅳ類）　［第59図］

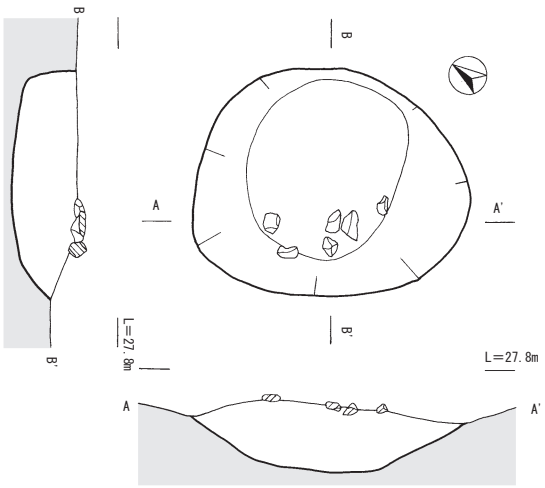
E－７区，Ｘａ層で検出した。77号土坑を切っている。構成礫数は106個であり，掘り込みは約210×95cmの長楕円形で，検出面からの深さは32cmである。

埋土から炭化物が出土した。

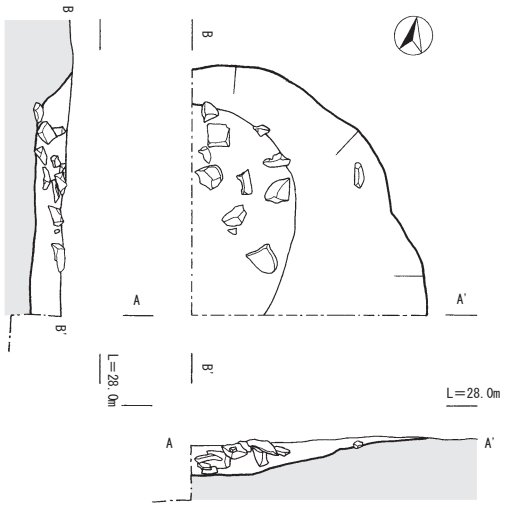
70号集石（SK95：Ⅳ類）　［第60図］

C－９区，Ⅷ層で検出した。構成礫数は６個であり，掘り込みは約70×60cmの円形で，検出面からの深さは17cmである。関連する遺物は確認できなかった。

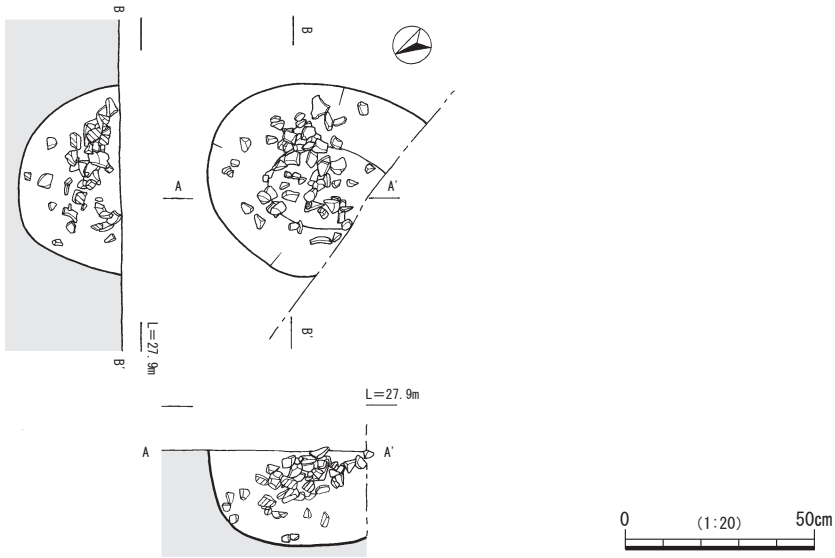
70号集石



71号集石



72号集石



第60図　70 ～ 72号集石

71号集石（SK94：Ⅴ類）　［第60図］

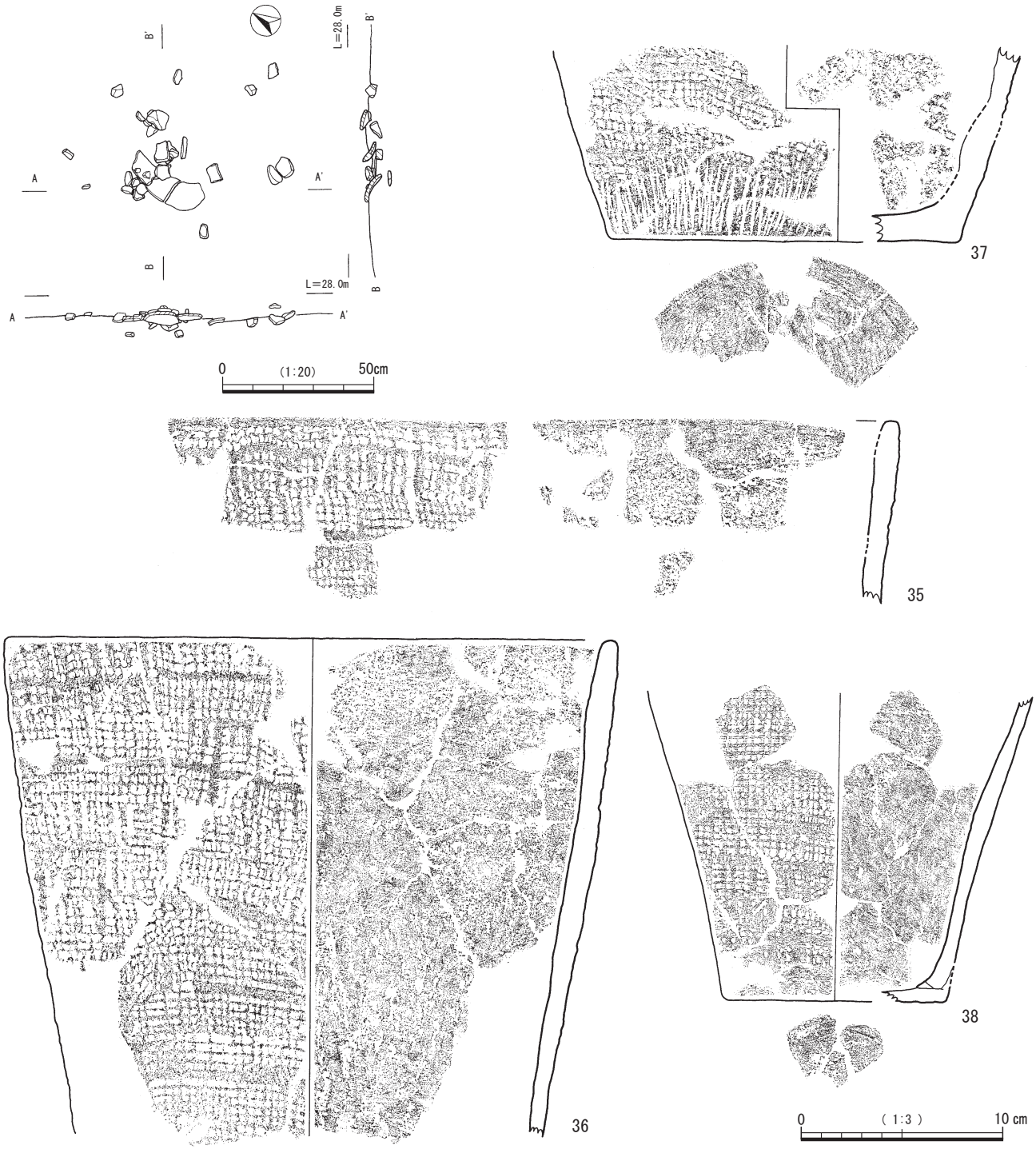
D－５区，Ⅷ層で検出した。形状不明のため分類は不明とした。構成礫数は確認できた部分で12個，検出面からの深さは８cmである。関連する遺物は確認できなかった。

72号集石（SK26 ：Ⅴ類）　［第60図］

E－４区，Xa層で検出した。６号連穴土坑（SK26 SK27）の従穴部の埋没が進んだ凹地を再利用したものと考えられる。そのため分類は不明とした。構成礫数は67個，検出面からの深さは29cmである。関連する遺物は確認できなかった。

（４）土器溜まり（SU01）［第61図］

Ｅ－５区，Ⅷ層で検出した。35～37は接合はしないものの，文様・胎土・焼成等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。なお，37は包含層出土土器である。底部から口縁部まで直線的に立ち上がり，口唇部に平坦面を作り出す。口径は30.4㎝，底径は17.6㎝であり，外面の全面に貝殻刺突文を連続して横位に施す。部分的に貝殻腹縁をロッキングしたり，押引き状に施している。底部境から貝殻刺突文とは異なる施文具を用いて，やや長めの刻目のような相交弧文を施している。器面調整は両面とも丁寧なナデを施している。胎土に石英や長石，白色粒子を多く含む。38は底径10.8㎝と，37に比べると小型の底部である。35～37と同様に，外面には貝殻刺突を連続して横位に施し，内面は丁寧なナデを施している。すべてⅢ類土器である。



第61図　土器溜まり・出土遺物

第５表　集石観察表

（　）は欠損部分までの測定値

遺構名	旧遺構名	検出区	検出面	総礫数（個）	分類	大きさ（cm）		掘り込み部		出土土器	石材別個数					構成礫　重量（g）別個数								備考
						長軸	短軸	有無	深さ（cm）		安山岩	ホルンフェルス	砂岩	凝灰岩	その他	1～100	101～200	201～300	301～400	401～500	501～600	600～700	701～	
1号集石	ＳＳ11	E-8	Ⅷ	15	Ⅰ	—	—	×	—	×	9	—	5	1		15								
2号集石	ＳＳ19	E-10	Ⅷ	20	Ⅰ	—	—	×	無	口縁胴部	1	5	12	2		20								C-14年代測定
3号集石	集石2号	B-10	Ⅷ	28	Ⅱ	—	—	×	—	×	—	—	—	—		18	6	3	1					炭化物
4号集石	ＳＳ22	E-9	Ⅷ	11	Ⅱ	—	—	×	無	×	—	—	10	1		11								
5号集石	ＳＳ25	E-9	Ⅷ	12	Ⅱ	—	—	×	無	×	1	—	11	—		10	2							
6号集石	ＳＳ28	E-9	Ⅷ	13	Ⅱ	—	—	×	無	×	4	—	9	—		11	2							
7号集石	集石1号	B-13.14	Ⅷ	188	Ⅲ	105	95	○	21	×	—	—	—	—		128	47	11	2					
8号集石	土坑1号	B-8	Ⅸ	147	Ⅲ	135	130	○	32	胴部	—	1	117	1		118	25	4						炭化物
9号集石	土坑2号	B-8	Ⅸ	42	Ⅲ	120	97	○	29	×	—	—	—	—		35	5	2						炭化物
10号集石	土坑3号	B-8	Ⅸ	52	Ⅲ	126	106	○	21	×	—	—	—	—		51	2	1						
11号集石	土坑4号	B-8	Ⅸ	107	Ⅲ	137	110	○	34	×	—	—	—	—	花崗岩1	92	14	1						炭化物
12号集石	土坑5号	B-8	Ⅸ	42	Ⅲ	100	100	○	90	×	—	—	—	—		40	2							炭化物
13号集石	土坑7号	B-8	Ⅸ	79	Ⅲ	105	100	○	21	×	—	—	—	—		70	8	1						
14号集石	土坑8号	B-9	Ⅸ	405	Ⅲ	140	120	○	43	×	—	2	403	—		396	6	1	2					
15号集石	土坑10号	B-9	Ⅸ	57	Ⅲ	120	100	○	25	×	—	—	—	—	花崗岩2	47	10							
16号集石	土坑11号	B-9	Ⅸ	28	Ⅲ	100	100	○	23	胴部	—	—	—	—		22	3	1	1	1				
17号集石	土坑12号	B-9	Ⅸ	76	Ⅲ	110	110	○	33	胴部	—	—	—	—		57	15	3	1					土器・炭化物
18号集石	土坑13号	B-9	Ⅸ	154	Ⅲ	105	105	○	29	×	—	—	—	—		132	17	4	1					炭化物
19号集石	土坑14号	B-9	Ⅸ	39	Ⅲ	110	105	○	23	×	—	—	—	—		32	5	1		1				
20号集石	土坑16号	B-9	Ⅸ	59	Ⅲ	110	105	○	17	×	—	—	—	—		28	17	11	1	1		1		炭化物
21号集石	ＳＳ01	E・F-4	Ⅷ	33	Ⅲ	95	80	○	7	×	3	—	28	2		15	12	3	1	1	1			
22号集石	ＳＳ02	D-4	Ⅷ	26	Ⅲ	95	85	○	9	胴部	1	1	2	2		12	7	3	2			1	1	土器
23号集石	ＳＳ03	E-4	Ⅷ	39	Ⅲ	125	100	○	7	×	1	—	37	1		31	4		2			2		
24号集石	ＳＳ05	E-4	Ⅷ	60	Ⅲ	90	(70)	○	26	×	11	—	30	19		50	10							
25号集石	ＳＳ08	C-3	Ⅷ	36	Ⅲ	95	80	○	21	×	12	1	9	14		26	9	1						
26号集石	ＳＳ10	E-4	Ⅷ	52	Ⅲ	100	80	○	19	×	5	1	46	—		42	9					1		
27号集石	ＳＳ12	E-8	Ⅷ	90	Ⅲ	80	70	○	15	×	15	3	60	9	頁岩3	84	5	1						
28号集石	ＳＳ14	E-7	Ⅷ	37	Ⅲ	(55)	(70)	○	18	口縁部	1	—	33	2	軽石1	19	17	1						
29号集石	ＳＳ15	C-9	Ⅷ	90	Ⅲ	115	100	○	21	×	29	3	49	9		81	9							
30号集石	ＳＳ16	C-9	Ⅷ	39	Ⅲ	80	60	○	12	×	7	1	21	10		35	4							
31号集石	ＳＳ18	E-8	Ⅷ	33	Ⅲ	100	90	○	25	胴部	1	—	25	7		21	10	2						土器
32号集石	ＳＳ20	C・D-9	Ⅷ	13	Ⅲ	65	50	○	17	×	4	—	4	5		12	1							
33号集石	ＳＳ21	E-9	Ⅷ	67	Ⅲ	80	70	○	18	×	—	—	67	—		67								
34号集石	ＳＳ23	E-9	Ⅷ	29	Ⅲ	85	65	○	11	×	1	1	26	1		21	7	1						
35号集石	ＳＳ24	E-9	Ⅷ	20	Ⅲ	(60)	(40)	○	10	×	—	—	20	—		18		1	1					
36号集石	ＳＳ26	E-9	Ⅷ	23	Ⅲ	85	65	○	14	×	3	—	19	1		14	5	2	1		1			
37号集石	ＳＳ27	E-9	Ⅷ	97	Ⅲ	90	70	○	17	×	16	—	64	16	軽石1	81	16							
38号集石	ＳＳ29	E-8・9	Ⅷ	107	Ⅲ	105	100	○	21	×	10	—	95	2		71	27	7	1	1				
39号集石	ＳＳ31	E-8	Ⅷ	287	Ⅲ	95	85	○	17	×	62	54	152	18	チャート1	282	3	2						
40号集石	ＳＳ32	E-8	Ⅷ	124	Ⅲ	90	75	○	14	×	42	1	74	5	軽石2	108	16							
41号集石	ＳＳ33	E-8	Ⅷ	144	Ⅲ	70	60	○	6	×	13	4	89	38		136	7	1						
42号集石	ＳＳ34	E-8	Ⅷ	54	Ⅲ	85	60	○	13	胴部	6	1	44	1	軽石1	30	18	4	1	1				土器
43号集石	ＳＳ30	E-8	Ⅷ	193	Ⅲ	100	90	○	18	×	14	1	168	8	軽石2	150	37	3	1	1			1	SS36を切る
44号集石	ＳＳ36	E-8・9	Ⅷ	175	Ⅲ	195	145	○	28	×	18	2	150	5		109	58	8						SS30に切られる
45号集石	ＳＳ37	D-6	Ⅷ	64	Ⅲ	100	85	○	29	×	4	—	58	2		50	10	4						
46号集石	ＳＳ38	D-6	Ⅷ	82	Ⅲ	95	90	○	29	×	4	1	69	8		69	10	1	2					
47号集石	ＳＳ41	D-5・6	Ⅷ	28	Ⅲ	95	60	○	9	×		—	25	3		28								
48号集石	ＳＳ42	D-5	Ⅷ	29	Ⅲ	80	65	○	8	×	2	—	27	—		27	2							
49号集石	ＳＫ12	D-4	Ⅷ	25	Ⅲ	85	85	○	26	×	1	—	21	3		13	7	2	1	1		1		
50号集石	ＳＫ22	C-5	Ⅷ	79	Ⅲ	95	85	○	26	×	7	—	69	3		56	17	4		1		1		
51号集石	ＳＫ40	E-4	Ⅹa	7	Ⅲ	75	65	○	16	胴部	1	—	6	—		5	1	1						炭化物・土器
52号集石	ＳＫ64	D-6・7	Ⅹa	28	Ⅲ	95	95	○	16	×	4		23	1		21	4	3						
53号集石	ＳＫ84	D-6	Ⅹa	80	Ⅲ	150	105	○	30	胴部	8	2	64	6		35	28	9	4	1		1	2	土器
54号集石	土坑9号	B-9	Ⅸ	17	Ⅳ	95	95	○	19	×	—	—	—	—		13	3	1						
55号集石	土坑15号	B-9	Ⅸ	23	Ⅳ	110	100	○	23	×	—	—	—	—	軽石1	15	7	1						炭化物
56号集石	土坑6号	B-8	Ⅸ	13	Ⅳ	110	95	○	21	胴部	—	—	—	—		13								土坑18号に切られる
57号集石	土坑18号	B-8	Ⅸ	8	Ⅳ	105	85	○	20	×	—	—	—	—		8								土坑6号を切る 炭化物
58号集石	土坑19号	B-9	Ⅸ	21	Ⅳ	140	125	○	23	胴部	—	—	—	—		21								炭化物
59号集石	ＳＳ04	E-4	Ⅷ	20	Ⅳ	(55)	55	○	20	×	6	—	12	1	軽石1	13	5	1	1					
60号集石	ＳＳ06	E-4	Ⅷ	56	Ⅳ	65	(65)	○	10	胴部	15	1	25	15		44	11	1						土器
61号集石	ＳＳ07	D-4	Ⅷ	19	Ⅳ	(80)	(40)	○	22	胴部	4	—	8	7		13	4	2						土器
62号集石	ＳＳ09	D・E-4	Ⅷ	11	Ⅳ	115	110	○	19	×	3	—	6	2		6	1	2	1	1				
63号集石	ＳＳ13	C-4	Ⅸa	10	Ⅳ	180	(20)	○	11	×	1	—	8	1		8	2							
64号集石	ＳＳ35	E-9	Ⅷ	12	Ⅳ	85	55	○	10	×	—	—	12	—		4	6	1		1				
65号集石	ＳＳ39	D-6	Ⅷ	19	Ⅳ	85	60	○	12	×	4	—	15	—		19								炭化物
66号集石	ＳＳ40	D-6	Ⅷ	28	Ⅳ	55	45	○	9	×	1	—	19	7	軽石1	26	2							
67号集石	ＳＫ50	C-7・8	Ⅸa	5	Ⅳ	75	(60)	○	11	×	—	—	5	—		3	1	1						
68号集石	ＳＫ51	C-8	Ⅸa	16	Ⅳ	100	(70)	○	13	×	5		10		軽石1	14	2							
69号集石	ＳＫ52	E-7	Ⅹa	106	Ⅳ	210	95	○	32	×		1	105			82	19	4			1			炭化物
70号集石	ＳＫ95	C-9	Ⅷ	6	Ⅳ	70	60	○	17	×						6								
71号集石	ＳＫ94	D-5	Ⅷ	12	Ⅴ	—	—	○	8	×						9	3							
72号集石	ＳＫ26	E-4	Ⅹa	67	Ⅴ	—	—	○	29	×	1	—	65	—	不明1	66	1							SK27と連穴土坑

第６表　遺構内出土土器観察表

挿図番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量（cm）			主文様・調整		胎土						色調		出土区		層位	取上番号	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母	外面	内面					
16	1	Ⅱ	深鉢	口縁～底部			23.1	貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい褐色	にぶい褐色	E	6	Xa	SK83-2・3・5・7・8・10・11・13～15・17	
	2	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○				にぶい褐色	にぶい褐色	E	6	Xa	SK83-6	
17	3	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい褐色	E	8	Xa	SK112-1	
																		E	7	Ⅷ	4006	
																		E	8	Ⅷ	4827	
22	4	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○				○	にぶい黄褐色	にぶい褐色	D	8	Xa	SK134-1	
	5	Ⅱ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○		○	○		にぶい褐色	褐色	D	8	Xa	SK137-1	
																		E	6	Ⅷ	3935・一括	
	6	Ⅱ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい褐色	にぶい褐色	E	4	Xa	SK39-1・SK54-1	
																		E	5	Xa		
																		E	4	Ⅷ	3343・3344・3631	
																		E	4	Ⅸa	3561・3562	
																		E	5	Ⅷ	3443・3894	
23	7	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				褐灰色	にぶい褐色	E	5	Xa	SK55-1	
	8	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○				橙色	橙色	E	5	Xa	SK139-1	
24	9	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	橙色	E	6	Xa	SK67-1	
25	10	Ⅱ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				暗赤褐色	にぶい赤褐色	E	6・7	Xa	SK71-8・9	
	11	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				赤褐色	にぶい赤褐色	E	6・7	Xa	SK71一括	
	12	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				暗褐色	明赤褐色	E	6・7	Xa	SK71一括	
	13	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	赤褐色	E	6・7	Xa	SK71一括	
	14	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻条痕・キザミ	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	E	6・7	Xa	SK71一括	
	15	Ⅱ	深鉢	底部				貝殻条痕・キザミ	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	橙色	E	6・7	Xa	SK71-1	
26	16	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○					赤褐色	暗赤褐色	E	8	Xa	SK110-2	
	17	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○					明赤褐色	にぶい橙色	E	8	Xa	SK110-3・4	
28	18	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○				褐色	にぶい黄橙色	E	4	Xa	SK23-1	
35	19	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	D	6・7	Xa	SK65-1	
	20	Ⅱ	深鉢	胴部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	D	6・7	Xa	SK65-2	
	21	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				褐色	にぶい赤褐色	D	6・7	Xa	SK117-1	
36	22	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	明赤褐色	D	7	Xa	SK125-1	
38	23	Ⅲ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・ナデ	ナデ	○	○		○			にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	E	10	Ⅷ	SS19-12・13	
	24	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突・ナデ	ナデ	○	○		○			にぶい黄橙色	灰黄褐色	E	10	Ⅷ	SS19-6	
43	25	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい褐色	橙色	B	9	Ⅸ	土坑12-41	
																		E	5	Ⅷ	2830	
44	26	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○		○	○	灰褐色	にぶい赤褐色	D	4	Ⅷ	SS02-7	
47	27	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○				にぶい赤褐色	にぶい橙色	E	8	Ⅷ	SS18-29	
50	28	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○		○		にぶい橙色	にぶい黄橙色	E	8	Ⅷ	SS34-37	
53	29	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○					にぶい赤褐色	にぶい黄橙色	E	4	Xa	SK40-8	
54	30	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ		○	○				にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	D	6	Xa	SK84-73	
	31	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	－	○	○	○				灰白色	にぶい黄橙色	D	6	Xa	SK84-72	
	32	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい褐色	にぶい橙色	D	6	Xa	SK84-55	
56	33	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい黄橙色	灰黄褐色	E	4	Ⅷ	SS06-32	
57	34	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい黄橙色	灰黄褐色	D	4	Ⅷ	SS07-17	
61	35	Ⅲ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・ナデ	ナデ	○	○		○		○	灰黄褐色	灰黄褐色	E	5	Ⅷ	SU01-5・7・9・17・22	
																		E	5	Ⅷ	4116	
	36	Ⅲ	深鉢	口縁～胴部	30.4			貝殻刺突・ナデ	ナデ	○	○		○		○	にぶい黄橙色	灰黄褐色	E	5	Ⅷ	SU01-5・7・9・17・22	
																		E	5	Ⅷ	3427・3429・3430・3461・3733・3739・3741・4108・4110・4115・4118	
																		E	6	Ⅷ	4153	
	37	Ⅲ	深鉢	胴～底部		17.6		貝殻刺突・ナデ	ナデ	○	○		○		○	にぶい褐色	にぶい黄橙色	E	5	Ⅷ	4134・4141・4331	
	38	Ⅲ	深鉢	胴～底部		10.8		貝殻刺突・ナデ	ナデ・ミガキ	○	○	○	○		○	にぶい黄橙色	灰黄褐色	E	5	Ⅷ	SU01-11・13～15	

３　遺物

（１）土器

縄文時代早期の遺物包含層であるⅧ・Ⅸ層（確認調査時のⅥ層該当）からは，一括取り上げ遺物を含めて，土器が1305点出土し，そのうち147点を掲載した。出土状況は調査範囲の西側でややまとまって出土し，東側では疎らな状況であった。

土器は器形・文様・器面調整等からⅠ類からⅦ類に分類した。以下に分類基準を記述し，類別に出土土器の詳細を述べる。なお，出土状況については第62 ～ 64図に示す。

Ⅰ類土器

器形は底部から口縁部までほぼ直線的に立ち上がり円筒形を呈する。底部は平底である。文様は口縁部上端に貝殻やヘラ状工具による縦位や斜位の刺突文を施す。外面には横位や斜位の貝殻条痕を明瞭に施す。口唇部には刺突や刻目を施す。器面調整は内面にケズリが施され，口縁部付近では横位，胴部では縦位や斜位に施されるものが多い。

Ⅱ類土器

器形は底部から口縁部までほぼ直線的に立ち上がるものと，口縁部がわずかに外反するものがあり，円筒形を呈する。また，口縁部が波状を呈し，やや丸みを帯びた角部を形成する角筒形やレモン形がある。底部はすべて平底である。文様は口縁部に貝殻刺突線文を施し，胴部は斜位や縦位の貝殻条痕を施した後，貝殻刺突線文や刺突を施す。口縁部上位に貝殻刺突を施すものや粘土紐貼付文を施すものもある。口唇部及び底部付近には刻目が施される。器面調整は内面にケズリが施され，口縁部付近では横位，胴部では縦位や斜位に施されるものが多い。

Ⅲ類土器

器形は口縁部が直口ないしわずかに内湾するものや，大きく内傾するものがあり，胴部は直線的もしくはややすぼまりながら底部へ至る筒状の器形を呈する。文様は外面のほぼ全体に貝殻刺突文が施される。貝殻腹縁部をロッキングしたり，やや押引き状に施すものもある。器面調整は内外面とも丁寧なナデを施す。

Ⅳ類土器

本遺跡からは破片資料のみであり，器形は復元できなかった。文様は胴部に条線を鋸歯状に施す。器面調整は内外面とも丁寧なナデを施す。

Ⅴ類土器

本遺跡からは小片が１点出土した。文様は外面に押型文を施す。器面調整は内外面ともナデを施す。

Ⅵ類土器

本遺跡からは破片資料のみであり，器形は復元できなかった。器壁の厚みが不規則であり，文様は施されない。器面調整は内外面ともナデを施す。

Ⅶ類土器

Ⅰ～Ⅵ類に当てはまらなかったものを一括した。

①Ⅰ類土器（第65 ～ 67図39 ～ 65）

Ⅰ類土器は口縁部上端に刺突を施し，胴部に横位や斜位の貝殻条痕を施す土器である。

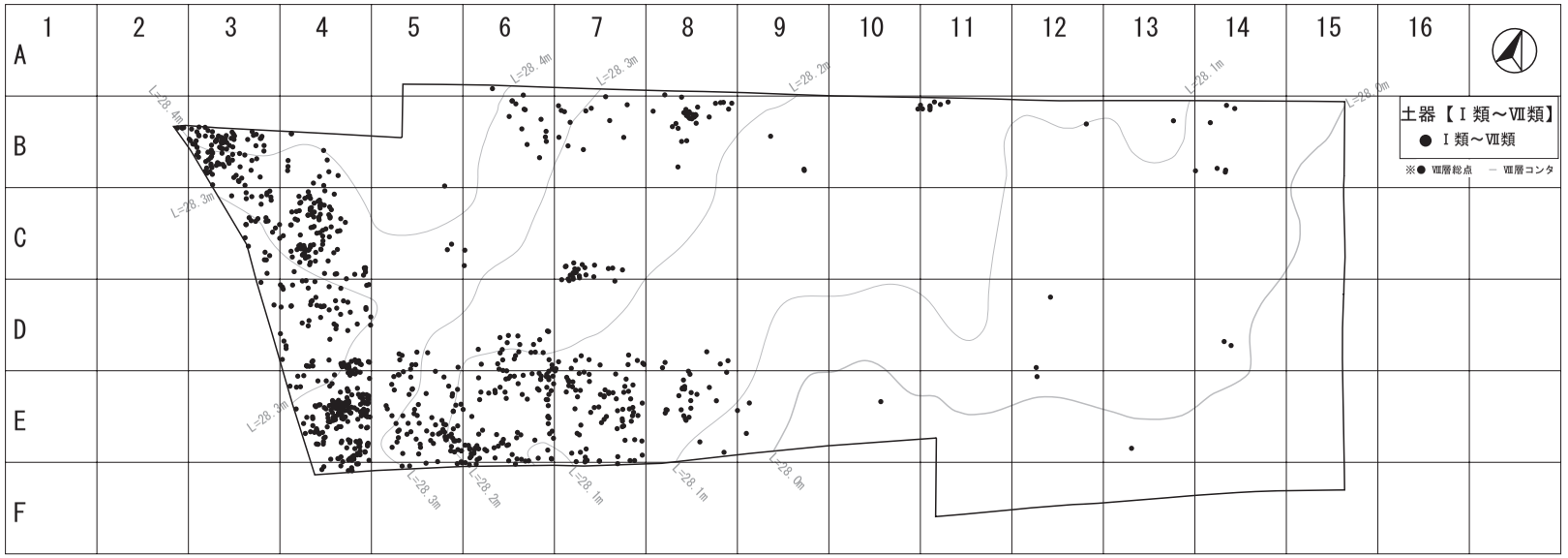
39は完形に復元できた。口径18.8㎝，底径17.2㎝，器高32.2㎝であり，本遺跡で確認された土器の中で最大であり，全体的に器壁に厚みがある。口唇部には平坦面を作り，棒状工具による刺突を施す。口縁部にはヘラ状工具による刺突を１段施す。外面には横位の貝殻条痕を施し，内面には口縁部付近は横位，胴部から底部にかけては斜位や縦位にケズリを施している。また，外面から穿孔したと考えられる縦長の補修孔が残る。40 ～ 46は口縁部である。40 ～ 42は口縁部にヘラ状工具による刺突を１段施し，43・44は羽状に施す。45は施文具は判然としないが，縦長の刺突を１段施し，46は貝殻刺突を横位に施す。47 ～ 58は胴部である。外面は横位の貝殻条痕を施し，内面はケズリ調整が施されている。59 ～ 65は底部である。底面及び底部内面ともナデ調整が施され，一部に指おさえ痕が残る。59 ～ 61は底径が13 ～ 14㎝であり，60・61は外面に横位の貝殻条痕を施した後，縦位の貝殻条痕を施す。63 ～ 65は底面に圧痕が観察できる。

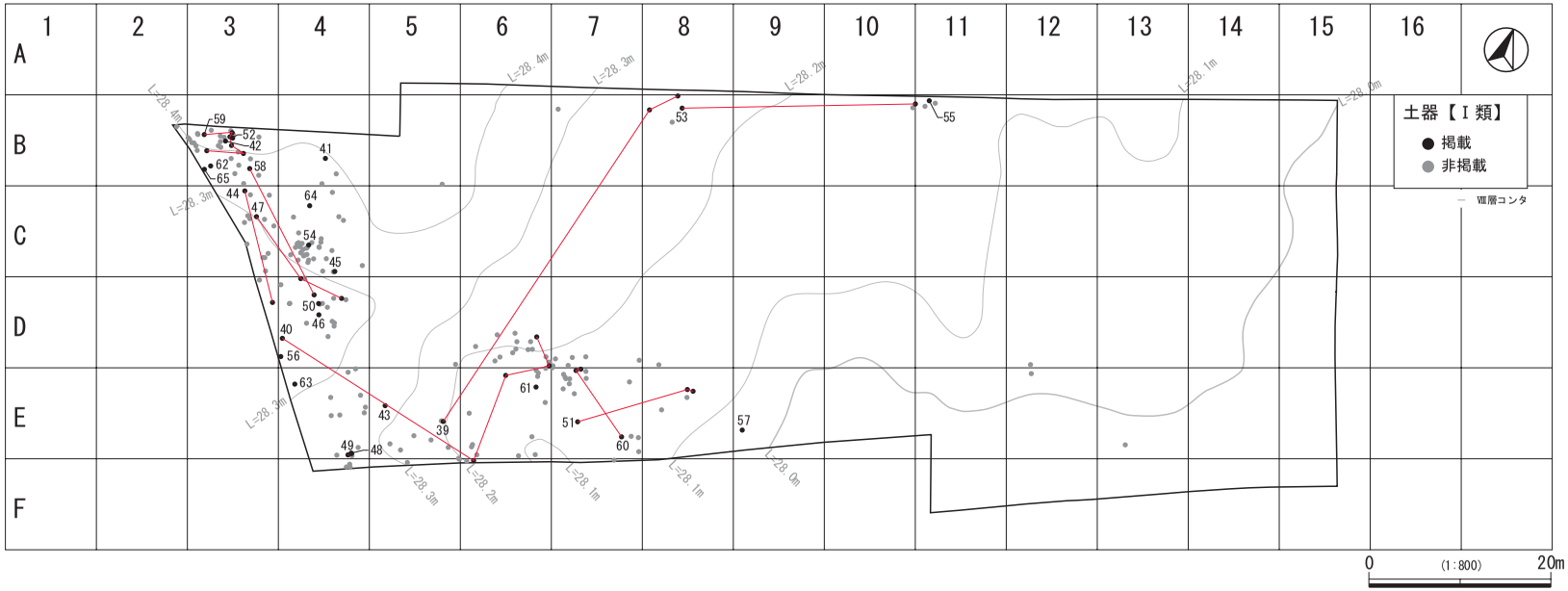
②Ⅱ類土器（第68 ～ 75図66 ～ 143）

Ⅱ類土器は円筒形・角筒形・レモン形があり，文様は貝殻条痕と貝殻刺突線文を二重施文し，内面はケズリを施す土器である。円筒形・角筒形・レモン形の器形別に掲載した。

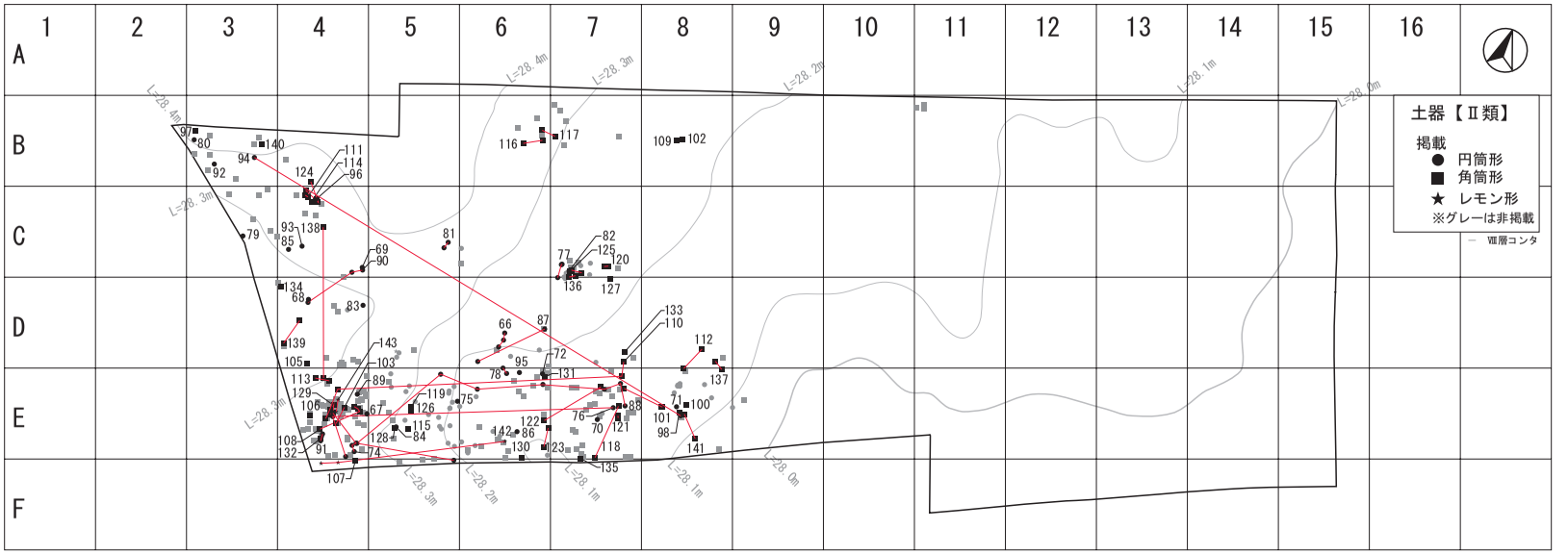
66 ～ 96は円筒形を呈する。66 ～ 74は口縁部である。66 ～ 70は縦位の貝殻刺突の直下に，横位の貝殻刺突線文を１段施す。71 ～ 74は横位の貝殻刺突線文を３もしくは４段施し，胴部に斜位もしくは縦位の貝殻条痕を施す。73 ～ 76は胴部に縦位の貝殻条痕を施し，縦位と斜位の貝殻刺突線文を組み合わせ，Ｘ字状のモチーフを描く。部分的に貝殻刺突線文を二重に施す。77 ～ 90は斜位の貝殻条痕と縦位や斜位の貝殻刺突線文を施す胴部である。88・89は斜位の短い貝殻刺突を縦位に連続して施し，斜位の貝殻刺突線文と組み合わせてＸ字状のモチーフを描く。90は斜位の貝殻刺突線文を２本１単位で施す。91は貝殻条痕と刺突を施す。92 ～ 96は胴部下半及び底部であり，貝殻条痕を胴部下半までは斜位に，底部付近では横位に施す。94・95は底部境から縦位の貝殻条痕を施す。

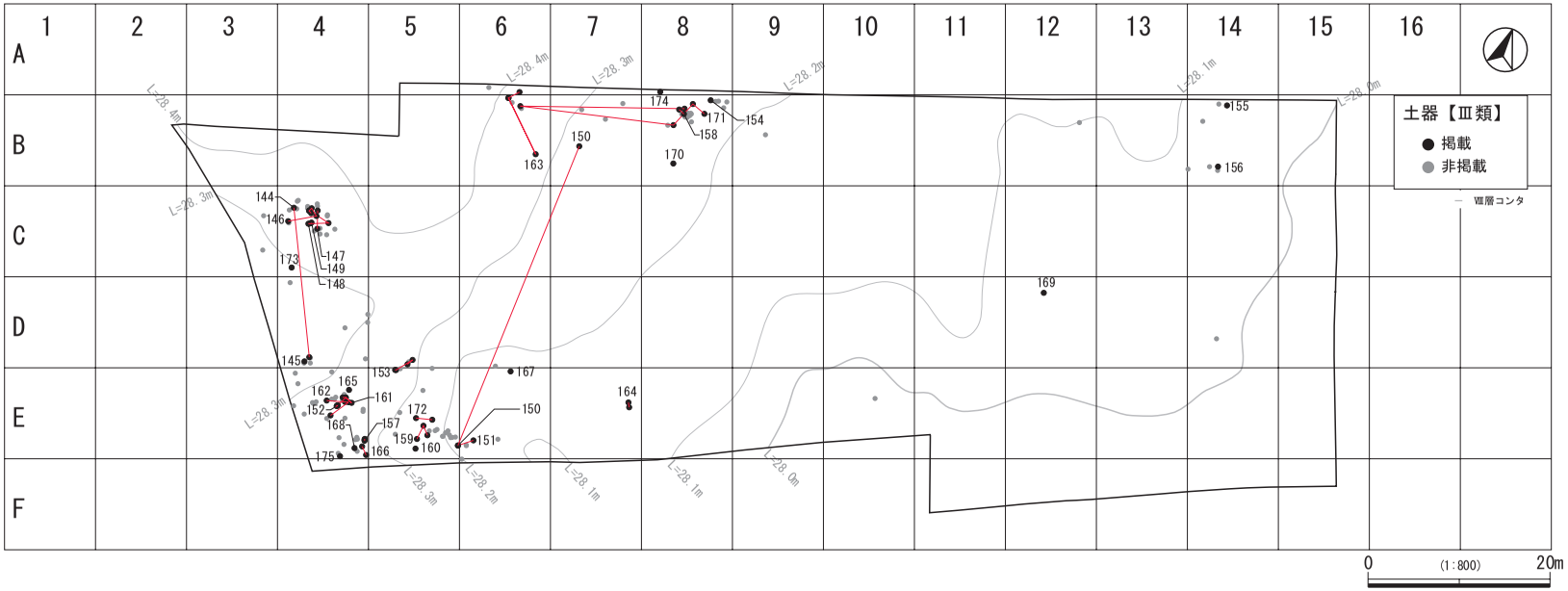
97 ～ 141は角筒形を呈する。97 ～ 99は口縁部に縦位の貝殻刺突と横位の貝殻刺突線文を施す。胴部には貝殻条痕と貝殻刺突線文を施し，口唇部及び角部にも刺突を施す。98は横位の貝殻刺突線文の上から縦位の刻目を



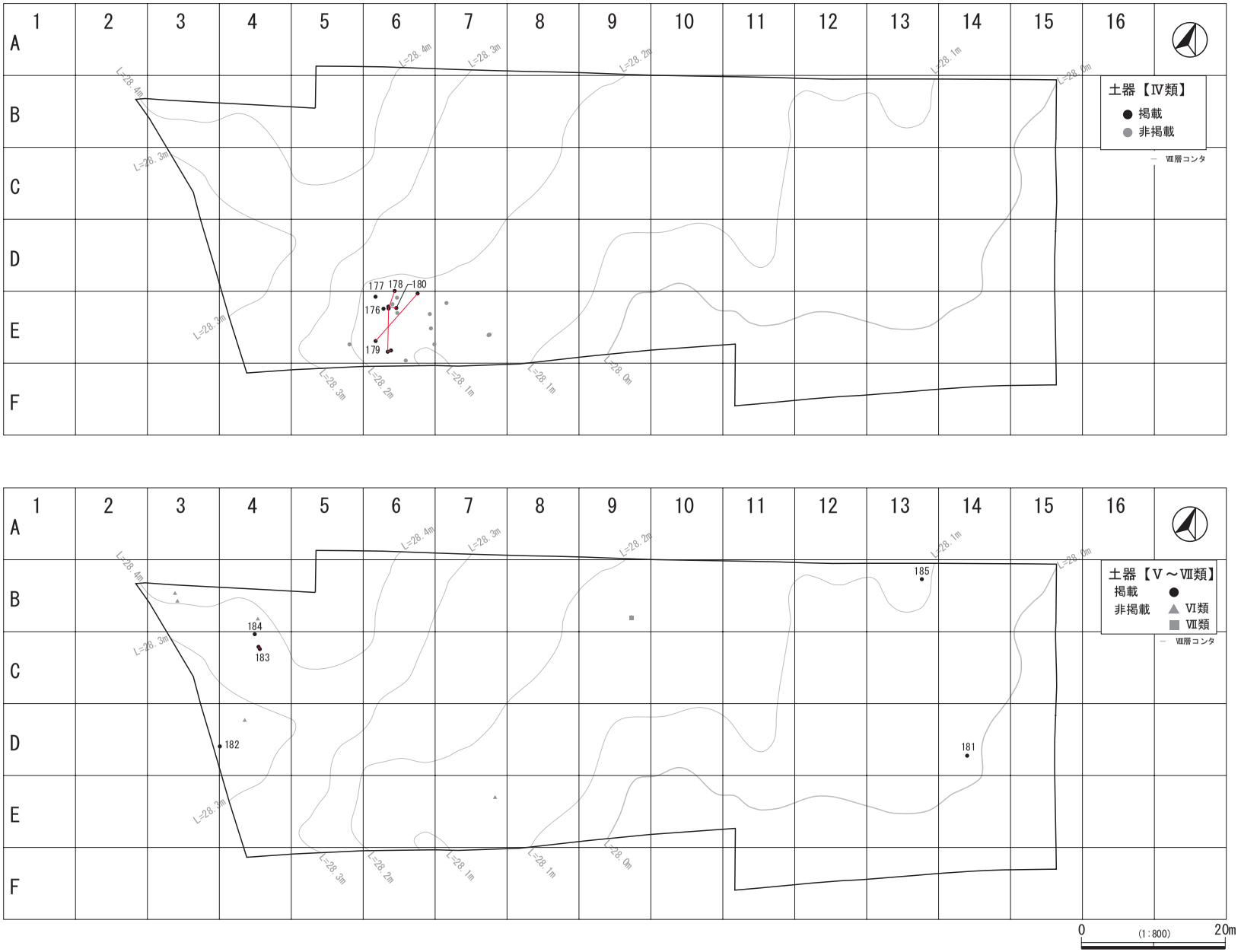


第62図　縄文時代早期土器分布図①

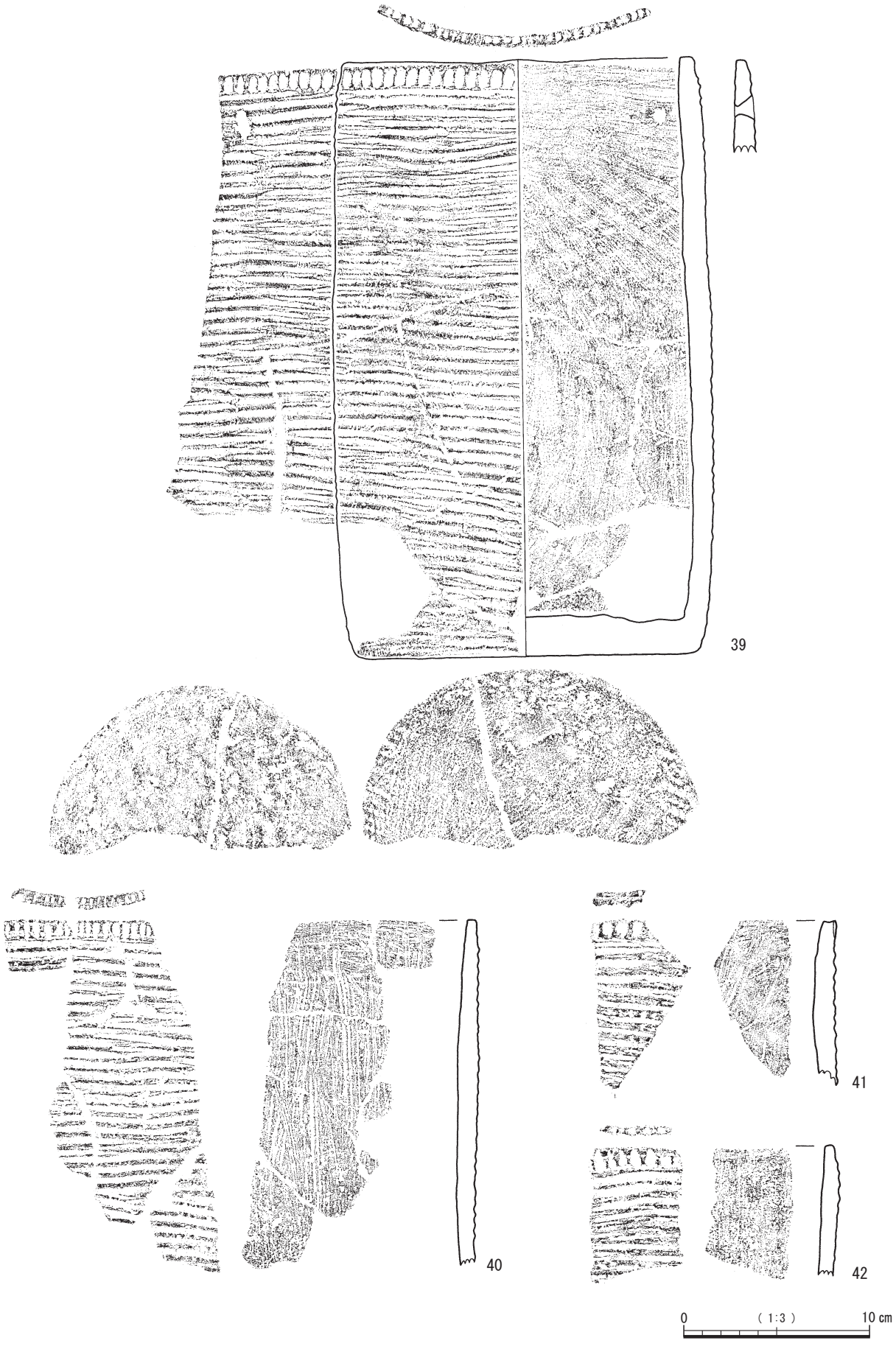




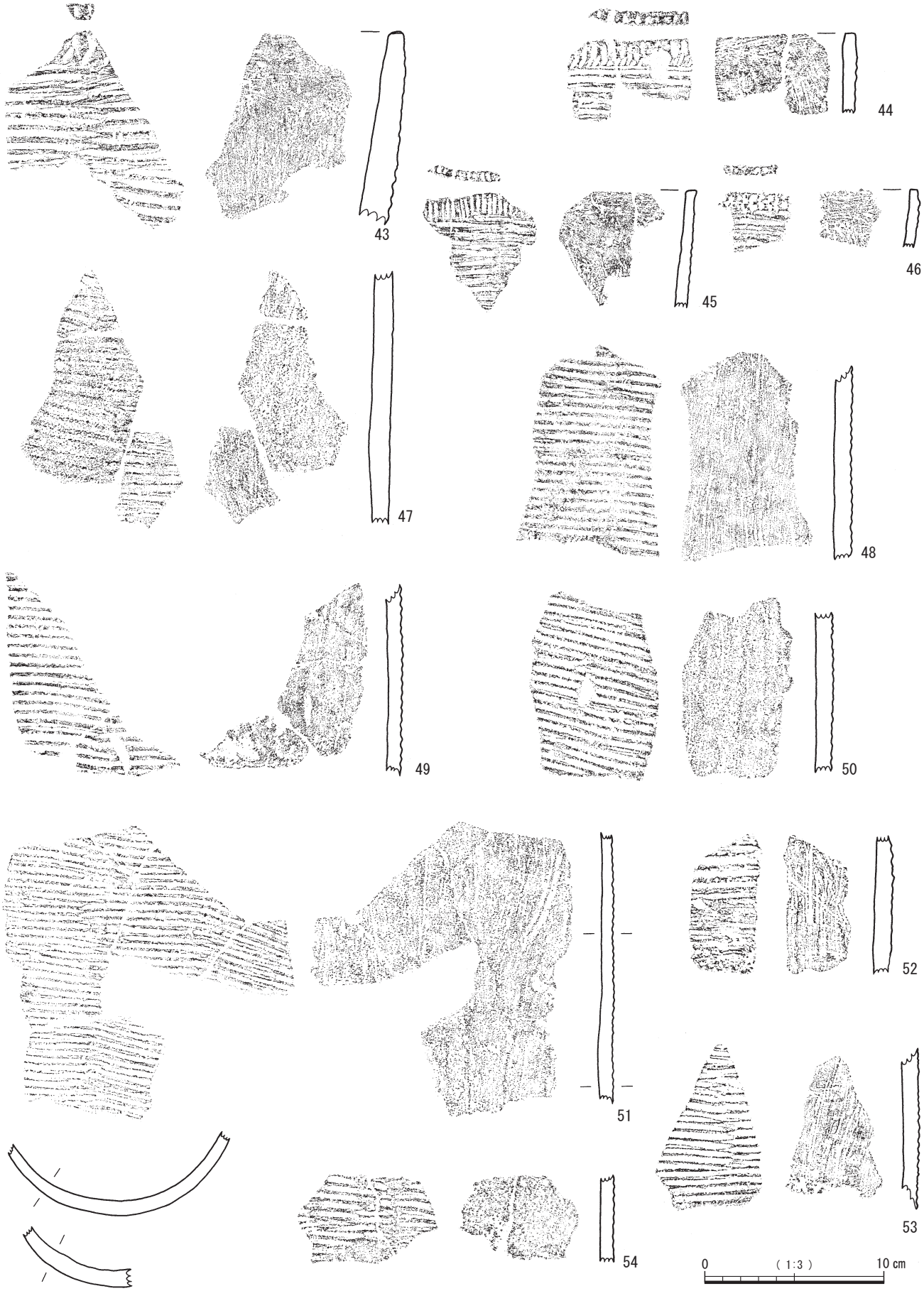
第63図　縄文時代早期土器分布図②



第64図　縄文時代早期土器分布図③



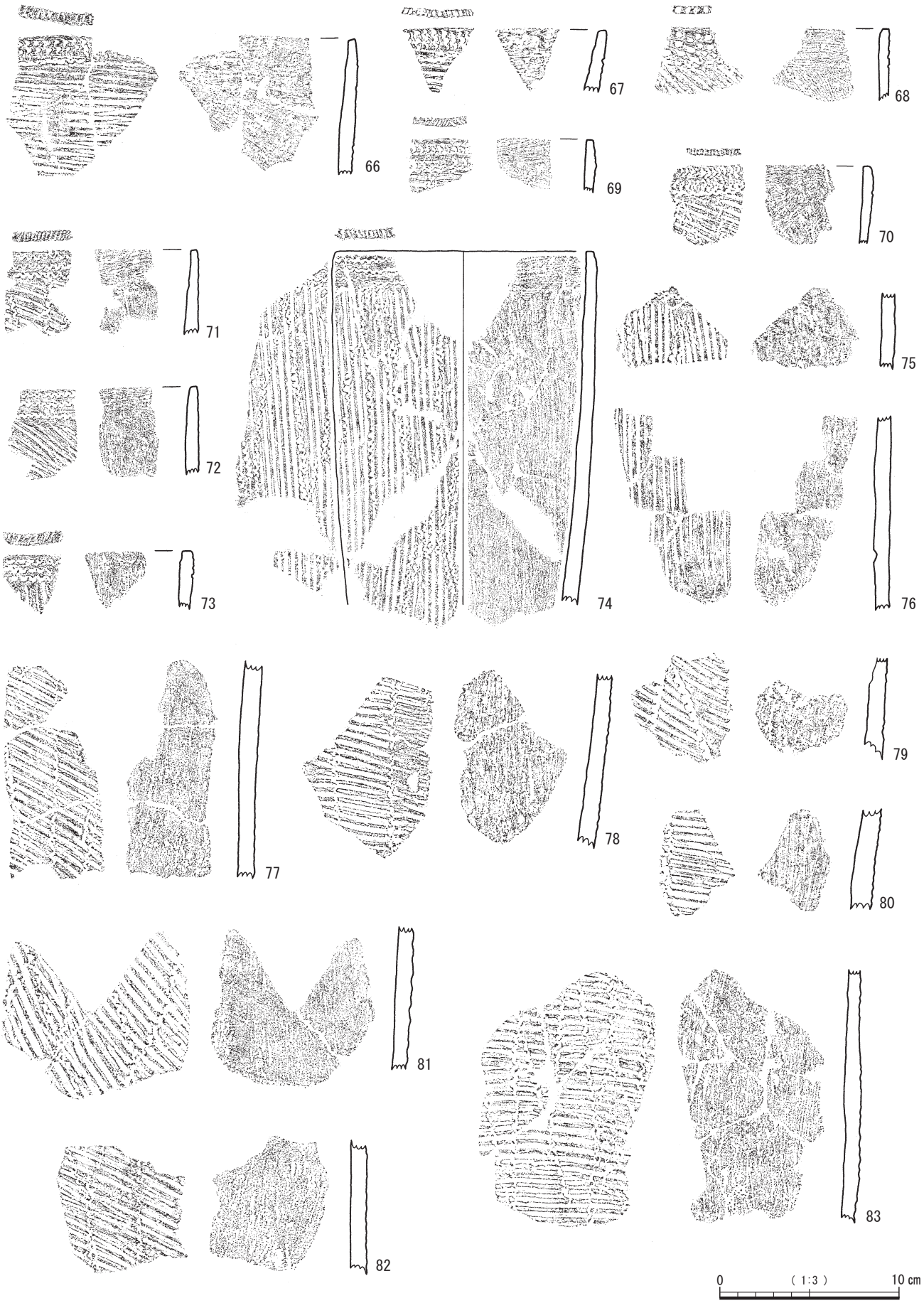
第65図　縄文時代早期土器１



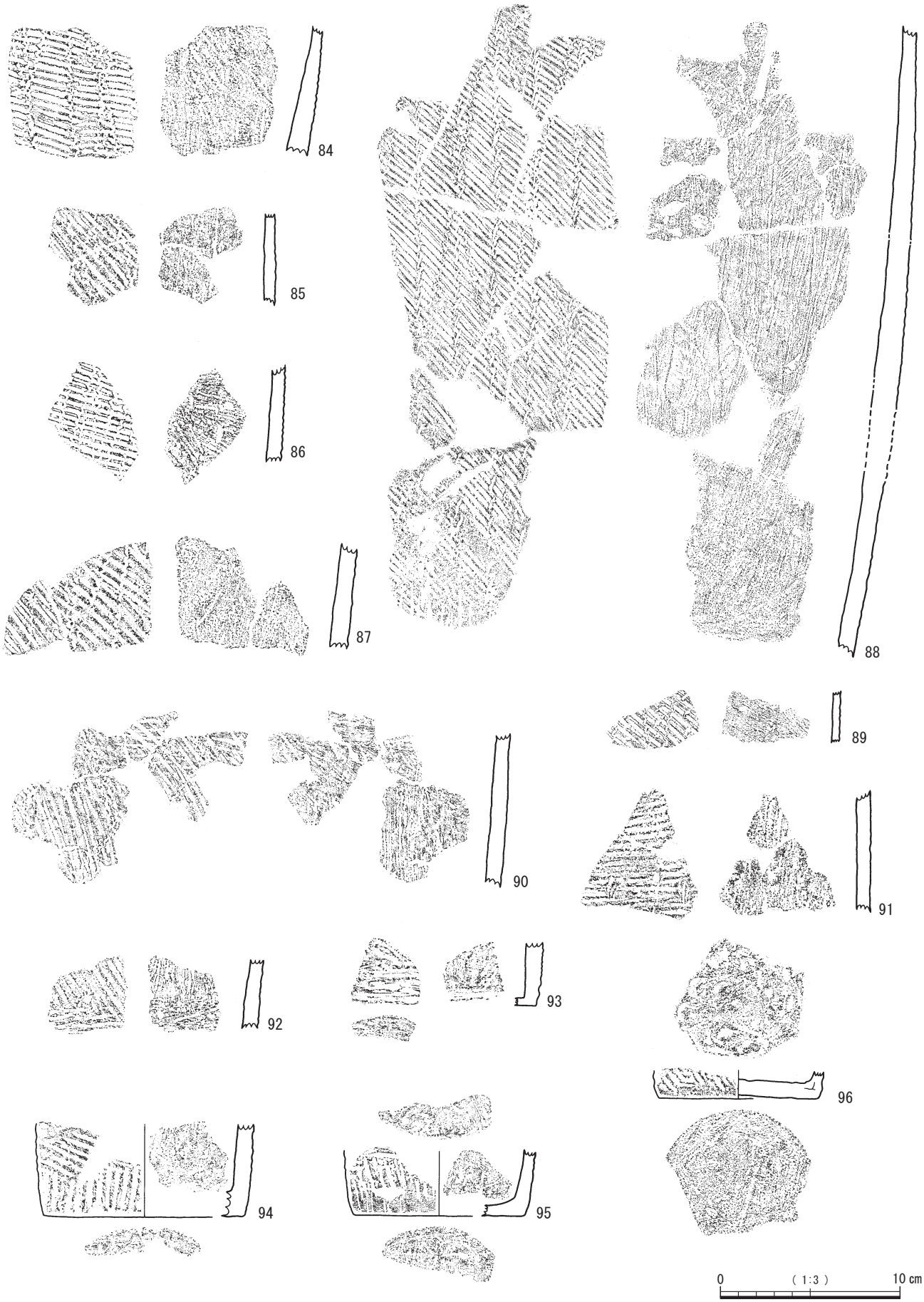
第66図　縄文時代早期土器２

第67図　縄文時代早期土器３

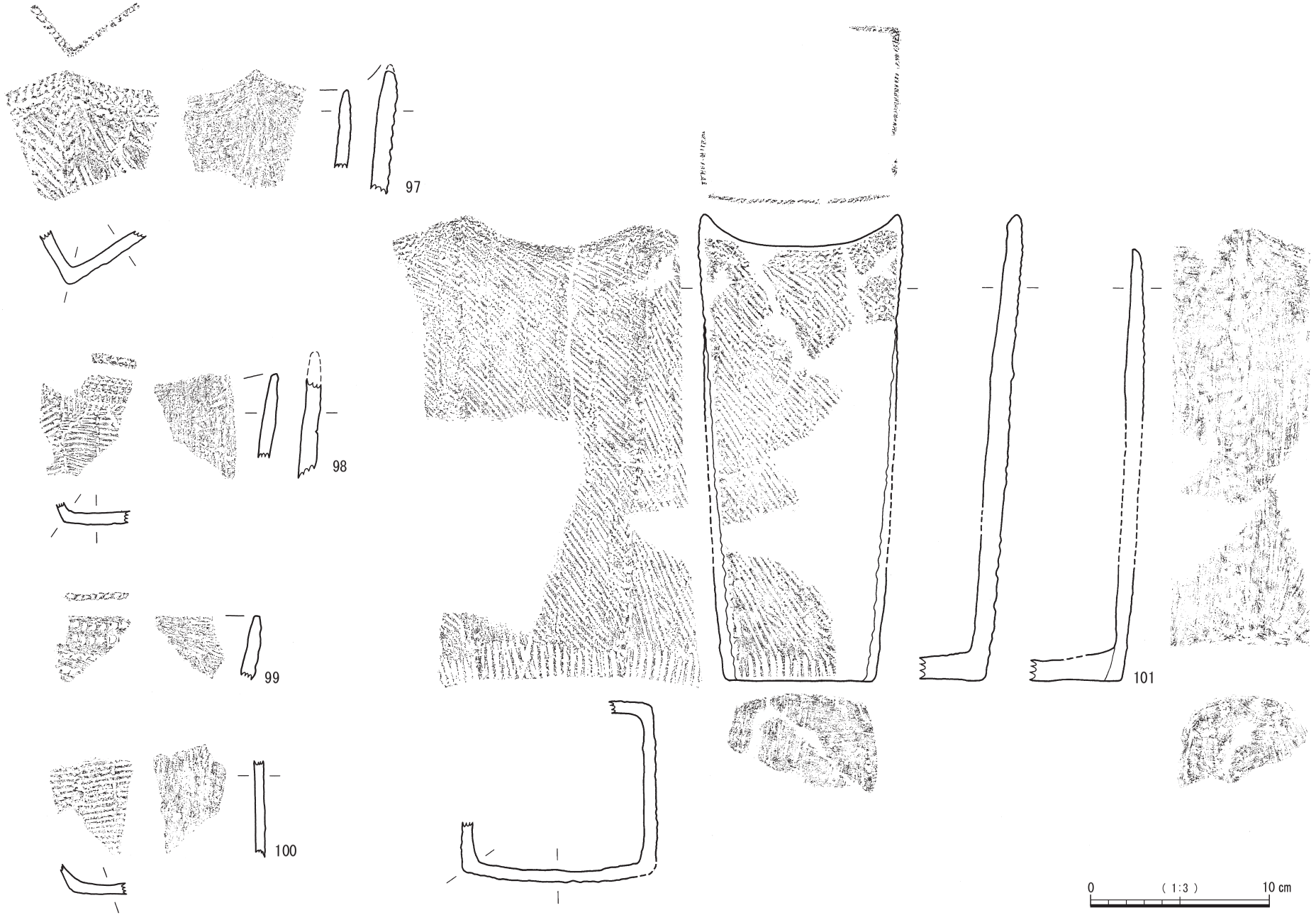
施す。また，98・100は胴部に縦位の刺突を施す。101は約半分が残存しており，完形に復元できた。底部は各辺が弧状となる長方形を呈する。底面の大きさは長軸8.5㎝，短軸8.3㎝程度である。器形は底部からほぼ直線的に立ち上がるため，上面観も長方形となる。口唇部には刻目，口縁部には横位の貝殻刺突線文を４段施し，口縁から胴部にかけての角部には短い貝殻刺突線文を施す。胴部には斜位の貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突線文を施す。縦位の貝殻刺突線文は長辺側の面には５本，短辺側の面には４本施し，その間隔は約２㎝である。どちらの面でも縦位・斜位の貝殻刺突線文が交差する高さはほぼ一致しており，文様割付の規則性が窺える。底面境から縦位の貝殻条痕を施す。内面はケズリを施すが，角部は縦方向にナデを施している。底部内面にはナデや指おさえ痕が残る。102 ～ 109は口縁部に横位の貝殻刺突線文を２～４段施し，口唇部に刻目を入れている。102は角部に外面から穿孔したと考えられる縦長の補修孔が残る。108は口縁部に粘土紐を２本貼り付け，粘土紐の上面と両側面に櫛状工具で刺突を施す。109は粘土紐を３本貼り付けるが，剥落しているため詳細は不明である。



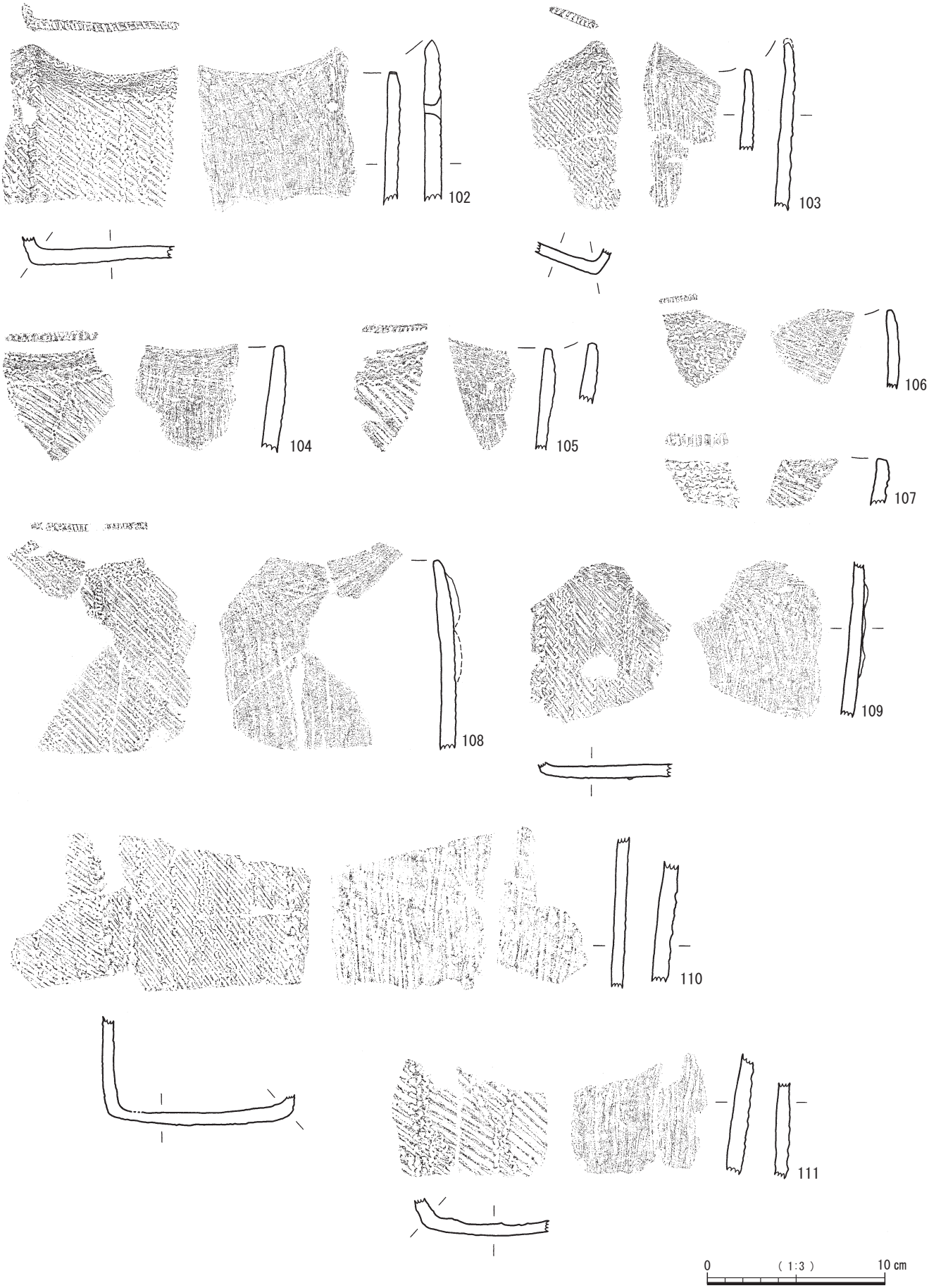
第68図　縄文時代早期土器４



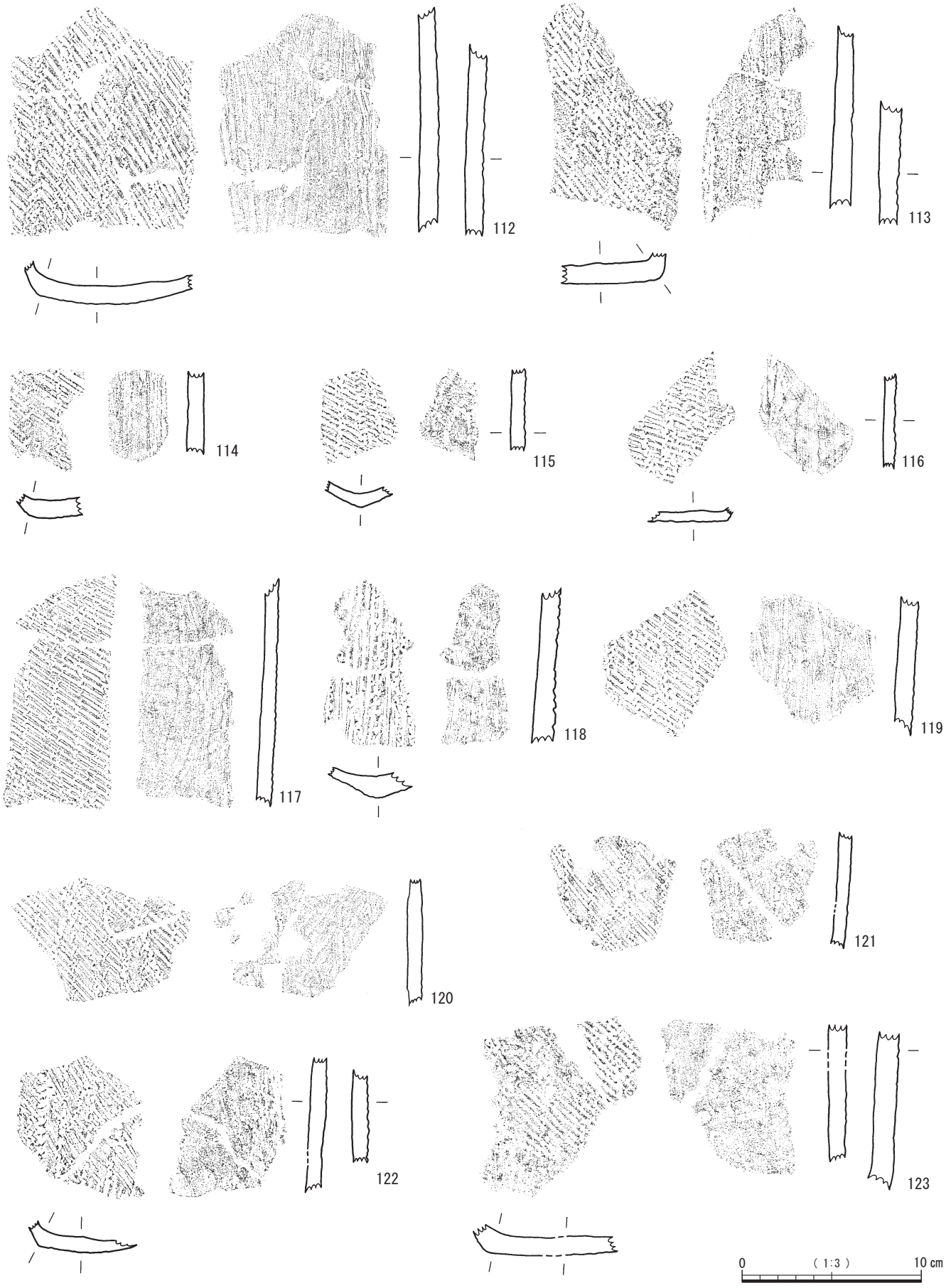
第69図　縄文時代早期土器５



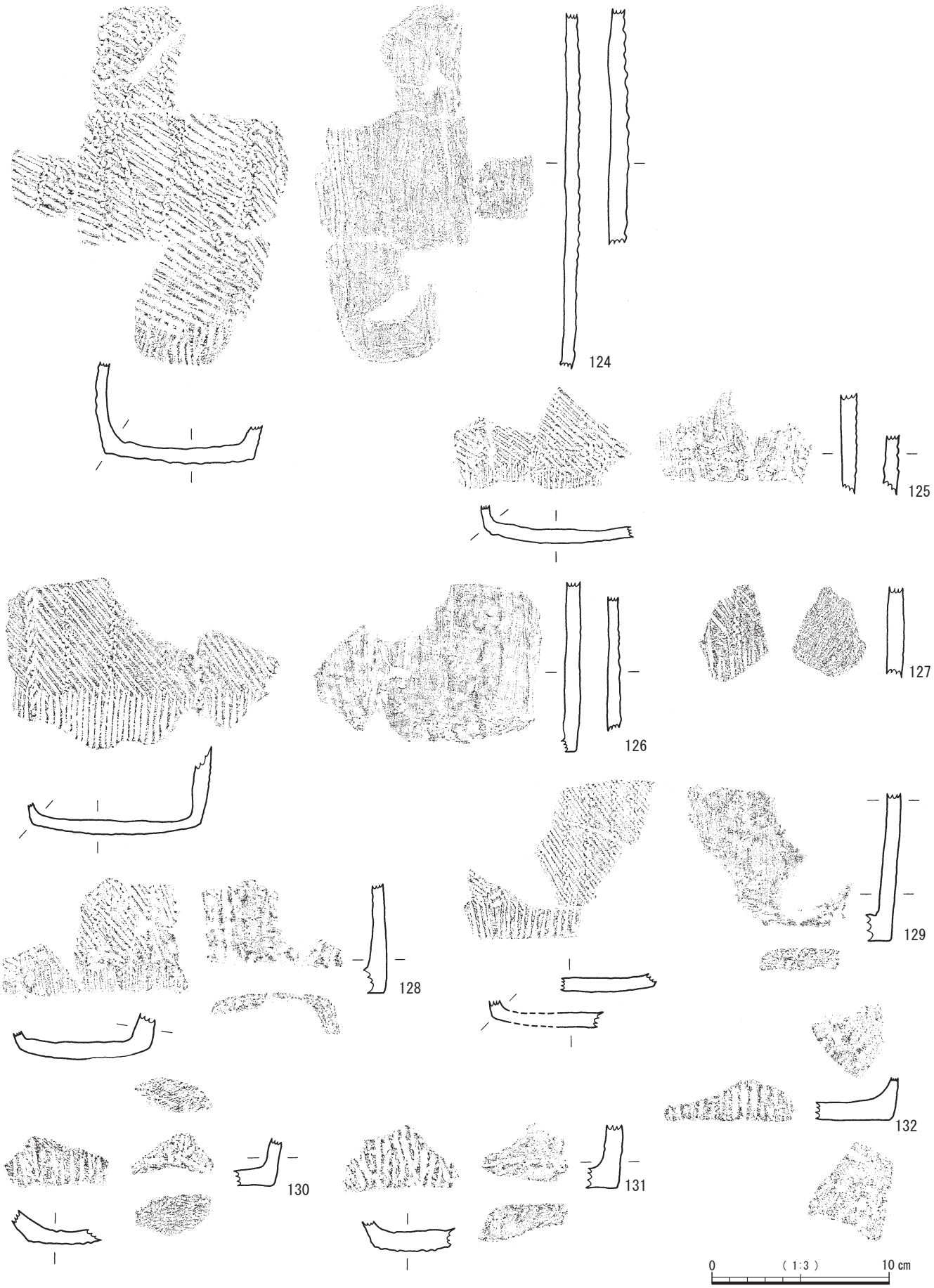
第70図　縄文時代早期土器６



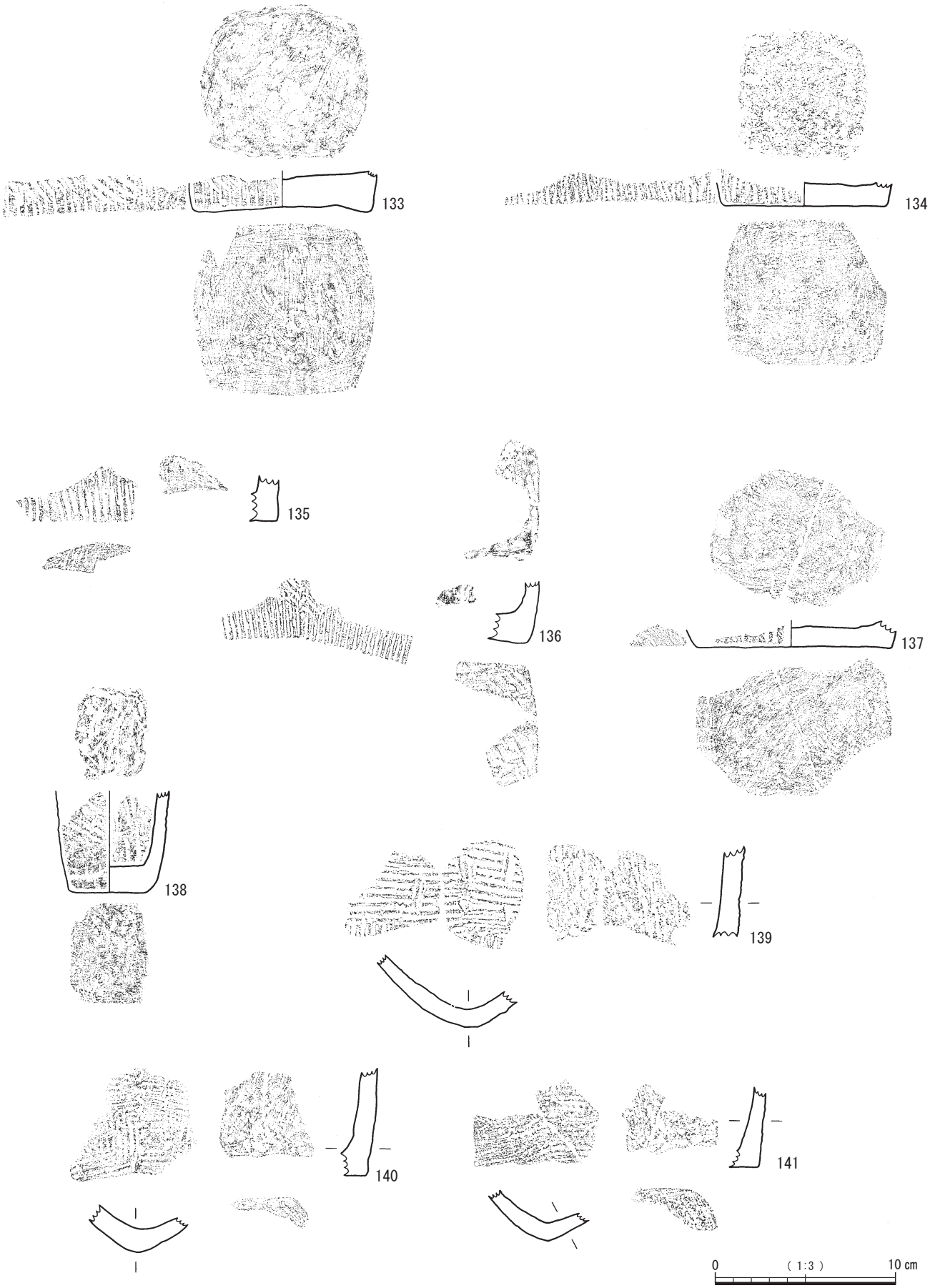
第71図　縄文時代早期土器７



第72図　縄文時代早期土器８



第73図　縄文時代早期土器９



第74図　縄文時代早期土器10

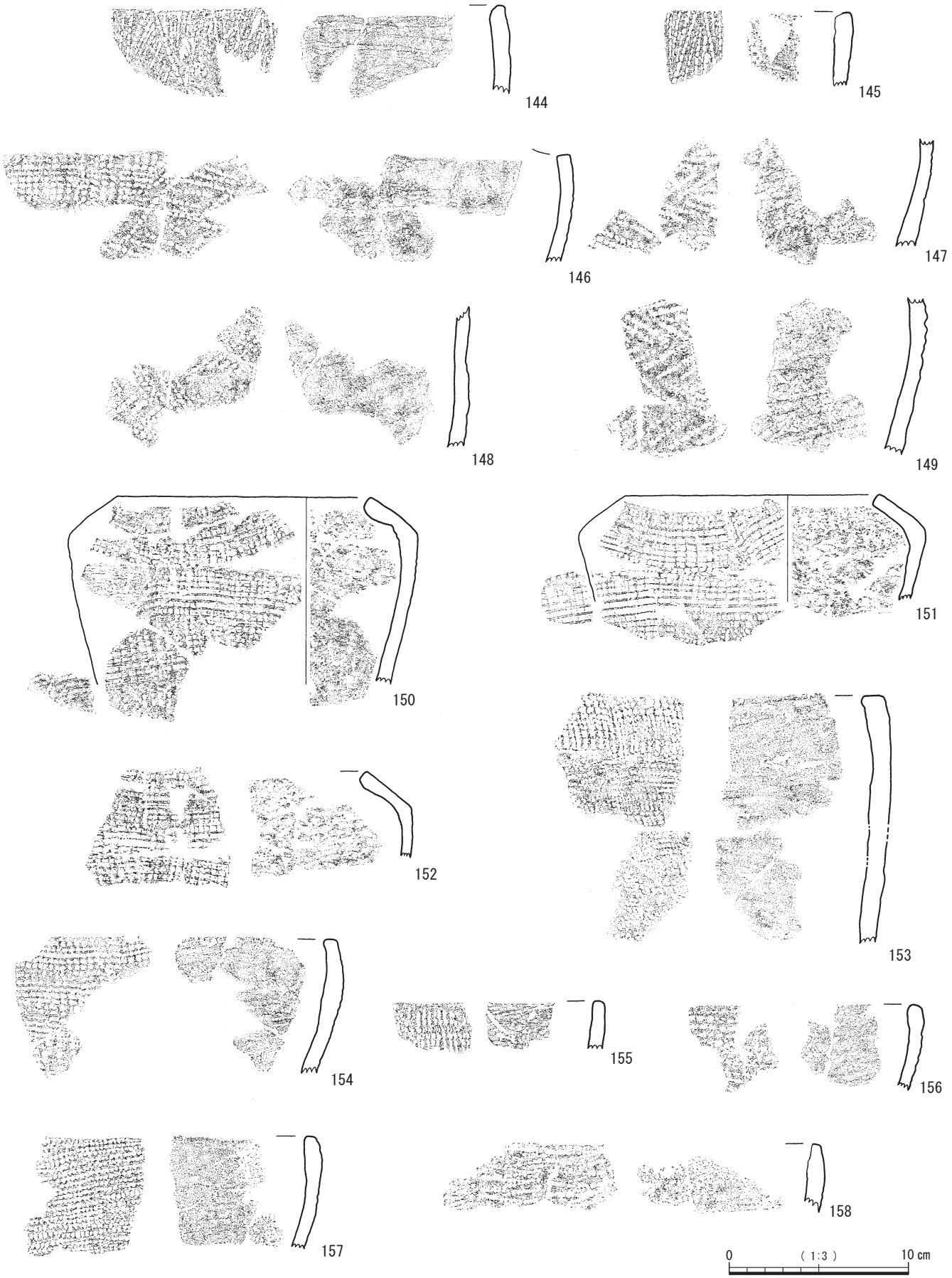
第75図　縄文時代早期土器11

108・109の粘土紐貼付は，角筒形土器の一辺のほぼ中央に貼り付けている。110 ～ 127は胴部である。斜位の貝殻条痕と縦位･斜位の貝殻刺突線文を施し，角部には短い貝殻刺突線文もしくは刺突を施す。118のみ貝殻条痕を縦位に施す。角部は直角になるものと，鈍角になるものがあり，鈍角になるものは各辺が緩やかな弧状となる。124 ～ 127は胴部下半付近であり，底部境から縦位の貝殻条痕もしくは刻目を施す。128 ～ 141は底部である。128 ～ 137は底部境から縦位の貝殻条痕もしくは刻目を施し，底面はナデを施す。底面の形状は各辺が弧状を呈するため，角部が鈍角になるものが多い。133の底面は長軸9.9㎝，短軸9.6㎝を測り，各辺は緩い弧状であるが正方形を呈する。134の底面は長軸9.2㎝，短軸8.3㎝を測り，各辺が緩い弧状となる長方形を呈する。137は底面の対辺が残存しており，長さが10.8㎝を測る。138は小型の底部であり，底面は長軸5.8㎝，短軸4.4㎝を測り，長方形を呈する。139 ～ 141は胴部から底部にかけて貝殻条痕と刺突を施し，角部の角度が緩い。

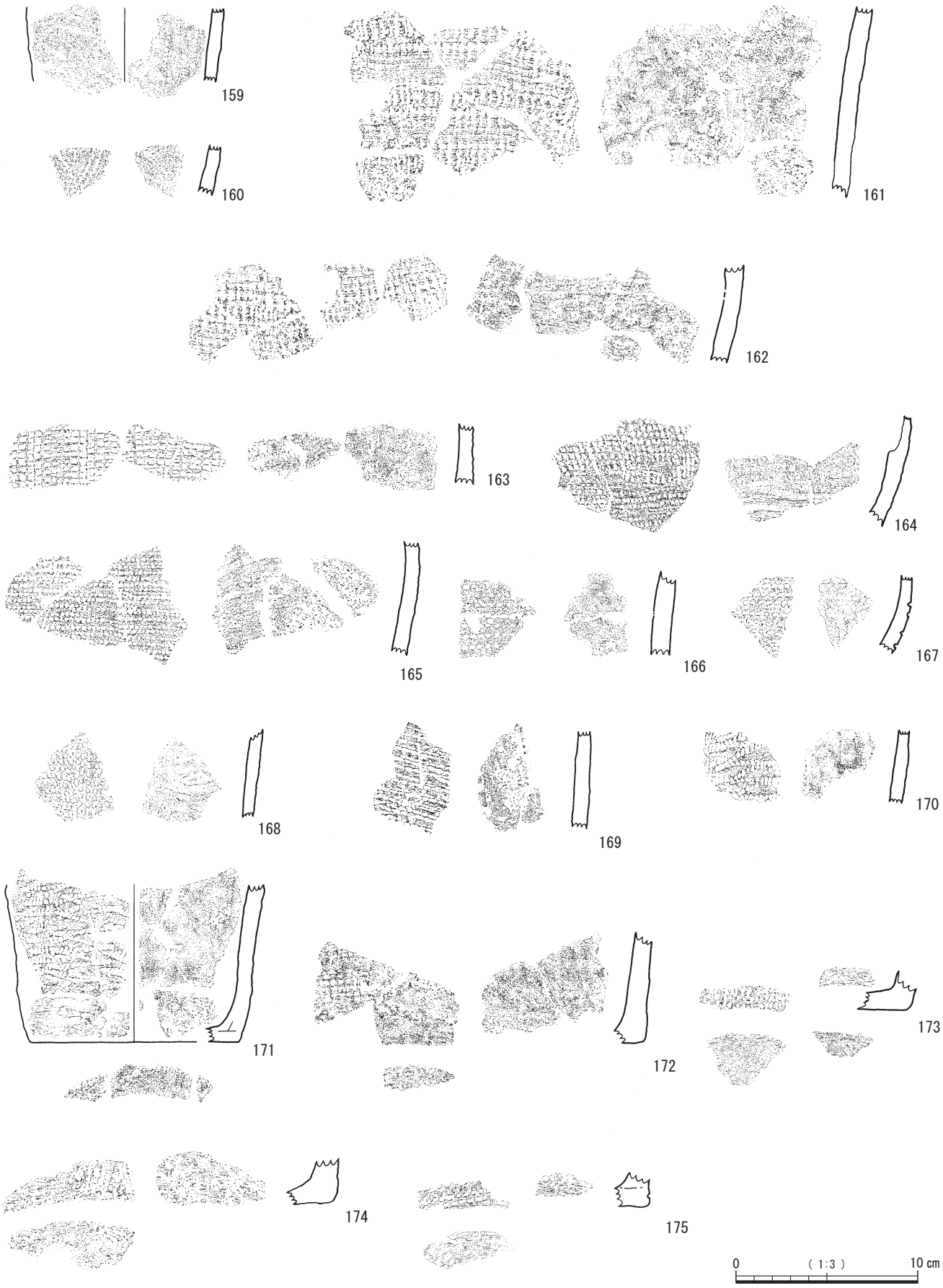
142・143はレモン形を呈すると考えられる。142は貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す胴部であり，横断面は緩い弧状となるが，鈍角の角部をもつ。143は底部境からヘラ状工具で刻目を施し，底面の長さが９㎝程度で，一対の角部をもつと考えられる。

③Ⅲ類土器（第76・77図144 ～ 175）

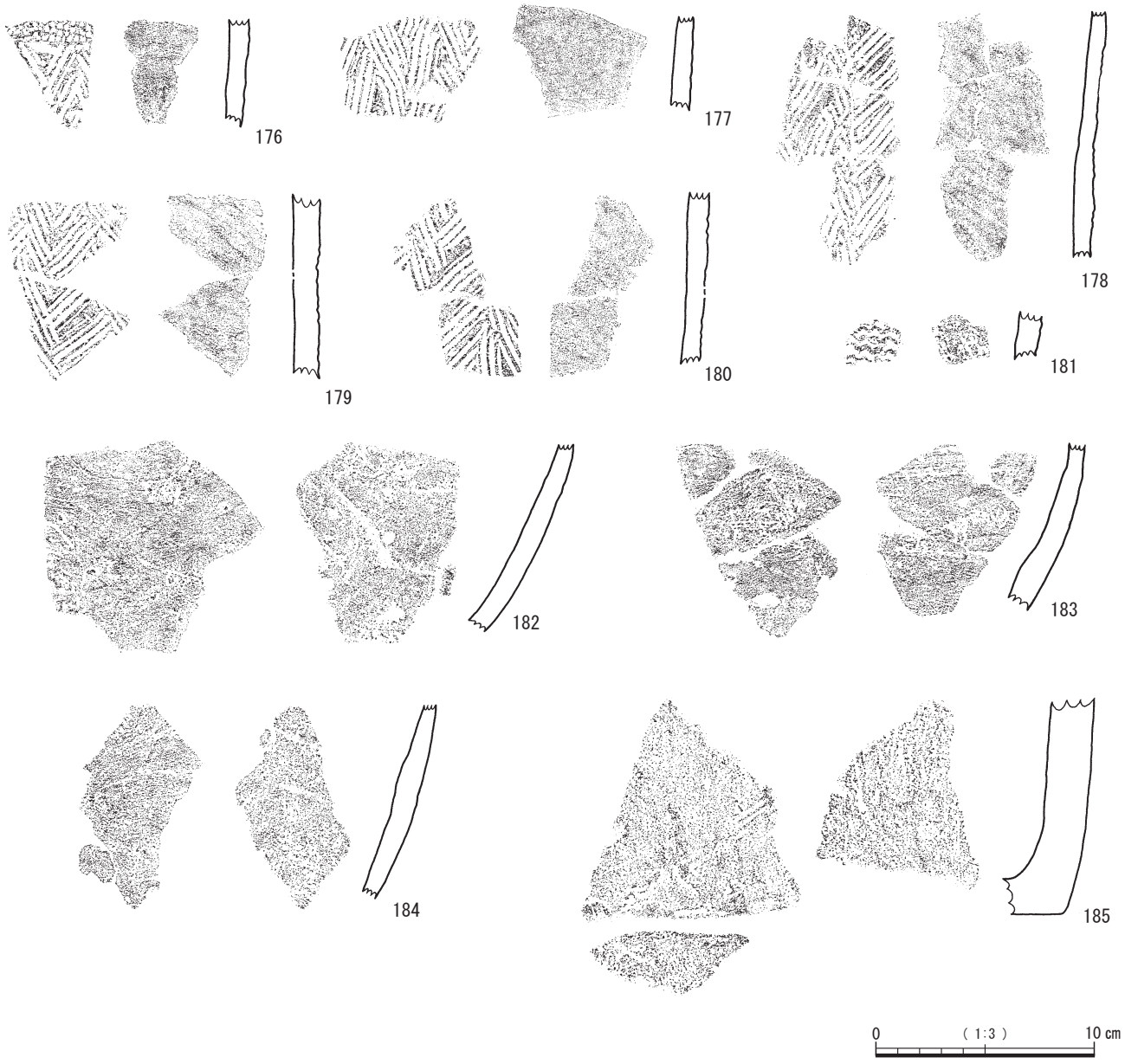
Ⅲ類土器は貝殻刺突文を施し，器面調整はナデを施す土器である。胎土に白色粒子を多く含み，灰黄褐色等のやや暗い色調のものが多い。144 ～ 149は口縁部と胴部の２帯に分けて施文するものである。144・145は口唇部に平坦面を作り，直口する口縁部であり，斜位の貝殻刺突で区画した後，縦位や斜位の貝殻刺突を充填する。146は緩やかな波状口縁となり，横位の貝殻刺突と鋸歯状の貝殻刺突を施す。147 ～ 149は胴部であり，貝殻刺突を鋸歯状に施す。150 ～ 172は口縁部から胴部下半まで１帯で施文するものである。150 ～ 152は文様・胎土・焼成等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。口唇部に平坦面を作り，口縁部が大きく内傾する。文様は縦位の貝殻刺突を横方向に連続して施す。貝殻刺突が間延びし，押引き状になる箇所もある。内面はケズリ後にナデを施している。153 ～ 158は直口もしくはわずかに内湾する口縁部である。口唇部に平坦面を作り出す。153 ～ 155は縦位の貝殻刺突を横方向に連続して施す。156 ～ 158は横位の貝殻刺突を施し，158は横位の貝殻刺突をロッキングする。159 ～ 170は胴部である。159・160は貝殻刺突を鋸歯状に施す。161・162は文様・胎土・焼成等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。縦位の貝殻刺突をやや間延びして施すため，押引き状となる。163・164は縦位の貝殻刺突を密に施し，165 ～ 167は横位の貝殻刺突を連続して施す。168は刺突の施文方向が一定ではなく，169はやや長めの刺突を斜位に施す。170・171は文様・胎土・焼成等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。171は底径11.4㎝であり，底部から直線的



第76図　縄文時代早期土器12



第77図　縄文時代早期土器13



第78図　縄文時代早期土器14

に立ち上がり，外面に横位の貝殻刺突をロッキングする。172 ～ 175は底部である。底部境付近まで貝殻刺突を施し，内外面及び底面は丁寧なナデを施している。

④Ⅳ類土器（第78図176 ～ 180）

Ⅳ類土器は胴部に条線を施す土器である。176は口唇部が欠損している。口縁部に縦位の刺突を横方向に連続して施し，その下に４または５本１単位の条線を斜位に施す。177 ～ 180は３～５本１単位の斜位の条線を交互に施し，鋸歯状となる。内面は丁寧なナデを施している。

⑤Ⅴ類土器（第78図181）

Ⅴ類土器は押型文を施す土器である。181は外面に山形押型文を施す。内面はナデを施しており，胎土に金色の雲母を含む。

⑥Ⅵ類土器（第78図182 ～ 184）

Ⅵ類土器は無文の土器である。182 ～ 184は胎土や焼成等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。緩やかに開く胴部であり，内外面ともナデを施しており，器壁の厚みが一定ではない。

⑦Ⅶ類土器（第78図185）

Ⅶ類土器はⅠ～Ⅵ類土器に当てはまらないものである。185は無文の底部である。色調はにぶい黄橙色を呈し，器壁の厚みが約２㎝と厚く，内外面とも摩滅している。外面にはわずかに条痕が確認できる。

（２）石器

縄文時代早期の石器は，縄文時代早期の遺物包含層であるⅧ層を中心に出土した（確認調査時のⅥ層該当）。石器は調査範囲の西側を中心に出土し，磨製・打製石鏃や石匙，楔形石器，磨製・打製石斧，磨・敲石が出土した。また，Ｅ・Ｆ－４区からは黒曜石Ｉ類の剥片やチップがブロック状に出土した。縄文時代早期に該当する石器は15点出土し，うち13点を掲載した（第79・81図）。

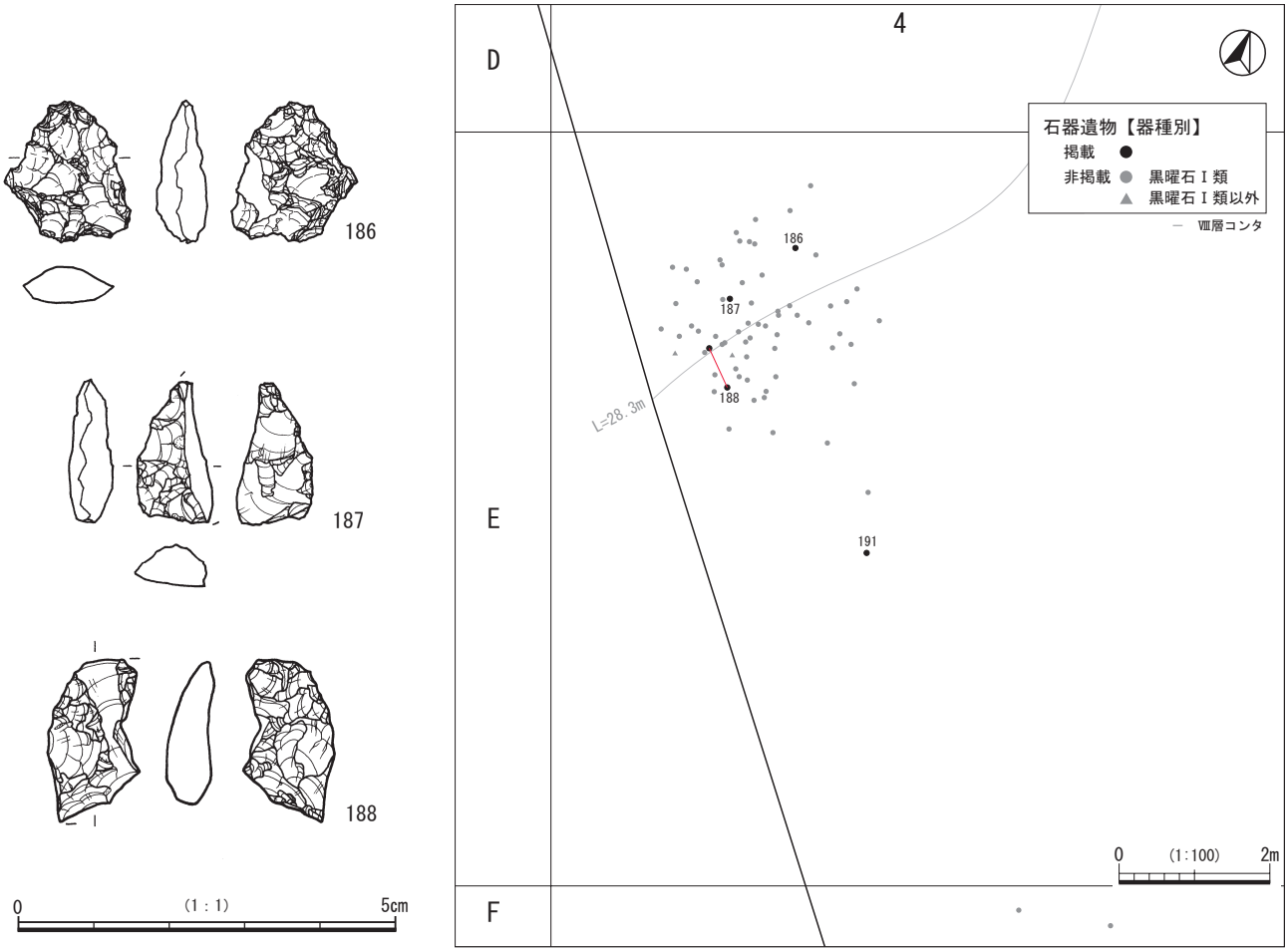
石材は黒曜石・安山岩・頁岩・チャート・水晶・ホルンフェルス・砂岩等が使用され，黒曜石は下記のとおり分類した。

・黒曜石Ｉ類…不純物を多く含み，漆黒で全く光を通さないもの。上牛鼻産
・黒曜石Ⅱ類…不純物を多く含み，光を通すもの。三船産
・黒曜石Ⅲ類…不純物をほとんど含まず，基質は黒色で強いガラス光沢を持つもの。腰岳産
・黒曜石Ⅳ類…不純物をほとんど含まず，乳白～灰色を呈し，やや透明感があるもの。姫島産

186 ～ 188はＥ・Ｆ－４区の黒曜石Ｉ類の剥片やチップが集中する地点から出土した（第79図）。３点とも黒曜石Ｉ類製であり，186・187は全体形状が正三角形に近く，やや厚みの残る打製石鏃である。188は楔形石器であり，ブロック内から出土したチップが接合した。チップは上下方向からの加撃を加えた際に取れたものと考えられる。

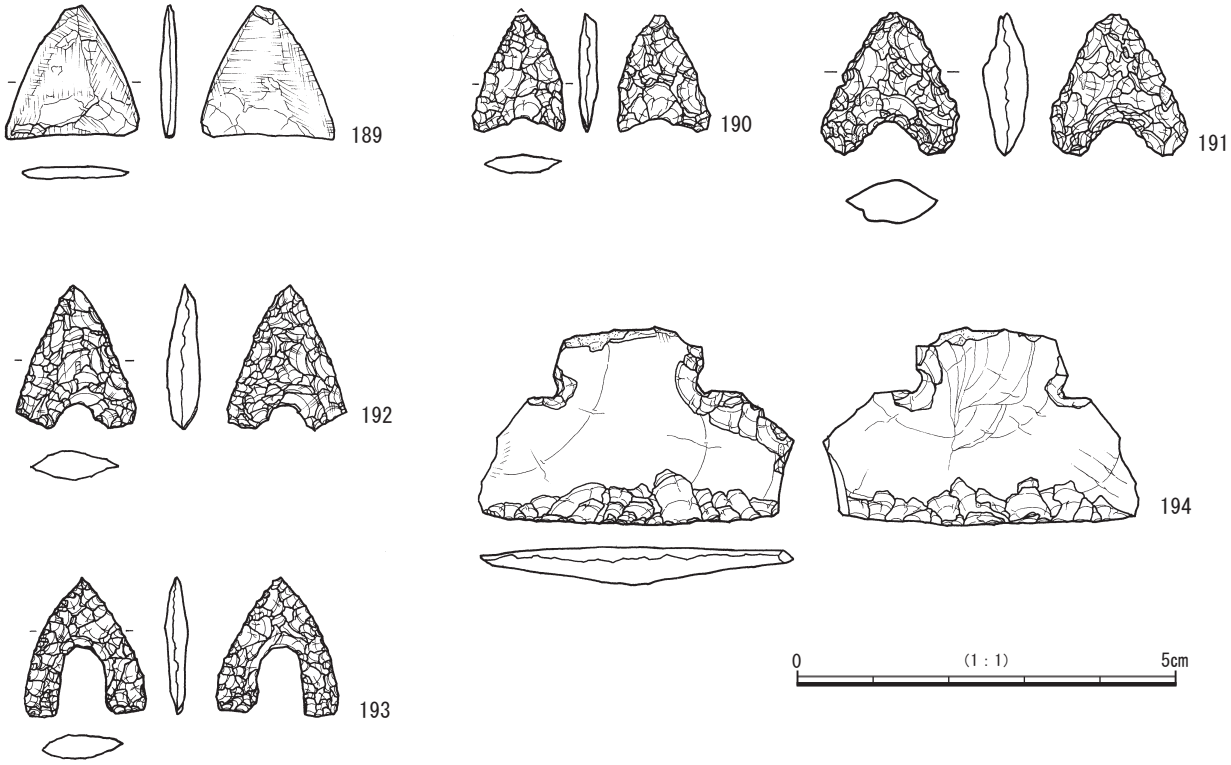
Ｅ・Ｆ－４区の黒曜石Ｉ類のブロックからは剥片やチップが89点出土し，接合を行ったところ，８点の接合資料が得られた。接合資料の観察から，小児頭大から拳大の原石の分割礫を剥片剥離を行い，２～３㎝大のやや厚みのある不定形の素材剥片を取り出し，楔形石器等を製作したと考えられる。

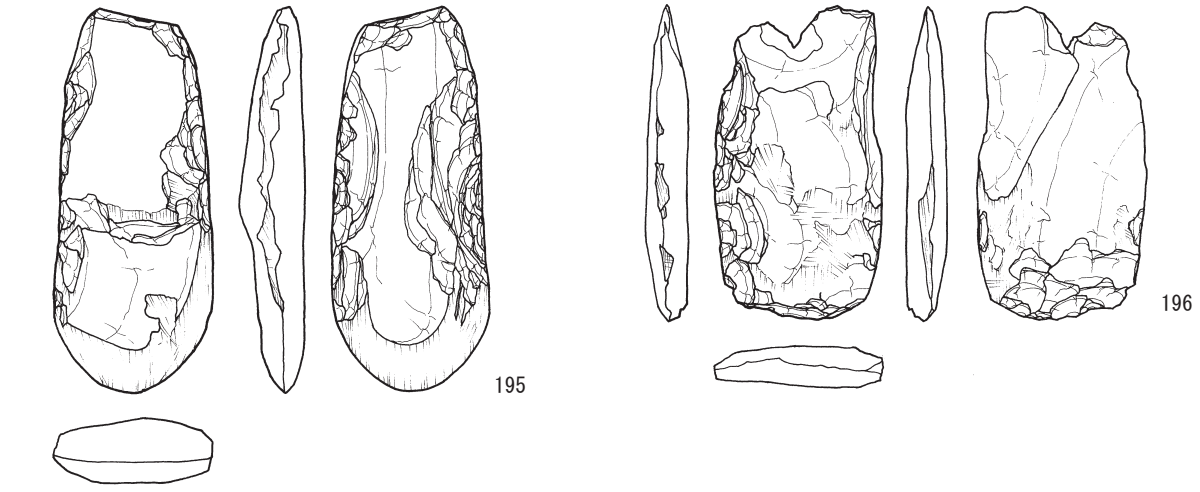
189は頁岩製の磨製石鏃である。先端部は欠損するが，小型の正三角形を呈する。190 ～ 193は打製石鏃である。使用する石材は異なるが，基部に抉りを持ち，全体の形状は二等辺三角形を呈する。191は身部に厚みが残り，193は鍬形鏃である。194は安山岩製の石匙であり，刃部は直線的である。195 ～ 197はホルンフェルス製の小型の磨製石斧である。全面を研磨しており，195・197の刃部は両凸刃である。198はホルンフェルス製の打製石斧である。基部は欠損し，刃部は両凸刃である。

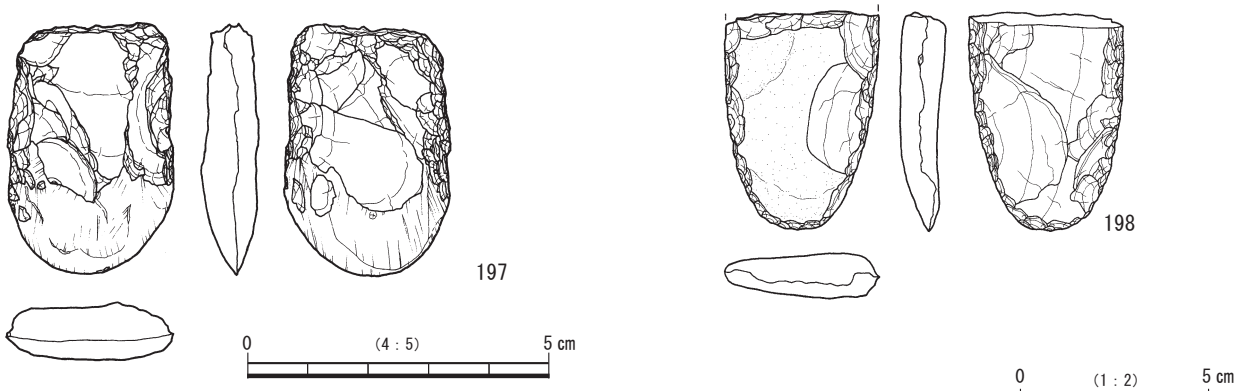


第79図　縄文時代早期石器１及び出土状況図

第80図　縄文時代早期石器分布図







第81図　縄文時代早期石器２

第７表　縄文時代早期土器観察表１

挿図番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量（cm）			主文様・調整		胎土						色調		出土区		層位	取上番号	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母	外面	内面					
65	39	Ⅰ	深鉢	口縁～底部	18.8	17.2	32.2	刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ・指おさえ	○	○	○				橙色	橙色	E	5	Ⅷ	4286	
																		B	8	Ⅷ	392・470	
	40	Ⅰ	深鉢	口縁～胴部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				赤褐色	にぶい褐色	D	4	Ⅷ	2572	
																		D	6	Ⅷ	3927・4221	
																		E	6	Ⅷ	2849・4166	
	41	Ⅰ	深鉢	口縁部				刺突・貝殻条痕	ナデ・ケズリ	○	○	○				にぶい黄褐色	にぶい橙色	B	4	Ⅷ	3295	
	42	Ⅰ	深鉢	口縁部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	B	3	Ⅷ	2619	
66	43	Ⅰ	深鉢	口縁部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	橙色	E	5	Ⅷ	3845	
	44	Ⅰ	深鉢	口縁部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	にぶい橙色	C	3	Ⅷ	3260・一括	
																		D	3	Ⅷ	2573	
	45	Ⅰ	深鉢	口縁部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	にぶい橙色	C	4	Ⅷ	3189	
																		D	4	Ⅷ	一括	
	46	Ⅰ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	橙色	D	4	Ⅷ	3162	
	47	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○		○		橙色	橙色	D	4	Ⅷ	2588・2996	
																		C	3	Ⅷ	2705	
	48	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	橙色	E	4	Ⅷ	3087	
	49	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				赤褐色	赤褐色	E	4	Ⅷ	3081・3088	
	50	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	橙色	D	4	Ⅷ	3164	
	51	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	明赤褐色	E	7	Ⅷ	3985	
																		E	8	Ⅷ	4079・4080	
	52	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○		○		にぶい赤褐色	赤褐色	B	3	Ⅷ	2622	
	53	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ		○	○				にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	B	8	Ⅷ	336	
																		B	11	Ⅷ	198	
	54	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	C	4	Ⅷ	3248	
67	55	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい黄橙色	B	11	Ⅷ	193	
	56	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	D	4	Ⅷ	3216	
	57	Ⅰ	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○		○		赤褐色	明赤褐色	E	9	Ⅷ	4757	
	58	Ⅰ	深鉢	胴～底部付近				貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	橙色	D	4	Ⅷ	3339	
																		B	3	Ⅷ	3354	
	59	Ⅰ	深鉢	胴～底部		14.8		貝殻条痕	ナデ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	B	3	Ⅷ	2607・2620・2625・2626・2640・3275・一括	
	60	Ⅰ	深鉢	胴～底部		14		貝殻条痕	ナデ	○	○	○				明赤褐色	赤褐色	E	7	Ⅷ	3807・3986・4207	
	61	Ⅰ	深鉢	底部		13		貝殻条痕	ナデ	○	○	○				橙色	明赤褐色	E	6	Ⅷ	4176	
	62	Ⅰ	深鉢	底部				貝殻条痕	ナデ	○	○	○				明赤褐色	赤褐色	B	3	Ⅷ	3270	
	63	Ⅰ	深鉢	底部				貝殻条痕	ナデ	○	○	○				にぶい赤褐色	褐灰色	E	4	Ⅷ	2438	
	64	Ⅰ	深鉢	底部				貝殻条痕	ナデ	○	○	○		○		明赤褐色	明赤褐色	C	4	Ⅷ	3314	
	65	Ⅰ	深鉢	底部				ナデ	ナデ	○	○	○				赤褐色	赤褐色	B	3	Ⅷ	3272	
68	66	Ⅱ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	D	6	Ⅷ	4225・4226・4233	
	67	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	E	4	Ⅷ	2293	
	68	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい赤褐色	D	4	Ⅷ	3221	
	69	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ナデ		○	○				にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	C	4	Ⅷ	3380	
	70	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	赤褐色	E	7	Ⅷ	3514	
	71	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい黄褐色	橙色	E	8	Ⅷ	3548	
	72	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	E	6	Ⅷ	2888	
	73	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	－	－	－	撹乱一括	
	74	Ⅱ	深鉢	口縁～胴部	14.4			貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい褐色	E	4	Ⅷ	2226・2827・3116・3400	
	75	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい褐色	E	5	Ⅷ	4301	
	76	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				赤褐色	赤褐色	E	7	Ⅷ	4187	
																		E	4	Ⅷ	3080・3115	
	77	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	にぶい赤褐色	C	7	Ⅷ	4429・4442・4443	
	78	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	赤褐色	E	6	Ⅷ	3933・4167	
	79	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○		○	○	○	にぶい褐色	褐色	C	3	Ⅷ	3254	
	80	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				赤褐色	にぶい褐色	B	3	Ⅷ	2606	
	81	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	C	5	Ⅷ	4505・4511	
	82	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	橙色	C	7	Ⅷ	4435	
	83	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい褐色	D	4	Ⅸa	3327	
69	84	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	明赤褐色	E	5	Ⅷ	3825	
	85	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい褐色	にぶい褐色	C	4	Ⅷ	3232	
	86	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	明赤褐色	E	6	Ⅷ	4180	
	87	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	D	6	Ⅷ	2900・3914	
	88	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	E	4	Ⅷ	3574	
																		E	5	Ⅷ	2842・3883・一括	
																		E	6	Ⅷ	2884・4491	
																		E	7	Ⅷ	4004・4188・4198	
	89	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	にぶい橙色	E	4	Ⅷ	3136	
	90	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	C	4	Ⅷ	2739・2741	
																		C	4	Ⅸ	一括	
																		D	4	Ⅷ	3383	
	91	Ⅱ	深鉢	胴部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	E	4	Ⅷ	2136・2183	
	92	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○	○	○				赤褐色	にぶい赤褐色	B	3	Ⅷ	3269	
	93	Ⅱ	深鉢	胴～底部				貝殻条痕	ナデ	○	○	○		○		暗褐色	にぶい黄褐色	C	4	Ⅷ	2750	

第８表　縄文時代早期土器観察表２

挿図番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量（cm）			主文様・調整		胎土						色調		出土区		層位	取上番号	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母	外面	内面					
69	94	Ⅱ	深鉢	胴～底部		11.2		貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい赤褐色	赤褐色	B	3	Ⅷ	2638	
																		E	8	Ⅷ	3528	
	95	Ⅱ	深鉢	胴～底部		9.4		貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	E	6	Ⅷ	4173	
	96	Ⅱ	深鉢	底部		8.8		貝殻条痕	ナデ	○	○	○				橙色	橙色	C	4	Ⅷ	3609	
70	97	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				褐色	にぶい赤褐色	B	3	Ⅷ	3282	
	98	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				褐色	褐色	E	8	Ⅷ	4038	
	99	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○					にぶい褐色	にぶい褐色	B	3	Ⅷ	一括	
	100	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	にぶい橙色	E	8	Ⅷ	3547	
	101	Ⅱ	深鉢	口縁～底部			26.1	貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	E	7	Ⅷ	3823	
																		E	8	Ⅷ	4019・4020	
71	102	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	橙色	B	8	Ⅷ	1616	補修孔
	103	Ⅱ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	明赤褐色	E	4	Ⅷ	2955・3632	
	104	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	橙色	－	－	Ⅷ	一括	
	105	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	D	4	Ⅷ	2505	
	106	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	明赤褐色	E	4	Ⅷ	2357	
	107	Ⅱ	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ケズリ	○	○	○				暗赤褐色	褐色	F	4	Ⅷ	3071	
	108	Ⅱ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕・粘土紐貼付	ケズリ		○	○				にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	E	4	Ⅷ	2286・2341・3120・3346	
	109	Ⅱ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕・粘土紐貼付	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	B	8	Ⅷ	827	
	110	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	にぶい褐色	D	7	Ⅷ	4213	
																		E	4	Ⅷ	2201・2392・3133	
																		E	7	Ⅷ	4212	
	111	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	橙色	C	4	Ⅷ	3611・3613	
72	112	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				浅黄橙色	にぶい橙色	D	8	Ⅷ	4098	
																		E	8	Ⅷ	4096	
	113	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	E	4	Ⅷ	2410・2477	
	114	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	C	4	Ⅷ	3315	
	115	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい赤褐色	暗赤褐色	E	5	Ⅷ	3829	
	116	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○					褐灰色	褐灰色	B	6	Ⅷ	1337・1342	
	117	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい褐色	にぶい褐色	B	6	Ⅷ	1333	
																		B	7	Ⅷ	1160	
	118	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○				にぶい橙色	橙色	E	7	Ⅷ	2908・3503	
	119	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○		○		橙色	橙色	E	5	Ⅷ	3451	
	120	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	橙色	C	7	Ⅷ	4457・4459	
	121	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	E	7	Ⅷ	3820・3994	
	122	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい褐色	E	6	Ⅷ	2874	
																		E	7	Ⅷ	4199	
	123	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい橙色	橙色	E	6	Ⅷ	2865・2872	
73	124	Ⅱ	深鉢	胴～底部付近				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				橙色	橙色	B	4	Ⅷ	3302	
																		C	4	Ⅷ	3304・3610・3614	
	125	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい褐色	にぶい橙色	C	7	Ⅷ	4436・4438・4452	
	126	Ⅱ	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○				橙色	にぶい黄橙色	E	5	Ⅷ	3834	
																		E	8	Ⅰ	一括	
	127	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい赤褐色	明赤褐色	C	7	Ⅷ	4461	
	128	Ⅱ	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○				橙色	にぶい橙色	E	5	Ⅷ	4412	
																		F	4	Ⅷ	一括	
	129	Ⅱ	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○	○	○				明赤褐色	赤褐色	E	4	Ⅷ	3116・3131	
																		E	4	Ⅸa	3556	
	130	Ⅱ	深鉢	胴～底部				貝殻条痕・キザミ	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい橙色	橙色	E	6	Ⅷ	2860	
	131	Ⅱ	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい橙色	E	6	Ⅷ	2886	
	132	Ⅱ	深鉢	底部				貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	E	4	Ⅸa	3687	
74	133	Ⅱ	深鉢	底部				貝殻条痕・キザミ	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	D	7	Ⅷ	4007	
	134	Ⅱ	深鉢	底部				貝殻条痕	ナデ	○	○	○				明赤褐色	橙色	D	4	Ⅷ	2577	
	135	Ⅱ	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	E	7	Ⅷ	2905	
	136	Ⅱ	深鉢	底部				貝殻刺突・貝殻条痕・キザミ	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい褐色	橙色	C	7	Ⅷ	4432・4450	
	137	Ⅱ	深鉢	底部				条痕	ナデ	○	○	○				赤褐色	明赤褐色	D	8	Ⅷ	4099	
																		E	8	Ⅷ	4101	
	138	Ⅱ	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい黄橙色	にぶい橙色	C	4	Ⅷ	3604	
																		E	4	Ⅷ	3138	
	139	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻条痕・刺突	ケズリ	○	○	○				にぶい褐色	明赤褐色	D	4	Ⅷ	2113・3000	
	140	Ⅱ	深鉢	胴～底部				貝殻条痕・刺突	ケズリ・ナデ	○	○	○				明赤褐色	褐色	B	3	Ⅷ	2636	
	141	Ⅱ	深鉢	胴～底部				貝殻条痕・刺突	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい褐色	にぶい橙色	E	8	Ⅷ	3535・4037	
75	142	Ⅱ	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○	○	○				にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	E	6	Ⅷ	3961	
																		F	4	Ⅷ	2170・3396	
	143	Ⅱ	深鉢	底部				キザミ	ナデ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい赤褐色	E	4	Ⅷ	2403	
																		E	4	Ⅸa	3559	
76	144	Ⅲ	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ナデ	○	○					にぶい黄褐色	にぶい橙色	C	4	Ⅷ	3318	
																		D	4	Ⅷ	3207	
	145	Ⅲ	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ナデ	○	○					灰褐色	灰黄褐色	D	4	Ⅷ	3001	
	146	Ⅲ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○			にぶい黄橙色	灰黄褐色	C	4	Ⅷ	2685・3369・3616～3618	
	147	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○			にぶい橙色	灰黄褐色	C	4	Ⅷ	3310・3333・一括	
	148	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○			にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	C	4	Ⅷ	2749・2991・3312	

第９表　縄文時代早期土器観察表３

挿図番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量（cm）			主文様・調整		胎土						色調		出土区			層位	取上番号	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母	外面	内面						
76	149	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○			灰黄褐色	灰黄褐色	C	4		Ⅷ	3371・3372・一括	
	150	Ⅲ	深鉢	口縁～胴部	14.2			貝殻刺突	ナデ・ケズリ	○	○		○			にぶい黄褐色	灰黄褐色	E	4		Ⅷ	1300・一括	
																		E	5		Ⅷ	4102	
	151	Ⅲ	深鉢	口縁～胴部	14.2			貝殻刺突	ナデ・ケズリ	○	○		○			灰黄褐色	灰黄褐色	E	5		Ⅷ	4102	
																		E	6		Ⅷ	3970	
	152	Ⅲ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突	ナデ・ケズリ	○	○		○			灰黄褐色	灰黄褐色	E	4		Ⅷ	3128・3129・3323	
	153	Ⅲ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○		○	灰黄褐色	灰黄褐色	D	5		Ⅷ	3780・4269	
																		E	5		Ⅷ	3470・3762	
	154	Ⅲ	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○			にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	B	8		Ⅷ	992	
																		B	8		Ⅵ	8-2T一括	
	155	Ⅲ	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ナデ	○	○					にぶい赤褐色	にぶい褐色	B	14		Ⅷ	70	
	156	Ⅲ	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ナデ	○	○				○	にぶい黄褐色	灰黄褐色	B	14		Ⅷ	23・253	
	157	Ⅲ	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○		○	にぶい褐色	にぶい褐色	E	4		Ⅷ	2244～2246	
	158	Ⅲ	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○		○	灰黄褐色	褐灰色	B	8		Ⅷ	342・346	
77	159	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ		○	○				にぶい橙色	褐灰色	E	5		Ⅷ	3416・3867・3868	
	160	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ		○	○				にぶい橙色	灰褐色	E	5		Ⅷ	3408	
	161	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○		○	にぶい褐色	褐色	E	4		Ⅷ	2322・2958・3121・3123・3127・一括	
	162	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○			にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	E	4		Ⅷ	2390・2956・3122・一括	
																		E	4		Ⅸa	3555	
	163	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○				○	にぶい褐色	灰褐色	B	6		Ⅷ	854・862・882・1348	
	164	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○			にぶい橙色	灰黄褐色	E	7		Ⅷ	3993・4189	
	165	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○		○	にぶい褐色	灰褐色	E	4		Ⅷ	2959	
	166	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○	○				明赤褐色	にぶい赤褐色	E	4		Ⅷ	2232・2242	
	167	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい橙色	E	6		Ⅷ	3932	
	168	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい褐色	E	4		Ⅷ	2223	
	169	Ⅲ	深鉢	胴部				刺突	ナデ	○	○					にぶい黄橙色	褐灰色	D	12		Ⅷ	929	
	170	Ⅲ	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○		○	にぶい黄橙色	灰黄褐色	B	8		Ⅷ	1180	
	171	Ⅲ	深鉢	胴～底部		11.4		貝殻刺突	ナデ	○	○		○			にぶい橙色	にぶい褐色	B	6		Ⅷ	857	
																		B	8		Ⅷ	334・373・291・1025・一括	
	172	Ⅲ	深鉢	胴～底部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○			灰黄褐色	褐灰色	E	5		Ⅷ	3435・3832	
	173	Ⅲ	深鉢	底部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○	○		にぶい赤褐色	にぶい褐色	C	4		Ⅷ	2765	
	174	Ⅲ	深鉢	底部				貝殻刺突	ナデ	○	○		○			にぶい黄褐色	褐灰色	B	8		Ⅷ	475	
	175	Ⅲ	深鉢	底部				貝殻刺突	ナデ	○	○	○				橙色	にぶい橙色	E	4		Ⅷ	2594	
78	176	Ⅳ	深鉢	胴部				貝殻刺突・条線	ナデ	○	○					橙色	にぶい橙色	E	6		Ⅷ	3939	
	177	Ⅳ	深鉢	胴部				条線	ナデ	○	○					にぶい黄褐色	褐灰色	E	6		Ⅷ	3480	
	178	Ⅳ	深鉢	胴部				条線	ナデ	○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい黄褐色	D	6		Ⅷ	3920	
																		E	6		Ⅷ	3962・3963・4353・一括	
	179	Ⅳ	深鉢	胴部				条線	ナデ	○	○				○	にぶい赤褐色	にぶい褐色	E	6		Ⅷ	3952・4174	
	180	Ⅳ	深鉢	胴部				条線	ナデ	○	○	○				にぶい褐色	にぶい橙色	E	6		Ⅷ	3940・3941	
	181	Ⅴ	深鉢	胴部				山形押型文	ナデ	○	○				○	にぶい橙色	にぶい褐色	D	14		Ⅷ	1520	
	182	Ⅵ	深鉢	胴部				ナデ	ナデ		○	○				浅黄橙色	浅黄橙色	C	4		Ⅷ	2112	
	183	Ⅵ	深鉢	胴部				ナデ	ナデ		○	○				灰白色	にぶい黄橙色	C	4		Ⅷ	3305・3606・一括	
	184	Ⅵ	深鉢	胴部				ナデ	ナデ	○	○	○				浅黄橙色	浅黄橙色	C	4		Ⅷ	2675	
	185	Ⅶ	深鉢	胴～底部				条痕・ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○				にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	B	13		Ⅷ	141	

第 10 表　縄文時代早期石器観察表

挿図番号	掲載番号	実測番号	器種	石材	出土区	層位	法量（cm）			重さ（g）	取上番号	備考
							最大長	最大幅	最大厚			
79	186	S3	打製石鏃	黒曜石Ⅰ類	E-4	Ⅷ	1.9	1.65	0.65	1.73	2479	
	187	S8	打製石鏃	黒曜石Ⅰ類	E-4	Ⅷ	1.85	1	0.6	0.9	2491	
	188	S7	楔形石器	黒曜石Ⅰ類	E-4	Ⅷ	2.15	1.2	0.6	1.58	2448・2451	
81	189	S1	磨製石鏃	頁岩	E-8	Ⅷ	1.8	1.75	0.2	0.57	4021	
	190	S2	打製石鏃	チャート	B-13	Ⅷ	1.55	1.2	0.25	0.42	1	
	191	S4	打製石鏃	安山岩	E-4	Ⅷ	1.9	1.8	0.6	1.26	2131	
	192	S5	打製石鏃	水晶	E-14	Ⅷ	1.9	1.6	0.45	1.05	17T一括	
	193	S6	打製石鏃	チャート	B-10	Ⅷ	1.8	1.6	0.3	0.53	204	
	194	S9	石匙	安山岩	E-4	Ⅵ	2.6	4.2	0.5	5.2	1T一括	
	195	S10	磨製石斧	ホルンフェルス	D-4	Ⅷ	6.3	2.6	1.1	21.6	2557	
	196	S11	磨製石斧	ホルンフェルス	E-6	Ⅷ	5.2	2.8	0.7	12.9	3947	
	197	S12	磨製石斧	ホルンフェルス	E-5	Ⅷ	4.15	2.75	0.95	14.6	3747	
	198	S13	打製石斧	ホルンフェルス	D-3	Ⅷ	5.75	4.1	1.2	36.7	2574	

第２節　縄文時代中期以降の調査

１　調査の概要

本遺跡では，確認調査の段階で縄文時代早期の遺物包含層のみ確認されていたが，周辺の遺跡で古代や中世の遺構・遺物が発見されていたため，重機で表土を除去後，人力による掘り下げを慎重に進めた。

調査の結果，縄文時代中期及び古代の遺物が，調査区の北西部にあたるＢ・Ｃ－３・４区のⅡ～Ⅳ層より出土したが，Ⅱ～Ⅳ層から遺構は検出しなかった。

２　遺物

縄文時代中期以降の遺物は土器・石器・須恵器が出土した。土器は器形・文様・器面調整等から下記のように分類した。また，石器は磨製石斧１点のみ出土した。その他にＢ－３区のⅢ・Ⅳ層から黒曜石Ⅱ類のチップが出土した。

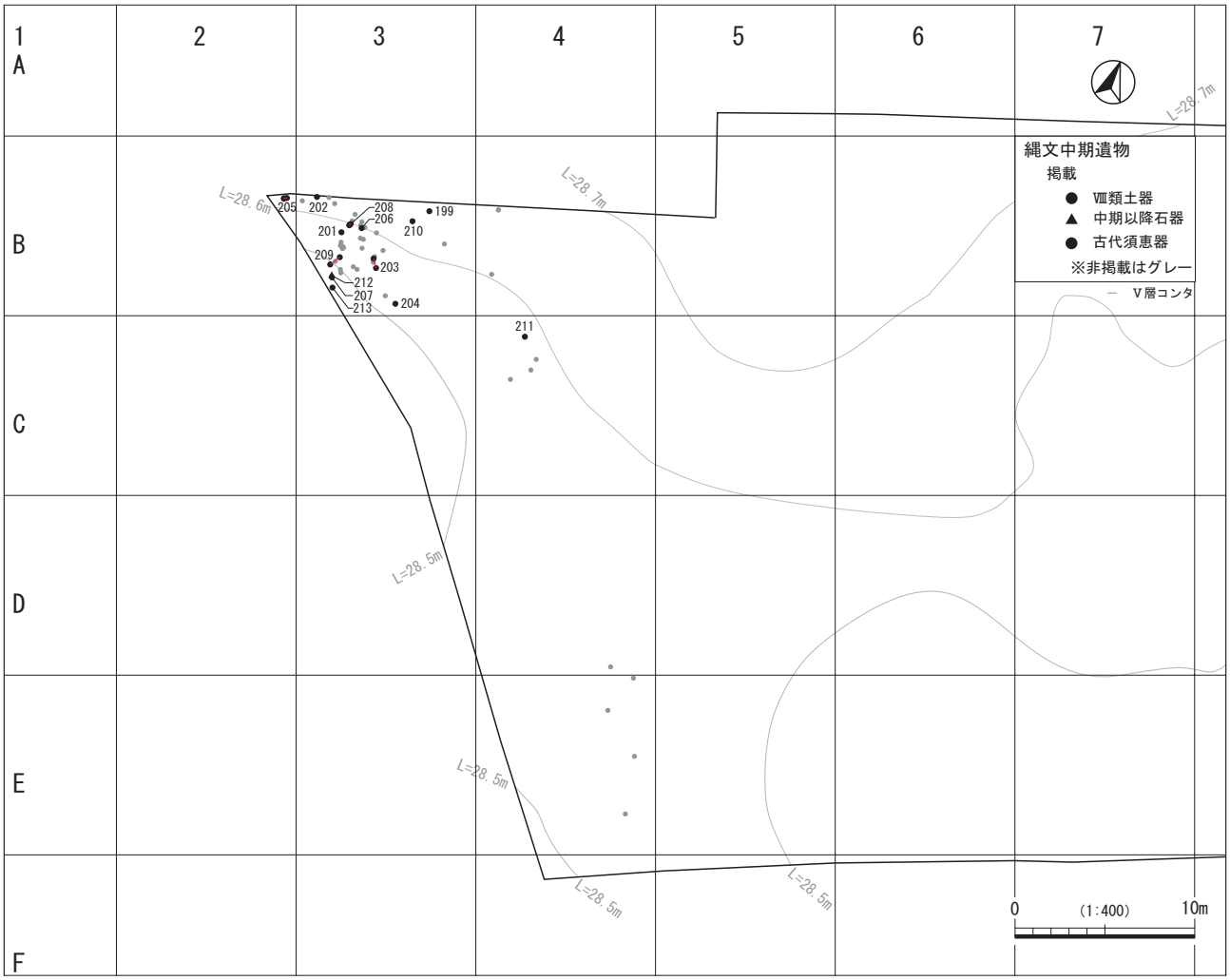
Ⅷ類土器

器形は口縁部端部のみ内湾するものと，直口するものがあり，頸部でくびれ，やや張りのある胴部に至る。底部は平底である。文様は口縁部及び口唇部にのみ施され，太めの突帯や沈線，刺突を施す。器面調整は内外面とも貝殻条痕調整後，ナデを施している。

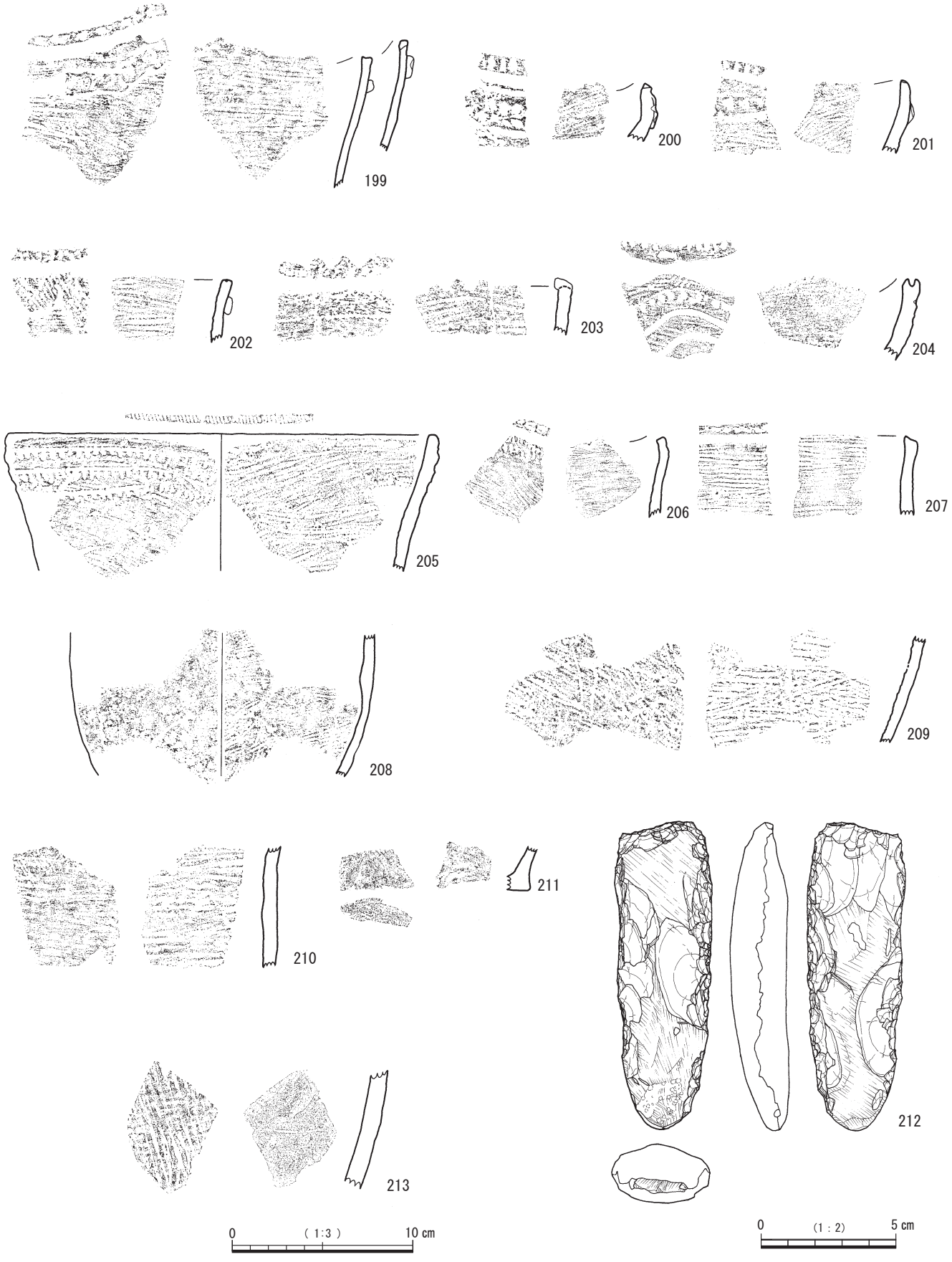
199 ～ 201は波状口縁を呈し，口縁部に太い突帯を貼り付け，突帯及び口唇部には刺突を施す。202・203は口縁部が直口し，突帯を波状に貼り付け，貝殻で施文する。203は口縁部に横位の貝殻刺突線文を施す。204・205は沈線上に刺突を施す。206・207は文様を口縁部上端及び口唇部のみに施す。208 ～ 210は胴部であり，貝殻条痕調整後ナデを施している。211は底面境付近が張り出す底部である。

212はホルンフェルス製の磨製石斧である。棒状を呈し，基部は欠損するが，全面に研磨が施され，刃部は丸みを帯びる。

213のみ古代の遺物である。213はＢ－３区のⅡ層から出土した須恵器の甕の胴部である。外面に条痕タタキ痕が残り，内面は同心円当て具痕をナデ消している。



第82図　縄文時代中期以降の遺物出土状況図



第83図　縄文時代中期以降の遺物

第 11 表　縄文時代中期土器観察表

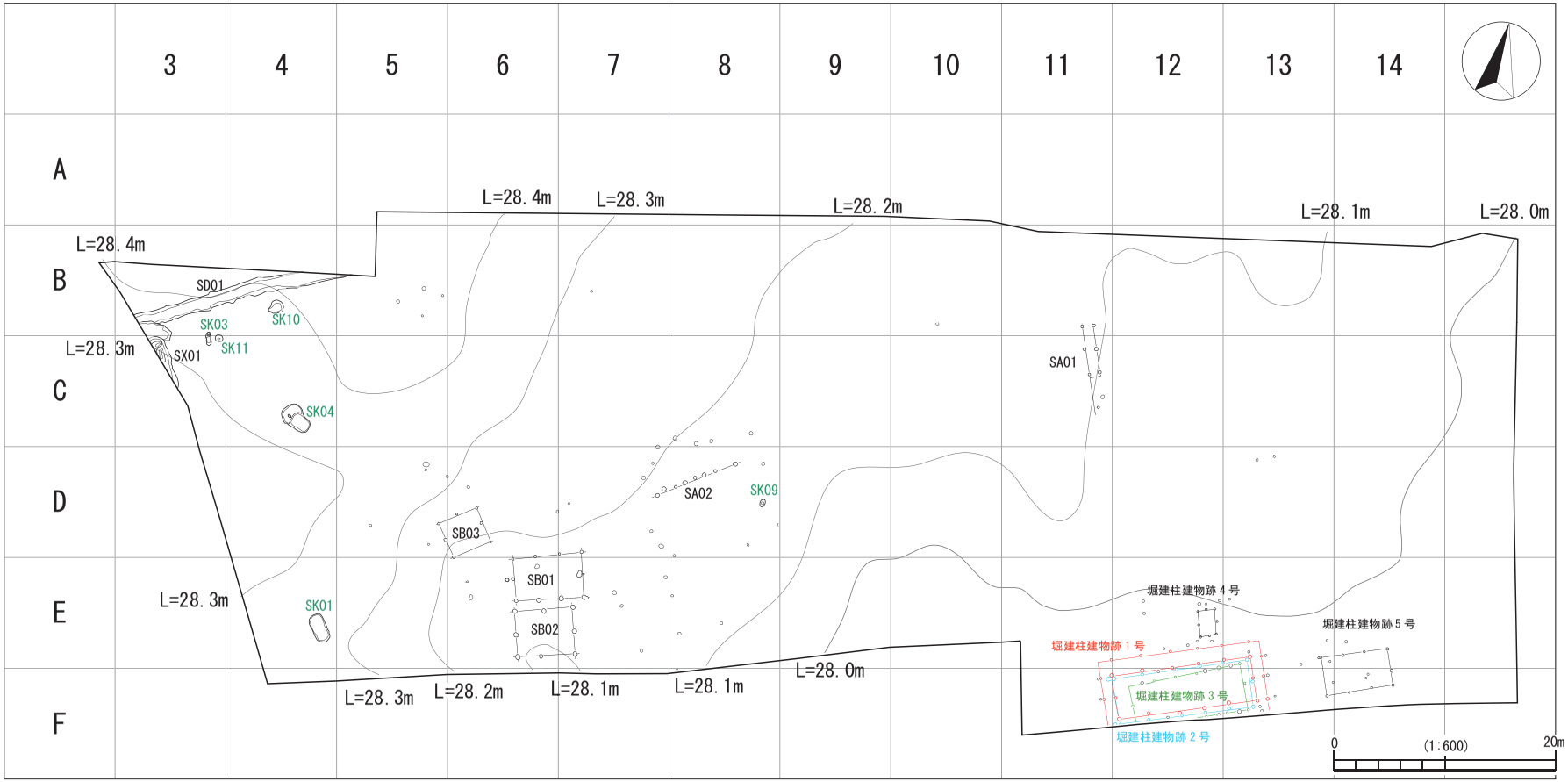
挿図番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量（cm）			主文様・調整		胎土						色調		出土区		層位	取上番号	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母	外面	内面					
83	199	Ⅷ	深鉢	口縁部				太い突帯	貝殻条痕→ナデ		○	○				灰黄褐色	にぶい黄褐色	B	3	Ⅲ	2005	
	200	Ⅷ	深鉢	口縁部				凹線・刻目突帯	貝殻条痕→ナデ		○	○				灰黄褐色	褐色	−	−	Ⅰ	一括	
	201	Ⅷ	深鉢	口縁部				刻目突帯	貝殻条痕→ナデ		○	○				にぶい橙色	灰黄褐色	B	3	Ⅲ	2023	
	202	Ⅷ	深鉢	口縁部				太い突帯	貝殻条痕→ナデ		○	○				にぶい橙色	にぶい褐色	B	3	Ⅲ	2034	
	203	Ⅷ	深鉢	口縁部				貝殻刺突・突帯	貝殻条痕→ナデ		○	○				灰黄褐色	灰黄褐色	B	3	Ⅲ	2053・2055	
	204	Ⅷ	深鉢	口縁部				凹線・刺突	貝殻条痕→ナデ	○	○	○				にぶい橙色	にぶい褐色	B	3	Ⅲ	2065	
	205	Ⅷ	深鉢	口縁～胴部	23.8			沈線・刺突	貝殻条痕→ナデ	○	○	○		○		灰褐色	褐色	B	2	Ⅲ	2037	
																		B	2	Ⅳ	2078・2079	
	206	Ⅷ	深鉢	口縁部				刺突	貝殻条痕→ナデ	○	○					黒褐色	黒色	B	3	Ⅲ	2012	
	207	Ⅷ	深鉢	口縁部				貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○				にぶい褐色	灰黄褐色	B	3	Ⅲ	2060	
	208	Ⅷ	深鉢	胴部				貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	○	○	○				灰褐色	灰褐色	B	3	Ⅲ	2020 ～ 2022・一括	
																		B	3	Ⅱa	一括	
	209	Ⅷ	深鉢	胴部				貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○					にぶい赤褐色	灰褐色	B	3	Ⅲ	2039・2041・一括	
																		B	3	Ⅱa	一括	
	210	Ⅷ	深鉢	胴部				貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○	○				灰黄褐色	灰黄褐色	B	3	Ⅲ	2001	補修孔
	211	Ⅷ	深鉢	底部				ナデ	ナデ	○		○				橙色	にぶい橙色	C	4	Ⅲ	2068	

第 12 表　古代出土遺物観察表

挿図番号	掲載番号	種別	器種	法量（cm）			色調		調整		出土区		層位	取上番号	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面					
83	213	須恵器	甕				灰色	灰白色	条痕タタキ	同心円当て具・ナデ	B	3	Ⅱa	2062	

第 13 表　縄文時代中期以降石器観察表

挿図番号	掲載番号	器種	石材	出土区	層位	法量（cm）			重さ（g）	取上番号	備考
						最大長	最大幅	最大厚			
83	212	磨製石斧	ホルンフェルス	B-3	Ⅲ	11.4	3.6	2.2	118	2061	



第84図　中世の遺構配置図

第３節　中世の調査

１　調査の概要

中世の調査は，池田降下軽石を含むⅤ～Ⅶa層において掘立柱建物跡８棟，ピット列２基，ピットを76基検出した。

各遺構とも埋土はⅡa層を主体とした黒色土を基調とすることと，遺物では須恵器，土師器，青磁，白磁，滑石製石鍋片，鉄製品，鉄滓などが出土したことから，時期の特定を行った。

以下，個別の報告を行う。図化した遺物の詳細については第14～16表を参照されたい。ピットに関しては多数検出したが，建物跡と認定できないものもあった。ここでは，遺構配置図に平面図のみ掲載することとした。

２　遺構

（１）掘立柱建物跡

掘立柱建物跡１号（掘立柱建物跡１号）　【第85図】

Ｅ・Ｆ-12・13区Ⅶa層で検出した。２間×５間の母屋の３面に庇が付く建物跡で，主軸方位はＮ80°Ｅである。平面の規模は母屋が1,263×399cmで，庇を含めると535cm×1,459cmである。柱穴の長径は14～40cm，深さは５～52cmである。平面形は長方形を呈している。埋土は主に黒色土でＰ８，９，13，17，18，24にはアカホヤブロックが混じる。掘立柱建物跡１号の柱穴からは，土師器と白磁が出土した。214はＰ１，215はＰ２から出土した土師器の坏である。216はＰ２，217はＰ４から出土した土師器の皿の底部であり，底部は糸切りである。218は白磁の碗である。口縁部周辺を施釉後に掻き取る，いわゆる口禿の碗である。

掘立柱建物跡２号　（掘立柱建物跡２号）　【第86図】

Ｅ・Ｆ-11～13区Ⅶa層で検出した。２間×５間の建物で平面形はほぼ長方形を呈しており，主軸方位はＮ75°Ｅである。桁行南側の中央の柱穴は検出できなかった。当初からなかったか，浅くて削平されたものと思われる。柱穴は長径が23～47cm，深さが11～51.5cmだった。埋土は主に黒褐色土の単一層であるが，Ｐ10は黒色土も混じる。

掘立柱建物跡２号の柱穴からは，土師器と擂鉢が出土した。219はＰ10から出土した土師器の皿である。220は備前焼の擂鉢である。口縁部の上端にやや丸みがあり，内側が突出する。内面には５本１単位の擂り目が入る。

掘立柱建物跡３号　（掘立柱建物跡３号）　【第87図】

Ｅ・Ｆ-12･13区Ⅶa層で検出された。南側は一部調査区外へ伸びているが，２間×５間の建物跡の可能性がある。平面形はほぼ長方形を呈しており，主軸方位はＮ73°Ｅである。柱穴は長径が19～32.5cm，深さが４～28.5cmだった。埋土は黒色土の単層が多いが，Ｐ５とＰ９にはアカホヤブロックを含む。

掘立柱建物跡４号　（掘立柱建物跡４号）　【第88図】

Ｅ-12区のⅦa層で検出した。平面形はほぼ長方形を呈している。主軸方位はＮ13°Ｗである。柱間は北側が0.75m＋0.75m，南側が0.63m＋0.83m，東側は1.13m＋1.13mである。柱穴は長径が16～23.5cm，深さが９～23cmだった。埋土は主にシルト質の黒色土であるが褐灰色土を含むものもある。

掘立柱建物跡５号　（掘立柱建物跡５号）　【第88図】

Ｅ・Ｆ-13・14区のⅦa層で検出した。平面形はほぼ長方形を呈している。梁行西側の中央の柱穴は検出できなかった。当初からなかったか，浅くて削平されたものと思われる。主軸方位はＮ75°Ｅである。柱間は北側が1.97m＋1.96m＋2.1m，南側が1.94m＋2.09m＋2.01m，東側は1.3m＋2.3mである。柱穴は長径が17～41cm，深さが５～17cmだった。埋土は主にシルト質の黒色土で，Ｐ１，Ｐ５にはアカホヤブロックを含む。

掘立柱建物跡６号（SB01）　【第89図】

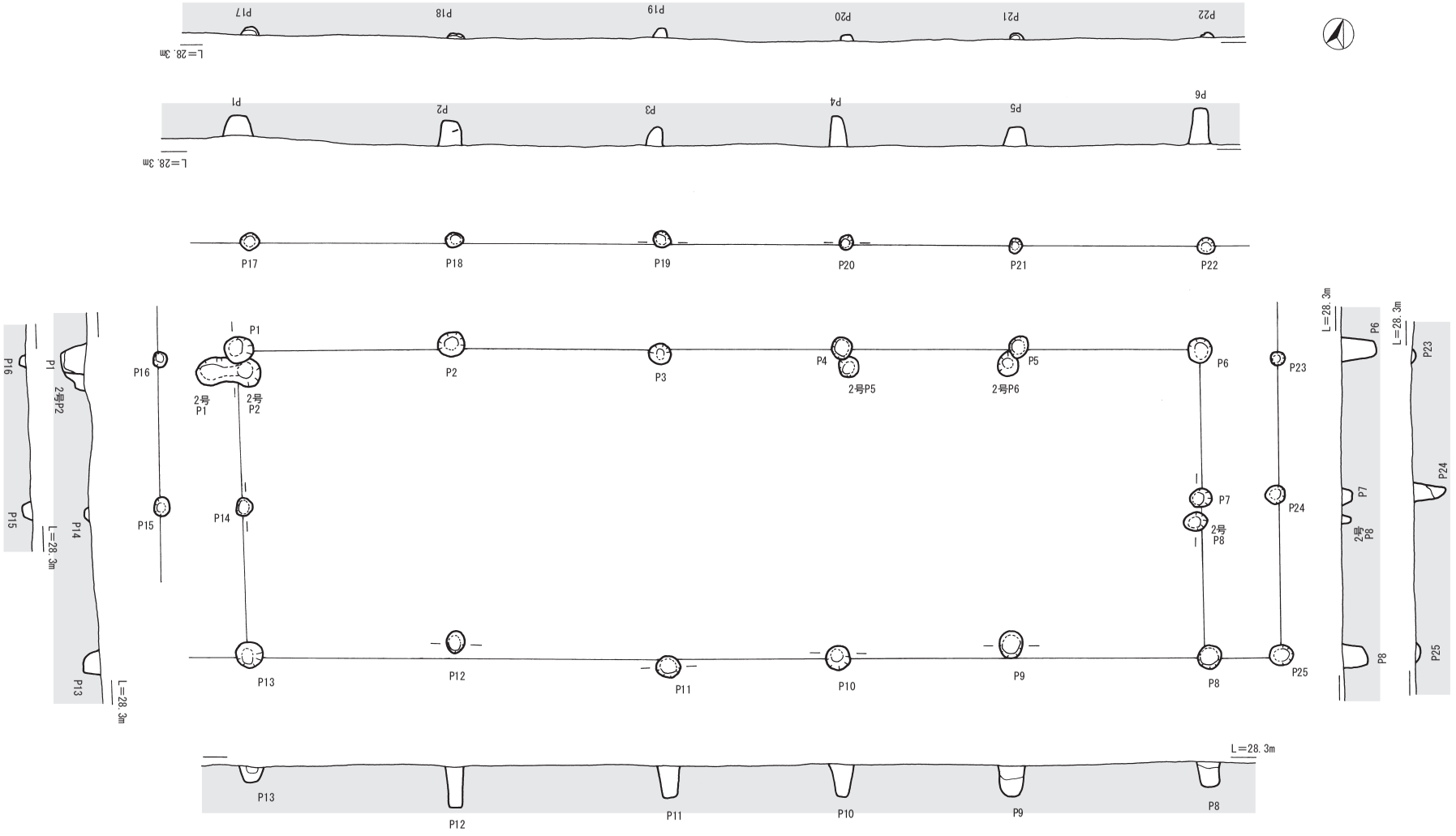
Ｅ-６・７区Ⅴ層で検出した。２間×３間の建物で平面形は，ほぼ長方形を呈しており，主軸方位はＮ70°Ｅである。柱間は北から２m＋2.2m＋２m，南側が２mの等間隔，西側が1.8m＋２m，東側は２mの等間隔である。柱穴は長径が17.5～57cm，深さが5.5～47cmだった。埋土のＰ３－１，２は暗褐色土で，他の柱穴は黒褐色土の単一層である。

掘立柱建物跡７号（SB02）　【第90図】

Ｅ-６～７区Ⅴ層で検出した。２間×２間の建物で平面形はほぼ長方形を呈しており，主軸方位はＮ72°Ｅである。柱間は北から2.6mの等間隔，南側が3.1m＋2.1m，西側が北から2.1mの等間隔，東側は2.2m＋2.1mである。柱穴は長径が36～50cm，深さが32.5～60cmだった。埋土のＰ３は黒褐色土及び暗褐色土で，他の柱穴は黒褐色土の単一層である。

掘立柱建物跡８号（SB03）　【第90図】

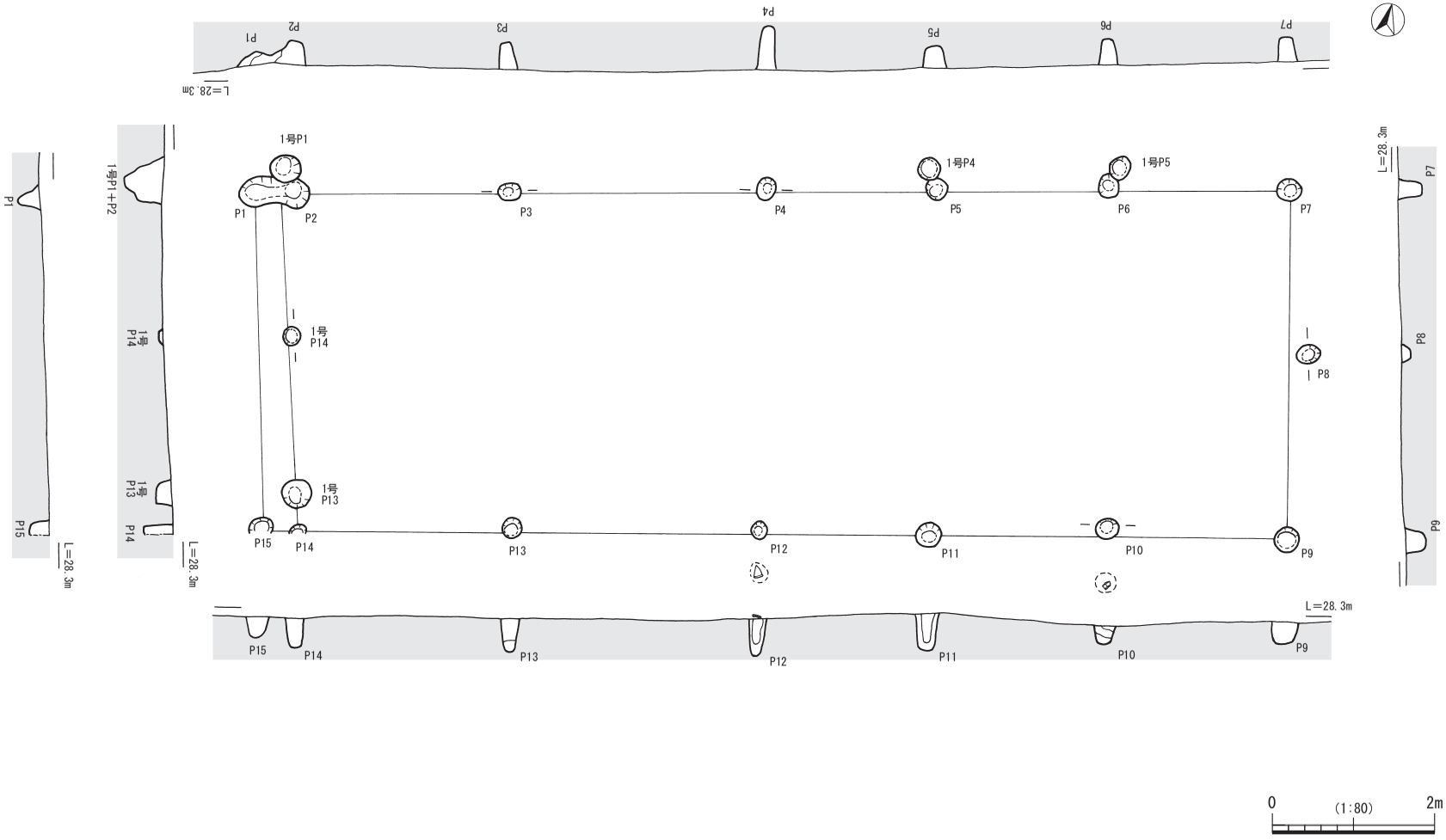
Ｄ・Ｅ-５・６区のⅤ層上面で検出した。平面形はほぼ正方形を呈している。桁行南側の中央の柱穴は検出できなかった。当初からなかったか，浅くて削平されたものと思われる。主軸方位はＮ55°Ｅである。柱間は北側が1.9m＋1.85m，南側が3.6m，西側が北から1.6m＋1.7m，東側は1.4m＋1.9mである。柱穴は長径が19～34cm，深さが４～29cmだった。埋土は黒褐色土の単一層である。



第85図　掘立柱建物跡１号

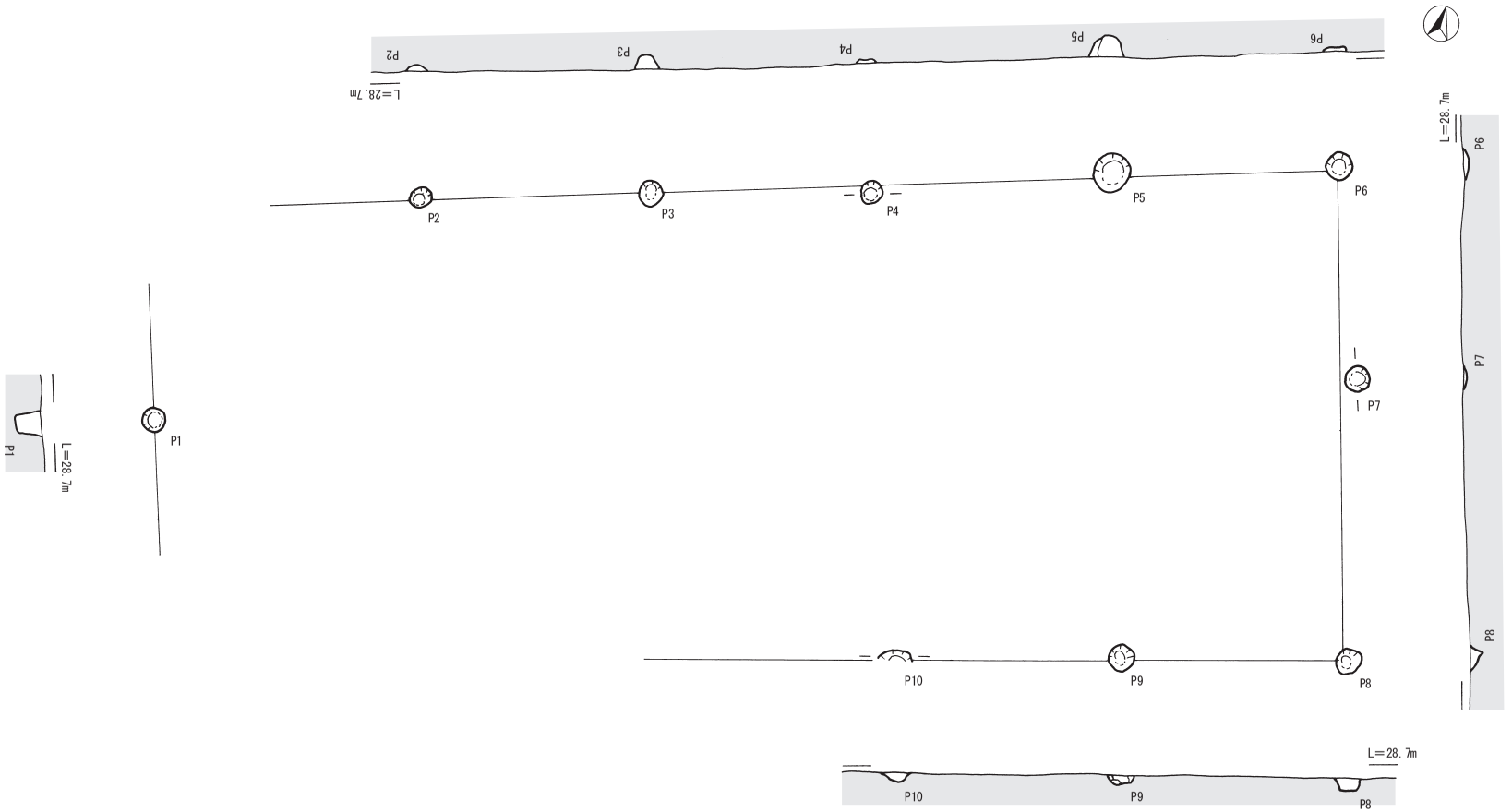
0　(1:80)　2m

掘立柱建物跡２号



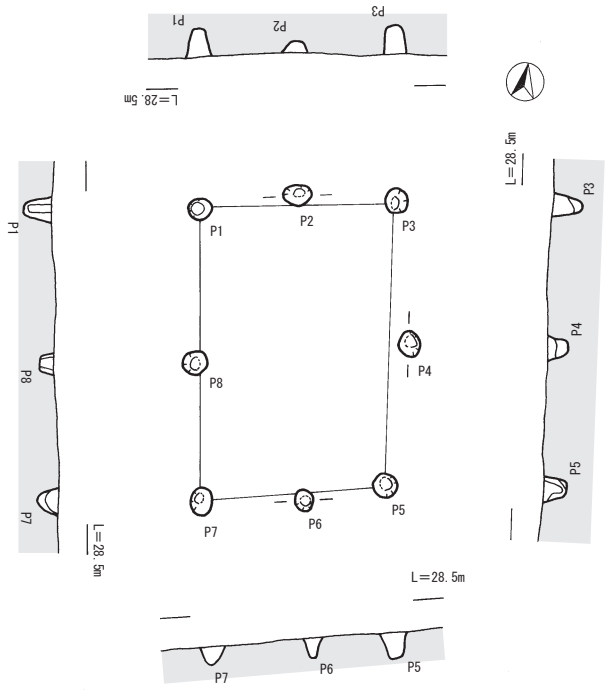
第86図　掘立柱建物跡２号

掘立柱建物跡３号

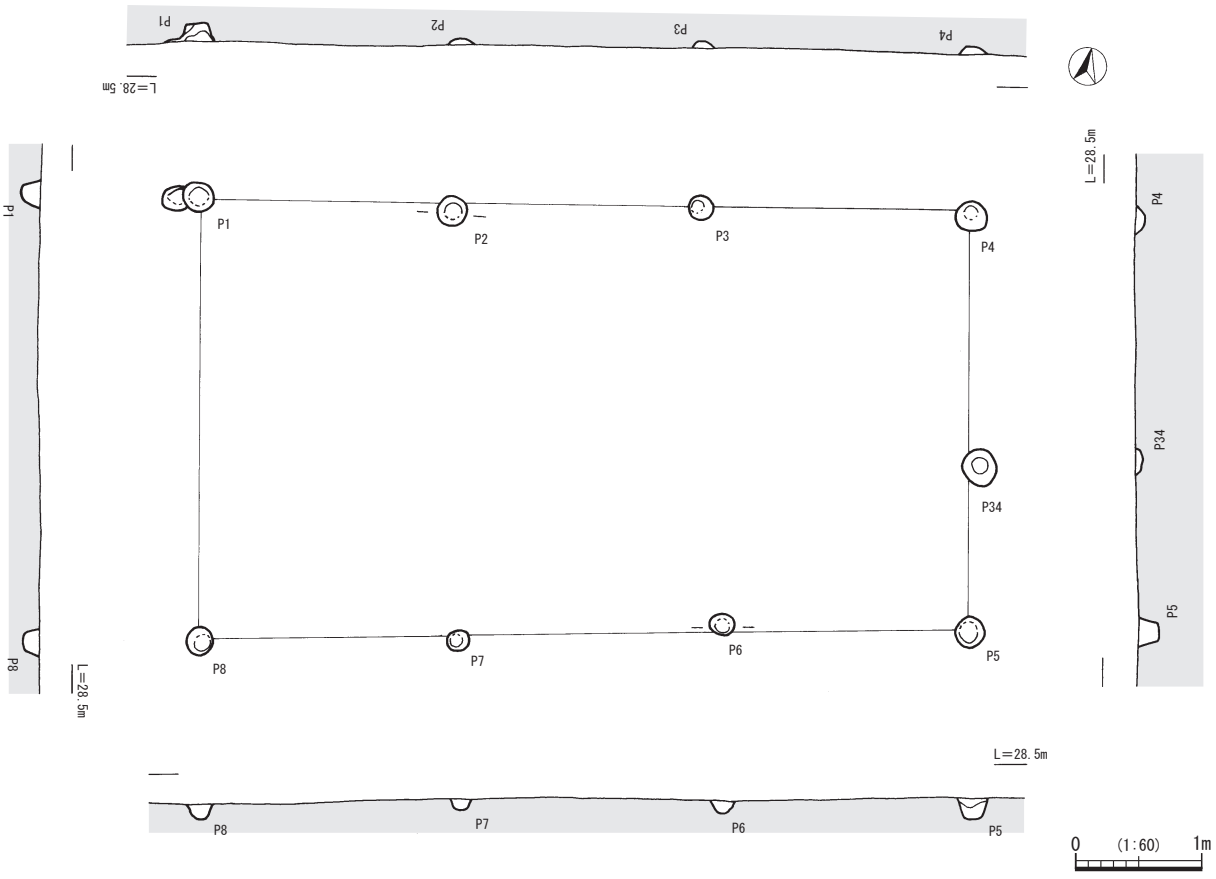


第87図　掘立柱建物跡３号

掘立柱建物跡４号

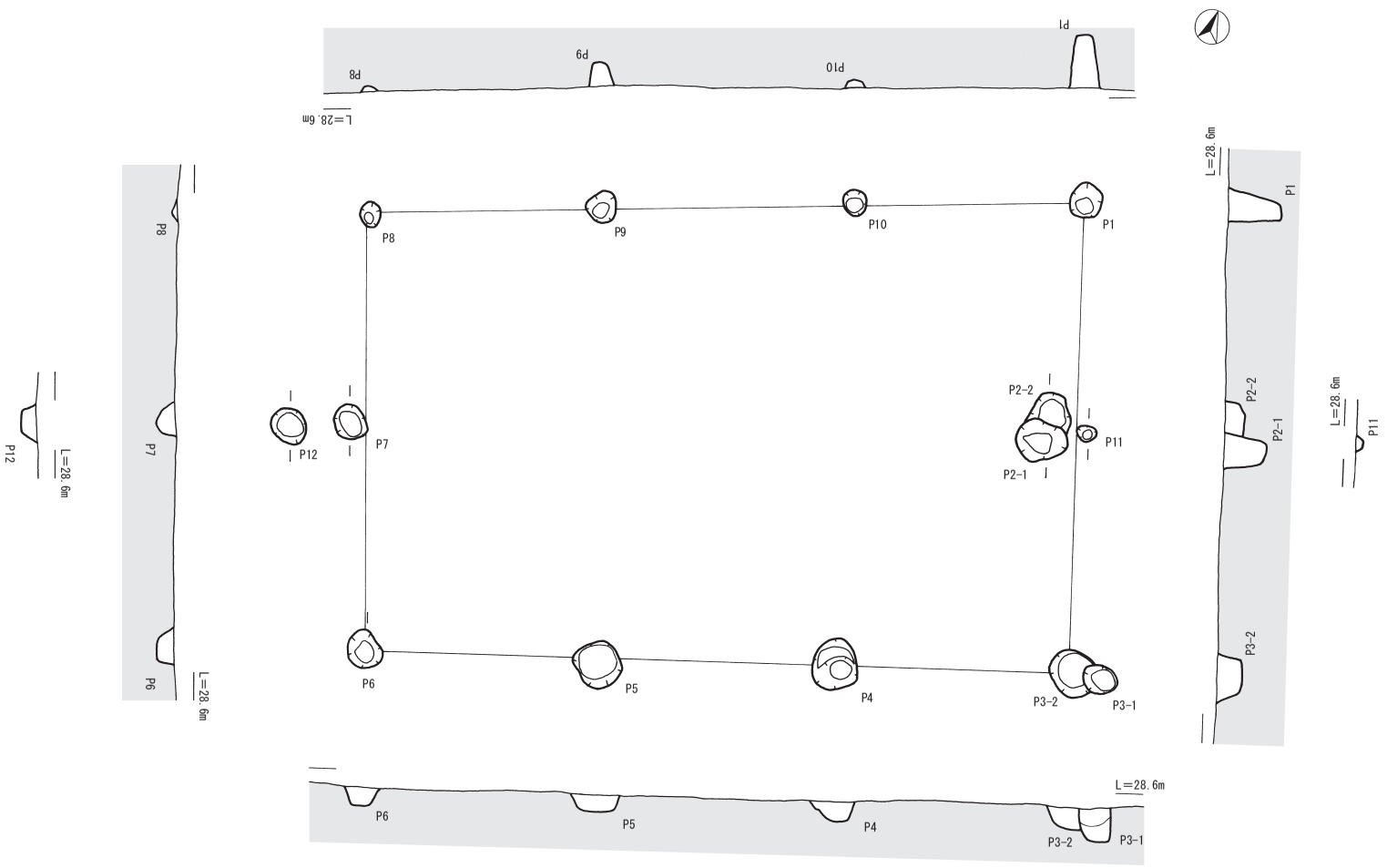


掘立柱建物跡５号



第88図　掘立柱建物跡４・５号

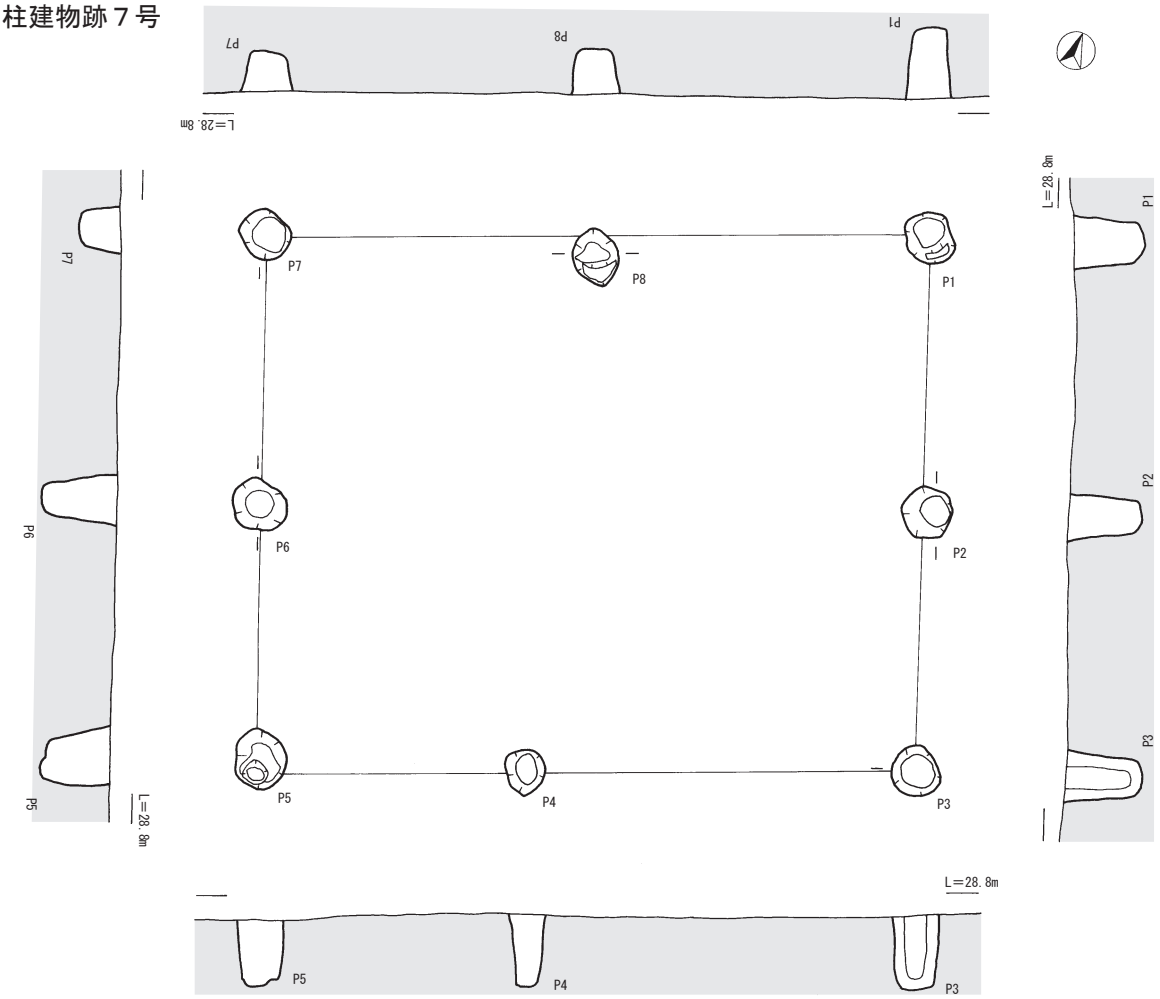
掘立柱建物跡６号



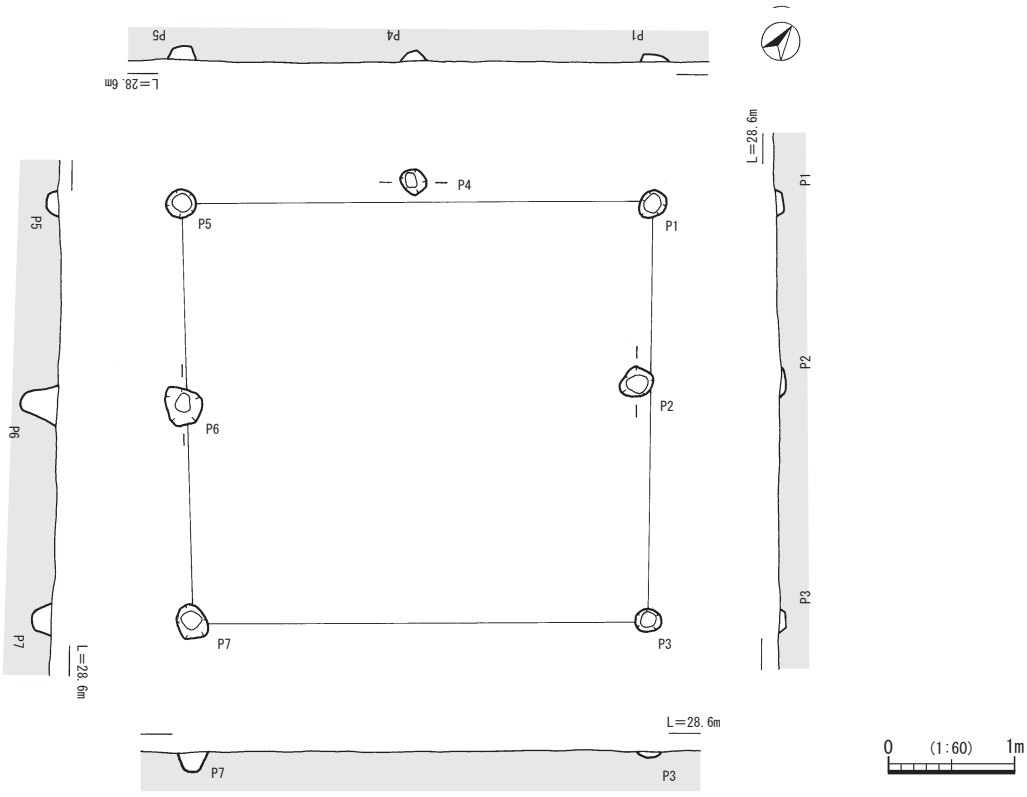
0 (1:60) 1m

第89図　掘立柱建物跡６号

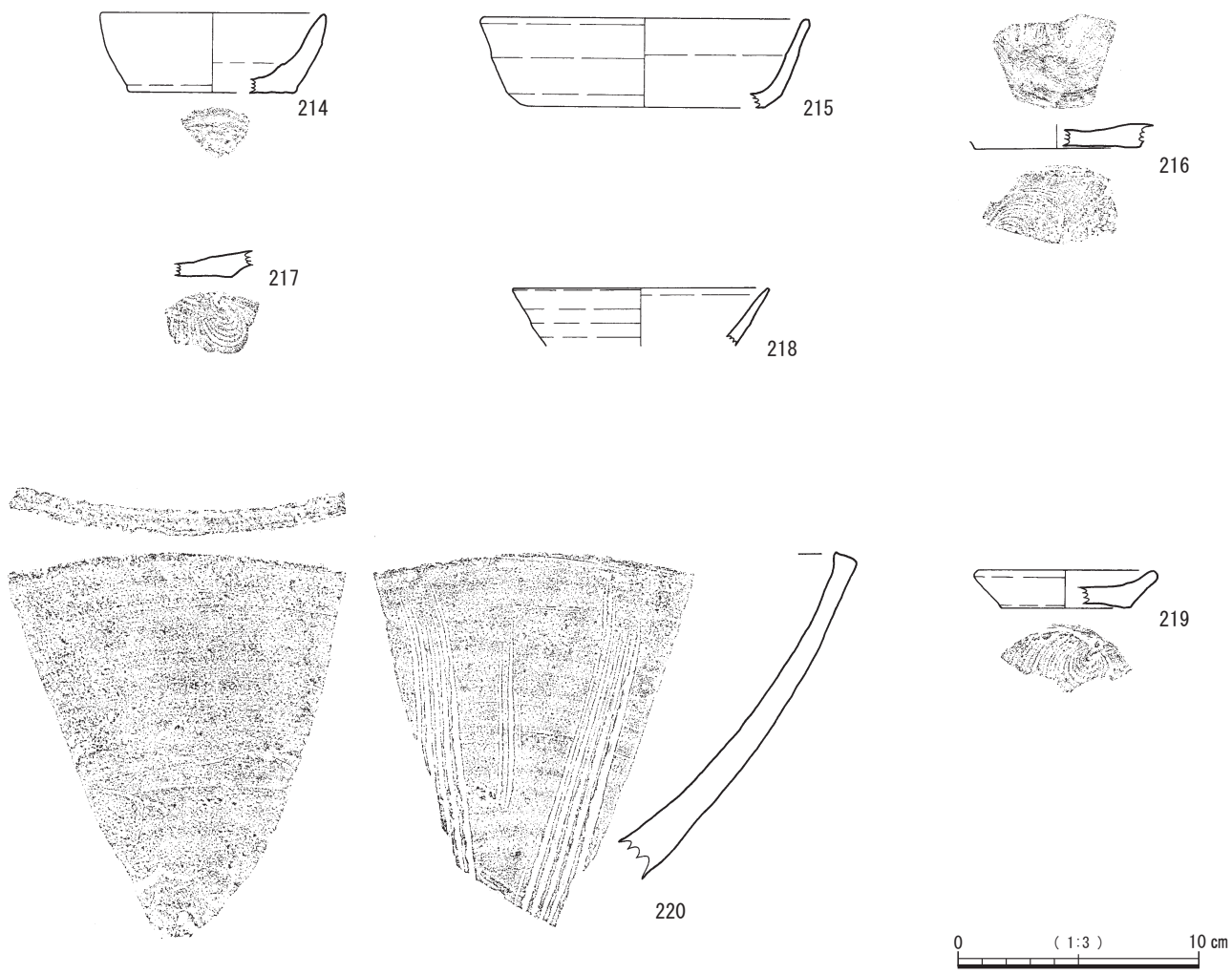
掘立柱建物跡７号



掘立柱建物跡８号



第90図　掘立柱建物跡７・８号



第91図　掘立柱建物跡１・２号出土遺物

第 14 表　遺構内出土遺物観察表（土師器）

挿図番号	掲載番号	種別	器種	法量（cm）			色調		調整		取上番号	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
91	214	土師器	坏	9.4	7	3.3	灰白色	灰白色	ナデ	ナデ	掘立1号P1一括	
91	215	土師器	坏	13.7	10	3.7	灰白色	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	掘立1号P2-1	
91	216	土師器	皿		3.4		灰白色	浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	掘立1号P2一括	
91	217	土師器	皿				淡橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ	掘立1号P4一括	
91	219	土師器	皿	7	5.2	1.6	浅黄橙色	浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	掘立2号P10一括	

第 15 表　遺構内出土遺物観察表（国産陶器）

挿図番号	掲載番号	種別	器種	色調		調整		取上番号	備考
				外面	内面	外面	内面		
91	220	備前焼	擂鉢	灰赤色	灰赤色	ロクロによるナデ	ロクロによるナデ	掘立2号P12-1	

第 16 表　遺構内出土遺物観察表（輸入陶器）

挿図番号	掲載番号	種別	器種・分類	胎土	釉薬	取上番号	備考
91	218	白磁	碗・Ⅸ類	灰白色	透明釉	掘立1号P9一括	

第 17 表　掘立柱建物跡観察表

遺構名	旧遺構名	No.	柱穴（cm）			埋　土
			長径	短径	深さ	
掘立柱建物跡1号	掘立柱建物跡1号	P1	40	35	27.5	黒色土（7.5YR 1/2）　黒色土(10YR1/2)
		P2	32	33	34	黒色土（7.5YR 1/2）
		P3	28	27	35	黒色土（7.5YR 1/2）
		P4	28	28	38	黒色土（7.5YR 1/2）
		P5	29	29	25	褐灰色土（7.5YR 1/ 4）　黒色土（7.5YR 1/2）
		P6	33.5	32	47	黒色土（7.5YR 1/2）
		P7	27	23	12	黒色土（7.5YR 1/2）
		P8	33	32	33	黒色土（7.5YR 1/2）
		P9	37	37	41	黒色土（7.5YR 1/2）　黒褐色土（10YR 1/3）
		P10	34	34	42	黒色土（7.5YR 1/2）
		P11	30	29	43.5	黒色土（7.5YR 1/2）
		P12	30	25	52	黒色土（7.5YR 1/2）
		P13	33	32	19	褐灰色土（7.5YR 1/ 4）　黒色土（7.5YR 1/2）
		P14	14	12	5	黒色土（7.5YR 1/2）
		P15	24	21	13	黒色土（7.5YR 1/2）
		P16	19	17	8.5	黒色土（7.5YR 1/2）
		P17	25	24	12	黒色土（7.5YR 1/2）アカホヤ+黒色土ブロック
		P18	23	20	8	黒色土（7.5YR 1/2）アカホヤ+黒色土ブロック
		P19	18.5	21	12	黒色土（7.5YR 1/2）
		P20	22	18	8.5	黒色土（7.5YR 1/2）
		P21	22	18	8.5	黒色土（7.5YR 1/2）アカホヤ+黒色土ブロック
		P22	21	19	7	黒色土（7.5YR 1/2）
		P23	19	18	6	黒色土（7.5YR 1/2）
		P24	25	25	42	黒色土（7.5YR 1/2）アカホヤ+黒色土ブロック
		P25	33	17	6.5	黒色土（7.5YR 1/2）

遺構名	旧遺構名	主軸	方向	柱穴	柱穴距離（cm）	方向	柱穴	柱穴距離（cm）
掘立柱建物跡1号	掘立柱建物跡1号	N80° E	桁行	P1-P2	286	梁行	P13-P14	195
				P2-P3	274		P1-P14	203
				P3-P4	243		P6-P7	193
				P4-P5	220		P7-P8	206
				P5-P6	240		P15-P16	197
				P8-P9	262		P23-P24	181
				P9-P10	228		P24-P25	211
				P10-P11	221		P1-P17	140
				P11-P12	281		P2-P18	137
				P12-P13	271		P3-P19	152
				P17-P18	271		P4-P20	137
				P18-P19	268		P5-P21	134
				P19-P20	244		P6-P22	136
				P20-P21	223			
				P21-P22	257			
				P14-P15	109			
				P1-P16	97			
				P6-P23	99			
				P7-P24	100			
				P8-P25	98			

遺構名	旧遺構名	No.	柱穴（cm）			埋　土
			長径	短径	深さ	
掘立柱建物跡2号	掘立柱建物跡2号	P1	47	37	13	アカホヤ+黒色土ブロック黒褐色土（10YR 1/3）粘質シルト土
		P2	39	37	39	黒色（7.5YR 1/2）黒色土（7.5YR 1/2）　シルト土（アカホヤブロック）
		P3	24	22	32.5	黒褐色土（10YR 1/3）粘質シルト土
		P4	28.5	26	51.5	黒褐色土（10YR 1/5）粘質シルト土
		P5	29	28	28	黒褐色土（10YR 1/3）粘質シルト土
		P6	30.5	23	32	黒褐色土（10YR 1/3）粘質シルト土
		P7	29	24	28.5	黒褐色土（10YR 1/3）粘質シルト土　アカホヤ+黒色土ブロック
		P8	28	24	11	黒褐色土（10YR 1/3）粘質シルト土
		P9	33	33	28	黒褐色土（10YR 1/3）粘質シルト土
		P10	32.5	27	23.5	黒褐色土（10YR 1/5）粘質シルト土アカホヤ+黒色土ブロック黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P11	30.5	30	44	褐灰色土（7.5YR 1/ 4）　砂質シルト土黒褐色土（10YR 1/3）粘質シルト土
		P12	23.5	22.5	46	褐灰色土（7.5YR 1/ 4）　砂質シルト土黒褐色土（10YR 1/3）粘質シルト土
		P13	25.5	25	39	黒褐色土（10YR 1/3）粘質シルト土　　黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P14	23	(12)	39	—
		P15	31.5	(19)	26	—

遺構名	旧遺構名	主軸	方向	柱穴	柱穴距離（cm）	方向	柱穴	柱穴距離（cm）
掘立柱建物跡2号	掘立柱建物跡2号	N75° E	桁行	P1-P2	49	梁行	P7-P8	205
				P2-P3	262		P8-P9	226
				P3-P4	320			
				P4-P5	210			
				P5-P6	209			
				P6-P7	222			
				P9-P10	220			
				P10-P11	220			
				P11-P12	210			
				P12-P13	300			
				P13-P14	260			
				P14-P15	45			

遺構名	旧遺構名	No.	柱穴（cm）			埋　土
			長径	短径	深さ	
掘立柱建物跡3号	掘立柱建物跡3号	P1	22	21	23.5	—
		P2	20	17	16.5	—
		P3	22.5	21	4	黒色土（7.5YR 1/2）
		P4	19	19	25	黒色土（7.5YR 1/2）
		P5	32.5	30	28.5	黒色土（7.5YR 1/2）
		P6	24	20	25	—
		P7	21	18	2	黒色土（7.5YR 1/2）
		P8	21	21	10.5	—
		P9	23	22	19	黒色土（7.5YR 1/2）
		P10	31	(10)	7	—

遺構名	旧遺構名	主軸	方向	柱穴	柱穴距離（cm）
掘立柱建物跡3号	掘立柱建物跡3号	N73° E	桁行	P2-P3	200
				P3-P4	193
				P4-P5	208
				P5-P6	198
				P8-P9	192
				P9-P10	193
			梁行	P7-P8	242
				P6-P7	195

遺構名	旧遺構名	No.	柱穴（cm）			埋　土
			長径	短径	深さ	
掘立柱建物跡4号	掘立柱建物跡4号	P1	19	12.5	23	褐灰色土（7.5YR 1/4）砂質シルト土
		P2	23.5	17	9	黒色土（7.5YR 1/2）
		P3	19	17.5	21	黒色土（7.5YR 1/2）
		P4	21	18	17	黒色土（7.5YR 1/2）シルト土　アカホヤ+黒色土ブロック
		P5	20	20	17	褐灰色土（7.5YR 1/ 4）砂質シルト土　アカホヤ+黒色土ブロック黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P6	16	17.5	15	黒色土（7.5YR 1/2）
		P7	22	18	16	黒色土（7.5YR 1/2）
		P8	20	19	10.5	褐灰色土（7.5YR 1/ 4）砂質シルト土　アカホヤ+黒色土ブロック

遺構名	旧遺構名	主軸	方向	柱穴	柱穴距離（cm）	方向	柱穴	柱穴距離（cm）
掘立柱建物跡4号	掘立柱建物跡4号	N13° W	桁行	P1-P8	123	梁行	P1-P2	75
				P7-P8	108		P2-P3	75
				P3-P4	113		P5-P6	63
				P4-P5	113		P6-P7	83

遺構名	旧遺構名	No.	柱穴（cm）			埋　土
			長径	短径	深さ	
掘立柱建物跡5号	掘立柱建物跡5号	P1	41	23	15	黒色土（7.5YR 1/2）シルト土）　アカホヤ+黒色土ブロック黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P2	25	23	5	黒色土（7.5YR 1/2）
		P3	20	20	5.5	黒色土（7.5YR 1/2）
		P4	24	22.5	7	黒色土（7.5YR 1/2）
		P5	25	25	17	黒色土（7.5YR 1/2）　黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P6	21	17	10	黒色土（7.5YR 1/2）
		P7	17	17	9	黒色土（7.5YR 1/2）
		P8	23	22	11	黒色土（7.5YR 1/2）
		P34	28	22	5	—

遺構名	旧遺構名	主軸	方向	柱穴	柱穴距離（cm）	方向	柱穴	柱穴距離（cm）
掘立柱建物跡5号	掘立柱建物跡5号	N75° E	桁行	P1-P2	197	梁行	P4-P34	132
				P2-P3	196		P5-P34	230
				P3-P4	210		P1-P8	350
				P5-P6	194			
				P6-P7	209			
				P7-P8	201			

遺構名	旧遺構名	No.	柱穴（cm）			埋　土
			長径	短径	深さ	
掘立柱建物跡6号	SB01	P1	30	28	47	黒褐色土（7.5YR 2/1）
		P2	54	36	46	黒褐色土（7.5YR 3/2）　暗褐色土（10YR 3/3）
		P3	57	30	30.5	黒褐色土（7.5YR 3/2）　暗褐色土（7.5YR 3/3）
		P4	40	42	17	黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P5	40	40	14	黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P6	33	33	15	黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P7	30	28	20	黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P8	22	18	5.5	黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P9	28	27	21	黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P10	22.5	20	7	黒褐色土（7.5YR 2/1）
		P11	17.5	15	6.5	黒褐色土（7.5YR 3/3）
		P12	33	30	17	黒褐色土（7.5YR 3/2）

遺構名	旧遺構名	主軸	方向	柱穴	柱穴距離（cm）	方向	柱穴	柱穴距離（cm）
掘立柱建物跡6号	SB01	N70° E	桁行	P1-P10	200	梁行	P1-P2	200
				P9-P10	220		P2-P3	200
				P8-P9	200		P6-P7	200
				P3-P4	200		P7-P8	180
				P4-P5	200			
				P5-P6	200			
				P2-P11	40			
				P7-P12	55			

遺構名	旧遺構名	No.	柱穴（cm）			埋　土
			長径	短径	深さ	
掘立柱建物跡7号	SB02	P1	42	36	56	黒褐色土（7.5YR 2/1）
		P2	40	40	57	黒褐色土（7.5YR 2/1）
		P3	40.5	40	59	黒褐色土（7.5YR 2/1）　暗褐色土（7.5YR 3/3）
		P4	36	31	57.5	黒褐色土（7.5YR 2/1）
		P5	47	41	55	黒褐色土（7.5YR 2/1）
		P6	50	42	60	黒褐色土（7.5YR 3/1）
		P7	40	40	32.5	黒褐色土（7.5YR 2/1）
		P8	45	36	36	黒褐色土（7.5YR 2/1）

遺構名	旧遺構名	主軸	方向	柱穴	柱穴距離（cm）	方向	柱穴	柱穴距離（cm）
掘立柱建物跡7号	SB02	N72° E	桁行	P1-P8	260	梁行	P1-P2	220
				P7-P8	260		P2-P3	210
				P3-P4	310		P5-P6	210
				P4-P5	210		P6-P7	210

遺構名	旧遺構名	No.	柱穴（cm）			埋　土
			長径	短径	深さ	
掘立柱建物跡8号	SB03	P1	23	21	5	黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P2	28	28	4	黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P3	19	18	4	黒褐色土（7.5YR 3/1）
		P4	21	20	8.5	黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P5	22	21	10	黒褐色土（7.5YR 3/1）
		P6	34	30	29	黒褐色土（7.5YR 3/2）
		P7	28.5	24	14	黒褐色土（7.5YR 3/2）

遺構名	旧遺構名	主軸	方向	柱穴	柱穴距離（cm）	方向	柱穴	柱穴距離（cm）
掘立柱建物跡8号	SB03	N55° E	桁行	P1-P4	190	梁行	P1-P2	140
				P4-P5	185		P2-P3	190
				P3-P7	360		P5-P6	160
							P6-P7	170

（２）ピット列　　【第92図】

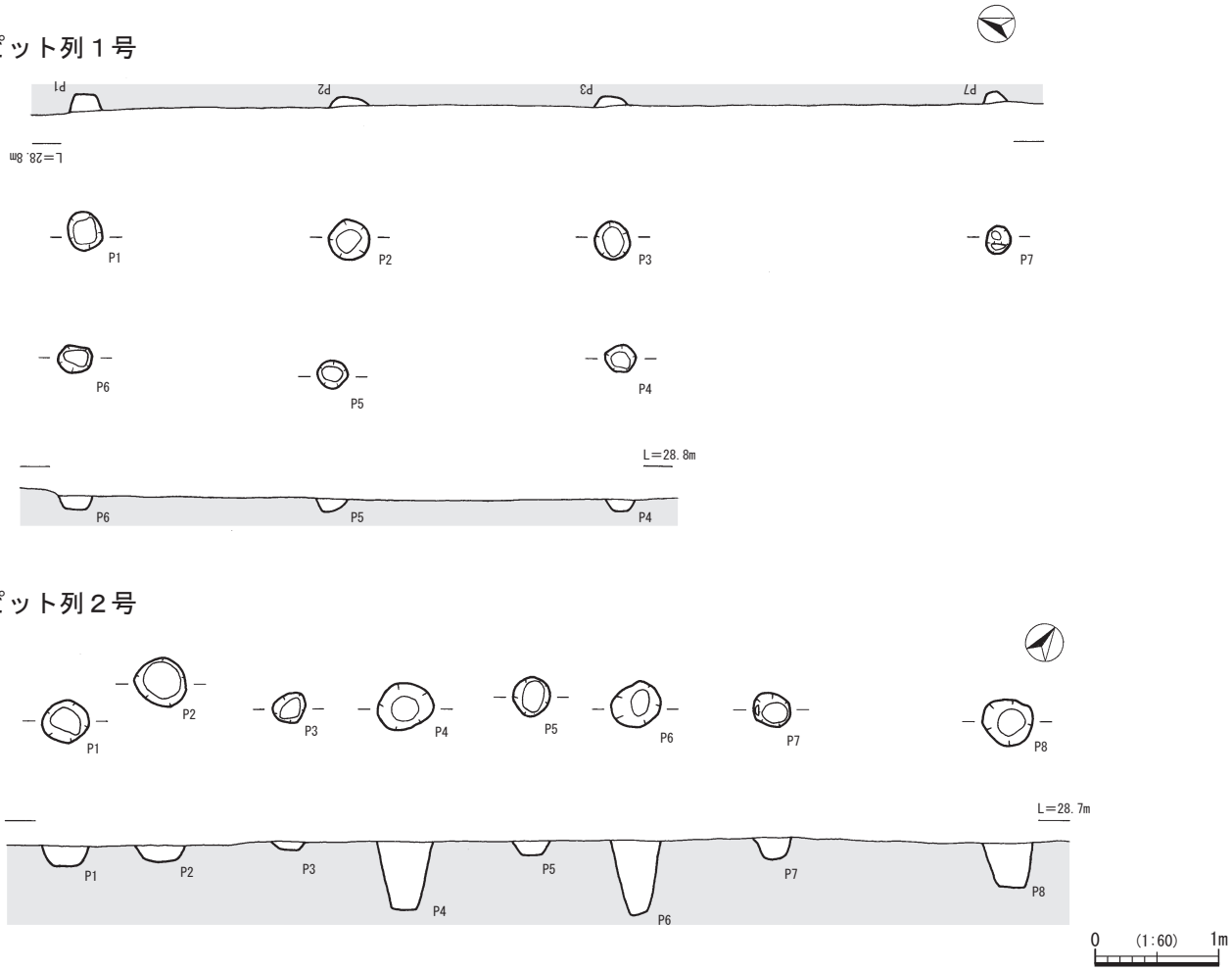
基本的には一直線に，かつ等間隔で並ぶことを原則とするが，そのようにならないものでも一方向に直線的に並ぶものについてピット列という名称を付した。本遺跡では，ピット列を２列検出した

ピット列１号（SA01）　　【第92図】

Ｂ・Ｃ-11区のＶ層で検出した。６基のピットと南側に１基のピットがほぼ等間隔でＮ20°Ｗの主軸方向に２列に並んでいる。ピットは長径が23 ～ 33cm，深さが７～ 14cmである。埋土は黒色土の単一層が多い。

ピット列２号（SA02）　　【第92図】

Ｄ- ７・８区Ｖ層で検出した。掘立柱建物跡６号及び７号のやや離れた北側に位置し，これらと関連する遺構の可能性も考えられる。８基のピットがＮ56°Ｅの主軸方向にほぼ一列に並んでいる。ピットは長径26 ～ 45cm，深さが８～ 60cmだった。深さが浅いものと深いものが交互に並んでいるところがある。

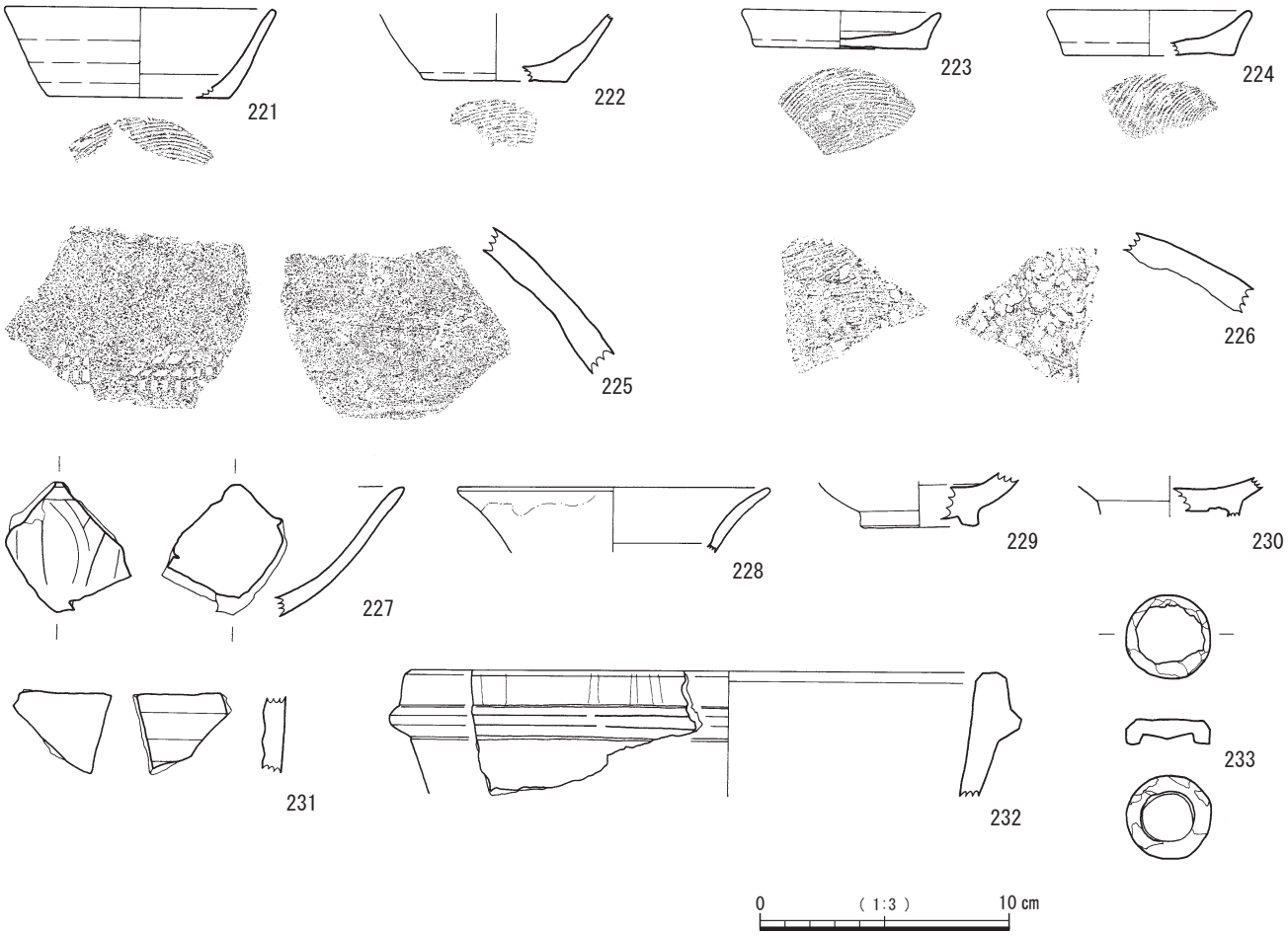


第92図　ピット列１・２号

第 18 表　ピット列観察表

遺構名	旧遺構名	No.	ピット(cm) 長径	短径	深さ	埋土	ピット間	(cm)
ピット列1号	SA01	P1	30	28	14	黒色土(7.5YR2/1)　粘性ややあり　しまりなし。	P1 ～ P2	215
		P2	33	33	7	黒色土(7.5YR2/1)　粘性ややあり　しまりなし。	P2 ～ P3	215
		P3	30	30	8	黒色土(7.5YR2/1)　粘性ややあり　しまりなし。	P4 ～ P5	230
		P4	25	23	12	黒色土(7.5YR2/1)　粘性ややあり　しまりなし。	P5 ～ P6	210
		P5	25	23	11	黒色土(7.5YR2/1)　粘性ややあり　しまりなし。	P1 ～ P6	105
		P6	26	23	12	黒色土(7.5YR2/1)　粘性ややあり　しまりなし。	P2 ～ P5	110
		P7	23	21	10	黒色土(7.5YR2/1)　粘性ややあり　しまりなし。	P3 ～ P4	100

遺構名	旧遺構名	No.	ピット(cm) 長径	短径	深さ	埋土	ピット間	(cm)
ピット列2号	SA02	P1	37	32	15	黒色土　(7.5YR2/1)粘性ややあり　しまりなし。	P1 ～ P2	80
		P2	40	38	12	黒色土　(7.5YR2/1)粘性ややあり　しまりなし。	P2 ～ P3	105
		P3	26	24	8	黒褐色土(7.5YR３/1)粘性ややあり　しまりなし。	P3 ～ P4	90
		P4	45	38	55	黒褐色土(7.5YR３/２)粘性ややあり　しまりなし。	P4 ～ P5	105
		P5	32	30	12	黒褐色土(7.5YR２/1)粘性ややあり　しまりなし。	P5 ～ P6	85
		P6	40	38	60	黒褐色土(7.5YR２/３)粘性ややあり　しまりなし。	P6 ～ P7	110
		P7	30	25	18	黒色土　(7.5YR3/2)粘性なし　しまりなし。	P7 ～ P8	190
		P8	40	38	35	黒褐色土(7.5YR2/2)粘性なし　しまりややあり。		



第93図　中世の遺物

3　遺物

中世の遺物包含層はⅡa層であるが，確認調査の段階では縄文時代早期の遺物包含層のみ確認されていたため，平成26年度の本調査では無遺物層として掘削した。そのため，中世の遺物の多くが一括遺物として取り上げられた。中世の遺物としては，土師器や常滑焼，青磁，中国陶器，滑石製石鍋が出土した。

221 ～ 224は土師器の坏及び皿である。底部はすべて糸切りである。225・226は常滑焼の甕の肩部である。225は外面に押印文をもつ。227 ～ 229は青磁である。227は外面に片彫りの鎬蓮弁文を有する碗である。228は口縁部が外反する皿である。229は畳付から高台内面が露胎である。230は天目碗と考えられるが，二次焼成を受けている。231は長胴形の壺と考えられる。232は口縁部直下に削り出された鍔がめぐる滑石製石鍋である。233は白磁碗の高台を円盤状に加工している。

第 19 表　中世出土遺物観察表（土師器）

挿図番号	掲載番号	種別	器種	出土区		層位	法量（cm）			色調		調整		備考	取上番号
							口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
93	221	土師器	杯	B・C	3	−	10.6	7.2	3.6	浅黄橙色	浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	糸切り痕	撹乱一括
	222	土師器	杯	B・C	3	−		5.7		浅黄橙色	浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	糸切り痕	撹乱一括
	223	土師器	皿	B・C	3	−	7.8	6.9	1.5	浅黄橙色	浅黄橙色	回転ナデ	ナデ	糸切り痕	撹乱一括
	224	土師器	皿	C	3	Ⅲ	8	6.8	1.8	浅黄橙色	浅黄橙色	回転ナデ	ナデ	糸切り痕	2077

第 20 表　中世出土遺物観察表（国産陶器）

挿図番号	掲載番号	種別	出土区		層位	器種・分類	色調		調整		備考	取上番号
							外面	内面	外面	内面		
93	225	常滑焼	B	5	Ⅶ	甕	灰色	暗赤灰色	ロクロによるナデ	ロクロによるナデ		撹乱一括
	226	常滑焼	−	−	Ⅰ	甕	灰色	灰色	ロクロによるナデ	−		表土一括

第 21 表　中世出土遺物観察表（輸入陶器）

挿図番号	掲載番号	種別	出土区		層位	法量（cm）			器種・分類	胎土	釉薬	備考	取上番号
						口径	底径	器高					
93	227	青磁	E	13	Ⅰ				碗・Ⅲ類	灰色	灰オリーブ色	鎬連弁文	表土一括
	228	青磁	C	3	−	12.4			皿	灰白色	灰オリーブ色	15 ～ 16世紀	撹乱一括
	229	青磁	B	10	Ⅰ		4.8		碗	灰白色	明オリーブ灰色		表土一括
	230	中国陶器	−	−	Ⅰ				天目碗	−	−	二次焼成	表土一括
	231	中国陶器	D	13	Ⅰ				壺	灰白色	黒褐色		表土一括

第 22 表　中世出土遺物観察表（石製品他）

挿図番号	掲載番号	種別	出土区		層位	法量（cm）			取上番号	備考
						口径	底径	器高		
93	232	滑石製石鍋	E	13	Ⅰ	23.5			表土一括	

第 23 表　中世出土遺物観察表（その他）

挿図番号	掲載番号	種別	出土区		層位	法量（cm）		取上番号	備考
						口径	底径		
93	233	円盤状加工品	B	4	Ⅱa	3.4	1.1	2002	15世紀

第４節　時期不明遺構の調査

この節は，時期不明の遺構・遺物について扱う。

Ｖ層において土坑６基，溝状遺構１条，性格不明遺構１基を検出した。本遺跡では，Ｖ層は中世該当の遺構であるが，それを判断できないものは時期不明の遺構と判断した。

（１）土坑

105号土坑（SK03）【第94図】

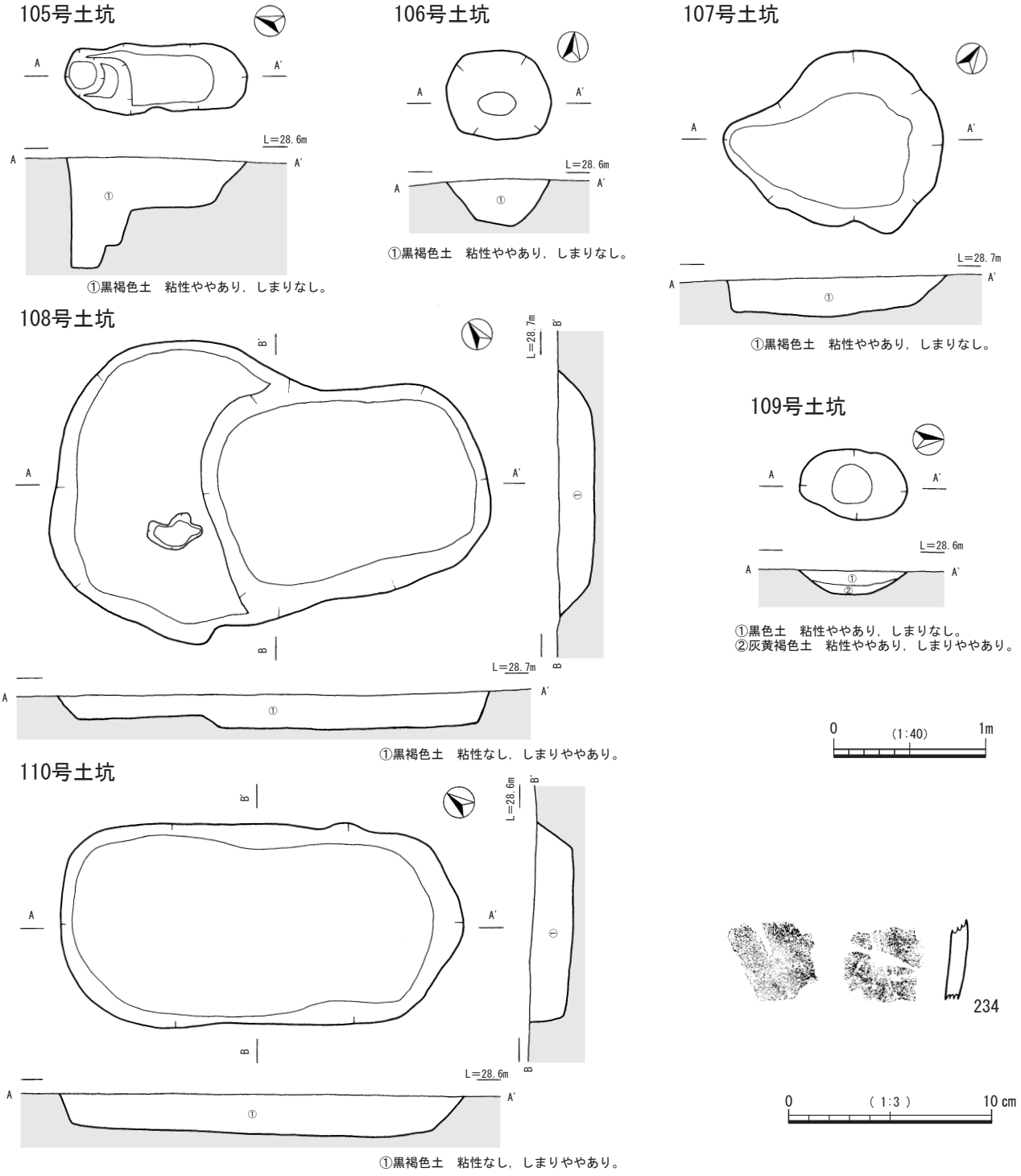
Ｂ・Ｃ－３区より検出した。平面形状は長軸119cm，短軸40cmの長楕円形である。最深部までの深さ73cmで，断面は北側から南側に向かって階段状の掘り込みを有する。

埋土から遺物は出土していない。

106号土坑（SK11）【第94図】

Ｂ・Ｃ－３区より検出した。平面形状は長軸68cm，短軸58cmの円形である。最深部までの深さ29cmで断面形状は擂鉢形である。

埋土から遺物は出土していない。



第94図　105 ～ 110号土坑･出土遺物

107号土坑（SK10）【第94図】

Ｂ－４区において検出した。平面形状は長軸146cm，短軸112cmの不定形円形である。最深部までの深さ23cmで断面形状は舟形である。

埋土から遺物は出土していない。

108号土坑（SK04）【第94図】

Ｃ－４区において検出した。平面形状は長軸290cm，短軸138cmの不定形楕円形である。最深部までの深さ23cmで，断面は西側が段状を呈するが，埋土に差は確認できなかった。

埋土から遺物は出土していない。

109号土坑（SK09）【第94図】

Ｄ－８区において検出した。平面形状は長軸70cm，短軸47cmの長楕円形である。最深部までの深さ15cmで断面形状は皿形である。

埋土から遺物は出土していない。

110号土坑（SK01）【第94図】

Ｅ－４区において検出した。平面形状は長軸266cm，短軸132cmの長楕円形である。最深部までの深さ26cmで断面形状は台形である。

出土遺物は土器１点が出土した。234は無文の胴部であり，内外面とも丁寧なナデを施している。Ⅶ類土器に相当するが，型式や時期は不明である。

（２）溝状遺構（SD01）【第95図】

Ｂ－３～５区，Ｖ層上面において検出した。溝内は多くの樹根が遺構を切っている。また，西側は性格不明遺構が切っている。プランは長さ20m、幅1.6m，深さ20cmである。南西～北西に向かって伸びている。埋土は単一層で一部硬化している箇所もある。

出土遺物は埋土からⅧ類土器や土師器，甕が出土した。235は土師器の皿である。236は常滑焼の甕の胴部である。出土遺物はあるものの，埋土が流れ込みの可能性も否定できず，時期不明の遺構と判断した。

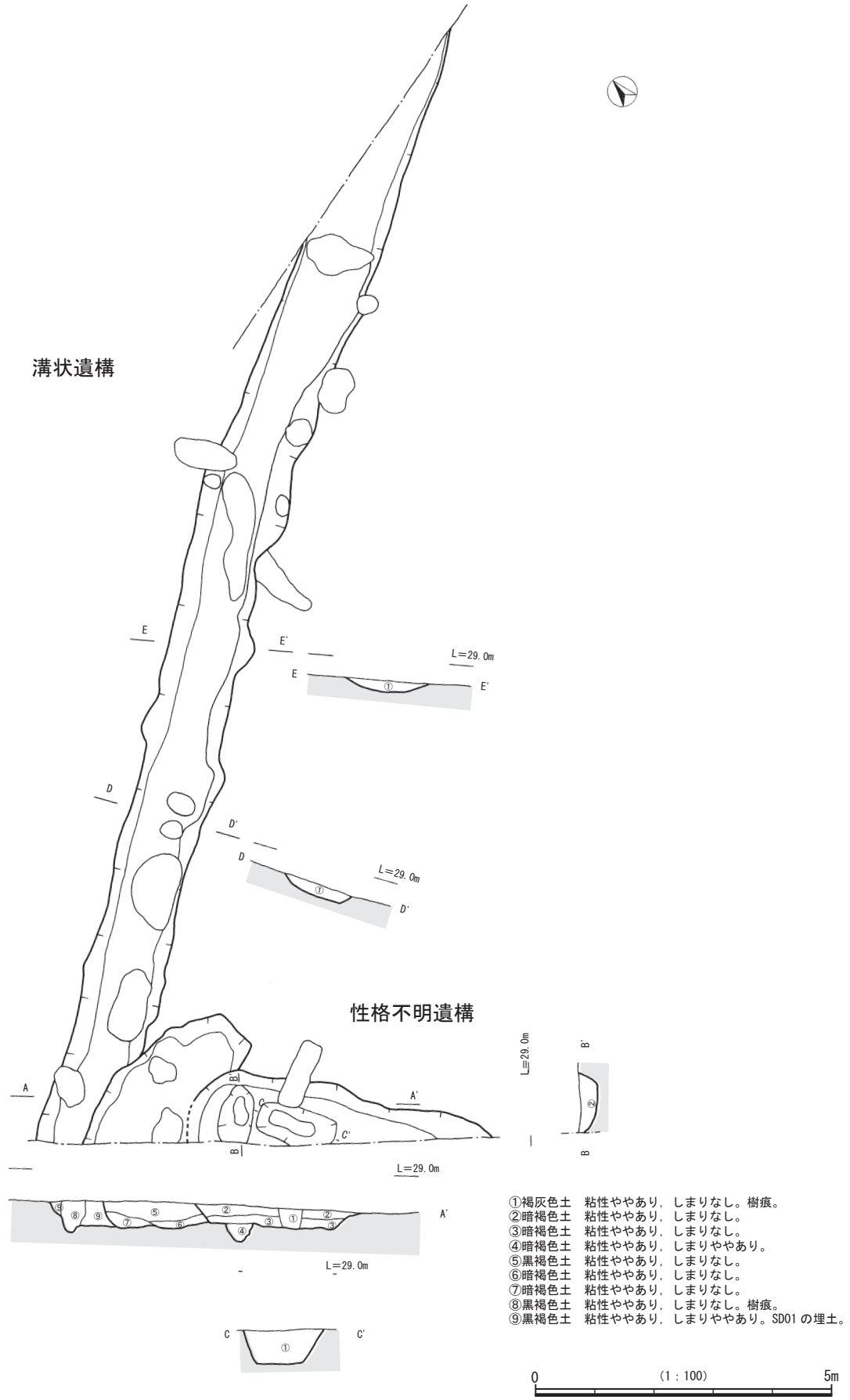
（３）性格不明遺構（SX01）【第95図】

Ｂ・Ｃ－３区，Ｖ層上面で検出した。溝状遺構の西側を切っている。調査区壁際で検出したため，平面形状は判断できなかった。樹根も多く確認されたが，調査区西側の掘り込みはしっかりしたものがある。

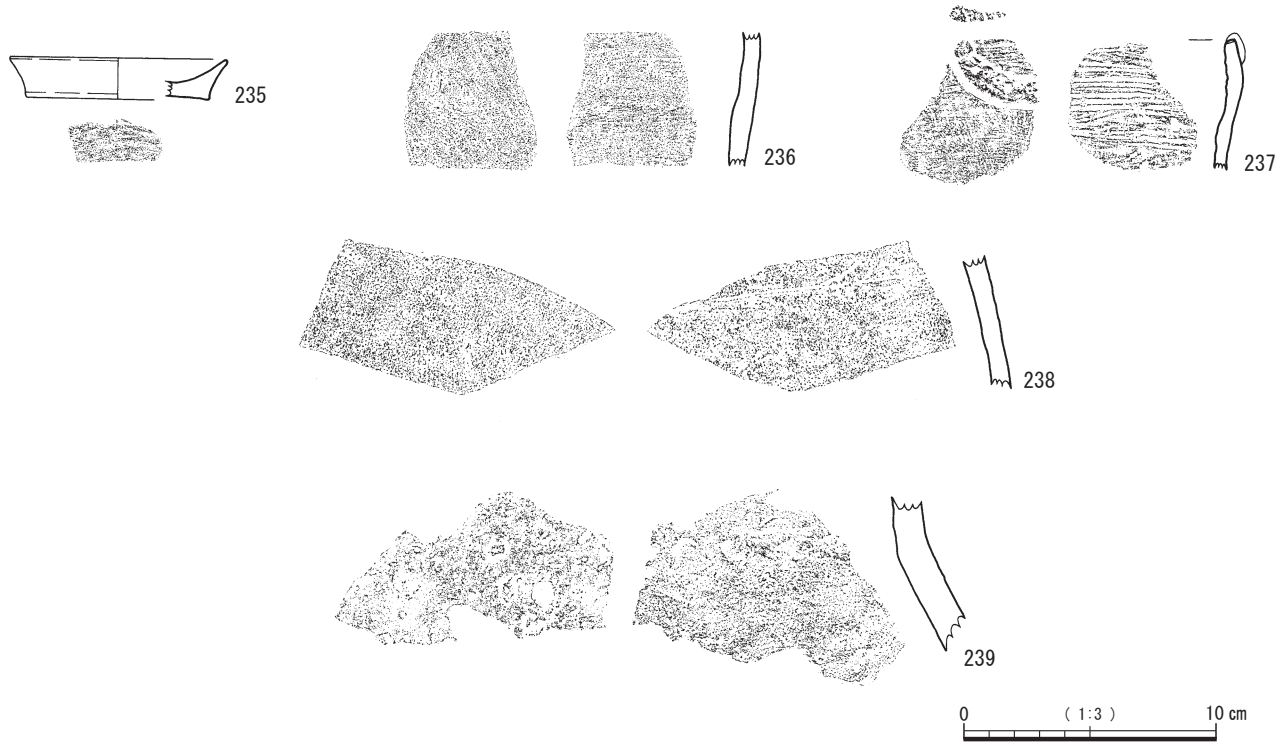
出土遺物は埋土からⅡ・Ⅷ類土器や深鉢，甕が出土した。237は口縁部が緩いキャリパー形を呈する。外面には口唇部から粘土紐を貼り付け，竹管文を施す。口唇部には刻目を入れる。Ⅷ類土器である。238・239は常滑焼の甕の肩部及び胴部である。外面に自然釉が付着する。

第 24 表　Ｖ層検出土坑観察表

遺号名	旧遺構番号	区	検出面	大きさ（cm）			遺物等	部位	埋　　土	備考
				長軸	短軸	深さ				
105号土坑	SK03	B・C3	Ｖ層	119	40	73	－	－	①黒褐色土　10YR2/3。 粘性ややあり，しまりなし。	
106号土坑	SK11	B・C3	Ｖ層	68	58	29	－	－	①黒褐色土　10YR2/3。 粘性ややあり，しまりなし。	
107号土坑	SK10	B4	Ｖ層	146	112	23	－	－	①黒褐色土　10YR2/3。 粘性ややあり，しまりなし。	
108号土坑	SK04	C4	Ｖ層	290	138	23	－	－	①黒褐色土　7.5YR2/2。 粘性なし，しまりややあり。	
109号土坑	SK09	D8	Ｖ層	70	47	15	－	－	①黒色土　10YR2/1。 粘性ややあり，しまりなし。 ②灰黄褐色土　10YR4/2。 粘性ややあり，しまりややあり。	
110号土坑	SK01	E4	Ｖ層	266	132	26	土器	胴部	①黒褐色土　7.5YR2/2。 粘性なし，しまりややあり。	



第95図　溝状遺構・性格不明遺構



第96図　溝状遺構・性格不明遺構出土遺物

第 25 表　遺構内出土土器観察表

挿図番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量（cm）			主文様・調整		胎土						色調		取上番号
					口径	底径	器高	外面	内面	石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母	外面	内面	
94	234	―	深鉢	胴部				ナデ	ナデ	○	○				○	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	SK01一括
96	237	Ⅷ	深鉢	口縁部				粘土紐貼付，竹管文	貝殻条痕→ナデ	○	○	○				にぶい褐色	にぶい橙色	SX01一括

第 26 表　遺構内出土遺物観察表（土師器）

挿図番号	掲載番号	種別	器種	法量（cm）			色調		調整		取上番号	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
96	235	土師器	皿	8.6	7.2	1.65	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ	ナデ	SD01一括	

第 27 表　遺構内出土遺物観察表（国産陶器）

挿図番号	掲載番号	種別	器種	色調		調整		取上番号	備考
				外面	内面	外面	内面		
96	236	常滑焼	甕	灰色	灰色	ロクロによるナデ	ロクロによるナデ	SD01一括	
96	238	常滑焼	甕	にぶい赤褐色	褐灰色	ロクロによるナデ	ロクロによるナデ	SX01－1	
96	239	常滑焼	甕	灰白色	灰白色	ロクロによるナデ	ロクロによるナデ	SX01一括	

第Ⅴ章　自然科学分析

第１節　放射性炭素年代測定

木森遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

木森遺跡は，鹿児島県志布志市有明町野井倉に所在する。測定対象試料は，集石遺構，連穴土坑から出土した土器付着炭化物１点，炭化物４点の合計５点である（表28)。土器付着炭化物No. １は，下剥峯式に比定される土器の口縁部外面刺突内に付着する炭化物を採取した。SS19，SK160はⅧ層，SK67，SK103はＸ層上面，土坑8号はⅨ層上面で検出され，Ⅶ層はアカホヤ火山灰（約7300年前），Ｘ層は薩摩火山灰（約12800年前）とされる。試料はいずれも縄文時代早期前葉と推定されている。

２　測定の意義

遺構の時期，集落の継続期間を明らかにする。

３　化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い，土等の付着物，混入物を取り除く。
(2) アセトンで処理を行う（AC)。
(3) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後，超純水で中性になるまで希釈し，乾燥させる。AAA処理における酸処理では，通常１mol/ℓ（１M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い，0.001Mから１Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が１Mに達した時には「AAA」，１M未満の場合は「AaA」と表28に記載する。
(4) 試料を燃焼させ，二酸化炭素（CO_2）を発生させる。
(5) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
(6) 精製した二酸化炭素を，鉄を触媒として水素で還元し，グラファイト（C）を生成させる。
(7) グラファイトを内径１mmのカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，測定装置に装着する。

４　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し，^{14}Cの計数，^{13}C濃度（$^{13}C/^{12}C$），^{14}C濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

(1) δ^{13}C は，試料炭素の^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し，基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である(表28)。AMS装置による測定値を用い，表中に「AMS」と注記する。
(2) ^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は，過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され，1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には，Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977)。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表28に，補正していない値を参考値として表29に示した。^{14}C年代と誤差は，下１桁を丸めて10年単位で表示される。また，^{14}C年代の誤差（±1σ）は，試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。
(3) pMC（percent Modern Carbon)は，標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい(^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し，pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため，補正した値を表28に，補正していない値を参考値として表29に示した。
(4) 暦年較正年代とは，年代が既知の試料の^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ，過去の^{14}C濃度変化などを補正し，実年代に近づけた値である。暦年較正年代は，^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり，１標準偏差（１σ＝68.3％）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代，横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は，δ^{13}C補正を行い，下一桁を丸めない^{14}C年代値である。なお，較正曲線および較正プログラムは，データの蓄積によって更新される。また，プログラムの種類によっても結果が異なるため，年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは，暦年較正年代の計算に,IntCal20較正曲線(Reimer et al. 2020)を用い，OxCalv4.4較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については，特定の較正曲線，プログラムに依存する点を考慮し，プログラムに入力する値とともに参考値として表29に示した。なお，暦年較正年代は，^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表される。

６　測定結果

測定結果を表28，29に示す。

試料５点の^{14}C年代は，9530±40yrBP（試料No. ２）から8860±30yrBP（試料No. １）の間にある。暦年較正年代（１σ）は，最も古いNo. ２が9119～8776cal BCの間に４つの範囲，最も新しいNo. １が8194～7948cal BCの間に４つの範囲で示される。推定される縄文時代早期前葉頃におおむね相当し（小林編2008，小林2017），火山灰との上下関係にも整合する

試料No. １は，土器に施された刺突内に薄く付着した炭化物を採取したため，胎土の混入を避けられなかった。炭素含有率は17%という炭化物としては低い値で，測定された炭素の由来に注意を要する。他の炭化物の炭素含有率は60%を超える十分な値であった。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林謙一 2017 縄文時代の実年代　―土器型式編年と炭素14年代―，同成社

小林達雄編 2008 総覧縄文土器，総覧縄文土器刊行委員会，アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), *Radiocarbon* 62(4), 725-757

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

第 28 表　放射性炭素年代測定結果１（δ^{13}C 補正値）

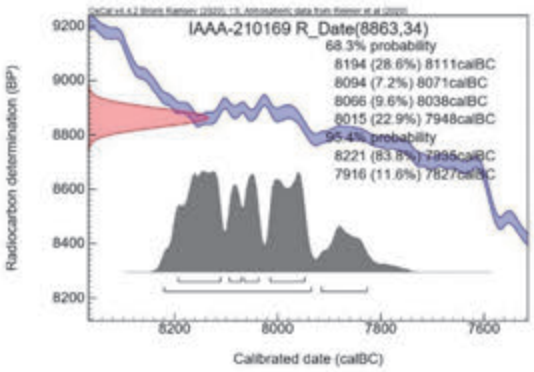
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C（‰）（AMS）	δ^{13}C補正あり	
						Libby Age(yrBP)	pMC(%)
IAAA-210169	No.1（遺物No.SS19-13・12）	SS19　Ⅷ層	土器付着炭化物	AC+AaA	-27.45 ± 0.26	8,860 ± 30	33.18 ± 0.14
IAAA-210170	No.2（遺物No.SK67-1）	SK67　埋土①	炭化物	AC+AAA	-24.79 ± 0.27	9,530 ± 40	30.52 ± 0.14
IAAA-210171	No.3（遺物No.SK103-9）	SK103　埋土①	炭化物	AC+AAA	-29.26 ± 0.23	9,490 ± 40	30.67 ± 0.14
IAAA-210172	No.4（遺物No.SK160-40）	SK160　埋土②	炭化物	AC+AAA	-26.34 ± 0.22	9,430 ± 30	30.92 ± 0.13
IAAA-210173	No.5（遺物No.土坑8号一括）	土坑8号　埋土①	炭化物	AC+AAA	-28.78 ± 0.26	9,410 ± 40	30.98 ± 0.14

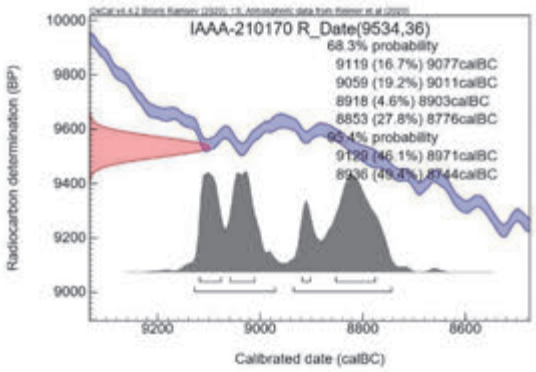
［IAA登録番号：#A687］

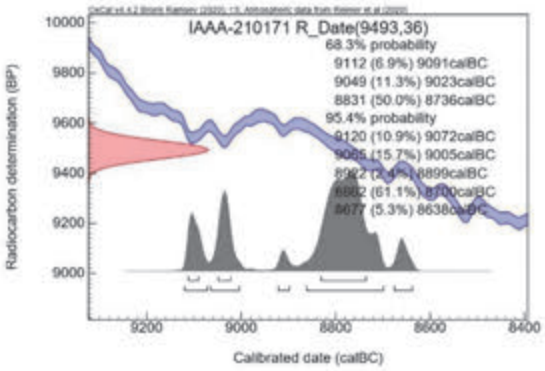
第 29 表　放射性炭素年代測定結果２（δ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）

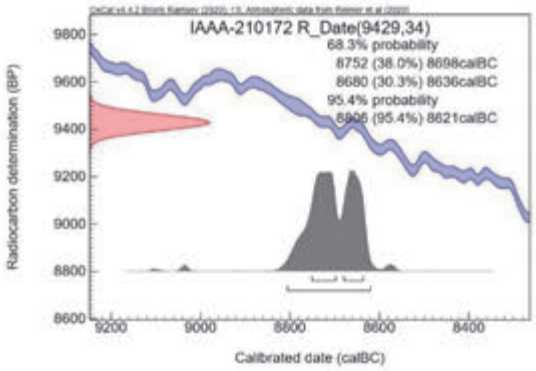
	δ^{13}C補正なし		暦年較正用（yrBP）	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age　(yrBP)	pMC　(%)			
IAAA-210169	8,900 ± 30	33.01 ± 0.14	8,863 ± 34	8194calBC - 8111calBC (28.6%) 8094calBC - 8071calBC (7.2%) 8066calBC - 8038calBC (9.6%) 8015calBC - 7948calBC (22.9%)	8221calBC - 7935calBC (83.8%) 7916calBC - 7827calBC (11.6%)
IAAA-210170	9,530 ± 40	30.53 ± 0.14	9,534 ± 36	9119calBC - 9077calBC (16.7%) 9059calBC - 9011calBC (19.2%) 8918calBC - 8903calBC (4.6%) 8853calBC - 8776calBC (27.8%)	9129calBC - 8971calBC (46.1%) 8936calBC - 8744calBC (49.4%)
IAAA-210171	9,560 ± 40	30.41 ± 0.14	9,493 ± 36	9112calBC - 9091calBC (6.9%) 9049calBC - 9023calBC (11.3%) 8831calBC - 8736calBC (50.0%)	9120calBC - 9072calBC (10.9%) 9065calBC - 9005calBC (15.7%) 8922calBC - 8899calBC (2.4%) 8862calBC - 8700calBC (61.1%) 8677calBC - 8638calBC (5.3%)
IAAA-210172	9,450 ± 30	30.83 ± 0.13	9,429 ± 34	8752calBC - 8698calBC (38.0%) 8680calBC - 8636calBC (30.3%)	8806calBC - 8621calBC (95.4%)
IAAA-210173	9,470 ± 30	30.75 ± 0.13	9,412 ± 35	8739calBC - 8693calBC (30.8%) 8687calBC - 8633calBC (37.5%)	8795calBC - 8611calBC (93.1%) 8586calBC - 8566calBC (2.3%)

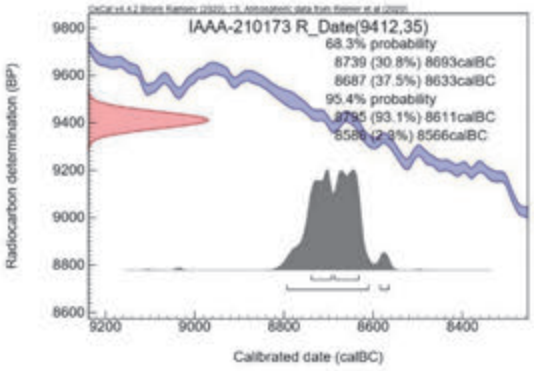
［参考値］











第97図　暦年較正年代グラフ（参考）

第Ⅵ章　総　括

第１節　遺構

本節では，時期毎の遺構について，特徴的なものを記す。時代ごとの遺構配置は，第10図～第13図及び第84図を参照されたい。

縄文時代早期：連穴土坑23基，集石72基，土坑104基
　　土器溜まり１基
中　世　　：掘立柱建物跡８棟，ピット列２列
　　ピット６基
時期不詳　　：土坑６基，溝状遺構１条
　　性格不明遺構１基

１　縄文時代早期

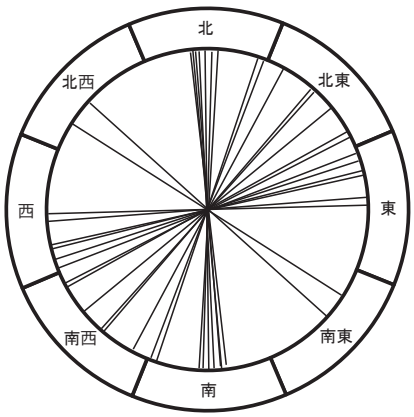
（１）連穴土坑

連穴土坑はＣ～Ｅ区を中心に23基検出した。連穴土坑は，鹿児島市加栗山遺跡での初見以来，県内の縄文時代早期の遺跡を中心に数多く検出しているが，志布志市市内において10基以上の連穴土坑を検出したのは下堀遺跡，倉園Ｂ遺跡，春日堀遺跡等，例が少ない。

23基中，残存状況が良好だったものは５基（21%）であり，ブリッジが一部崩落していたものや，崩落が著しいものが多く，平面形状や埋土の堆積状況等をもとに遺構の判断を行うこととした。

まず，連穴土坑の時期についてであるが，本遺跡の連穴土坑内出土土器型式は加栗山式が多いことから，当該時期もしくはそれ以前に構築された可能性が高い。加栗山式土器の時期としては加栗山遺跡，霧島市上野原遺跡，姶良市建昌城跡，日置市永迫平遺跡などがあり，本遺跡はこれらの遺跡と同時期である可能性が高い。

次に連穴土坑の法量であるが，全長は162cm ～ 337cmと175cmの幅があるが，平均は229.3cmである。次に深さであるが，連穴土坑の検出面はほぼＸa層であり，本来の遺構形成面であるⅧ層中よりも下位で検出している。よって，本来の連穴土坑の深さは不明であるが，10号・14号・20号連穴土坑の主穴部及び従穴部の深さ（各68cm）を見ると，少なくとも70cm以上の深さがあったと考えられる。



第 30 表　連穴土坑主軸方向計測表

次に連穴土坑の平面形状であるが，ブリッジ部分が残存しているものが６基（26%）であり，全体的な傾向は一概には言えないが，ほぼ長楕円形である。また，底面の断面形状は，底面の高さがほぼ水平になるものと，ブリッジ部分から従穴側へ低くなるものが多い。

そして主軸の方向を検討したい。23基中21基（91%）が北～東側，南～西側の範囲内に集中している。これは連穴土坑としての機能を鑑み，意図的に主軸の方向を決定していた可能性が考えられる。

（２）土坑

縄文時代早期の土坑は104基検出した。連穴土坑と同じく調査区Ｃ～Ｅ区に多く分布する。土坑の中には平面形状や断面形状が連穴土坑に類似するものが見られた（Ⅳ類：14基）。それらが連穴土坑だった可能性について検討を行った。

第 31 表　連穴土坑・土坑の長軸・短軸・最深部平均

	長軸平均	短軸平均	最深部平均
連穴土坑	229.3cm	77.8cm	50.3cm
土坑Ⅳ類	184.0cm	82.6cm	32.6cm
土坑Ⅰ～Ⅲ類	132.9cm	75.4cm	22.4cm

第31表の通り，Ⅳ類は切り合いも多く詳細は明らかではない部分もあるが，連穴土坑の法量にかなり近いといえる。Ⅲ類の中でも連穴土坑のそれに近いものもある。これらはブリッジの崩落等によって，連穴土坑としての根拠が乏しいだけで，本来は連穴土坑であった可能性も否めない。

Ⅰ類に含まれる土坑２号は，規模や平面形状が他の土坑と異なる。これは建物跡の可能性も考えられたが加栗山遺跡や鹿児島市前原遺跡Ｂ地点の竪穴建物跡と比較すると規模が小さく，柱穴も認められないことから，竪穴建物跡ではない可能性が高いと考えたい。

（３）集石

ここでは集石の各該当層ごとの分析と，形態分類別の分析を述べる。層位・形態分類については22ページを参照されたい。

本遺跡の集石は，菱田川に面した遺跡西側の河岸段丘第２段丘面縁辺部に集中して検出され，川からの距離が離れるにつれて減少する傾向にある。

構成礫数は50点以下が42基（58%），100点未満が18基（25%），150点未満が６基（８%），200点未満が４基（６

%），200点以上が２基（２%）であり，大半が50点未満であり，構成礫は集中している。また，小礫が多いことも特徴的である。石材は砂岩がほとんどである。

本遺跡の縄文時代早期の遺物包含層はⅧ層である。集石もⅧ層，Ⅸ層，Ｘ層上面で検出されているが，ここでは各層ごとについてまとめる。

①Ⅷ層該当集石（全46基：64%）

Ⅰ類集石２基，Ⅱ類集石４基，Ⅲ類集石31基，Ⅳ類集石８基，分類不明１基の計46基であり，本遺跡の主体を占める。掘り込みを持たないのは６基で，それ以外は掘り込みを持つ。礫集中度が高いⅡ・Ⅲ類は全体の約49%を占める。

②Ⅸ層該当集石（全21基：29%）

Ⅰ・Ⅱ類集石０基，Ⅲ類集石13基，Ⅳ類集石８基の計21基である。すべての集石が掘り込みを持つ。礫集中度が高いⅡ・Ⅲ類は全体の約18%を占める。

③Ｘ層該当集石（全５基：７%）

Ⅰ・Ⅱ類集石０基，Ⅲ類集石３基，Ⅳ類集石２基の計５基である。すべての集石が掘り込みを持つ。礫集中度が高いⅡ・Ⅲ類は全体の約４%を占める。

形態分類別の集計では，全72基中，Ⅰ類集石は２基（２%），Ⅱ類集石は４基（５%），Ⅲ類集石は47基（65%），Ⅳ類集石は18基（25%）分類不明が１基（１%）である。本遺跡の集石のほとんどは円形の掘り込みを持ち（92%），礫集中度の高い集石（71%）である。

掘り込みを有する集石が多い傾向は，志布志市稲荷迫遺跡・次五遺跡・横堀遺跡・春日堀遺跡，大崎町下堀遺跡・平良上Ｃ遺跡などで認められており，志布志湾沿岸の特徴の可能性もあると考えられる。

このように，本遺跡では，集石と連穴土坑は検出したが，竪穴建物跡が確認できていない。本遺跡同様に連穴土坑を多数検出している加栗山遺跡，前原遺跡，上野原遺跡では竪穴建物跡がある。また，本遺跡とほぼ同時期の加栗山遺跡（加栗山式期）と前原遺跡Ｂ地点（志風頭式～加栗山式期）の遺構配置を見ると，連穴土坑（土坑を含む）が集中している場所から離れたところで竪穴建物跡を検出している。このことから本遺跡でも竪穴建物跡は存在するものの，調査範囲外に分布している可能性が高いと考えたい。志布志市内において本遺跡のように竪穴建物跡がなく，集石と連穴土坑を検出しているのは稲荷迫遺跡・高吉Ｂ遺跡・次五遺跡・横堀遺跡・下堀遺跡である。また，連穴土坑が10基以上検出しているのは本遺跡と下堀遺跡，倉園Ｂ遺跡，春日堀遺跡である。このように，本遺跡と他３遺跡は他の遺跡とは性格が異なっており，拠点的な集落であった可能性も考えたい。

２　中世

本遺跡の中世該当の遺構は，掘立柱建物跡，ピット列，ピットなどを検出した。

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は８棟検出した。建物規模は，１号～３号が２間×５間，５号，６号は２間×３間となる長方形を呈する。このうち掘立柱建物跡１号は３面に庇を持つ，やや大型のもので，15m×７mにもなる長大なものもある。長軸は北東から南西にほぼ同一方向を向く。いずれも主軸方向から方位を意識して建てられたことが推察される。１号から５号まではＥ・Ｆ-12～14区で検出されている。なかでも１号～３号は近接しており，間隔もない位置関係にある。建物跡周辺において検出したピットもあり，これらのピットを利用して同じ場所に建て直された可能性もある。掘立柱建物跡の柱穴は，７号の長径50cm，短径42cm，深さ60cmに達する規模の大きなものから，３号の長径21cm，短径18cm，深さ２cmと小さいものまで様々である。検出面からの計測であるため一概には言えないが，柱穴の規模や深さの違いは上屋構造や用途が異なっていたことを示す可能性がある。

〈引用・参考文献・参考報告書〉

新東晃一　2005「九州の連穴土坑の再検討」『南九州縄文通信』№16　南九州縄文研究会

瀬戸口望　1987「連穴土坑のもつ機能的性格について」『鹿児島考古』第21号　鹿児島県考古学会

東　徹志　2006「連穴土坑（炉穴）の新たなる可能性」『南九州縄文通信』№17南九州縄文研究会

鹿児島県立埋蔵文化財センター

1981『加栗山遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(16)

2014『船迫遺跡・高吉Ｂ遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財発掘調査報告書(180)

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター

2017『田原迫ノ上遺跡２』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(15)

曽於郡有明町教育委員会

2004『浜場遺跡　下堀遺跡』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（６）

2005『横堀遺跡』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（８）

志布志市教育委員会

2018『次五遺跡』志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書(13)

※　論文・報告書は一部割愛した。

第２節　遺物

１　縄文時代早期

（１）土器

縄文時代早期の土器はⅠ～Ⅶ類に分類した。第32表は包含層出土土器の分類別の掲載点数及び一括取り上げ遺物も含めた出土点数である。Ⅱ類土器が最も多く，次いでⅠ類土器・Ⅲ類土器の出土点数が多い。同様に，遺構内出土土器もⅡ類土器が７割近くを占め，連穴土坑及び土坑からはⅡ類土器，集石遺構からはⅠ・Ⅱ・Ⅲ類土器が出土している。

次に，各類の特徴と出土状況について述べる。

Ⅰ類土器は外面に貝殻条痕を施すことから前平式土器に該当する。出土状況は調査範囲の南西側を中心に，一部は調査範囲の北側にあたるＢ－７～11区にも分布する。

Ⅱ類土器は外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施すことから，志風頭式土器や加栗山式土器に該当する。出土状況は数点がＢ-11区から出土しているが，調査範囲の南西側に分布する。円筒形・角筒形・レモン形の器形による分布の差異は見られない。円筒形・角筒形・レモン形の出土点数の割合は，51.4%・47.4%・1.2%となるが，本遺跡の出土土器は小片が多く，判別が困難なものも多かったため，特にレモン形の割合については1.2%より多い可能性がある。Ⅱ類土器のうち，66 ～ 70・91・97 ～ 100・139 ～ 141は，口縁部に縦位の貝殻刺突を施し，胴部に貝殻条痕調整後，刺突等を施すことから，志風頭式土器と考えられる。73 ～ 76・118のように縦位の貝殻条痕を施すものは，霧島市上野原遺跡や曽於市定塚遺跡，鹿児島市前原遺跡でも出土している。また，口縁部に粘土紐貼付を施すものは非掲載を含め３点のみであり，粘土紐貼付を施す個体が少ない点も本遺跡から出土した加栗山式土器の特徴と言える。

Ⅲ類土器は外面に貝殻刺突を施すことから下剥峯式土器に該当する。出土状況はＢ－６～８区，Ｃ～Ｅ－４～６区を中心に分布する。150 ～ 152のように口縁部が大きく内傾するものは，次五遺跡からも出土している。また，集石遺構の出土土器である23は年代測定の結果，未補正で8863±34^{14}C BPの値が得られた。県内での下剥峯式土器の測定値例はなく，宮崎県での測定例が8900^{14}C BP台半ば～ 8800^{14}C BP台後半の測定値であるため（川口・黒木・立神2020），整合する結果が得られた。

Ⅳ類土器は小片のみ出土したため，全容は不明であるが，外面に短い条線を施し，内面は丁寧なナデを行うことから，桑ノ丸式土器と考えられる。分布はＥ－５～７区に限られ，出土した破片は文様・胎土・焼成等が類似することから，１個体分の可能性がある。

Ⅴ類土器は１点のみの出土した押型文土器である。調査範囲の東側にあたるD-14区から出土した。周辺には当該時期の遺構はなく，流れ込みの可能性もある。

Ⅵ類土器は内外面ともナデ調整を行う無文の土器である。出土状況は調査範囲の西側に分布する。

Ⅶ類土器はⅠ～Ⅵ類土器に当てはまらないものである。調査範囲の北側に分布する。

以上のことから，本遺跡の縄文時代早期土器は，前平式・志風頭式・加栗山式土器の早期前葉前半と，下剥峯式・桑ノ丸式土器の早期中葉前半の２つの時期に大別でき，本遺跡は縄文時代早期前葉前半が主体となると考えられる。

（２）石器

縄文時代早期の石器は15点出土した。組成表は第33表のとおりである。出土状況は調査範囲の西端にあたるＥ・Ｆ－４区で黒曜石Ⅰ類の剥片やチップがブロック状に出土した他は，調査範囲全体に点在する。Ｅ・Ｆ－４区で検出した黒曜石Ⅰ類のブロックは，製品や接合資料が得られたことからも，石器製作跡と考えられる。石器の出土点数や黒曜石Ⅰ類以外の剥片・チップ類が少ないことから，石器製作は調査範囲外で行ったか，遺跡外で製作されたものを持ち込んだと考えられる。

第 32 表　包含層出土土器分類別の出土点数

		掲載点数	総点数
Ⅰ類		27	321
Ⅱ類	円筒形	31	358
	角筒形	45	330
	レモン形	2	8
Ⅲ類		32	240
Ⅳ類		5	26
Ⅴ類		1	1
Ⅵ類		3	19
Ⅶ類		1	2

第 33 表　縄文時代早期石器組成表

	黒曜石				安山岩	頁岩	チャート	水晶	ホルンフェルス	砂岩
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ						
磨製石鏃						1				
打製石鏃	2				1		2	1		
石匙					1					
楔形石器	1									
磨製石斧									3	
打製石斧									1	
磨・敲石										2
剥片・チップ類	88	3	1	1	2	1	1		1	

２　縄文時代中期以降

縄文時代中期以降の遺物は，Ⅷ類土器と古代の須恵器，磨製石斧が出土した。Ⅷ類土器は64点出土し，文様を口縁部及び口唇部に，太めの突帯や沈線，刺突を施す。器面調整は貝殻条痕調整後，ナデを施しており，春日式土器の南宮島段階に該当する。出土状況はⅧ類土器・須恵器・磨製石斧とも調査範囲の西側に集中している。

３　中世

中世の遺物は，土師器・青磁・白磁・中国陶器・常滑焼・備前焼・滑石製石鍋が出土した。掘立柱建物跡からは土師器の坏・皿，白磁碗Ⅸ類（13世紀後半～ 14世紀前半），備前焼の擂鉢が出土した。擂鉢は備前市教育委員会の分類試案のⅡＢ（14世紀前半）と考えられる。

中世の包含層出土遺物の多くは，表土や撹乱の一括遺物であるが，出土区は調査範囲の北西端と，重複する掘立柱建物跡の検出された周辺である。表土や撹乱の一括遺物のため，小片で破損しているものが多い。土師器は坏及び小皿のみであり，底部は全て糸切りである。青磁は227の龍泉窯系の碗Ⅲ類（13世紀中頃～ 14世紀初頭前後）や15 ～ 16世紀と考えられる皿等が出土した。232の滑石製石鍋は鍔付であり，木戸Ⅲ類（13世紀後半～ 15世紀）に該当すると考えられる。以上のことから，本遺跡の中世の遺物は，概ね13世紀後半～ 14世紀に相当するものが中心となる。

引用・参考文献

上杉彰紀・深野信之　2004「前平式土器および志風頭式土器の検討」『南九州縄文通信』№15　pp. 19 ～ 39　南九州縄文研究会

川口雅之・黒木梨絵・立神倫史　2020「鹿児島県における縄文土器の実年代－土器付着炭化物放射性炭素年代測定値から－」『研究紀要・年報　縄文の森から』第12号　pp. 1 ～ 23　鹿児島県立埋蔵文化財センター

中世土器研究会編　1995『概説　中世の土器・陶磁器』　真陽社

東　和幸　1989「春日式土器の型式組列」『鹿児島考古』第23号　pp. 38 ～ 45　鹿児島県考古学会

東　和幸　1991「鹿児島県における縄文中期の様相」『南九州縄文通信』№５　pp. 35 ～ 46　南九州縄文研究会

前迫亮一　2019「鹿児島市前原遺跡Ｂ地区出土の土器に関する一考察－あのころ土器は「角」だった－」『鹿児島考古』第49号　pp. 59 ～ 74　鹿児島県考古学会

横手伸太郎　2019「土師器から見た古代～中世の大隅－８～ 13世紀を中心に」『鹿児島考古』第49号　pp. 109 ～ 126　鹿児島県考古学会

引用・参考報告書

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2002『上野原遺跡第２～７地点』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（41）

2007『前原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（107）

2007『持躰松遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（120）

2010『定塚遺跡・稲村遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（153）

2012『芝原遺跡３』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（170）

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター

2018『天神段遺跡３』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（18）

2021『小牧遺跡２』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（39）

志布志市教育委員会　2018『次五遺跡』志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書（13）

太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第49集

備前市教育委員会　2013『備前窯詳細分布調査報告書』　備前市埋蔵文化財調査報告11

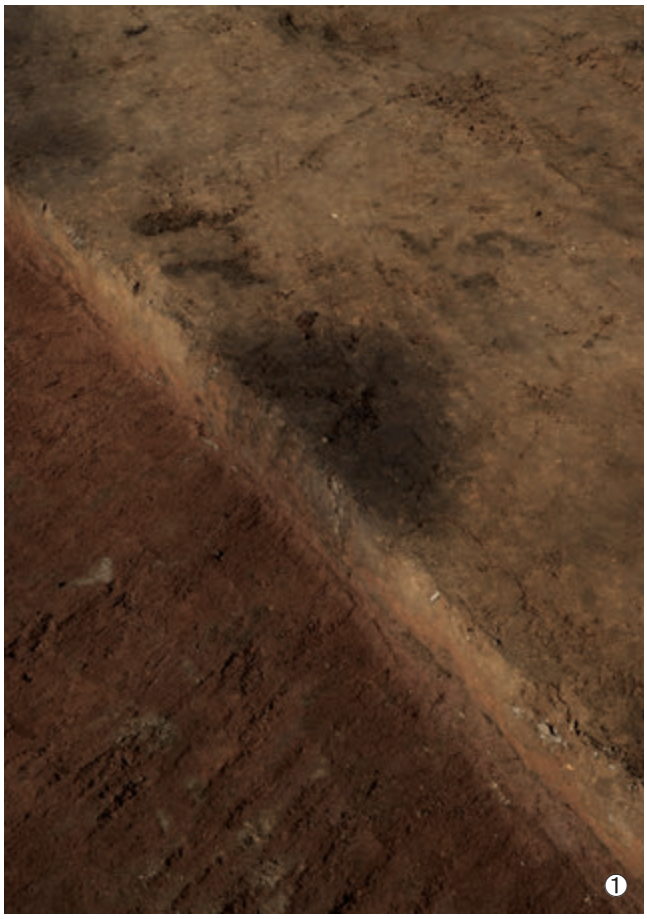
図　　版

図版1　木森遺跡遠景

①　遺跡遠景　（東から）
②　遺跡遠景　（西から）

図版２　土層断面・遺物出土状況

①　土層断面
②　遺物出土状況



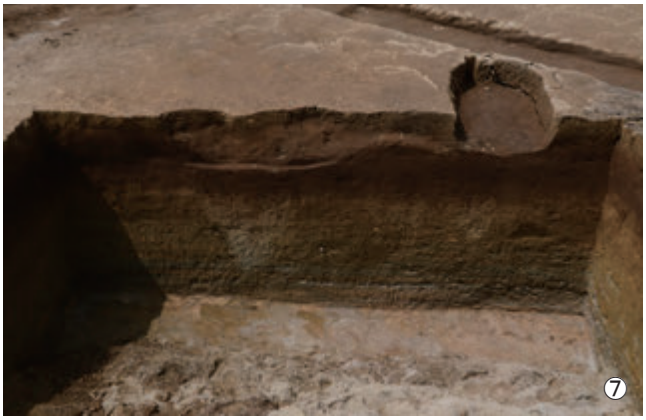
①　５号連穴土坑　検出状況
②　５号連穴土坑　完掘状況
③　７号連穴土坑　検出状況
④　７号連穴土坑　完掘状況
⑤　７号連穴土坑　遺物出土状況

図版４　縄文時代早期検出遺構２

①　９号連穴土坑　検出状況
②　９号連穴土坑　完掘状況

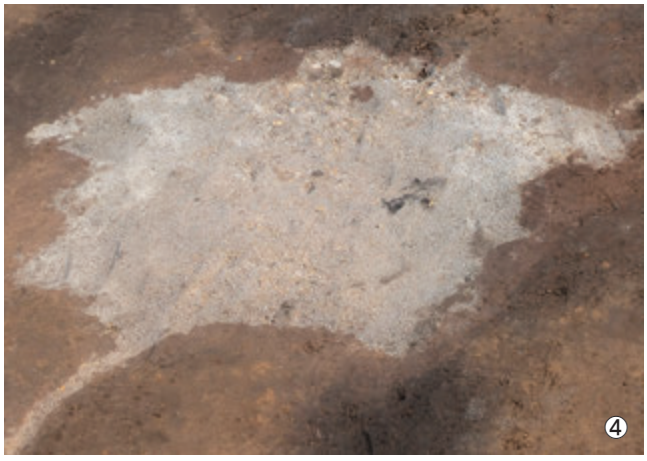
①　11号連穴土坑　検出状況
②　11号連穴土坑　半掘状況
③　12号連穴土坑　検出状況
④　12号連穴土坑　完掘状況
⑤　14号連穴土坑　完掘状況
⑥　19号連穴土坑　完掘状況

図版６　縄文時代早期検出遺構４



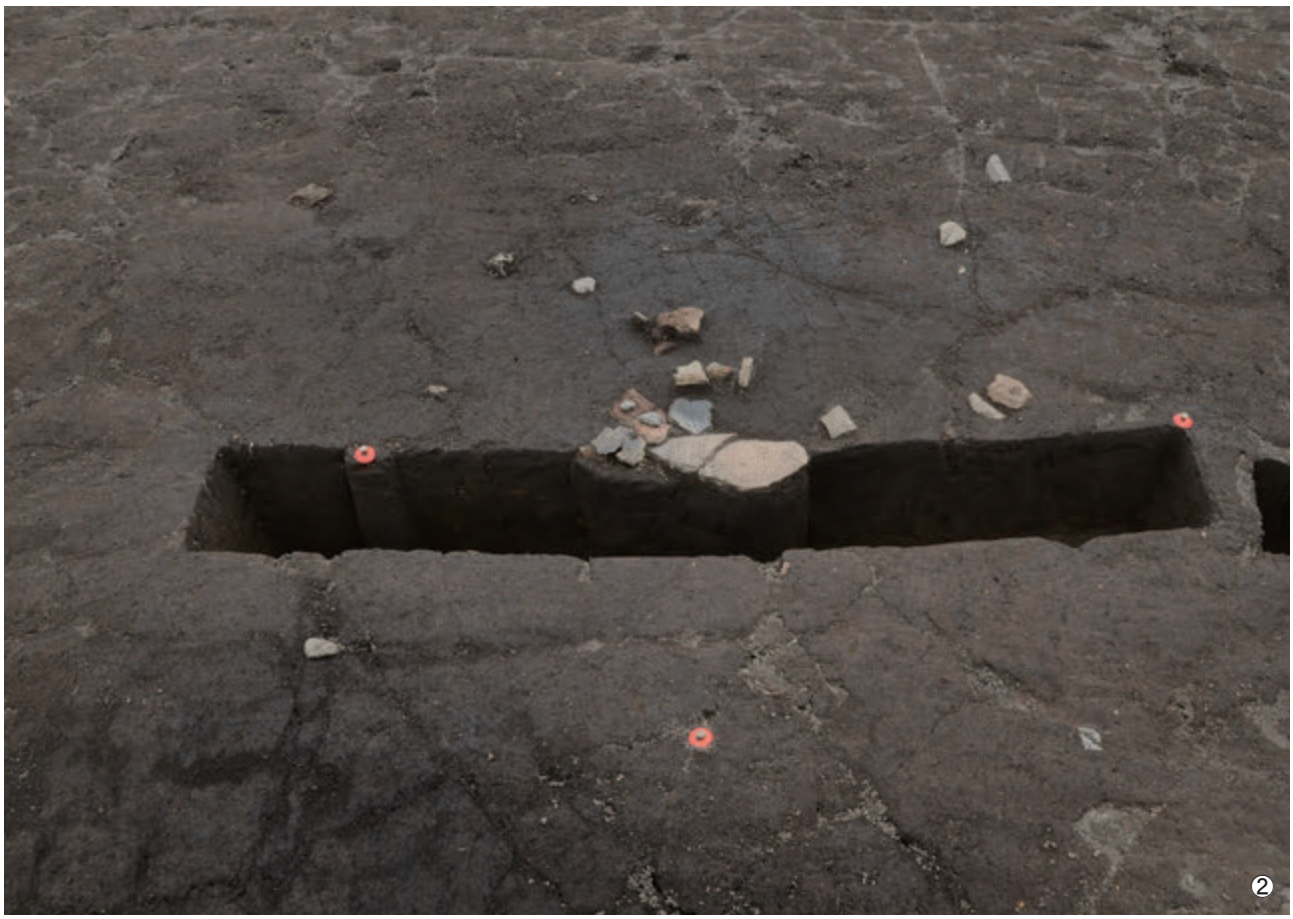
①　20号連穴土坑　検出状況
②　20号連穴土坑　完掘状況
③　28号土坑　検出状況
④　28号土坑　半掘状況
⑤　２号連穴土坑半裁状況
⑥　28号土坑　断割状況
⑦　11号連穴土坑　断割状況

図版７　縄文時代早期検出遺構５



① 14号土坑　完掘状況
② ２号土坑　検出状況
③ ２号土坑　半掘状況
④ 噴砂検出状況
⑤ 59～63号土坑　検出状況
⑥ 噴砂断割状況
⑦ 59～63号土坑　完掘状況

図版８　縄文時代早期検出遺構６



①　土器溜まり　検出状況
②　土器溜まり　半掘状況

①　集石遺構　検出状況
②　集石遺構　出土状況

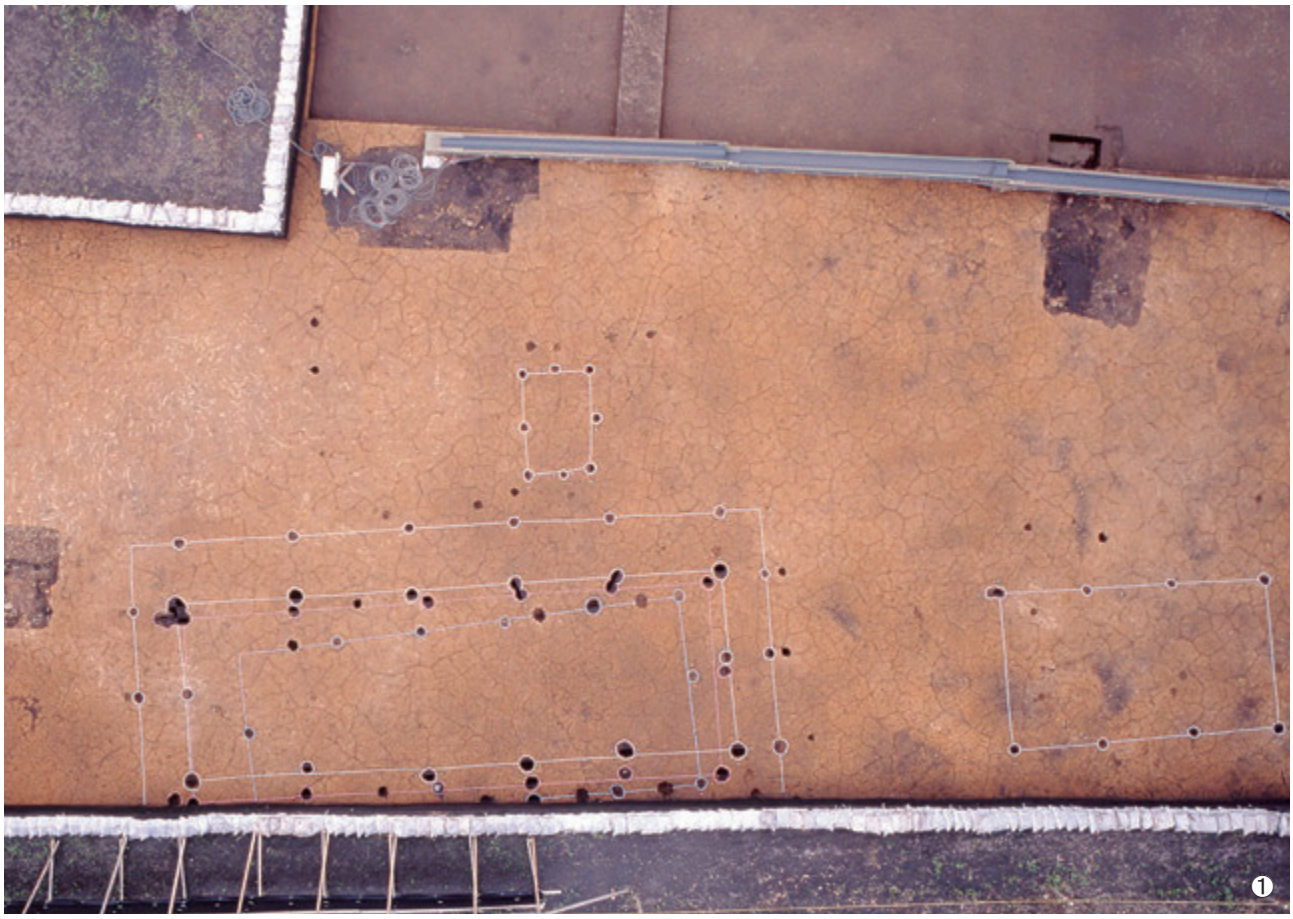
図版10　縄文時代早期検出遺構8

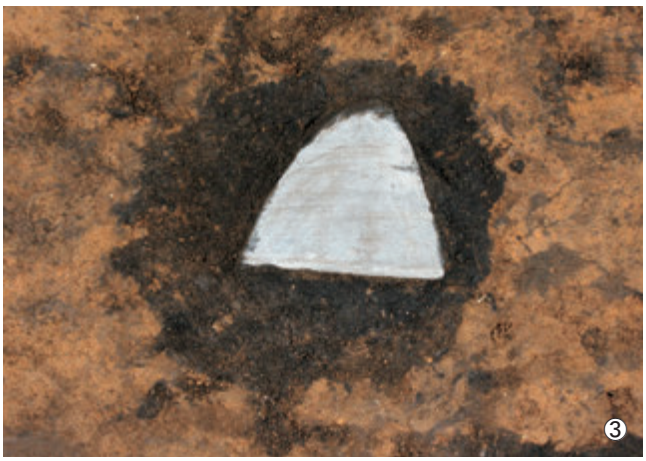
①　７号集石　検出状況
②　22号集石　検出状況
③　23号集石　検出状況
④　24･59･60号集石　検出状況
⑤　24･59･60号集石　半裁状況
⑥　24･59･60号集石　完掘状況

①　29･30･32号集石　検出状況
②　28号集石　検出状況
③　28号集石　半裁状況
④　33号集石　検出状況
⑤　34号集石　検出状況
⑥　37号集石　検出状況

図版12　縄文時代早期検出遺構10

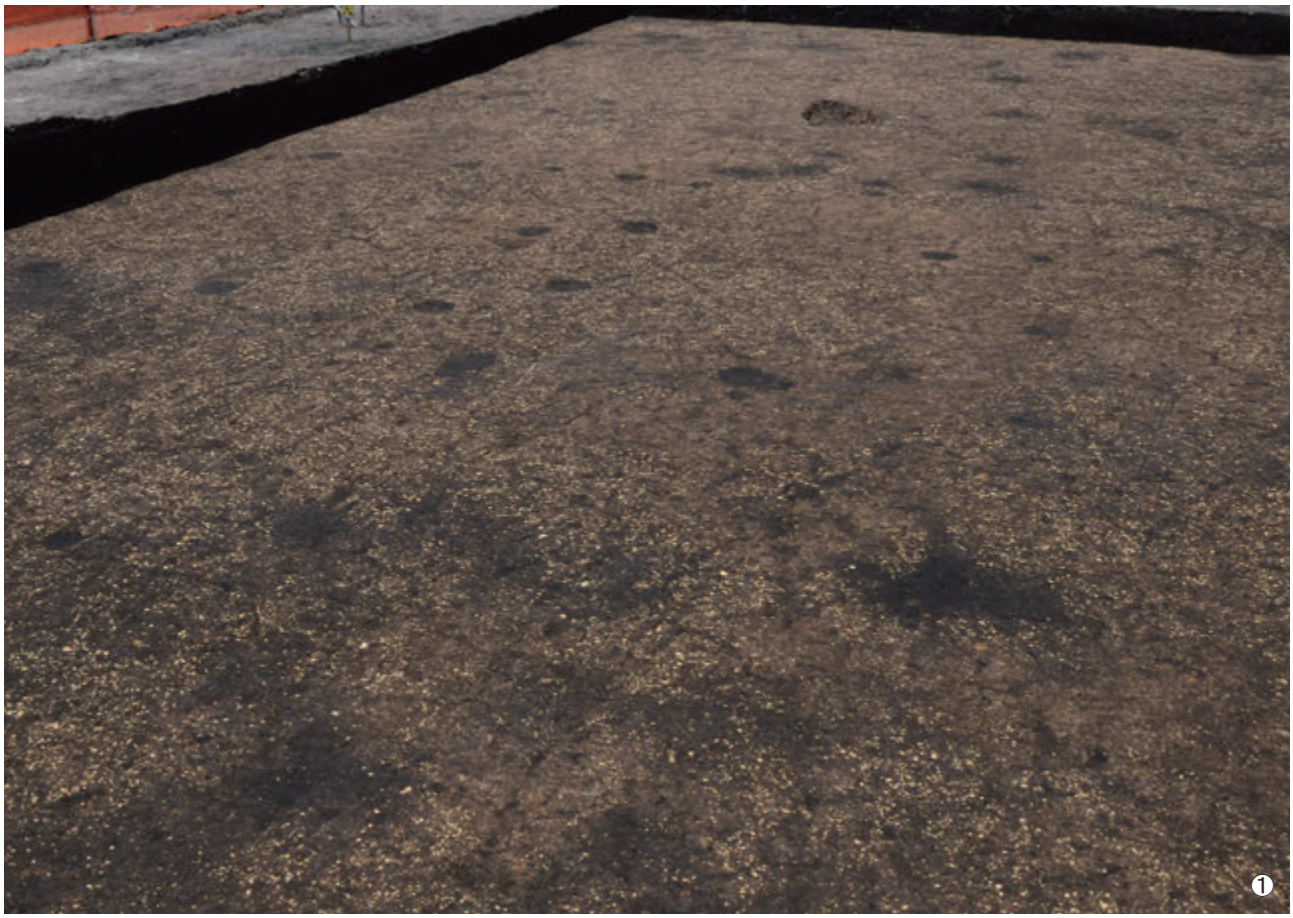
①　42号集石　半掘状況
②　39～41号集石　検出状況
③　39号集石　半掘状況
④　40号集石　半掘状況

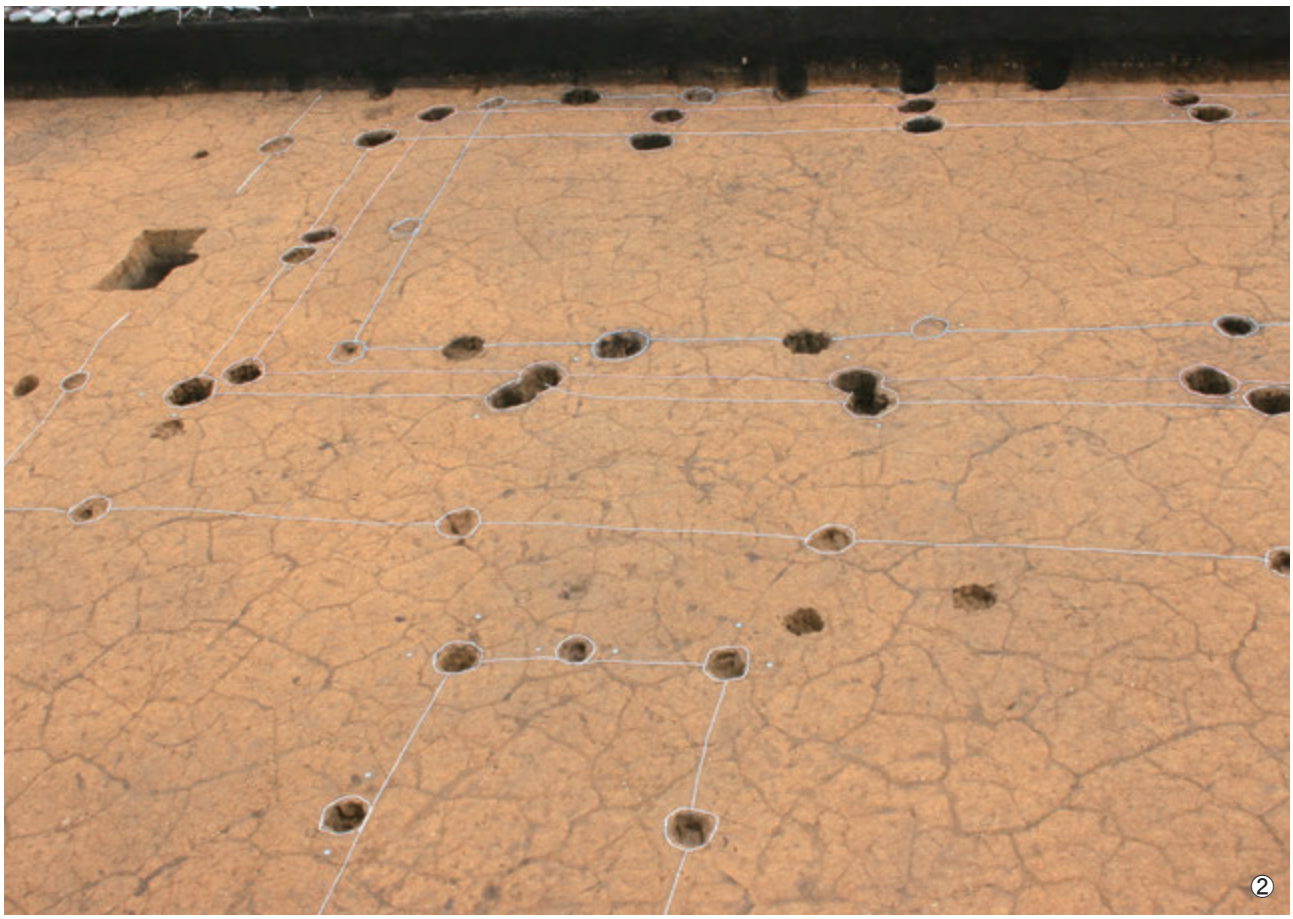




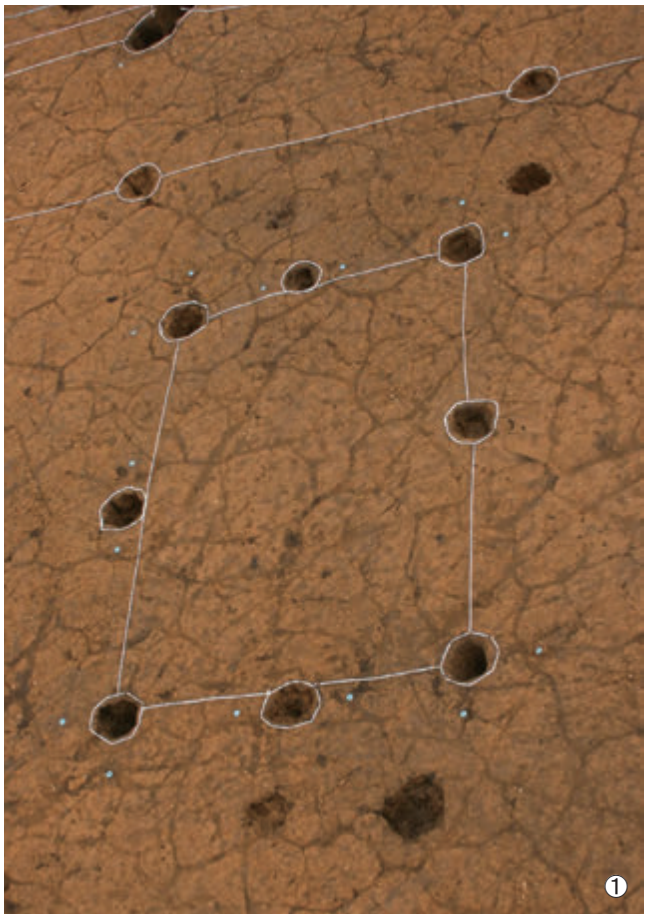
①　掘立柱建物跡１～５号　全景
②　掘立柱建物跡１号　柱穴半裁状況
④　掘立柱建物跡６号　柱穴半裁状況
③　掘立柱建物跡２号P12　遺物出土状況
⑤　掘立柱建物跡２号P10　遺物出土状況

図版14　中世検出遺構2





①　掘立柱建物跡　遺構検出状況
②　掘立柱建物跡１号～４号　完掘状況



①　掘立柱建物跡４号　完掘状況
②　ピット群　検出状況
③　ピット列１号　半掘状況
④　ピット列２号　完掘状況

図版16　縄文時代早期遺構内出土土器1

18
19
20
21
22
23
25
24
26
27
28
29
30
31
32
33
34

36
37
38

図版18　縄文時代早期土器1

39

40
41
42
43
44
45
46
47
51
53
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65

図版20　縄文時代早期土器3

101

97
98
99
102
103
100
106
107
105
104
108
110
109
111
114
112
113
115
116
117
118
119

120
121
122
124
125
126
128
129
133
134
136
138
139
140
141
142
143

図版24　縄文時代早期土器7

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

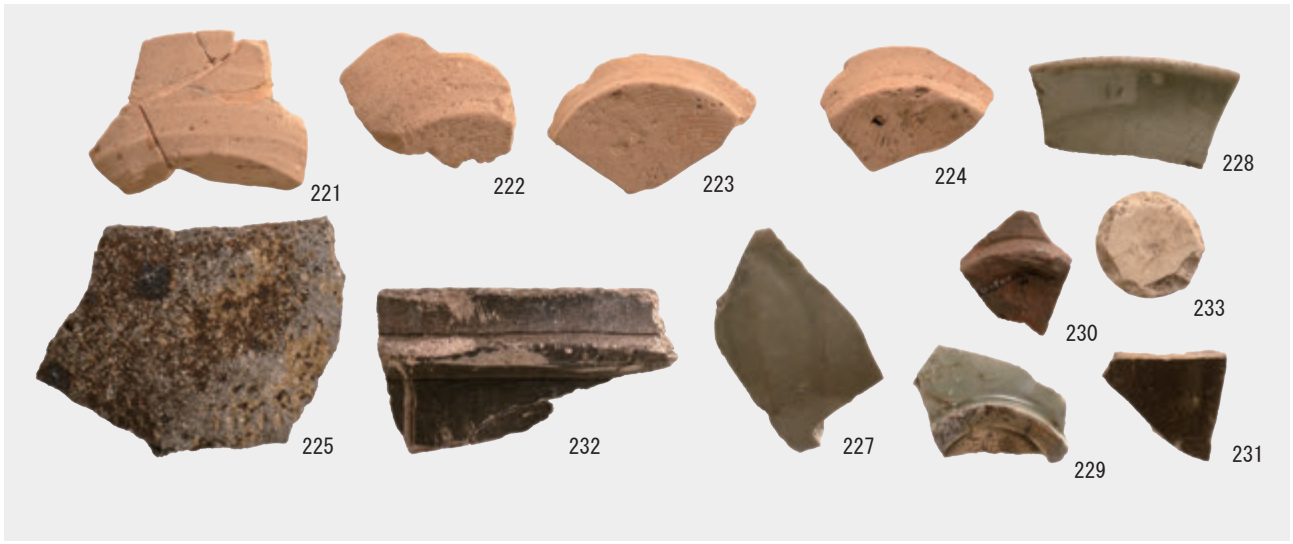
196

212

197

198

図版26　縄文時代中期以降の遺物



公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（45）
東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

木森遺跡

発行年月　2022年３月
編集・発行　鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番1号
ＴＥＬ　0995-70-0574　　ＦＡＸ　0995-70-0576
印　　刷　株式会社　国分新生社印刷
〒899-4301　鹿児島県霧島市国分重久 620－１
ＴＥＬ　0995-45-4880　　ＦＡＸ　0995-45-6979